

2015

# 履修要項

経営学部

Faculty of Business Administration

You,  
Unlimited



龍谷大学  
RYUKOKU UNIVERSITY

2015年度に配付する『履修要項』は卒業まで使用いただきます。今回の履修登録を終えても大切に保管し、今後も活用してください。2016年度以降は、新入生以外には、『履修要項』を配付いたしません。

また、学年暦や年度ごとに発生する変更等については、履修説明会等を通じてお伝えします。

# 龍谷大学の「建学の精神」

龍谷大学の「建学の精神」は「浄土真宗の精神」です。

浄土真宗の精神とは、生きとし生けるもの全てを、迷いから悟りへ転換させたいという阿弥陀仏の誓願に他なりません。

迷いとは、自己中心的な見方によって、真実を知らずに自ら苦しみをつくり出しているあり方です。悟りとは自己中心性を離れ、ありのままのすがたをありのままに見ることのできる真実の安らぎのあり方です。

阿弥陀仏の願いに照らされ、自らの自己中心性が顕わにされることにおいて、初めて自己の思想・観点・価値観等を絶対視する硬直した視点から解放され、広く柔らかな視野を獲得することができるのです。

本学は、阿弥陀仏の願いに生かされ、真実の道を歩まれた親鸞聖人の生き方に学び、「真実を求め、真実に生き、真実を顕かにする」ことのできる人間を育成します。このことを実現する心として以下5項目にまとめています。これらはみな、建学の精神あってこそその心であり、生き方です。

- すべてのいのちを大切にする「平等」の心
- 真実を求め真実に生きる「自立」の心
- 常にわが身をかえりみる「内省」の心
- 生かされていることへの「感謝」の心
- 人類の対話と共存を願う「平和」の心

# 学部長あいさつ

大学の4年間は、将来に向けて重大な意思決定をしなければならない大切な時です。しかし、具体的な目標をきちんと持って入学された諸君はどれほどいるのでしょうか。恥ずかしながら私自身も将来について確固たる目標を持って大学に行ったわけでもなく、学生時代の大半は無為な時間だったといえるでしょう。しかし面白いことにこの4年間にはさまざまな人との出会い、将来に結びつくような糸口が自然に出現し、将来に向けての希望や時には逆に悶々とした悩み等も去来します。その結果、わずか4年間という短い時間であるにも関わらず、人生においては圧倒的な重みを持った時間としてずしりと心に残る時代となることでしょう。

私の専門は会計学ですが、会計原則の一つに「真実性の原則」というものがあります。これは、「企業会計は、企業の財政状態及び経営成績に関して、真実な報告を提供するものでなければならない」という一般原則です。ここでいう真実とは何でしょうか。社会科学においては誰もが同じ結論に達するような絶対的な真実を追求することは難しく、あくまでも相対的な真実であると解されます。すなわち、ある取引について真実な報告をするための方法は一つに限定されることなく、場合によっては複数の真実と認められる方法が存在するわけです。この4年間をいかにして過ごすのか。やはりそこにも絶対的な真実はありません。皆さんがそれぞれ考え悩み、自分にとって最善の真実を追求してほしいと思います。

この履修要項には、まず龍谷大学の「建学の精神」、学生支援の方針、龍谷大学の教育にかかる基本方針および経営学部の教育理念・目的が明示され、続いて具体的な履修の心得、経営学部のカリキュラム、経営学研究科および学生生活の手引きまですべてが網羅されています。とくにカリキュラムにおいては、それぞれの学生の興味・適性・将来展望を踏まえ、学部内および学部共通で複数のコースを設定しており、基礎教育からより高度な専門知識を着実に身につけられるよう系統的・段階的な科目を配置しています。何か困ったことがあったら手に取って確認できるよう、是非身近な場所に保管し有効に活用してください。

2015年4月

経営学部長 鈴木 学

# 学生支援の方針

本学では、修学支援、学生生活支援、キャリア支援の3つの方針に基づき、すべての学生に対して支援を行う。

## 修学支援の方針

本学における修学支援は、すべての学生に等しく教育機会を提供することを目的とし、学生一人ひとりが学修を円滑に進め、継続していくことができるよう、次のような支援を中心に総合的な取り組みを行う。

- 修学に関する相談体制を整備し、教職員が相互に連携して相談・指導に取り組む。また、必要に応じて補習・補充教育を実施する。
- 留年者及び休・退学者の状況把握と分析を行い、関係する各組織が連携して適切な対応策を講じる。
- 障がいのある学生に対して実効性ある支援体制を整備し、それぞれの学生に適した学修環境を実現する。
- 本学独自の奨学金制度を整備し、意欲ある学生に学ぶ機会を提供する。

## 学生生活支援の方針

本学における学生生活支援は、学生の人権尊重を基本とし、学生一人ひとりが心身ともに健康で、かつ安全で安定した学生生活を送るために必要な基盤を整備するとともに、豊かな人間性を育み、自らが主体的に活動できるよう、「生活支援」「経済支援」「課外活動支援」を柱とした総合的な取り組みを行う。

「生活支援」は、保健管理、事件・事故防止、相談等の学生生活に係わる環境を整備する。

「経済支援」は、学生の家計急変や社会環境の変化等に応じた奨学金、貸付金等の経済的な支援を行う。

「課外活動支援」は、学生の人的成長に寄与するため、学生が自主的に課外活動・社会活動に参加できるための環境を整備する。

## キャリア支援の方針

本学におけるキャリア支援は、学生の社会的・職業的自立に向けて必要となる知識、能力、態度を育むとともに、学生の職業観・勤労観を醸成し、主体的な進路選択、希望する進路の実現を目的として、「キャリア教育」と「進路・就職支援」を二本柱として、全学のおよび体系的に取り組む。

「キャリア教育」は、学部と各組織が連携し、正課教育および正課外教育を通して、社会で必要となる基礎的・汎用的能力を育成するとともに、職業観・勤労観を醸成し、生涯を通じた持続的な就業力が身につくよう取り組む。

「進路・就職支援」は、学生が自立し、主体的な進路選択・就職決定ができるよう、多様な支援プログラムを実施するとともに、face to faceの面談を重視し、学生の個々の状況を踏まえたきめ細かな支援を行う。

## 龍谷大学の教育にかかる基本方針 経営学部の教育理念・目的

### 龍谷大学の教育にかかる基本方針

建学の精神に基づいて、「平等」、「自立」、「内省」、「感謝」、「平和」の意味を深く理解し、豊かな人間性と共生（ともいき）の精神を涵養するとともに、人間教育、教養教育、専門教育を通じて、「広い学識」と「進取の精神」を持って人類社会に貢献する人間を育成する。

### 経営学部の教育理念・目的

建学の精神に基づいて、経営学の理論を修得させることに加えて、実践的かつ実学的素養を身につけさせることを教育理念とする。また、激しい時代の変化に対応でき、社会から信頼される経営人を育成することを目的とする。

### 経営学部生に期待する「最低到達目標」の設定

個々人の学修目標に向けての系統的学修を支援する一方、最低限これだけは全員に学んでほしい5つの最低到達目標を掲げています。経営学・会計学という専門領域に係る学修だけでなく、龍谷大学の学生として、また、1人の社会人として修得して欲しい教養を含め、バランスのとれた学修によって、すべての経営学部生に到達してもらいたい目標です。

- 建学の精神を理解し、社会人として通用する素養と倫理観を持つ
- 自分の考えを文章で表現し、それを発表し討議する能力を身に付ける
- 基本的な財務諸表類を読み、会社の概要を説明できる
- 広く国際感覚を持った社会人としての素養と語学力を身に付ける
- 学修した専門領域での知識を切り口に現代企業の特徴を説明できる

### 学位授与の方針 [学士 (経営学)]

経営学部では、コース（モデル）制を導入している。各々のコース（モデル）には卒業要件の科目と単位数を設定するとともに、教育課程を体系化させ、経営学部が掲げる5つの「最低到達目標」を達成し、変化の激しい時代に対応できる能力（課題発見・解決能力）を修得した学生に学士（経営学）の学位を授与する。

経営学部の「教育理念・目的」を達成するために、すべての学生一人ひとりに必要と考えられる培うべき基本的な資質、学位授与に必要とされる単位数および単位認定の方法を次に掲げる。

[学生に保証する基本的な資質] ※2015年度以降入学者対象

(建学の精神)

- 仏教，ことに浄土真宗に根ざす建学の精神の意味を深く理解している。
- 建学の精神に基づいて，豊かな人間性と高い倫理観をそなえ，社会的責務に対する自覚を持っている。

(知識・理解)

- 建学の精神を理解し，社会人として通用する素養と倫理観を身につけている。
- 広く国際感覚を持っている。
- 幅広い学問領域について基礎的な知識を持ち，それぞれの領域が持つ見方について説明することができる。
- 幅広く社会全体を見渡す視野を持ち，現代社会において何が問題であるかを認識することができる。

(思考・判断)

- 幅広い分野の知識・理解をもとに，論理的思考力を培い，現代社会が問いかける問題に対して，多角的に思考・判断することができる。
- 学修した専門領域での知識を切り口に現代企業の特徴を説明することができる。
- 学修した専門領域での知識を基にして，直面する経営の問題を判断することができる。

(興味・関心・態度)

- 現代社会と企業が抱える課題に興味・関心を持っている。
- 人間とそれを取りまく環境について，探求心を持って具体的な課題設定ができる。
- 言語の学修を通じて，世界の多様性に関心を寄せ，異文化を受容できる。
- 多様な価値観を認め，学びを通じて自己の認識を広げ，感性を磨くことができる。
- 自律的に学習し続ける態度を身につけている。
- 他者との交流や異なる価値の受容を通じて，とらわれがちな見方を解放し，他者との協働により自己を客観視することができる。

(技能・表現)

- 語学力を身につけ，基本的なコミュニケーションができる。
- 知的情報の受信，選択，分析，発信を基本とするコミュニケーション能力の基礎を身につけている。
- 自分の考えを文章に表現し，それを発表し討議することができる。
- 基本的な財務諸表類を読み，会社の概要を説明することができる。

**[学生に保証する基本的な資質] ※2014年度以前入学者対象**

(建学の精神)

- 仏教，ことに浄土真宗に根ざす建学の精神の意味を深く理解している。
- 建学の精神に基づいて，豊かな人間性と高い倫理観をそなえ，社会的責務に対する自覚を持っている。

(知識・理解)

- 建学の精神を理解し，社会人として通用する素養と倫理観を身につけている。
- 広く国際感覚を持っている。
- 幅広い学問領域について基礎的な知識を持ち，それぞれの領域が持つ見方について説明することができる。

(思考・判断)

- 幅広い分野の知識・理解をもとにして，問題に対して多角的な思考，判断を行うことができる。
- 学修した専門領域での知識を切り口に現代企業の特徴を説明することができる。
- 学修した専門領域での知識を基にして，直面する経営の問題を判断することができる。

(興味・関心・態度)

- 現代社会と企業が抱える課題に興味・関心を持っている。
- 人間とそれを取りまく環境について，探求心を持って具体的な課題設定ができる。
- 多様な価値観を認めつつ，学びを通じて自己の認識を広げ，感性を磨くことができる。
- 外国語を自立的に学習する態度を身につける。

(技能・表現)

- 語学力を身につけ，基本的なコミュニケーションができる。
- 英語を媒体とした知的情報の受信，選択，分析，発信を基本とするコミュニケーション能力を実現する。
- 任意の外国語一つ（英語を除く）について，基本的レベルの聞き取り，読み書き，口頭表現ができる。
- 自分の考えを文章に表現し，それを発表し討議することができる。
- 基本的な財務諸表類を読み，会社の概要を説明することができる。

**[学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法]**

- 1) 学部に4年以上在学し，所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し，学長は教授



会の議を経て卒業を認定する。ただし、所定の科目を特別に優秀な成績で修得したと教授会が認めた者については、3年以上の在学で卒業を認定することができる。その取扱いについては、別にこれを定める。

2) 卒業認定を受けるためには、所定の125単位以上の単位数を必要とする。

3) 学部共通コース所属学生は、所属コースの修了条件を満たすこと。

## 教育課程編成・実施の方針

経営学部の「教育理念・目的」「学位授与方針」に明示したすべての学生に必要な基本的な資質が獲得できるよう、教養教育科目及び専門科目から構成される、体系的かつ系統的な教育課程を編成・展開する。また、学生一人ひとりが有する学修目標に柔軟に対応できるように学習環境・支援体制を整備する。

### 〈2015年度以降入学者対象〉

- 「仏教の思想」科目として、「仏教の思想A・B」（各2単位）合計4単位を、1年次配当（第1・第2セメスター配当）で全学必修科目として展開する。
- 教養科目として、人文科学系科目・社会科学系科目・自然科学系科目の3系列とスポーツ科学系科目に属する科目を幅広く開設し、幅広い教養を身につける基本とする。
- 教養科目には基幹科目を設け、基幹科目のうち、人文科学系・社会科学系・自然科学系の各分野からそれぞれ2単位以上を選択必修科目として展開する。
- 言語科目として、英語および英語以外の複数の外国語科目を開設する。留学生にはこれらに代わる日本語科目を開設する。
- 専門科目を1年次から配置して、基礎から専門科目へと段階的・系統的に科目を配置し、体系的なカリキュラムを展開する。
- 具体的には、1年次の第1セメスターで専攻基礎科目群必修科目として「情報リテラシー」、「現代のビジネス」、「簿記入門」、「経営と情報」を開講する。
- 経営学や会計学に対する知的好奇心や関心を持てるように、1年次に必修科目として「現代のビジネス」、「簿記入門」、「経営と情報」、「現代の企業会計」を開講する。
- 専攻科目を履修する準備段階として、専攻基礎科目群選択必修科目として「現代企業の成り立ち」、「現代社会と企業」、「経営とコンピュータ利用」、「マーケティングの基礎」、「企業の国際化」、「企業経営の管理」、「日本と世界の経済」、「初級商業簿記」の8科目を1年次・2年次に配置するとともに、基礎演習・専門演習と組み合わせて開講する。
- 学生の将来の進路を想定して、経営コースと会計コースの2コース制をとっている。さらに、経営コースでは、3つのモデル、「組織をリードするモデル」、「市場と情報を活用するモデル」、「世界へ羽ばたくモデル」を設置し、各々のモデルにおいて専攻科目のモデル必

修科目，モデル選択必修科目，モデル選択科目を系統的に編成する。

- 経営コースでは，理論教育だけでなく，ビジネスの現場で学ぶ実習教育を重視し，4つのプログラム科目を展開する。
- 学生の習熟度に応じて勉学に興味・関心をもたせるため，1年生から4年生まで通して，少人数・双方向の演習を開講している。すなわち「フレッシューズゼミ」（1年次第1 Semester）、「基礎演習」（1年次第2 Semester～2年次第3 Semester），専門演習（2年次第4 Semester～4年次第8 Semester）を配置している。
- 学生の興味・関心に沿った学修をより深く行わせるため，コース制（経営コース〈3つのモデル〉，会計コース）を敷く。各コース（モデル）で学修する内容は，各コース（モデル）の設置趣旨に合わせて科目を系統的に編成する。
- 大学で学ぶことの意味を考え，ディスカッションの仕方やレポートの書き方などの基本的な技術を身につけるために，1年次の第1 Semesterに「フレッシューズゼミ」を開講する。
- ワープロ，表計算など，プレゼンテーションの基本的スキルを身につけるために，1年次に必修科目として「情報リテラシー」を開講する。

#### 〈2014年度以前入学者対象〉

- 「仏教の思想A・B」（各2単位）合計4単位を，1年次配当で全学必修科目として展開する。また，「仏教の思想A・B」を履修した学生のより高度な知的要求に応える仏教関連科目として「歎異抄の思想Ⅰ・Ⅱ」（各2単位）を2年生以上に提供する。
- 人文・社会・自然およびスポーツの分野に属する科目を幅広く開講し，最低16単位を卒業要件として履修させる。
- 必修外国語科目として，英語，初修外国語（ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・韓国語）の計6つの言語から，1つもしくは2つの言語を選び，12単位を卒業要件として履修させる（ただし，2つの言語を選択する際は，必ず英語を含むこととする）。なお，留学生については，「日本語」および「留学生のための英語入門」を12単位に含めることができる。
- 専門科目を1年次から配置して，基礎から専門科目へと段階的・系統的に科目を配置し，体系的なカリキュラムを展開する。
- 具体的には，1年次の第1 Semesterで専攻基礎科目群必修科目として「情報リテラシー」，「現代のビジネス」，「簿記入門」，「経営と情報」を開講する。
- 経営学や会計学に対する知的好奇心や関心を持てるように，1年次に必修科目として「現代のビジネス」，「簿記入門」，「経営と情報」，「現代の企業会計」を開講する。
- 専攻科目を履修する準備段階として，専攻基礎科目群選択必修科目として「現代企業の成り立ち」，「現代社会と企業」，「経営とコンピュータ利用」，「マーケティングの基礎」，「企業の国際化」，「企業経営の管理」，「日本と世界の経済」，「初級商業簿記」の8科目を1年次・

2年次に配置するとともに、基礎演習・専門演習と組み合わせて開講する。

- 学生の将来の進路を想定して、経営コースと会計コースの2コース制をとっている。さらに、経営コースでは、3つのモデル、「組織をリードするモデル」、「市場と情報を活用するモデル」、「世界へ羽ばたくモデル」を設置し、各々のモデルにおいて専攻科目のモデル必修科目、モデル選択必修科目、モデル選択科目を系統的に編成する。
- 経営コースでは、理論教育だけでなく、ビジネスの現場で学ぶ実習教育を重視し、4つのプログラム科目を展開する。
- 学生の習熟度に応じて勉学に興味・関心をもたせるため、1年生から4年生まで通して、少人数・双方向の演習を開講している。すなわち「フレッシューズゼミ」（1年次第1 Semester）、「基礎演習」（1年次第2 Semester～2年次第3 Semester）、専門演習（2年次第4 Semester～4年次第8 Semester）を配置している。
- 学生の興味・関心に沿った学修をより深く行わせるため、コース制（経営コース〈3つのモデル〉、会計コース）を敷く。各コース（モデル）で学修する内容は、各コース（モデル）の設置趣旨に合わせて科目を系統的に編成する。
- 大学で学ぶことの意味を考え、ディスカッションの仕方やレポートの書き方などの基本的な技術を身につけるために、1年次の第1 Semesterに「フレッシューズゼミ」を開講する。
- ワープロ、表計算など、プレゼンテーションの基本的スキルを身につけるために、1年次に必修科目として「情報リテラシー」を開講する。

経営学部では、学部独自のFD活動として、経営学部全教員で分担執筆した「フレッシューズ・スタディ・ガイド」を、1年次の副読本として作成し、昭和59年度から数度の改定を経て「フレッシューズゼミ」で活用している。また、各教員の特色ある授業方法の事例報告を定期的に行い、学部教務委員会全員がFD委員を兼務し、学部FD委員会を構成し、月2回定期的に開かれる学部教務委員会では授業改善施策の検討を継続的に行っている。

なお、学部共通コースの「学生に保証する基本的な資質」、「コース修了に必要なとされる単位数及びコース修了認定の方法」及び「教育課程編成・実施の方針」については、以下のとおりとします。

## 国際関係コース

### [学生に保証する基本的な資質]

(知識・理解)

- 自らの問題意識に応じて、世界の国・地域に関する幅広い知識を身につける。

(思考・判断)

- 日本と日本以外の国・地域との国情の違いを理解する。
- 違いをもたらした原因について考察し、平和共存の道について考えることができる。
- 国際社会の一員として、日本の果たすべき役割について、自分なりの考えを持つことができる。

(興味・関心)

- 異なる価値観・異なる文化的背景を持つ人々とその社会について、興味を持つ。
- 異文化を積極的に理解しようとする意欲を持つ。

(態度)

- 異なる価値観・異なる文化的背景を持つ人々とその社会について、彼我の違いを尊重することができる。

(技能・表現)

- 外国語によるコミュニケーション能力を一定程度身につける。

**[コース修了に必要なとされる単位数及びコース修了認定の方法]**

- 1) 所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、国際関係コース運営委員会が修了を認定する。
- 2) 修了認定を受けるためには、所定の44単位以上の単位数を必要とする。

**[教育課程編成・実施の方針]**

- 世界の国・地域について学ぶ上で基礎的な知識を身につけるため、必修科目として「国際関係論Ⅰ」と「地域研究入門」を開講する。
- 世界の国・地域に対する社会科学的アプローチを身につけるため、経済・経営・法・政策学部からの提供科目（選択科目B群）を開講する。
- 4年間の学修のまとめとして「卒業研究」を位置づける。
- 世界の各地域に対する関心を深め、異文化を尊重する心を育てるため、地域研究科目（主として選択科目A群）を開講する。
- 外国語によるコミュニケーション能力を養うために「コース指定外国語」を選択必修科目として開講する。

## 英語コミュニケーションコース

### [学生に保証する基本的な資質]

(知識・理解)

○英語圏の言語や文化の理解をもとに、国際的視野を備えている。

(思考・判断)

○異なる文化や価値感を理解した上で意見交換できる柔軟な思考力を身につけている。

(興味・関心)

○英語および異文化に対する興味、関心を持っている。

○異なる文化や価値感を理解しようとする探求心を持っている。

(態度)

○自ら目標を定め、その実現に向けて自律的に学習することができる。

○仲間と協調して学び、働く能力を身につけている。

○積極的に英語を用いてコミュニケーションを図る姿勢を身につけている。

(技能・表現)

○英語圏での日常生活に支障のない英語の4技能（読む・聞く・話す・書く）を身につけている。

### [コース修了に必要なとされる単位数及びコース修了認定の方法]

1) 所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、英語コミュニケーションコース運営委員会が修了を認定する。

2) 修了認定を受けるためには、所定の48単位以上の単位数を必要とする。

### [教育課程編成・実施の方針]

○言語としての英語の知識だけでなく、文化的背景も学習できるような科目を配置する。

○幅広い視野から考え、判断できるよう、異文化理解の科目を配置する。

○学生の興味や関心を伸ばすことができるよう、スキルとコンテンツに関する多様な科目を配置する。

○コミュニケーションを重視した少人数での対話・対面科目を配置する。

○基本的な英語力を習得するために、週5回、スピーキングとリスニングを中心に必修科目を配置し、他にも選択科目を配置する。

## スポーツサイエンスコース

### [学生に保証する基本的な資質]

#### (知識・理解)

- 現代社会におけるスポーツ領域において提起される諸問題について、的確に評価・分析し対応するために、経済・経営・法学・政策学等の社会諸科学の基礎とスポーツ科学の基礎から応用にいたる知識や方法論とを合わせた複合的な視点を身につけている。

#### (思考・判断)

- 学び、身につけた人文・社会系および自然科学系のスポーツ科学に関する知識や実践力と関連諸科学の知識を基に、主体的に創造力をもってスポーツ諸事象における課題について思考し、判断することができる。

#### (興味・関心)

- 現代社会におけるスポーツ諸事象について学際的・多面的視点（文化的、歴史的、政策的、経済的、あるいは健康科学や競技力などの視点）から興味を持ち、探求しようとする意欲を持っている。

#### (態度)

- スポーツ諸事象を社会生活や人間との関係から客観的に多角的に評価、分析し、課題を解決しようとする姿勢をもち、スポーツ科学を（生活の中で）応用することができる。

#### (技能・表現)

- 健康・スポーツに関する諸課題について、自らの見解をまとめ、発表し、討論し、文書を構成することができる。
- スポーツクラブなどのスポーツ組織において求められているマネジメント能力を身につけている。
- 健康づくりや競技力向上のための指導者に求められる基礎的能力を身につけている。
- 測定機器の操作方法及び得られた情報を活用するための基礎的知識と応用力を修得している。
- コンピュータ操作による情報の分析、情報提示のための基礎的スキルを身につけている。

### [コース修了に必要なとされる単位数及びコース修了認定の方法]

- 1) 所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、スポーツサイエンスコース運営委員会が修了を認定する。

2) 修了認定を受けるためには、所定の40単位以上の単位数を必要とする。

#### [教育課程編成・実施の方針]

- スポーツサイエンスコース開設科目は、2年次第4 Semesterから配置し、基礎から応用へと体系性をもったカリキュラムを編成する。
- 開設科目は、基礎知識修得に主眼をおいた選択必修科目と、基礎から応用へと学ぶための選択科目によって構成する。
- 基礎知識を身につけさせるための選択必修科目は、第4 Semesterに人文・社会系2科目及び自然科学系3科目（各2単位）と演習（4単位）を組み合わせ開講する（修得単位数10単位以上）。なお、選択必修科目の履修においては、人文・社会系及び自然科学系のスポーツ科学からそれぞれ2単位以上修得させることにする。
- 選択科目（修得単位数30単位以上）は、基礎知識に加え応用力を身につけるために、また多様な観点での学びや体系性を考慮し、第5及び第6 Semesterを中心に開講する。履修モデルとして『競技力向上』『スポーツビジネス』『健康・体力科学』を視点にした体系的な履修も提示する。また、課題探求や課題解決、学びの集大成を図ることを目的に卒業研究を含む演習を開講する（第6・第7 Semester及びサマーセッションでの開講）。
- なお、選択科目では、測定機器の操作や得られた情報を応用するための知識を身につけるための実習を含む科目、企業現場での実地研修行なうインターンシップ実習、情報処理による客観的評価や情報提示のスキルを身につけるためのスポーツ統計学を開講する。
- スポーツサイエンスコース開設科目は、資格取得（健康運動実践指導者・トレーニング指導者・アシスタントマネジャー）との関連での編成も行う。

### 環境サイエンスコース

#### [学生に保証する基本的な資質]

(知識・理解)

- 環境問題発生メカニズムを文献と現場から理解し、それを解決するための環境学に関する知識を身につけている。

(思考・判断)

- 環境問題解決のために主体的に行動でき、社会の持続可能な発展のための解決に向け思考することができる。

(興味・関心)

- 自然の変化や人類に対する影響について関心を持っている。

(態度)

○自然と社会の持続可能性に向け、世代間のバランスや公平性を重視することができる。

(技能・表現)

○自然、社会、人文に関する幅広い知識を身につけている。

#### [コース修了に必要なとされる単位数及びコース修了認定の方法]

- 1) 所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、環境サイエンスコース運営委員会が修了を認定する。
- 2) 修了認定を受けるためには、所定の48単位以上の単位数を必要とする。

#### [教育課程編成・実施の方針]

- 環境問題に関する基礎的知識を身につけさせるため、第4セメスターから、必修科目の「環境学」および人文・社会科学系と自然科学系科目からなる選択必修科目を開講する。
- 自然や社会に対する観察力と情報処理能力を身につけさせるため、「環境フィールドワーク」および「コンピュータシステム論」を開講する。
- 主体的な思考・行動力を身につけさせるため、第5セメスターから、学生が自ら企画し、さまざまな地域や組織で実習をおこない、その成果をレポートして取りまとめ単位認定を受ける「環境実践研究」を開講する。
- 環境問題の発生メカニズムを自然科学の視点から理解させるとともに、解決のための方策を社会の制度や倫理などの視点から考察させるよう、第4セメスターから始まる必修科目の「環境学」を開講する。
- 文献と現場実習から問題解決に向け考察できるよう、実習系科目（環境フィールドワーク、環境実践研究など）を選択科目として開講する。

### オフィス・アワーの設定

皆さんが目標達成に向けて学修していく上で、指導する立場にある教員との意思の疎通は重要なことです。学修上の悩みや学生生活に係る相談など、日常的なコミュニケーションの場としてオフィス・アワー（教員が個別に学生と懇談する場）を設定しています。オフィス・アワーは教員それぞれに異なりますので、P.206・207を確認して有効に利用してください。なお、P.206・P.207に掲載のない教員については、授業の前後に講師控室や授業後の教室にて質問をしてください。



# 2015年度 学年暦

2015	日	月	火	水	木	金	土		日	月	火	水	木	金	土		
4月			1	2	3	4		1 学年始 入学式 (深草) 2~8 履修指導期間	10月				1	2	3	3	
	5	6	7	8	9	10	11	9 第1学期授業開始		4	5	6	7	8	9	10	
	12	13	14	15	16	17	18	15 お速夜法要 (深草) 16 ご命日法要 (大宮)		11	12	13	14	15	16	17	12 体育の日 (授業実施日) 15 お速夜法要 (深草) 16 ご命日法要 (大宮) 18 報恩講
	19	20	21	22	23	24	25			18	19	20	21	22	23	24	19~23 履修辞退受付期間 24~25 龍谷祭 (瀬田) (24 全学終日休講) 30~11/1 龍谷祭 (深草) 31 文化の日 (授業実施日)
	26	27	28	29	30			29 昭和の日 (授業実施日)		25	26	27	28	29	30	31	
5月					1	2	3	3 憲法記念日 4 みどりの日 5 こどもの日 6 休日	11月	1	2	3	4	5	6	7	
	3	4	5	6	7	8	9	11~15 履修辞退受付期間 13 降誕会 (5講時以降休講) 15 お速夜法要 (深草) 16 降誕会 (瀬田) (全学授業実施日) 17 降誕会 (深草)		8	9	10	11	12	13	14	
	10	11	12	13	14	15	16	21 創立記念日・降誕会 (全学終日休講)		15	16	17	18	19	20	21	16 ご命日法要 (大宮) 23 勤労感謝の日 (授業実施日)
	17	18	19	20	21	22	23			22	23	24	25	26	27	28	
	24	25	26	27	28	29	30			29	30						
	31								12月			1	2	3	4	5	
6月	1	2	3	4	5	6	7	6 5講時以降 水曜日 7回目分		6	7	8	9	10	11	12	
	7	8	9	10	11	12	13			13	14	15	16	17	18	19	15 お速夜法要 (深草) 16 ご命日法要 (大宮)
	14	15	16	17	18	19	20			20	21	22	23	24	25	26	
	21	22	23	24	25	26	27			27	28	29	30	31			25~1/5 冬期休業 29~1/5 一斉休暇
	28	29	30						2016 1月					1	2		
7月			1	2	3	4	5	15 お速夜法要 (深草) 16 ご命日法要 (大宮) 20 海の日 (授業実施日) 24~25 集中補講日 29 第1学期授業終了 30~8/5・9 第1学期試験期間		3	4	5	6	7	8	9	1
	5	6	7	8	9	10	11			10	11	12	13	14	15	16	6 授業再開
	12	13	14	15	16	17	18			17	18	19	20	21	22	23	11 成人の日 15 お速夜法要 (深草) 21 月曜日15回目分・ 第2学期授業終了 集中補講日
	19	20	21	22	23	24	25			24	25	26	27	28	29	30	22~23 集中補講日 25~29, 2/2~3 第2学期試験期間
	26	27	28	29	30	31				31							3 定期試験予備日 4~3/31 春期休業
8月							1	2 定期試験予備日 6~9/9 夏期休業 11~18 一斉休暇	2月	1	2	3	4	5	6		
	2	3	4	5	6	7	8			7	8	9	10	11	12	13	11 建国記念の日
	9	10	11	12	13	14	15	21~24 追試験期間		14	15	16	17	18	19	20	16~18 追試験期間
	16	17	18	19	20	21	22			21	22	23	24	25	26	27	
	23	24	25	26	27	28	29	27~31 サマーセッション①		28	29						
	30	31							3月			1	2	3	4	5	
9月		1	2	3	4	5	6	1~9 サマーセッション②		6	7	8	9	10	11	12	
	6	7	8	9	10	11	12	10 第2学期開始 履修指導期間 17 9月卒業式・入学式 18 第2学期授業開始 21 敬老の日 22 休日 23 秋分の日		13	14	15	16	17	18	19	17 卒業式 (深草)
	13	14	15	16	17	18	19			20	21	22	23	24	25	26	20 春分の日 21 休日
	20	21	22	23	24	25	26			27	28	29	30	31			21 学年終
	27	28	29	30													

○お速夜法要がおこなわれる日は、その時間 (12:00~13:00) 授業を行いません。

	休日
	授業日

※2016年度以降は、各学部教務課の掲示板、大学HP等でご確認ください。

# 目次 (Contents)

## 第1部 履修の心得

1. 履修をはじめるとにあって	2
2. 単位制度と単位の認定	
本学の単位制度	3
単位認定要件	4
3. 授業科目	
授業科目の区分について	5
Semester制	5
授業科目の開設形態	6
授業テーマ	7
履修条件	8
グレードナンバー制	9
4. 履修登録	
履修登録の流れ	10
クラス編成	10
先修制	11
予備・事前登録	13
履修登録	13
履修制限単位	14
受講登録確認表	15
履修辞退制度	16
5. 試験	
筆答試験の時期	18
筆答試験時間	18
受験資格	19
受験上の注意	20
追試験	21
レポートについて(レポート試験提出要領)	22
6. 成績評価	
成績評価の種類	23
学業成績の発表	23
学業成績表の評価	23
GPA制度	24
成績疑義	24

7. 卒業	
卒業の要件	25
卒業の時期	25

## 第2部 経営学部のカリキュラム

1-1. 教養教育科目の教育目標および履修方法 (2015年度以降入学生対象)	
教養教育とは	30
「仏教の思想」科目について	31
言語科目について	32
必修外国語科目について	33
選択外国語科目について	39
教養科目について	41
1-2. 教養教育科目 (2007年度以前入学生：共同開講科目) の教育目標および履修方法 (2014年度以前入学生対象)	
教養教育 (2007年度以前入学生：共同開講科目) とは	43
「仏教の思想」科目について	44
外国語科目について	45
必修外国語科目について	46
選択外国語科目について	52
教養科目 (2007年度以前入学生：プログラム科目) について	54
留学生の必修外国語科目 (日本語科目等) について	55
2-1. 教養教育科目開設科目一覧 (2015年度以降入学生対象)	
「仏教の思想」科目	56
言語科目	56
教養科目	60
2-2. 教養教育科目開設科目一覧 (2014年度以前入学生対象)	
「仏教の思想」科目	64
外国語科目	64
教養科目	69

## 授 業 時 間

	時間割	月	火	水	木	金	土
1 講時	9:00~10:30	○	○	○	○	○	○
2 講時	10:45~12:15	○	○	○	○	○	○
3 講時	13:15~14:45	○	○	○	○	○	○
4 講時	15:00~16:30	○	○	○	○	○	○
5 講時	16:45~18:15	○	○	○	○	○	
6 講時	18:25~19:55	○	○	○	○	○	
7 講時	20:05~21:35	○	○	○	○	○	

3. 教養教育科目の教育目標および履修方法	
教養科目、選択外国語科目の予備登録について	74
4. 専攻科目の教育目標および履修方法	
専攻科目とは（2008年度以降入学生）	77
講義科目	78
専攻科目一覧	81
先修制	84
その他履修についての注意事項	85
演習科目	86
基礎演習ガイド	87
演習ガイド	88
プログラム科目	89
専攻科目とは（2007年度以前入学対象）	92
講義科目	92
専攻科目一覧	94
新旧科目比較対照表	97
先修制	101
その他履修についての注意事項	101
演習論文提出要領（4年次生）	102
演習論文を書くために	104
5. コース制	
コース制とは	107
学部内コース(2008年度以降入学生)	107
学部内コース(2007年度以前入学生)	110
学部共通コース(2008年度以降入学生対象)	111
6. 学部共通コースについて	
国際関係コース	113
国際関係コースの履修について	119
英語コミュニケーションコース	120
海外研修について	125
英語コミュニケーションコース生の BIE Programへの参加について	126
英語コミュニケーションコースの履修について	127
スポーツサイエンスコース	128
スポーツサイエンスコースの履修について	132
『健康運動実践指導者』『アシスタントマネジャー』 『トレーニング指導者』などの資格取得希望者へ -科目履修上の注意-	133
『健康運動実践指導者』について	133
(財)日本体育協会公認『アシスタントマネジャー』、 『スポーツリーダー』について	134
『トレーニング指導者』について	135
環境サイエンスコース	137
環境サイエンスコース3つの視点	137
環境実践研究について	142
環境サイエンスコースの履修について	143
7. 他大学での受講	
大学コンソーシアム京都単位互換科目	145
大学コンソーシアム京都 「インターンシップ・プログラム」	148
協定型インターンシッププログラム	151
東洋大学との相互学生交流プログラム (ICAAP)	153
龍谷大学の留学制度	156
交換留学	156
BIE Programについて	158
私費留学について	159
短期留学について	159
個人留学（休学して留学する）	159
留学期間中のゼミの扱いについて	160
8. 教職課程（2014年度以前入学生対象）	
教職課程の概要	163
経営学部・経営学研究科において取得できる教 育職員免許状の種類	163
教育職員免許状の授与を受けるための基礎資格 と最低修得単位数	164
本学で教員免許状を取得するには（一種免許状）	164
教職課程の履修にあたっての注意事項	166
人権論（本学指定の必修科目）	167
「教育職員免許法施行規則」第66条の6に定める 科目	168
教職に関する科目の履修方法	169
教科に関する科目の履修方法	172
教科に関する科目の履修について（2008年度以 降入学生）	173
教科に関する科目の履修について（2003年度～ 2007年度入学生）	175
教育実習について	179
介護等体験の履修について	181
教職実践演習の履修について	184
学校現場へのボランティア活動について	185
専修免許状について（大学院生が取得できる 対象となります）	186
編・転入生の履修について	187
教育職員免許状の出願	187
小学校教諭免許状取得支援制度	188
9. 学校図書館司書教諭課程・図書館司書課程	
学校図書館司書教諭課程	190
図書館司書課程	192
10. 本願寺派教師資格課程	
本願寺派教師資格課程	197
11. 特別研修講座・各種講座・試験	
特別研修講座・各種講座・試験	198

### 第3部 経営学研究科

1. 大学院経営学研究科入学ガイド	
カリキュラム紹介	200
奨学金制度について	201
学内推薦入試について（6月・2月）	201
修了生からのメッセージ	202

### 第4部 学生生活の手引き

1. 学部の窓口	
経営学部教務課開室時間	204
大学からの連絡・通知	204
届書・願書および各種証明書	205
オフィス・アワー	206
経営学部の教員およびオフィス・アワー一覧	206
2. 授業休止の取り扱い基準	
全学休講となる場合	208
授業などの開始基準	208
その他の注意事項	209
暴風警報, 特別警報, 特別警報に位置づける 警報が出された場合に全学休講となる 区域について	209
裁判員制度に伴う裁判員（候補者）に選任され た場合の手続きについて	210
3. 証明書	
交付について	211
各種証明書	211
学割証（学校学生生徒旅客運賃割引証）	212
証明書自動発行機	212
4. 学籍と学生証	
学籍	214
学籍番号	214
学籍簿	214
学生証	214
休学と復学	216
5. 学籍の喪失と再入学	
退学	217
除籍	218
再入学	218
編入学・転入学	218
6. 保健管理センターの利用について	
保健管理センターについて	220
定期健康診断について	220
健康診断証明書・健康診断所の発行について	221
保健管理センターの利用について	221

診療所について	222
学生相談（こころの相談室）について	222
健康増進のための学習会やイベントについて	222
緊急時の対応について	223

### 付 録

Q and A	226
学舎・教室見取り図	230

# 第1部 履修の心得

履修一般

教養教育科目

専攻科目

学部共通コース

他大学での学修

教職課程・その他

経営学研究科

学生生活

Q and A

## 1. 履修をはじめるにあたって

大学生にとって、学問をすることが第一の目的です。この目的を達成するために、これから述べることに十分留意して勉学に取り組んでください。大学では、学生生活や履修に関するすべてのことが自分の責任に委ねられていますので、それだけに各自が十分な理解のもと履修することが望まれます。

### 長期的な履修計画を立てること

授業科目は、「教養教育科目」（2001～2007年度入学生は「共同開講科目」と学部専門の教育に関する科目群である「専攻科目」からなります。みなさんはこれら二つの科目群から卒業するために必要な一定の単位数を満たすように履修しなければなりません。

1学年間あるいは1学期間に履修できる単位数には上限が設けられており、また各学期（セメスター）に、必ず履修すべき科目や選択して履修すべき科目が配当されています。なお、年度によって開講される科目が異なりますので、1学年間あるいは1学期間の履修計画をたてる際には、同時に次学期以降における履修計画もあわせて考える必要があります。

### 系統的に科目を履修すること

大学における学業は、一定の単位数を修得することによって完了します（その単位のことを卒業要件単位と呼び、修得のしかたは多くの組合せがあります）。明確な学修目的をもたずに、単に決められた単位数を数字の上でそろえるだけの履修は、たとえ4年間在学したとしても、大学の卒業生としてふさわしい能力と識見をもつことはできません。したがって、自らの学修目的にあわせて各科目の性格やその科目の開講学期（配当セメスター）を考慮しながら系統的に履修する必要があります。

大学4年間において学問研究に触れる中心的な場は「演習」（ゼミナール）です。この「演習」では、みなさんは自ら選んだテーマに主体的に取組み、専門的な視点に立って研究することが肝要となります。「演習」をはじめる前に、「演習」でのテーマの研究にとって土台となる知識や思考力さらには研究方法などをあらかじめ修得しておくことが求められます。

### 自主的に学修をすること

十分な学修成果をあげるためには、単に教室で講義を聞くだけでなく、講義そのものに積極的な姿勢で臨むとともに、講義以外に自主的な学修が必要です。教室での講義時間の2倍あるいはそれ以上の自主的な学修が行われて、はじめて満足な理解が可能となります。そのため、シラバス（講義概要・授業計画）によって指示された参考図書をはじめ、関連図書をよく読んで理解を深めることが望まれます。また、講義を聞き、参考図書・関連図書でも理解できない点については、直接先生に質問したり、先生や友人・先輩とのディスカッションを通じて理解を深めることも大切です。

## 2. 単位制度と単位の認定

単位とは、学修の量を数字で表すものです。大学での学修はすべて単位制になっています。すべての科目に一定の単位数が定められており、その科目を履修し、試験に合格した場合、定められた単位が与えられます。その単位の合計が一定の要件を満たした人に対して卒業が認定される制度です。

### 本学の単位制度

本学では、1単位を修得するために**45時間**の学修が必要です。

1単位（45時間）の学修は、**準備学修時間**（自主的な学修）と**授業時間**（教室での学修）で構成されています。なお、1単位の時間構成は、科目により次の基準によります。

単位数	学 修 時 間					
	講義・演習・講読科目の場合			外国語・スポーツ・実習科目の場合		
	準備学修	授業	合計	準備学修	授業	合計
1				15(時間)	30(時間)	45(時間)
2	60(時間)	30(時間)	90(時間)	30(時間)	60(時間)	90(時間)
4	120(時間)	60(時間)	180(時間)			

※準備学修時間とは、「Webシラバス（講義概要・授業計画）」の中の「授業時間外における予・復習の指示」で示される参考文献などを中心に、友人との討論や図書館などを利用して自主的に勉学を行う時間のことです。

#### 〈単位の計算方法〉

学則第26条に基づき、原則として次の基準によって計算します。

- ① 本学では単位計算上、1つの授業90分を2時間として計算します。
- ② 本学では1単位につき45時間の学修時間を必要と定めています。
- ③ 本学では学期完結型授業の場合は第1学期（前期）授業期間を15週、第2学期（後期）授業期間を15週とし、学期連結型授業の場合は1学年間（通年）で30週としています。

○講義・演習・講読科目の場合

上表から、講義・演習・講読科目の場合、単位計算上の授業時間2時間に対し、4時間（授業時間の2倍）の自主的学修が必要となり、単位の計算方法は以下のとおりになります。

区分	必要な学修時間	単位数
学期完結型 授業の場合	6時間（授業2時間＋自主4時間） ×15週＝90時間	90時間÷45時間（1単位につき） ＝2単位
学期連結型 授業の場合	6時間（授業2時間＋自主4時間） ×30週＝180時間	180時間÷45時間（1単位につき） ＝4単位

○外国語・スポーツ・実習科目の場合

上表から、外国語・スポーツ・実習科目の場合、単位計算上の授業時間2時間に対し、1時間（授業時間の半分）の自主的学修が必要となり、単位の計算方法は以下のとおりになります。

区分	必要な学修時間	単位数
学期完結型 授業の場合	3時間（授業2時間＋自主1時間） ×15週＝45時間	45時間÷45時間（1単位につき） ＝1単位
学期連結型 授業の場合	3時間（授業2時間＋自主1時間） ×30週＝90時間	90時間÷45時間（1単位につき） ＝2単位

## 単位認定要件

単位を修得するには、次の3つの要件を満たしていなければなりません。

- (1) 履修登録をすること。（※P.10を参照のこと）
- (2) 授業に出席し、履修に必要な学修をすること。
- (3) 試験を受け、その成績評価で合格（60点以上）をすること。（※P.18～を参照のこと）  
（レポート・小論文などをもって試験とする場合もあり、必ずしも教室における筆記試験とは限りません。詳細は、シラバスの成績評価の方法で確認して下さい。）



### 3. 授業科目

#### 授業科目の区分について

本学の教育課程（カリキュラム）の編成は、4年間（8 Semester）にわたっており、その内容は次のとおり構成されています。これらの分類のことを「授業科目の区分」といいます。

〈2015年度以降入学生用〉

- ・教養教育科目（「仏教の思想」「言語科目」「教養科目」）
- ・学部専攻科目

〈2008～2014年度入学生用〉

- ・教養教育科目（「仏教の思想」「外国語科目」「教養科目」）
- ・学部専攻科目

〈2001～2007年度入学生用〉

- ・共同開講科目（「仏教の思想」「外国語科目」「プログラム科目」）
- ・学部専攻科目

#### Semester制

経営学部の授業は、Semester制で開講されています。

Semester制とは、半年を1学期とするもので、1学年を第1学期（前期）、第2学期（後期）の2学期に区分し、以後4学年までの計8学期にわたって教育課程（カリキュラム）の編成を行うものです。これら学年、学期、Semesterの関係は次のとおりです。

【第1学期】原則 4月～9月末

【第2学期】原則 10月～翌年3月末

学年	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年	
学期	第1学期	第2学期	第1学期	第2学期	第1学期	第2学期	第1学期	第2学期
Semester	第1Semester	第2Semester	第3Semester	第4Semester	第5Semester	第6Semester	第7Semester	第8Semester

## 授業科目の開設形態

授業科目は、原則として各セメスター単位で開講されていますが、科目の性格などにより通年の開講形態と、集中して授業を行うサマーセッションがあります。

【学期完結型（前期・後期型）】		講義科目	外国語科目	実技科目
[学期]	[週 1 回]	2 単位	1 単位	
(授業 15 週間)	[週 2 回]	4 単位	2 単位	

【学期連続型（通年型）】		講義科目	外国語科目	実技科目
[学期] [学期]	[週 1 回]	4 単位	2 単位	
(授業 30 週間)				

- (1) 学期完結型として開講される 4 単位の講義科目および 2 単位の初修外国語科目は、1 週間に 2 回（例えば月曜日 1 講時と木曜日 1 講時）の授業を行い、1 つの学期で完結するものです。このため、一方の授業に出席するだけではその科目を履修したことにはならないので、注意する必要があります。
- (2) 学期連続型として開講される科目は、原則として同一の授業担当者が 1 週間に 1 回の授業を行い、2 つの学期（1 年間）で完結するものです。
- (3) 同一科目の授業が第 1 学期（前期）・第 2 学期（後期）ともに開講される場合があります。この場合は、特に指定のある場合を除けば、いずれの学期で履修しても構いません。
 

(注 1) それぞれの科目には配当セメスターが設定されています。設定された配当セメスター以降の履修が可能であることを示していますが、諸事情により不開講となる場合や配当セメスターが変更される場合がありますので注意してください。

(注 2) すでに修得した科目（=既得科目）の再履修はできません。
- (4) サマーセッション（集中講義）を利用して開講される科目については、下記の取り扱いとなります。

区 分	取扱学期	期間・留意事項
サマーセッション 集中講義	第 2 学期 (後期) 科目	開講期間： 8 月 27 日（木）～9 月 9 日（水） 前期開講科目の履修登録と同時に登録が必要です。 ※開講期間については、次年度以降、履修説明会・ポータルサイト（学内者向け）等で確認してください。

(注) 履修登録できる科目数は2科目までとなります。

授業日程が他の科目と重複する場合は、第2学期(後期)に1科目しか履修登録できない場合がありますので、各科目の開講日程に注意してください。

(サマーセッション(集中講義)の開講期間・開講場所などについては、別途掲示する場合がありますので注意してください)。

(注) 第1学期(前期)科目として取り扱っていたサマーセッション(集中講義)Ⅰは2014年度をもって廃止されました。

移行措置として、2015年度から2017年度までの間、9月卒業希望者に対してのみ、サマーセッション(集中講義)のうち、一部の科目を第1学期(前期)科目(成績)として取り扱います。

但し次の点に注意してください。

- ・対象者は、3月12日までに「9月卒業希望の意思確認書」を提出した者に限ります。
- ・対象科目については、2014年度第2学期(後期)の新4年生への成績表配付時(3月)に経営学部教務課窓口にてお知らせします。
- ・2014年度まで、サマーセッション(集中講義)科目の履修登録科目数は、同一期につき1科目としていましたので、移行期間においても同様に1科目となります。

#### 〈学期完結型授業科目の開講方式〉

学期完結型授業のうち、週2回開講方法をとる授業は時間割上、原則として一定の規則にしたがって配置されています。

この科目は、週2回の授業を1学期間継続して受講することではじめて定められた単位を修得したことになります。

週2回のうち一方の授業時間に、誤って他の科目を履修登録した場合は、それらに係る登録は無効となりますので注意してください。

#### 学期完結型授業(週2回開講科目)の開講組合せ(原則)

※見方:「月1」は「月曜日1講時」を示しています。

月1 - 木1	火1 - 金1	水1 - 土1
月2 - 木2	火2 - 金2	水2 - 土2
月3 - 木3	火3 - 金3	
月4 - 木4	火4 - 金4	

注) 週2回開講方法の場合で、1日に2講時連続で開講される科目もあります。

## 授業テーマ

講義科目には、原則として各講義に講義内容を示す授業テーマを表示しています。

同じ名前の科目が複数クラス開講されている場合は、指定のない限りどの授業テーマを選択してもかまいませんが、単位の認定を受けることができるのは、1科目につき1講義です。

例： 【授業科目】                      【授業テーマ】  
企業経営の管理    - 企業経営における社会性と公共性の再構築 -  
企業経営の管理    - マネジメントのABC -

## 履修条件

すべての科目は履修の条件により、以下のいずれかに指定されています。

必修科目	卒業要件を満たすために必ず履修しなければならない科目です。 この科目の単位が未修得の場合は、修得単位数の合計が卒業要件単位数を超えていても卒業できません。
選択必修科目	指定された科目の中から一定の単位数を必修とする科目です。 この科目も、決められた単位数が未修得であれば、卒業できません。 これらの科目は、指定された単位数を超えて履修した場合、超えた分の単位数を選択科目の単位数の一部に充てることができます。
選択科目	どの科目を履修するかはみなさんの自由にまかされている科目です。 ただし、卒業要件上、一定の単位数の修得が義務づけられており、この要件を満たしていない場合は卒業できません。
随意科目	主として各種の資格取得に関わる科目です。 卒業要件単位には含まれません。 教養教育科目（2007年度以前入学者は共同開講科目、以下同じ）、学部専攻科目の区分の外に置かれます。

## グレイドナンバー制

授業科目には、グレイドナンバーが付されています。これは、科目のレベルを簡明に示したものです。グレイドナンバーは、次の基準で付けられていますので、学修計画をたてる際は、これを参考にしてください。

基礎 → 応用

グレイドナンバー	100	200	300	400	500
----------	-----	-----	-----	-----	-----

〈グレイドナンバー付与基準〉

- 100…その学問分野における学修の入門となるような内容の科目
- 200…基礎的な内容の学部専攻科目，標準的なレベルの教養教育科目
- 300…学部における基本となる内容の学部専攻科目，やや高いレベルの教養教育科目
- 400…中級レベルの学部専攻科目
- 500…応用レベルの学部専攻科目

## 科目履修の特例

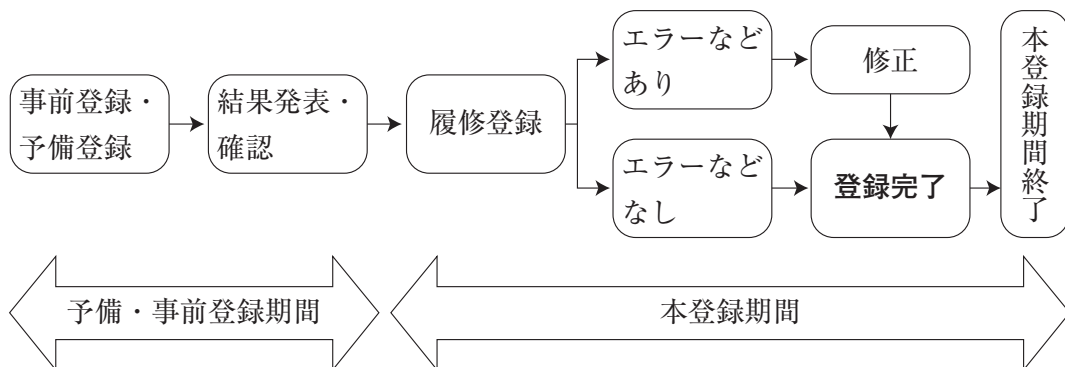
それぞれの科目は、履修可能な学期（配当セメスター）が設定されていますので、いつでも履修できるわけではありません。ただし、次のような場合には、指定された学期以後の学期において履修することができます。

- (1) 必修科目で、その配当セメスターにおいて単位修得できなかったとき。なお、必修科目によっては再履修科目が開かれる場合があります。この場合は、この再履修科目を受講しなければなりません。
- (2) 半期休学等の理由により、科目配当に極端な不利益があると判断されるとき。ただし履修登録にあたっては予め経営学部教務課窓口で相談してください。

## 4. 履修登録

履修登録とは、その学期に履修しようとする授業を受講するための手続きです。この履修登録をしなければ、授業に出席していたとしても、試験を受けることや単位認定を受けることはできません。履修登録はすべて自分の責任において正しく行ってください。登録完了後は、「受講登録確認表」を必ず出力し、間違いがないかを自分で確認してください。

### 履修登録の流れ



### クラス編成

#### (1) クラスとは

クラスとは教育上の効果を考慮して、受講者を適切な規模に分割したものです。

#### (2) クラスの種類

クラスには次の2種類があります。ただし、構成員は一致しません。

- 1) 必修外国語クラス
- 2) アドバイザークラス

①アドバイザークラスとは、みなさんの大学における学修生活の相談相手となるクラス担任がおかれているクラスのことであり、フレッシュャーズゼミのクラスと一致しています。

②学部掲示板や時間割表での伝達や指示に使用されるクラスは、すべてアドバイザークラスのことを指します。

## 先修制

ある科目の履修を希望する場合に、その科目の学修成果をより高めるために、事前に指定された科目を修得していなければ、履修希望科目を履修することができない制度です。

- (1) 先修制授業科目の履修には、履修の要件となる授業科目の修得（単位認定）が必要です。
- (2) 先修制授業科目とその履修の要件となる授業科目を、同じ学期に履修することはできません。

### 〈先修科目一覧〉

#### 教養教育科目（共同開講科目）〈2001年度以降入学生対象〉

授業科目	履修の要件となる授業科目および単位数
ドイツ語Ⅱ，ⅢA～ⅢH	ドイツ語Ⅰ（2単位）
フランス語Ⅱ，ⅢA～ⅢH	フランス語Ⅰ（2単位）
中国語Ⅱ，ⅢA～ⅢH	中国語Ⅰ（2単位）
スペイン語Ⅱ，ⅢA～ⅢH	スペイン語Ⅰ（2単位）
〈2014年度以降入学生〉 韓国語Ⅱ，ⅢA～ⅢH（*注）	韓国語Ⅰ（2単位）
ドイツ語セミナー A, B, C, D	ドイツ語Ⅰ，Ⅱ（計4単位） 〔国際関係コースの場合〕「ドイツ語Ⅰ，Ⅱ」または「ドイツ語コミュニケーションⅠ，Ⅱ」
フランス語セミナー A, B, C, D	フランス語Ⅰ，Ⅱ（計4単位） 〔国際関係コースの場合〕「フランス語Ⅰ，Ⅱ」または「フランス語コミュニケーションⅠ，Ⅱ」
中国語セミナー A, B, C, D	中国語Ⅰ，Ⅱ（計4単位） 〔国際関係コースの場合〕「中国語Ⅰ，Ⅱ」または「中国語コミュニケーションⅠ，Ⅱ」
スペイン語セミナー A, B, C, D	スペイン語Ⅰ，Ⅱ（計4単位） 〔国際関係コースの場合〕「スペイン語Ⅰ，Ⅱ」または「スペイン語コミュニケーションⅠ，Ⅱ」
〈2014年度以降入学生〉 韓国語セミナー A, B, C, D	韓国語Ⅰ，Ⅱ（計4単位）
英語ⅡR1，ⅡR2，ⅡS1，ⅡS2	英語ⅠA，ⅠB，ⅠC，ⅠD（計4単位）
英語ⅢR1，ⅢR2，ⅢS1，ⅢS2， ⅢG1，ⅢG2，ⅢW1，ⅢW2	「英語ⅠA，ⅠB，ⅠC，ⅠD，ⅠE，ⅠF，ⅠG，ⅠH」および「英語ⅡA，ⅡB，ⅡC，ⅡD」の内、4単位以上修得していること。
海外中国語研修講座	中国語Ⅰ，Ⅱ（計4単位）
〈2013年度以前入学生〉 韓国語Ⅱ，ⅢA，ⅢB（*注）	韓国語Ⅰ（*注）（2単位）
ポルトガル語Ⅱ，ⅢA，ⅢB	ポルトガル語Ⅰ（2単位）
ロシア語Ⅱ，ⅢA，ⅢB	ロシア語Ⅰ（2単位）
ドイツ語コミュニケーションⅡ	ドイツ語コミュニケーションⅠ（2単位）
中国語コミュニケーションⅡ	中国語コミュニケーションⅠ（2単位）
フランス語コミュニケーションⅡ	フランス語コミュニケーションⅠ（2単位）
スペイン語コミュニケーションⅡ	スペイン語コミュニケーションⅠ（2単位）

\*注：韓国語は、2014年度以降入学生には「必修外国語」、2013年度以前入学生には「選択外国語」の科目として開講されています。

## 学部専攻科目

授業科目	履修の要件となる授業科目および単位数
プログラミングおよび実習A2	プログラミングおよび実習A1
プログラミングおよび実習B2	プログラミングおよび実習B1
ビジネスコミュニケーションB (中国)	ビジネスコミュニケーションA (中国)
起業論B	起業論A
実践・放送メディアの実際と論理B —メディア・リテラシーを育てる—	実践・放送メディアの実際と論理A —メディア・リテラシーを育てる—

## 学部共通コース科目

### 1) コースに進むための要件 (修得が必要な授業科目および単位数)

学部共通コース	コースに進むための要件となる授業科目および単位数
国際関係コース	「英語 I A, I B, I C, I D, I E, I F, I G, I H」および「初修外国語 I, II」の内, 4 単位以上修得していること。
英語コミュニケーションコース	「英語 I A, I B, I C, I D, I E, I F, I G, I H」および「英語 II A, II C」の内, 4 単位以上修得していること。
スポーツサイエンスコース	
環境サイエンスコース	

※学部共通コースに進むための要件については、119・127ページにて詳細を確認してください。

### 2) 演習にかかる先修制

学部共通コース	演習科目	履修の要件となる授業科目および単位数
国際関係コース	特別演習 II, 特別演習 III	特別演習 I (4 単位) 70点以上要 *注 1
英語コミュニケーションコース	*注 2	
スポーツサイエンスコース	特別演習 II, 特別演習 III	特別演習 I (4 単位)
環境サイエンスコース	演習 II, 卒業研究	演習 I (4 単位)

\*注 1 : 詳細は「国際関係コースの履修について」(119ページ)にて確認してください。

\*注 2 : 「卒業研究」を履修するには原則として「Seminar II」の登録が必須です。

### 3) その他授業科目にかかる先修制

学部共通コース	授業科目	履修の要件となる授業科目および単位数
国際関係コース	英語コミュニケーション II	英語コミュニケーション I (2 単位)
	中国語コミュニケーション II *注	中国語コミュニケーション I (2 単位)
	ドイツ語コミュニケーション II *注	ドイツ語コミュニケーション I (2 単位)
	スペイン語コミュニケーション II *注	スペイン語コミュニケーション I (2 単位)
	フランス語コミュニケーション II *注	フランス語コミュニケーション I (2 単位)

\*注 : 中国語コミュニケーション, ドイツ語コミュニケーション, スペイン語コミュニケーションおよびフランス語コミュニケーションの先修制は, 教養教育科目 (共同開講科目) の先修制と内容が同じです。



## 予備・事前登録

予備・事前登録とは、受講者数の調整が必要な科目を対象に、履修登録（本登録）の前に行われるものです。抽選結果は、ポータルサイト上で発表します。予備・事前登録が必要な科目は予備・事前登録で履修を許可されなければ履修できません。

### ※予備登録と事前登録の違い

予備登録・事前登録は、どちらも履修登録の前に行うものというのとはわかったけどその違いとは一体何だろう？

予備登録とは、教養科目・選択外国語科目（時間割表の分野欄に「教養」と書かれた科目）を対象として行うものです。

事前登録とは、必修外国語の再履修や一部の学部専攻科目（時間割表の分野欄に「専攻」と書かれた科目）を対象として行うものです。

## 履修登録

履修登録は、第1学期、第2学期の年2回行われます。第1学期履修登録は、学期連結（通年）科目と第1学期開講科目を登録します。第2学期履修登録は第2学期開講科目を登録しますが、学期連結（通年）科目についても登録する必要があります。なお、第2学期登録時にこの学期連結（通年）科目の履修を放棄して別の第2学期開講科目を登録することはできません。また、4年次生以上は、第1学期履修登録期間に第2学期開講科目を含む通年分履修登録をする必要があります（原則年1回登録）。履修登録の際は、綿密に履修計画を立ててください。

なお、やむを得ず第2学期履修登録期間に登録修正が必要となった場合は、登録期間内に経営学部教務課窓口へ申し出てください。

履修登録は、すべて自己責任となりますので、間違いがないように注意して登録してください。また、履修登録はWeb（龍谷大学ホームページからポータルサイトにログインすると、履修登録ページがあります）で行います。以下に履修登録の際の登録要件及び注意事項を示しますので、よく読んで登録してください。

### (1) 履修登録要件

履修登録が有効になされるためには、次に定める要件をすべて備えていなければなりません。履修登録はすべて自己の責任において行ってください。

- ① 必修科目が配当されている学年にあっては、その年次において登録してください。（なお、その年次に単位を修得出来なかった場合は、再履修科目を履修してください。）

- ② 所属年次に配当されている授業科目以外の授業科目は登録できません。ただし、授業科目の区分等の関係で、卒業要件を充たすに必要な場合は、下級年次配当の授業科目を登録することができます。
- ③ 授業時間割表に従って登録してください。(特に、同一授業科目について複数の担当がある場合や、週2回学期完結型授業等の場合は、別段の指示があるので注意してください。)
- ④ 重複登録(同一講時に2科目以上の登録をすること)をした場合、当該科目は全て無効となりますので注意してください。
- ⑤ 二重登録(すでに所定単位を修得した授業科目を再度登録すること、および同時に同一授業科目を2科目以上登録すること)をした場合、当該科目は全て無効となりますので注意してください。
- ⑥ 各学期(セメスター)および各年次について、次の項で定められている履修制限単位を超えて登録することはできません。

(2) 履修登録にあたって注意すべき点

- ① 授業時間割に変更が生じた場合は、掲示板に掲示しますので注意してください。
- ② 履修登録にあたって、不明な点があれば、遠慮なく経営学部教務課窓口にご相談してください。
- ③ Web履修登録画面から、定められた期日に必ず登録してください。期日までに登録されない場合は、修学の意思がないものとして、保証人に連絡を取ります。  
登録期間は、履修説明会・ポータルサイト(学内者向け)等で確認してください。

## 履修制限単位

本学では、単位制度の趣旨および教育効果を高めることや健康管理の点から、履修登録制限を行っており、以下の表で定められた単位数を超えて履修登録することはできません。ただし、履修制限単位に含まれない科目もあります。

1年次		2年次		3年次		4年次	
1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	5セメスター	6セメスター	7セメスター	8セメスター
23	22	22	22	22	22	48	

※通年科目の単位数は、第1学期と第2学期で2分割して計算します。

(例: 4単位の通年科目の場合、第1学期2単位、第2学期2単位として計算します。)

※編・転入学再入学のカリキュラム適用年度は、入学年度ではなく、学籍番号のBに続く2桁の数字であらわします。

(例: B 1 3 □ □ □ □ : 2015年度編・転入学生) → 2013年度カリキュラムを適用

#### 履修制限に含まれない科目

- ①時間割表の分野欄に「随意」「教職」「本山」「司書」「学司」と記載されている科目  
※「教育原論A・B」「発達と教育A・B」は履修制限単位に含まれます。
- ②サマーセッション科目
- ③(2008年度以降入学者)「演習」、国際関係コース・スポーツサイエンスコースの「特別演習」
- ④英語コミュニケーションコースの「卒業研究」
- ⑤環境サイエンスコースの「演習」、「環境実践研究」、「卒業研究」
- ⑥「海外中国語研修講座」
- ⑦大学コンソーシアム京都科目(単位互換科目・インターンシップ)

## 受講登録確認表

受講登録確認表は、みなさんが登録した科目が正しく登録されているかをチェックするためのものです。登録が間違っていれば、たとえ授業に出席して、試験を受験しても成績評価がされませんので、登録完了後は、「受講登録確認表」を出力し、正しく登録されているかどうかを必ず確認してください。受講登録確認表について、不備もしくは質問がある場合は、ただちに、経営学部教務課窓口に申し出てください。

## 履修辞退制度 ※登録確認時に行う登録修正とは異なりますので注意してください。

履修辞退制度とは、履修登録した科目の授業に出席したが、「授業内容が自分の希望したものと違う」、「授業について行けるだけの知識が不足している」などの理由から、自分自身の判断で履修を辞退できる制度です。

ただし、履修を辞退する場合は以下の点に注意して手続きしてください。

(1) 以下の科目は、履修を辞退できません。

必修科目	仏教の思想A・B, 英語, 初修外国語, 現代のビジネス・簿記入門・現代の企業会計・経営と情報, 学部共通コース必修科目	
	情報リテラシー (2008年度以降入学生のみ)	
事前登録科目	必修外国語(再履修), 学部専攻科目, 学部共通コース科目で事前登録が必要な科目	
大学コンソーシアム 京都単位互換科目		
教育実習科目	教育実習に関する科目, 介護等体験, 教育実習指導I・II A・II B, 教育実践研究I・II・III A・III B	
サマーセッション 集中講義科目		
その他	フレッシュャーズ・ゼミ, 基礎演習(全学生)	
	演習(2008年度以降入学生)	
学部共通コース 演習科目	国際関係コース	(注1)
	英語コミュニケーションコース	なし(注2)
	スポーツサイエンスコース	スポーツサイエンスコース演習I(特別演習I)
	環境サイエンスコース	演習I, 演習II(注3), 卒業研究, 環境フィールドワーク

(注1) 学部提供演習(卒論・演習論文等を含む)については、提供学部の設定に準拠します。

(注2) Seminar IIと卒業研究は同時に履修登録しなければなりません。辞退の場合は、Seminar IIを辞退しても卒業研究を辞退したことにはなりません。卒業研究も辞退する場合は別途手続きしなければなりません。

(注3) 第6セメスター履修辞退期間のみ辞退可(第7セメスターは辞退不可)。

(2) 履修辞退を取り下げることにはできません。ただし、履修辞退した科目を次の学期以降に再び履修登録することはできます。

(3) 履修辞退による成績評価のあり方

指定された期日に履修辞退を申請した場合、当該授業科目の成績評価は行いません（成績証明書に記載されません）。平均点やGPAの計算対象からも除外されます。ただし、各学期に配付される学業成績表には履修辞退履歴として「J」の記号が記載されます。

(4) 履修辞退の申し出方法

履修辞退期間は、掲示板及びポータルサイトにてお知らせします。指定された期日にポータルサイトの「Web履修辞退申請」から申請してください。指定された期日に、ポータルサイトを利用した申請ができない場合は事前に経営学部教務課に相談してください。

(5) 留意事項

1) 単位の取り扱い方

第1学期に通年科目を履修辞退した場合、第2学期は、履修辞退した科目の曜講時に新たな科目を登録できます。

なお、履修辞退の申し出による単位数計算は以下のとおりです。

履修辞退申出時期	科目区分	単位数の計算
第1学期（前期）	前期科目	カウントします
	通年科目	第1学期（前期）分はカウントしますが、第2学期（後期）分はカウントしません
第2学期（後期）	後期科目	カウントします
	通年科目	カウントします

2) 履修辞退申し出により授業料（科目等履修生は履修料）の返還はしません。

なお、単位制学費の対象学生（留年生および社会人）が、通年科目を第1学期（前期）期間中の履修辞退申出期間に申し出た場合の第2学期（後期）分授業料は徴収いたしません。

また、科目等履修生が、通年科目を第1学期（前期）期間中の履修辞退申出期間に申し出た場合の第2学期（後期）分履修料は、理由の如何にかかわらず返還いたしません。

## 5. 試験

試験は、みなさんが受講した科目の内容をどの程度理解しているかを測るために行うものです。

試験時間割は、原則として試験の14日前に掲示板とポータルサイトで発表します。

### 筆答試験の時期

筆答試験をその実施時期によって分類すると、次の2種類になります。

(1) 定期試験（学期末・学年末試験）

授業期間の終了時期（通常の場合は学期末）に実施する筆答試験を言います。

(2) 追試験

定期試験欠席者のために、定期試験終了後に改めて実施する筆答試験を言います（P.21の追試験の項を参照のこと）。

### 筆答試験時間

筆答試験時間は、次のとおりです。

講時	開始時刻	終了時刻	
		教養教育科目(共同開講科目) 専攻科目(文・済・営・政・短) 学部共通コース科目 諸課程科目(60分)	専攻科目(法)(70分)
1 講時	9:00	10:00	10:10
2-A 講時	10:30	11:30	11:40
2-B 講時	12:00	13:00	13:10
3-A 講時	13:30	14:30	14:40
3-B 講時	15:00	16:00	16:10
4 講時	16:30	17:30	17:40
5 講時	18:00	19:00	19:10
6 講時	19:15	20:15	—

(注1)：教養教育科目（共同開講科目）および学部共通コース科目のうち、学部提供科目は、当該学部が定める試験時間となります。

(注2)：科目の特性によって、試験時間を変更することがあります。

## 受験資格

次の各号に定める条件をすべて備えていないと、筆答試験を受験することができません。

(追試験については、追試験の項を参照のこと。)

- (1) その科目について、有効な履修登録がされていること。
- (2) 定められた学費を納入していること。
- (3) 授業に出席していること。原則として3分の2以上の出席があること。
- (4) 授業担当者の求める諸条件を満たしていること。

## 受験上の注意

試験受験に際しては、次のことを厳守してください。

<p>試 験 場</p>	<p>試験場では、以下のことを厳守してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 指定された試験場で受験すること</li> <li>(2) 試験開始20分以上の遅刻および30分以内の退室はできません</li> <li>(3) 学生証を携帯すること（万一学生証を忘れた場合は、経営学部教務課で「試験用臨時学生証」の交付を受けておくこと）</li> <li>(4) 学生証を必ず机の上に提示し、写真欄が見えるよう机上通路側に置くこと</li> <li>(5) 答案（解答）用紙が配付されたら、直ちに年次、学籍番号、氏名を「ペンまたはボールペン」で記入すること</li> <li>(6) 参照を許可されたもの以外は、指示された場所におくこと（担当教員の指示がない限り、電子機器等の使用を認めない。）</li> <li>(7) 試験開始前に携帯電話などの電源を切り、カバンの中に入れること</li> <li>(8) 答案（白紙答案を含む）を必ず提出して退室すること</li> </ol>
<p>無 効 解 答</p>	<p>以下の場合、答案を無効とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 無記名の場合</li> <li>(2) 指定された場所に提出しない場合</li> <li>(3) 試験終了後、試験監督者の許可なく氏名を書き直した場合</li> <li>(4) 受験態度の不良な場合</li> </ol>
<p>不 正 行 為</p>	<p>筆答試験受験中に不正行為を行った場合は、その学期に履修登録した全科目の単位認定を行いません。また、不正行為の程度により、学則に定める懲戒を加えることがあります。</p> <p>以下に該当する場合は、不正行為と見なします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 私語や態度不良に対して注意を与えても改めない場合</li> <li>(2) 監督者の指示にしたがわない場合</li> <li>(3) 身代わり受験をする、またはさせた場合</li> <li>(4) カンニングペーパーなどを所持していた場合</li> <li>(5) 携帯電話、スマートフォン、情報端末等をかばん等にしまっていない場合</li> <li>(6) 許可されていないものを参照した場合</li> <li>(7) 机上などへ書き込みをしていた場合</li> <li>(8) 許可なくして物品や教科書、ノート類を貸借した場合</li> <li>(9) 答案用紙の交換や見せ合いをした場合</li> <li>(10) その他、(1)～(9)に準じる行為をした場合</li> </ol>

※経済学部提供科目は、座席指定を行うことがあります。座席指定を行う定期試験では、試験時間中の途中退席はできないので、注意してください。



## 追試験

以下の条件を満たしていれば、追試験を受験することができます。

対象外科目	以下の科目は、追試験の対象外となります。 (1) 定期試験期間外に試験が行われた科目 (2) レポート試験科目 (3) 実技・実習科目（例えば、「スポーツ技術学演習」） (4) 特別に指定された科目
受験資格	受験資格は以下のとおりです。 (1) 病気やけが、試験時に体調不良などで受験できなかった人 (2) 親族（原則として3親等まで）の葬儀で受験できなかった人 (3) 公認サークルの公式戦に選手として参加したために受験できなかった人 (4) 資格試験（公務員試験、公的資格試験など）や就職活動（筆記試験、面接など）で受験できなかった人 (5) 大学コンソーシアム京都科目の試験によって受験できなかった人 (6) インターンシップ実習（協定型インターンシップ、大学コンソーシアム京都インターン・シッププログラム）のために受験できなかった人 (7) 交通機関の遅延などで受験できなかった人 (8) 交通事故や災害などで受験できなかった人 (9) 裁判員制度による裁判員（候補者）に選任されたために受験できなかった人 (10) 短期大学部実習科目受講により4年制学部定期試験の受験ができなかった人 (11) その他、学部教授会が特に必要と認めた人

追試験の申請方法は以下のとおりです。

申請期限	その科目の試験日を含めて4日以内（土・日・祝日を含まない。ただし、土曜日が試験日の場合は、試験当日を含む4日以内）
申請場所	経営学部教務課
追試験の受験料	1科目につき1,000円
提出書類	(1) 追試験受験願（経営学部教務課で用意しています） (2) 試験欠席理由書（経営学部教務課で用意しています） (3) 欠席理由証明書 （診断書、会葬礼状、交通機関遅延書または事故証明書、就職試験などの場合は、会社あるいは団体が発行する証明書など）

交通遅延証明書のうち、Web発行によるものは本人が乗車したことを証明するものではありませんので、欠席理由の証明書として、本学では取扱いできません。

交通遅延証明書は従来通り、「本人が乗降した際に各駅にて受け取ることができるもの」のみを証明書として取扱います。

また、試験当日、医師の診断の結果、インフルエンザなどの流感により外出が制限され、定期試験を受験できなかった場合は、追試験申込期限内に経営学部教務課に連絡してください。

## レポートについて〈レポート試験提出要領〉

レポート試験は、以下の提出要領にしたがって、レポートを提出してください。

- (1) レポートは、原則として、授業担当者に提出してください。
- (2) 授業科目担当者が指示する提出方法などにしたがわない場合は、受理されないことがあります。
- (3) レポートの授受は、経営学部教務課では一切行いません。

(郵送の場合は、宛先を確認し、封筒の表紙(左側)に「龍谷大学経営学部(科目名)レポート在中」と朱書きし、必ず簡易書留または特定記録郵便で発送すること。

なお、レポート作成の際に、既存文書からの不正な転用などが認められた場合(例：インターネットなどからコピーした場合)、当該レポートを無効扱いとして単位認定を行わない場合があります。

## 6. 成績評価

### 成績評価の種類

成績評価は、おおよそ次の4種類の方法があり、これらのうちの1つまたは2つ以上を合わせて評価されます。各科目の成績評価方法は、その科目の特性に応じて授業担当者によって定められています。各科目の成績評価方法はWebシラバスに明示されているので参照してください。

- (1) 筆答試験による評価
- (2) レポート試験による評価
- (3) 実技試験による評価
- (4) 授業への取組状況や小テストなど、上記試験による評価の他に、担当者が設定する方法による評価

### 学業成績の発表

第1学期の学業成績表を9月下旬、第2学期の学業成績表を3月下旬に配付します。掲示板やポータルサイトで、配付日をお知らせしますので、指定された期日に学生証を持参の上、経営学部教務課で受け取ってください。

### 学業成績表の評価

- (1) 成績評価は100点を満点とし、60点以上を合格、それを満たさない場合は不合格とします。
- (2) 一度合格した科目は、再度履修し成績評価を受けることはできません。
- (3) 登録した科目の試験を受験しなかった場合、その試験の評価は0点となります。ただし、この場合でも、試験による評価以外に授業担当者が設定する方法により、評価される場合があります。
- (4) 段階評価と評点の関係は、次のとおりとします。

段階評価と評点	
S (90~100点)	A (80~89点) B (70~79点) C (60~69点)

ただし、上記の段階評価以外に、実習科目はG (合格)・D (不合格) で評価する場合があります。単位認定された科目の場合はN (認定) となります。

- (5) 学業成績証明書は、すべて段階評価で表示し、不合格科目は表示しません。

## GPA 制度

GPAとは、Grade Point Average（成績加重平均値）のことであり、従来の修得単位数による学修到達度判定に加え、どの程度のレベルで単位を修得したかを一目で表すものとして考えられたものです。算出方法は、各教科の評価点（100点満点）を次表のように換算しなおし、その合計を登録科目の総単位数で割って算出します。

評 点	グレード ポイント
100～90点	4
89～80点	3
79～70点	2
69～60点	1
59点以下	0

$$\text{GPA} = \frac{\Sigma (\text{登録科目のグレードポイント} \times \text{単位数})}{\Sigma (\text{登録科目の単位数})}$$

例えば、  
 ・現代のビジネス（2単位）90点  
 ・マーケティング論（2単位）70点  
 ・ドイツ語 I（2単位）60点  
 ・人類学のすすめ（4単位）40点

を修得したとし、これだけが受験科目とした場合、GPAは次のように計算されます。

$$\text{GPA} = \frac{(4 \times 2) + (2 \times 2) + (1 \times 2) + (0 \times 4)}{(4 \times 1) + (2 \times 3)} = \frac{14}{10} = 1.4$$

科目区分等		対象の有無
諸課程科目	左記のうち卒業要件とならない科目	対象としない
	左記のうち卒業要件となる科目	対象とする
随意科目		対象としない
結果的に卒業要件外となる科目		対象とする
再履修により合格した場合の当初履修し、不合格となった科目		対象としない
履修辞退した科目		対象としない

※再履修し不合格となった科目の成績評価の取り扱いについては、高得点の成績評価を対象とします。

※成績を評価点（100点満点）で評価しない科目は算入しません。

## 成績疑義

成績評価に対して疑義がある場合は、以下の手続きが必要です。授業担当者に直接申し出ることは禁止します。

- (1) 所定の「成績疑義申出用紙」（経営学部教務課にて配付）に疑義内容を詳細に記入してください。
- (2) 「成績疑義申出用紙」を申出期間内（掲示板やポータルサイトでお知らせします）に、経営学部教務課に提出してください。

## 7. 卒業

卒業は、大学が定める教育課程の修了であり、「学士」の学位が授与されます。この認定証が「卒業証書（学位記）」です。

卒業するためには、大学が定める教育課程にしたがって学修し、次ページに示す卒業要件単位以上の単位を修得しなければなりません。

### 卒業の要件

本学において、卒業認定を得ようとする者は、次の2つの要件を満たさなければなりません。

所定在学年数	本学の教育課程を修了するには、4年以上在学しなければなりません。これは、単なる在籍期間ではなく、学修期間が4年以上必要ということです。したがって、休学などによる学修中断の期間は在学期間に加えません。
所定単位の修得	P.26～に示す所属コースの指定にしたがい履修しなければなりません。指定と異なる履修をした場合は、125単位（2007年以前入学生は124単位）を超えて単位を修得しても卒業の認定を受けることはできません。 履修にあたっては、P.29～の「経営学部のカリキュラム」をしっかりと読んでください。

### 卒業の時期

#### (1) 3月卒業

卒業認定は、毎年学年の終わり（3月）に行います。

#### (2) 9月卒業

教授会が必要と認めるときは、在学期間が4年以上の人に対して、第1学期終了時（9月）に卒業を認定することがあります。

※注意：9月卒業を希望する人は、卒業可否通知に同封している「9月卒業願書」を、必ず指定された期間内に提出してください（本人の申し出がなければ、9月卒業の対象にはならないので注意してください）。

卒業要件単位（2008年度以降入学生）

経営コース	組織をリードするモデル	教養教育科目				フリー	専攻科目					
		仏教の思想	必修外国語		教養※		学部必修	学部選択必修	モデル必修	モデル選択必修	モデル選択	学部選択(演習含む)
		4	12		16		24	9	4	6	8	12
				32	24	69						

経営コース	市場と情報を活用するモデル	教養教育科目				フリー	専攻科目					
		仏教の思想	必修外国語		教養※		学部必修	学部選択必修	モデル必修	モデル選択必修	モデル選択	学部選択(演習含む)
		4	12		16		24	9	4	6	8	12
				32	24	69						

経営コース	世界へ羽ばたくモデル	教養教育科目				フリー	専攻科目					
		仏教の思想	必修外国語		教養※		学部必修	学部選択必修	モデル必修	モデル選択必修	モデル選択	学部選択(演習含む)
		4	12		16		18	9	6	4	8	18
				32	18	75						

会計コース	教養教育科目				フリー	専攻科目					
	仏教の思想	必修外国語		教養※		学部必修	学部選択必修	コース必修	コース選択必修	コース選択(演習含む)	
	4	12		16		12	9	6	4	10	52
				32	12	81					

※2015年度以降入学生は、教養科目16単位のうち、人文科学系科目、社会科学系科目、自然科学系科目に設置されている基幹科目の中から、それぞれ1科目以上（2単位以上）修得する必要があります。

専攻科目で、それぞれの分野の卒業要件単位数を超えて修得した場合の単位集計は、P.85の表を参照してください。

国際関係コース	教養教育科目					フリー	専攻科目						
	仏教の思想	必修外国語			教養※		学部必修	学部選択必修	学部選択	コース必修	コース選択必修	コース選択A群	コース選択B群
	4	12			16	16	9	10	14	4	4	24	12
32					16	77							

英語コミュニケーションコース	教養教育科目					フリー	専攻科目					
	仏教の思想	必修外国語			教養※		学部必修	学部選択必修	学部選択	コース必修		コース選択
	4	12			16	12	9	10	14	20		28
32					12	81						

スポーツサイエンスコース	教養教育科目					フリー	専攻科目					
	仏教の思想	必修外国語			教養※		学部必修	学部選択必修	学部選択		コース選択必修	コース選択
	4	12			24	12	9	10	14		10	30
40					12	73						

環境サイエンスコース	教養教育科目					フリー	専攻科目					
	仏教の思想	必修外国語			教養※		学部必修	学部選択必修	学部選択	コース必修	コース選択必修	コース選択
	4	12			16	12	9	10	14	4	12	32
32					12	81						

※2015年度以降入学生は、教養科目16単位（スポーツサイエンスコースのみ24単位）のうち、人文科学系科目、社会科学系科目、自然科学系科目に設置されている基幹科目の中から、それぞれ1科目以上（2単位以上）修得する必要があります。

卒業要件単位 (2001年度～2007年度入学生)

経営専攻コース 経営総合コース	共同開講科目				フリー	専攻科目						合計	
	仏教の思想	必修外国語		プログラム		学部必修	学部選必	学部選択					
卒業要件単位	4	12		16	24	8	4	56				124	
	32				24	68							
国際関係コース	共同開講科目				フリー	専攻科目						合計	
	仏教の思想	必修外国語		プログラム		学部必修	学部選必	学部選択	コース必修	コース選必	コース選択A群		コース選択B群
卒業要件単位	4	12		16	16	8	4	20	4	4	24	12	124
	32				16	76							
英語コミュニケーションコース	共同開講科目				フリー	専攻科目						合計	
	仏教の思想	必修外国語		プログラム		学部必修	学部選必	学部選択	コース必修		コース選択		
卒業要件単位	4	12		16	12	8	4	20	20		28	124	
	32				12	80							
スポーツサイエンスコース	共同開講科目				フリー	専攻科目						合計	
	仏教の思想	必修外国語		プログラム		学部必修	学部選必	学部選択		コース必修	コース選択		
卒業要件単位	4	12		24	12	8	4	20		10	30	124	
	40				12	72							
環境サイエンスコース	共同開講科目				フリー	専攻科目						合計	
	仏教の思想	必修外国語		プログラム		学部必修	学部選必	学部選択	コース必修	コース選修	コース選択		
卒業要件単位	4	12		16	12	8	4	20	4	12	32	124	
	32				12	80							



## 第2部 経営学部のカリキュラム

### 経営学部の最低到達目標

- ◆建学の精神を理解し，社会人として通用する素養と倫理観を持つ
- ◆自分の考えを文章で表現し，それを発表し討議する能力を身につける
- ◆基本的な財務諸表類を読み，会社の概要を説明できる
- ◆広く国際感覚を持った社会人としての素養と語学力を身に付ける
- ◆学修した専門領域での知識を切り口に現代企業の特徴を説明できる

## 1-1. 教養教育科目の教育目的および履修方法

### 教養教育とは

#### (1) 教養教育の理念・目的

龍谷大学の教養教育は、人間の根源的な問いからその内面を見つめる思考の幅を広げ、人間をとりまく多様な世界を知ることを通じて、自己を確立できる人間の育成を目指して開講されています。このため、建学の精神に基づく高い倫理性や豊かな人間性ととも、知性・感性を兼ね備え、現代社会でたくましく生きる力を持った人間の形成、つまり、幅広い知識と知的な諸技法の習得に基づく論理的思考力や判断力の涵養により、社会性をもって現実を正しく理解する力と、国際的なコミュニケーション能力をもった「専門性を身につけた教養人の育成」の一翼を担うことを目的としています。

#### (2) 教養教育科目とは

本学の教養教育は、「仏教の思想」科目・言語科目・教養科目の3つの科目区分で構成されており、これら全体を教養教育科目とよびます。

#### 「仏教の思想」科目

- 「仏教の思想A」「仏教の思想B」【必修科目】
- 「歎異抄の思想I」「歎異抄の思想II」

本学の建学の精神を涵養する科目が「仏教の思想」科目です。仏教の思想を学ぶことを通じて、自己を内省し、幅広いものの見方と心の豊かさを育てることを目的とします。

#### 言語科目

- 必修外国語科目
- 選択外国語科目

英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、ポルトガル語、韓国語、ラテン語、ギリシア語を開講。外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を修得し異文化理解を深めるとともに、自律的な学修態度を身につけることを目的とします。

#### 教養科目

- 人文科学系科目 【1科目（2単位以上）必修】

文学、哲学、歴史学、宗教学、心理学、教育学などの分野に分かれ、人間の様々な文化や過去の経験を学ぶことを目的とします。

- 社会科学系科目 【1科目（2単位以上）必修】

社会科学の学びの入り口や基礎となる科目(社会学、経済学、法学、政治学)とともに、現代社会の様々な場面において立ちあられる多様な問題と向き合うための科目を学びます。

- 自然科学系科目 【1科目（2単位以上）必修】

理数系の科目を通じて、社会人になってからの生活や社会活動を行うときに必要な科学的基礎知識と、論理的考察力、判断力を養うことを目的とします。

- スポーツ科学系科目

現代社会における人々の健康状況や余暇状況をふまえ、スポーツについての理解とその合理的な実践方法について学びます。

## 「仏教の思想」科目について

「仏教の思想」科目では、1年次の必修科目「仏教の思想A」「仏教の思想B」と、2年次以降の選択科目「歎異抄の思想Ⅰ」「歎異抄の思想Ⅱ」が開設されています。ここでは「仏教の思想」を中心に説明します。

### (1) 目的と意義

本学は「親鸞聖人によって開示された浄土真宗の精神を建学の精神にもち、真の人間たるにふさわしい世界を開くことをめざし、深い学識と教養をもちながら国際社会の一員として努力する人間を育成すること」をめざしています。

「仏教の思想」は本学の建学の精神を学ぶために必修科目として位置づけられ、大学の一つの個性となっています。この講義では本学のよき伝統を知り、仏教の思想を学ぶことを通して、自己を内省し、幅広いものの見方と心の豊かさを育てることを目的としています。「仏教の思想」は、各学部のカリキュラムに沿って履修しやすいように、クラス指定で1年次に開講されています。また入学した学生にいち早く建学の精神を学んでほしいという願いもあります。この「仏教の思想」を平易に理解するために、次のような教育目標を掲げています。

- 1) 人間にとっての宗教の意義を明らかにする。真実の宗教を見極める眼を育てる。
- 2) 倫理・歴史として「仏教の思想」を学ぶ。
- 3) 人間学として「仏教の思想」を学ぶ。
- 4) 広い視野を育てるために「仏教の思想」を学ぶ。
- 5) 現代世界のあり方を考える思想として「仏教の思想」を学ぶ。
- 6) いのちのかけがえのなさに目覚め、異なる意見と対話・交流しあえるような姿勢を培うために、「仏教の思想」を学ぶ。
- 7) 「仏教の思想」を通して、龍谷大学の建学の精神を学ぶ。

### (2) 履修方法について

#### ① 必修科目

「仏教の思想A」「仏教の思想B」は必修科目です。配当されたセメスターにおいて必ず受講してください。

#### ② 単位認定

「仏教の思想A」「仏教の思想B」はそれぞれ独立した科目で、単位認定は別々に行われます。

### ③ クラス指定

授業内容の系統性を確保するため、同一の授業担当者の講義を履修してください。  
学部指定やクラス指定を行っていますので、時間割の指示にしたがって履修登録してください。

### ④ 再履修

配当された Semester で不合格となった場合は、次の年次において再度履修してください。なお、この場合は上記③（同一の授業担当者による受講およびクラス指定）は適用しません。

また、3年次生以上は、同一 Semester で、A・B同時履修することが可能です。

学 期	科目名
第1学期（前期）	「仏教の思想A」・「仏教の思想B」（再履修）
第2学期（後期）	「仏教の思想B」・「仏教の思想A」（再履修）

## 言語科目について

言語科目には、必修外国語科目と選択外国語科目があります。必修外国語科目として英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・コリア語が、選択外国語科目として英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・コリア語・ポルトガル語・ロシア語・ラテン語・ギリシア語が開設されます。必修外国語科目12単位を必ず修得してください。なお、12単位を越えて修得した単位数は、次の場合、卒業要件（フリーゾーン）に含むことができます。

- (1) 必修外国語科目「初修外国語専修型」を選択し、「英語 I A～I D」の単位を取得した場合
- (2) 選択した履修パターンにある科目以外の必修外国語科目を履修した場合（2年次生以降）
- (3) 初修外国語の言語を変更した場合の変更前言語の取得単位（2年次生以降）

また、選択外国語科目は教養教育科目の選択科目として単位認定されます。

外国語教育では、母語とはまったく異なる言語に接することで、母語に基づいた思考様式とはまったく異なった思考様式に対する認識・理解を深めることができます。また、これにより、外国の文化、芸術、社会におけるさまざまな伝統や価値観をより深く理解する能力も養われます。さらにそれは、日本語を客観的にながめ、自らの日本語能力を見直すよい機会ともなるでしょう。このような意味で、外国語教育は大学生活に必須の学問的基礎訓練の一環となっています。こうした目標を達成するには、地道な努力の継続が欠かせ

ないこと、また、教室外での自発的な研修も必要であることを心に留めておいてください。

#### [英語]

##### ● 必修外国語科目・英語2年間の到達目標

辞書を使いながら標準的な語彙を用いた文字または音声による英語の内容を的確に捉えられるようにします。さらに、正確な情報を把握するために基本的な文法構造と語彙を習得します。

1年生では主に英語受信能力の向上に焦点を置き、2年生では発信能力の育成も視野に入れながら、英語の4技能の充実をはかります。さらに2年間の必修を終えた後、3年生以降にも英語継続学習の動機付けを行います。

##### ● 選択外国語科目・英語（積み上げ英語）の到達目標

積み上げ英語とは、選択外国語科目中の発展科目として開設される英語を指します。必修科目で養った基礎的な運用能力のレベルアップをはかるとともに、個々のニーズに合わせた英語運用能力の向上を目指します。例えば専門分野での学習や留学に対応できるように、知的情報の受信発信能力のさらなる向上を目標とします。

#### [初修外国語]

本学では、英語以外の外国語で、歴史的・社会的・文化的に見て重要な言語の中から、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、コリア語の5言語を「初修外国語」として必修科目に組み入れています。

英語以外の外国語を学ぶことによって、その運用能力を身につけるとともに、言語一般の普遍的構造や機能に対する理解を深め、世界を複眼的に考察する視点を養います。

必修外国語科目、選択外国語科目の履修方法および教育内容は次のとおりです。

## 必修外国語科目について

「読む・聴く・話す・書く」といった技能のレベルアップを図るとともに、国際社会において確固とした判断・主張・行動ができるための素地の育成をめざします。

英語、初修外国語（ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、コリア語）の計6つの言語から、1つもしくは2つの言語を選んで学びます。計12単位を必修とします。

### (1) 履修方法

必修外国語12単位の履修パターンには、次の4通りがあります。すべての学生は、必修外国語計12単位を第1～第4セメスターの2年間で履修してください。

## 履修パターン

履修パターン	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター
①英語専修型 英語 12 単位	【英 語 8 単位】		【英 語 4 単位】	
	I A (週1回: 1 単位)	I B (週1回: 1 単位)	II A (週1回: 1 単位)	II B (週1回: 1 単位)
	I C (週1回: 1 単位)	I D (週1回: 1 単位)	II C (週1回: 1 単位)	II D (週1回: 1 単位)
	I E (週1回: 1 単位)	I F (週1回: 1 単位)		
	I G (週1回: 1 単位)	I H (週1回: 1 単位)		
②英語重視型 英語 8 単位 初修外国語 4 単位	【英 語 4 単位】		【英 語 4 単位】	
			II A (週1回: 1 単位)	II B (週1回: 1 単位)
③初修外国語 重視型 英語 4 単位 初修外国語 8 単位	【英 語 4 単位】		【初修外国語 4 単位】	
	I A (週1回: 1 単位)	I B (週1回: 1 単位)	III A (週1回: 1 単位)	III B (週1回: 1 単位)
	I C (週1回: 1 単位)	I D (週1回: 1 単位)	III C (週1回: 1 単位)	III D (週1回: 1 単位)
④初修外国語 専修型 (※注1) 初修外国語12単位	【初修外国語 4 単位】		【初修外国語 8 単位】	
	I (週2回: 2 単位)	II (週2回: 2 単位)	III A (週1回: 1 単位)	III B (週1回: 1 単位)
			III C (週1回: 1 単位)	III D (週1回: 1 単位)
			III E (週1回: 1 単位)	III F (週1回: 1 単位)
		III G (週1回: 1 単位)	III H (週1回: 1 単位)	

### (※注1) 「初修外国語専修型」を選択した場合の注意事項

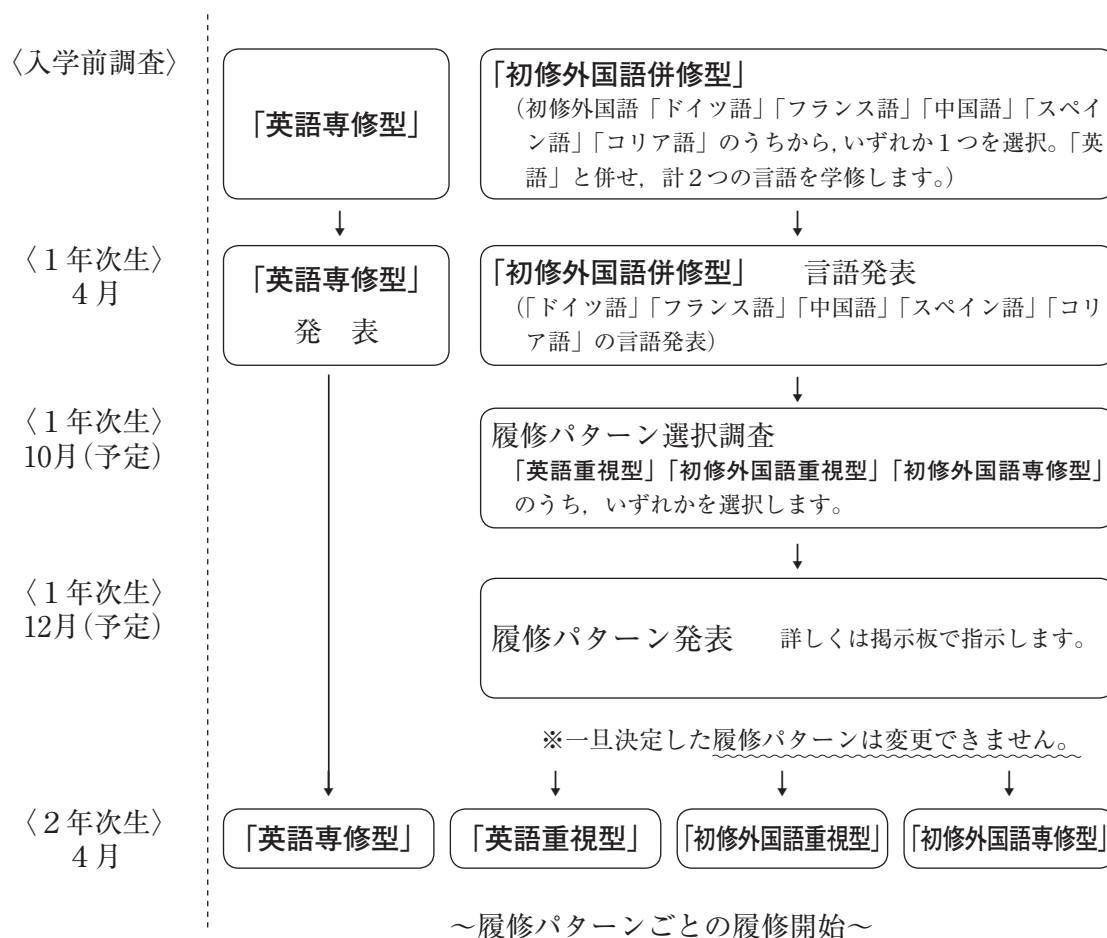
初修外国語専修型を選択した場合、1セメスター・2セメスターで修得した「英語 I A・I B・I C・I D」の単位は、フリーゾーンで認定します。よって、必修外国語12単位には算入されないので注意が必要です。

### (2) 先修制

必修外国語科目には下記のとおり先修制が定められています。

先修制授業科目等	履修の要件となる授業科目名および単位
ドイツ語 II, III	ドイツ語 I (2 単位)
フランス語 II, III	フランス語 I (2 単位)
中国語 II, III	中国語 I (2 単位)
スペイン語 II, III	スペイン語 I (2 単位)
コリア語 II, III	コリア語 I (2 単位)

### (3) 言語および履修パターンの選択方法



### (4) 言語および履修パターンについて

#### 1) 入学前調査

入学前に、次のうち、いずれかの履修パターンを選択します。

- ・「英語専修型」
- ・「初修外国語併修型」(初修外国語「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「スペイン語」「ロシア語」のうちから、いずれか1つを選び、「英語」と併せ、計2つの言語を学修します。)

新入生全員の選択結果に基づき大学で選考を行い、パターンが決まります。(第1学期の履修登録時(4月初旬)に、Web履修登録画面にて確認してください。)

#### 2) 「履修パターン」選択調査(「英語専修型」以外の学生対象)

必修外国語(12単位)には、「英語専修型」「英語重視型」「初修外国語重視型」「初修外国語専修型」の履修パターンがあります。みなさんは、この中からいずれかのパターンで履修することになります。

この調査は「英語専修型」以外の学生を対象として、1年次生の10月(予定)に行います。その後、12月頃に発表します。

なお、一旦決定した履修パターンの変更は認められないので、注意が必要です。  
詳細については、経営学部掲示板で指示します。

### 3) 選択した履修パターン以外の必修外国語科目の履修希望受付（2年次以降）

経営学部教務課窓口で受け付けます。結果については、授業開始までに経営学部  
掲示板で発表します。

詳細は「選択した履修パターンにある科目以外の必修外国語科目を履修したい場  
合（P.37）」を参照してください。

### 4) 初修外国語の言語変更希望受付（2年次生以降）

経営学部教務課窓口で受け付けます。結果については、授業開始までに経営学部  
掲示板で発表します。

詳細は「初修外国語の言語を変更したい場合（P.37）」を参照してください。

## (5) 再履修

必修外国語科目が不合格になった場合は、当該科目を再履修しなければなりません。

再履修するには、受講予定者自身が履修登録（本登録）の前に「事前登録」をす  
る必要があります。希望の曜講時を選択し登録してください。  
※受講者数が均等になるよう調整するため、担当者やクラスを選択できない場合が  
あります。

履修方法等については、科目ごとに異なりますのでご注意ください。

## ○英語の再履修について

### 1) 履修方法

#### ① 英語ⅠA～ⅠHの再履修

再履修用科目の「英語Ⅰ（再）」が複数開講されていますので、必要各単位  
数に相当する「英語Ⅰ（再）」を選択して履修してください。不合格となった  
科目数しか履修は認められませんのでご注意ください。

#### ② 英語ⅡA～ⅡDの再履修

再履修用科目の「英語Ⅱ（再）」が複数開講されていますので、必要単位数  
に相当する「英語Ⅱ（再）」を選択して履修してください。不合格となった科  
目数しか履修は認められませんのでご注意ください。

### 2) 授業方法・内容

通常の講義を行います。

### 3) 評価方法

小テスト・中間テスト・期末テスト・出席・授業態度などから総合的に評価し、  
最高点は79点となります。



## ○初修外国語の再履修について

## 1) 初修外国語Ⅰ・Ⅱ（中国語Ⅰ・Ⅱを除く）の再履修

不合格となった科目の再履修クラスあるいは正規クラスを選択して履修してください。

※クラス名は、別途配布の時間割表やWeb履修登録画面にて確認のこと。

## 2) 中国語Ⅰ・Ⅱの再履修

不合格となった科目の再履修クラスを選択して履修してください。

※クラス名は、別途配布の時間割表やWeb履修登録画面にて確認のこと。

※中国語Ⅰの正規クラス（第1 Semester）が不合格になった場合は、再履修クラスを第2 Semesterに配当しているため事前登録の必要はありません。第3 Semester以降に中国語Ⅰを履修する場合は事前登録が必要です。

## 3) 初修外国語ⅢA～ⅢHの再履修

不合格となった科目あるいは再履修用科目（○○○語Ⅲ（再））を履修してください。

例) ドイツ語ⅢCを不合格となった場合、ドイツ語ⅢCあるいはドイツ語Ⅲ（再）を履修。

## (6) 選択した履修パターンにある科目以外の必修外国語科目を履修したい場合

（2年次生以降）

各自が選択した履修パターンにある科目以外で、先修条件を満たしている必修外国語科目は履修することができます。履修を希望する場合は、経営学部教務課窓口にある「希望届」を経営学部教務課窓口に提出してください。ただし、「希望届」の内容、各言語の開講曜日、クラス編成などの条件により、許可されない場合があります。

修得した単位数はフリーゾーンとして卒業要件に含むことができます。

例：1. 英語専修型の学生が、「ドイツ語Ⅰ」を履修する場合

2. フランス語を選択している英語重視型の学生が、「フランス語Ⅲ」を履修する場合

3. 初修外国語重視型の学生が「英語Ⅱ」を履修する場合

4. 中国語を選択している英語重視型または初修外国語重視型の学生が、「スペイン語Ⅰ」を履修する場合

## (7) 初修外国語の言語を変更したい場合（2年次生以降）

一旦選択した初修外国語の履修を放棄し、他の言語への変更を特に希望する場合は経営学部教務課窓口にある「変更理由書」を、経営学部教務課窓口に提出してください。ただし、「変更理由書」の内容、各言語の開講曜日、クラス編成などの条件により、

許可されない場合があります。変更が認められた場合は、新たに「I」から履修してください。

変更前に修得した言語の単位数はフリーゾーンとして卒業要件に含むことができます。

注：「ドイツ語 I」の単位修得後、フランス語に言語変更した場合、先に修得した「ドイツ語 I」は「フランス語 I」として読み替えられませんので注意が必要です。

## 選択外国語科目について

選択外国語科目には、新しい言語にチャレンジするための入門科目と発展科目が開設されています。より高度な運用能力（読む・聴く・話す・書く）の向上を図るとともに、そのことばが用いられている国・地域の文化的、社会的事情についての理解を深めることをめざします。

【入門科目】 開設言語	【発展科目】 開設言語
ドイツ語, フランス語, 中国語, スペイン語	英語, ドイツ語, フランス語, 中国語, スペイン語, コリア語

また、これらの科目の他に、ポルトガル語, ロシア語, ラテン語, ギリシア語が開設されており、みなさんの多様な興味・関心に応えることができます。

### (1) 開講科目

開講科目は下記のとおりです。

	1年次		2年次		3年次	
	1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ
【入門科目】 ドイツ語 フランス語 中国語 スペイン語				コミュニケーションI (2単位)	コミュニケーションII (2単位)	
【発展科目 (英語)】			英語ⅡR1 (2単位)	英語ⅡR2 (2単位)	英語ⅢR1 (2単位)	英語ⅢR2 (2単位)
			英語ⅡS1 (2単位)	英語ⅡS2 (2単位)	英語ⅢS1 (2単位)	英語ⅢS2 (2単位)
	英語資格試験セミナー (2単位/サマーセッション)				英語ⅢG1 (2単位)	英語ⅢG2 (2単位)
【発展科目 (初修外国語)】 ドイツ語 フランス語 中国語 スペイン語 코리아語			セミナーA (2単位)	セミナーB (2単位)		
			セミナーC (2単位)	セミナーD (2単位)		
			海外中国語研修講座 (2単位/通年集中)			
ポルトガル語 ロシア語			I (2単位)	II (2単位)	III A (2単位)	III B (2単位)
ラテン語 ギリシア語			I (1単位)	II (1単位)		

注1 「海外中国語研修講座」は現地研修に先立ち、グローバル教育推進センター開催の募集説明会において申込み手続きを行い、前期には事前指導が行われるので必ず出席してください。

注2 「海外中国語研修講座」(2単位)は、原則、所属する学部教務課へ申し出ることにより、初修

外国語重視型「中国語ⅢA～ⅢD（計4単位）」、初修外国語専修型「中国語ⅢA～ⅢH（計8単位）」  
のなかで、2単位まで充当されます。

注3 専攻科目としての履修について

・「英語ⅢR1, R2, S1, S2, G1, G2, W1, W2」（各2単位）

8単位まで学部専攻科目〔上級英語（R1, R2, S1, S2, G1, G2, W1, W2）〕として  
修得することが可能です（ただし、会計コース生はフリーゾーンとして認定します）。

・「セミナーA, B, C, D」（各2単位）

8単位まで学部専攻科目〔上級外国語A, B, C, D〕として修得することが可能です（ただし、会  
計コース生はフリーゾーンとして認定します）。

・履修上の注意事項

「英語ⅢR1」と「上級英語R1」や「セミナーA」と「上級外国語A」は、同内容の科目なので、  
選択外国語科目と学部専攻科目の両方で履修することはできません（「英語ⅢR2, S1, S2, G1,  
G2, W1, W2」「セミナーB, C, D」についても同様）。

選択外国語科目と学部専攻科目のどちらで履修するかは、履修登録時に決めなければなりません。な  
お、履修登録後の変更は認められません。

## (2) 先修制

選択外国語科目には下記のとおり先修制が定められています。

先修制授業科目等	履修の要件となる授業科目名および単位
ドイツ語セミナーA, B, C, D	「ドイツ語Ⅰ, Ⅱ」（もしくは「ドイツ語コミュニ ケーションⅠ, Ⅱ」〔国際関係コースの場合〕）（計 4単位）
フランス語セミナーA, B, C, D	「フランス語Ⅰ, Ⅱ」（もしくは「フランス語コミュニ ケーションⅠ, Ⅱ」〔国際関係コースの場合〕）（計 4単位）
中国語セミナーA, B, C, D	「中国語Ⅰ, Ⅱ」（もしくは「中国語コミュニケー ションⅠ, Ⅱ」〔国際関係コースの場合〕）（計4 単位）
スペイン語セミナーA, B, C, D	「スペイン語Ⅰ, Ⅱ」（もしくは「スペイン語コミュニ ケーションⅠ, Ⅱ」〔国際関係コースの場合〕）（計 4単位）
コリア語セミナーA, B, C, D	「コリア語Ⅰ, Ⅱ」（計4単位）（必修外国語）
ドイツ語コミュニケーションⅡ	ドイツ語コミュニケーションⅠ（2単位）
フランス語コミュニケーションⅡ	フランス語コミュニケーションⅠ（2単位）
中国語コミュニケーションⅡ	中国語コミュニケーションⅠ（2単位）
スペイン語コミュニケーションⅡ	スペイン語コミュニケーションⅠ（2単位）
英語ⅡR1, ⅡR2, ⅡS1, ⅡS2	「英語ⅠA, ⅠB, ⅠC, ⅠD」（計4単位）
英語ⅢR1, ⅢR2, ⅢS1, ⅢS2, ⅢG1, ⅢG2, ⅢW1, ⅢW2	「英語ⅠA, ⅠB, ⅠC, ⅠD, ⅠE, ⅠF, ⅠG, ⅠH」および「英語ⅡA, ⅡB, ⅡC, ⅡD」の 内、4単位以上取得していること。
海外中国語研修講座	中国語Ⅰ, Ⅱ（計4単位）
ポルトガル語Ⅱ, ⅢA, ⅢB	ポルトガル語Ⅰ（2単位）
ロシア語Ⅱ, ⅢA, ⅢB	ロシア語Ⅰ（2単位）

## 教養科目について

教養科目は、「人文科学系科目」「社会科学系科目」「自然科学系科目」「スポーツ科学系科目」の4つの系列に分類されており、各系列から偏りなく履修することを通じ、幅広い教養を身につけることを可能にしています。全ての教養科目は自由に選択できますが、選択必修として「人文科学系科目」「社会科学系科目」「自然科学系科目」に設置されている基幹科目（学びの入門となる科目や諸学の基本を学ぶ科目）の中から各1科目以上（2単位以上）修得する必要があります。

### 人文科学系科目

人文科学は、人間の様々な文化や過去の経験を研究する学問領域で、大きくは文学、哲学、歴史学、宗教学、心理学、教育学などに分かれます。人文科学系科目では、先入観や偏見から自由になってものごとを考える力、芸術作品を鑑賞する能力、感情や意見の表現の仕方、人間の心理を理解する方法などを身につけることを目的にしています。

### 社会科学系科目

社会科学（社会学、経済学、法学、政治学）は、絶えず変動し複雑さを増す現代社会を広く見渡すとともに、現代社会の諸問題を多角的に捉え、思考・判断する力を養います。そのために、様々な学問分野が培ってきた「ものの見方」や「考え方」、さらには幅広い知識や知的な諸技法を学びます。

### 自然科学系科目

自然科学は社会生活を送るうえで重要な分野の一つをなしています。社会人になってからの生活や社会活動の際に必要な科学的基礎知識と、論理的考察力、判断力を養います。数学、情報科学、物理学、天文学、科学史、地球科学、生物学、環境学、化学などの主要分野をカバーする科目を開設します。

### スポーツ科学系科目

生涯にわたり健康で文化的な生活の基礎を築くとともに、文化としてのスポーツに対する理解を促し、現代社会におけるスポーツの役割や人間の身体がもつ可能性について考える機会とするための科目を設定しています。具体的には実際にスポーツや身体活動を行う実習科目や行動変容を促す講義科目を開設します。

#### (1) 単位認定の方法

単位は、それぞれの科目ごとに認定されます。

## (2) 開講方式および履修方法について

- 1) すべての科目はそれぞれに担当セメスターが設定されており、担当セメスターより以前のセメスターにおいては履修できません。
- 2) 同一科目名の授業の中にも、一般に学期完結型、学期連結型（通年）の開講方式があり、いずれの方式の授業でも履修できます（ただし、1科目のみ）。
- 3) 同一の科目名で授業担当者が異なる場合でも同一科目として取り扱います。よって、同じセメスターにおいて、二つ以上同時に履修することや一度単位認定された科目を再度履修することはできません。
- 4) 同一の科目名でありながら、「〇〇A」「〇〇B」「〇〇C」とある科目や「〇〇I」「〇〇II」「〇〇III」とある科目は、それぞれ独立した科目であり、いずれも卒業要件として認定されます。「〇〇A」という科目を修得していなくても、「〇〇B」の履修は可能です。なお、「〇〇I」「〇〇II」「〇〇III」の「I」「II」「III」は科目内容のグレードを表していますので、できるだけ順序だてて履修してください。

### ※「スポーツ技術学演習」について

- ①「スポーツ技術学演習」を履修するためには、本学で行う健康診断を受けておかなければなりません。健康診断の日程については「保健管理センターについて」(P.220)および本学ホームページにて確認してください。
- ②各演習ともに、第1回目の授業は「体育館メインフロア（2階）」に集合してください。

## 1-2. 教養教育科目(2007年度以前入学生：共同開講科目)の教育目標および履修方法

**教養教育（2007年度以前入学生：共同開講科目）とは****(1) 教養教育の目的と意義**

本学の教養教育は、建学の精神を具現化する高い倫理性や豊かな人間性ととも、知性・感性を兼ねそなえ、現代社会でたくましく生きる力を持った人間の形成を目的として開講されています。

つまり、幅広い知識と知的な諸技法の修得に基づく論理的思考力の涵養により、社会性をもって現実を正しく理解する総合的な判断力と、国際的なコミュニケーション能力を持った「専門性を身につけた教養人の育成」の一翼を担うことを目的としており、その達成のために以下の目標を掲げています。

- 1) コミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力の向上
- 2) 歴史認識と社会認識に基づく自己の確認と自律
- 3) 学問や科学技術が問いかけている諸課題・問題の理解
- 4) 知的訓練ないし知的鍛錬

**(2) 教養教育科目とは**

本学の教養教育は、主に教養教育科目として提供されており、京都学舎では、仏教の思想、外国語（必修／選択）、6つのプログラム（人間発達／環境／人権と平和／情報と社会／歴史と文化／思想と科学）が設置されています。そして、その履修を通して、高い倫理性を求める学修、幅広い知識の修得のための学修、テーマに基づく学生の自主的選択による学修を可能にしています。

教養教育科目は、建学の精神を学ぶための必修科目としての「仏教の思想」、国際的な時代におけるコミュニケーション能力を学ぶ科目としての「外国語」、テーマに基づく幅広い総合的知識を学ぶ「教養科目」から構成されています。

仏教の思想

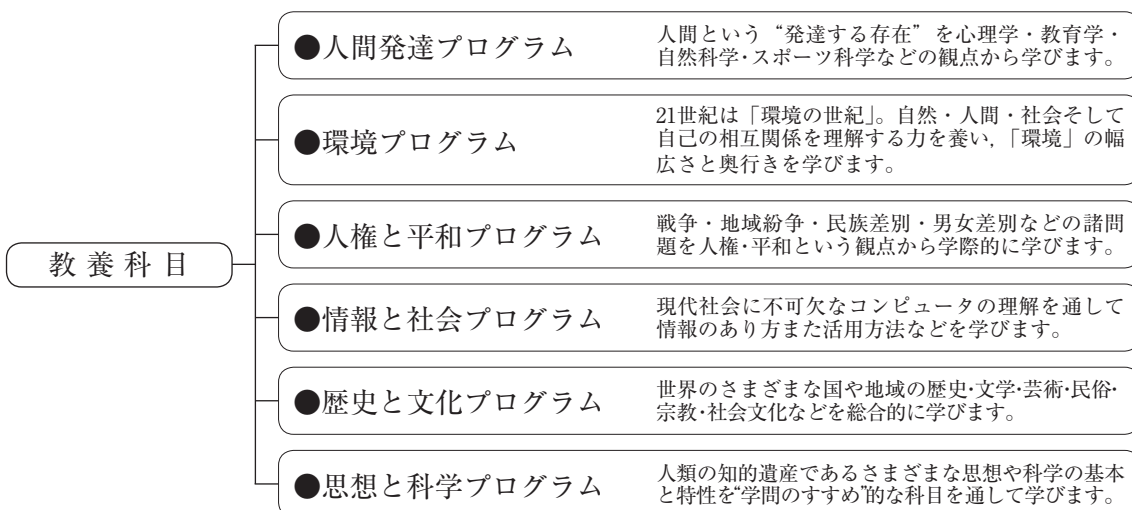
● 「仏教の思想A」「仏教の思想B」

建学の精神「積尊の生涯と思想」「親鸞の生涯と思想」を学びます。

外国語科目

- 必修外国語科目
- 選択外国語科目

「読む・聴く・話す・書く」といった技能のレベルアップを図るとともに、国際社会において確固とした判断・主張・行動ができるための素地の育成をめざします。英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語・ポルトガル語・ラテン語・ギリシア語が開設されています。



## 「仏教の思想」科目について

### (1) 目的と意義

本学は「親鸞聖人によって開示された浄土真宗の精神を建学の精神にもち、真の人間たるにふさわしい世界を開くことをめざし、深い学識と教養をもちながら国際社会の一員として努力する人間を育成すること」をめざしています。

「仏教の思想」は本学の建学の精神を学ぶために必修科目として位置づけられ、大学の一つの個性となっています。この講義では本学のよき伝統を知り、仏教の思想を学ぶことを通して、自己を内省し、幅広いものの見方と心の豊かさを育てることを目的としています。「仏教の思想」は、各学部のカリキュラムに沿って履修しやすいように、クラス指定で1年次に開講されています。また入学した学生にいち早く建学の精神を学んでほしいという願いもあります。この「仏教の思想」を平易に理解するために、以下の教育目標を掲げています。

- 1) 人間にとっての宗教の意義を明らかにする。真実を見極める眼を育てる。
- 2) 倫理・歴史として「仏教の思想」を学ぶ。
- 3) 人間学として「仏教の思想」を学ぶ。
- 4) 広い視野を育てるために「仏教の思想」を学ぶ。
- 5) 現代世界のあり方を考える思想として「仏教の思想」を学ぶ。
- 6) いのちのかけがえのなさに目覚め、異なる意見と対話・交流しあえるような姿勢を培うために、「仏教の思想」を学ぶ。
- 7) 「仏教の思想」を通して、龍谷大学の建学の精神を学ぶ。



「仏教の思想A・B」は、必修科目ですので、配当されたセメスターで必ず受講してください。

## (2) 履修方法について

単 位 認 定	「仏教の思想A」「仏教の思想B」はそれぞれ独立した科目ですので、単位認定は別々に行われます。
ク ラ ス 指 定	・ 授業内容の系統性を確保するため、「仏教の思想A」と「仏教の思想B」は、同一担当者の講義を履修してください。 ・ 学部指定やクラス指定を行っていますので、時間割の指示にしたがって履修してください。
再履修方法	不合格となった場合は、次の年次で再度履修してください。この場合、クラスの指定はしません。 なお、3年次生以上は、同一セメスターで、A・Bを同時に履修することが可能です。 (第1学期)「仏教の思想A」・「仏教の思想B (再履修)」 (第2学期)「仏教の思想B」・「仏教の思想A (再履修)」

## 外国語科目について

### 1. 必修外国語科目と選択外国語科目

外国語科目には、必修外国語科目と選択外国語科目があります。必修外国語科目として英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語（ロシア語は2014年度以降入学生対象）が、選択外国語科目として英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語・ポルトガル語・ラテン語・ギリシア語が開設されます。必修外国語科目12単位を必ず修得してください。なお、12単位を越えて修得した単位数は、次の場合、卒業要件（フリーゾーン）に含むことができます。

- (1) 必修外国語科目「初修外国語専修型」を選択し、「英語IA～ID」の単位を修得した場合
- (2) 選択した履修パターンにある科目以外の必修外国語科目を履修した場合（2年次生以降）
- (3) 初修外国語の言語を変更した場合の変更前の言語の単位（2年次生以降）

また、選択外国語科目は教養科目として認定されます。

外国語教育は、その言語の実用的な能力を養うことだけを目的とはしていません。母語とはまったく異なる言語に接することで、その言語を用いている民族の思考様式や文化的伝統に対する認識・理解を深め得ることをも教育の目的としています。

また、そのことにより、外国の文化、芸術、社会をより深く理解する能力も養われるものと考えています。

外国語と母語との間でおこなう訳解は、その外国語をあやつる能力を向上させるだけでなく、ひろく論理的な思考能力の鍛錬にも大きな役割を果たしてきました。さらにそれが日本語を客観的にながめ、学生が自分の日本語能力を検証するための数少ない機会とも

なってきました。

このような意味で、外国語教育は大学生活に必須の学問的基礎訓練の一環となっています。皆さんがこの目標に近づくためには、訓練に耐える持続力、忍耐力もまた不可欠であることを、この場でも強調しておきます。

なお、教室外での自発的な研修も、もちろん必要です。

#### [英語]

##### ●必修外国語科目・英語2年間の到達目標

辞書を使いながら標準的な語彙を用いた文字または音声による英語の内容を的確に捉えられるようにします。さらに、正確な情報を把握するために基本的な文法構造と語彙を習得します。

1年生では主に英語受信能力の向上に焦点を置き、2年生では発信能力の育成も視野に入れながら、英語の4技能の充実をはかります。さらに2年間の必修を終えた後、3年生以降にも英語継続学習の動機付けを行います。

##### ●選択外国語科目・英語（積み上げ英語）の到達目標

積み上げ英語とは、選択外国語科目中の発展科目として開設される英語を指します。必修科目で養った基礎的な運用能力のレベルアップをはかるとともに、個々のニーズに合わせた英語運用能力の向上を目指します。例えば専門分野での学習や留学に対応できるように、知的情報の受信発信能力のさらなる向上を目標とします。

#### [初修外国語]

本学では、英語以外の外国語で、歴史的・社会的・文化的に見て重要な言語の中から次の言語を「初修外国語」として必修科目に組み入れています。

課 程	初修外国語
2013年度以前入学生	ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語の4言語
2014年度以降入学生	ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語の5言語

英語以外の外国語を学ぶことによって、その運用能力を身につけるとともに、言語一般の普遍的構造や機能に対する理解を深め、世界を複眼的に考察する視点を養います。

## 必修外国語科目について

必修外国語科目は、「読む・聴く・話す・書く」といった技能のレベルアップを図るとともに、国際社会において確固とした判断・主張・行動ができるための素地の育成をめざします。

2013年度以前の入学生は、英語と初修外国語（ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語）の5つの言語から、1つもしくは2つの言語を選んで学びます。計12単位を必修とします。

2014年度以降の入学生は、英語、初修外国語（ドイツ語・フランス語・中国語・スベ

ン語・コリア語)の計6つの言語から、1つもしくは2つの言語を選んで学びます。計12単位を必修とします。

### (1) 履修方法

必修外国語12単位の履修パターンには、次の4通りがあります。必修外国語科目(12単位)は第1～第4セメスターの2年間で履修してください。

## 履 修 パ タ ー ン

履修パターン	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター
①英語専修型 英語12単位	【英語 8単位】 I A (週1回:1単位) I B (週1回:1単位) I C (週1回:1単位) I D (週1回:1単位) I E (週1回:1単位) I F (週1回:1単位) I G (週1回:1単位) I H (週1回:1単位)		【英語 4単位】 II A (週1回:1単位) II B (週1回:1単位) II C (週1回:1単位) II D (週1回:1単位)	
②英語重視型 英語8単位 初修外国語4単位	【英語 4単位】 I A (週1回:1単位) I B (週1回:1単位) I C (週1回:1単位) I D (週1回:1単位)		【英語 4単位】 II A (週1回:1単位) II B (週1回:1単位) II C (週1回:1単位) II D (週1回:1単位)	
③初修外国語重視型 英語4単位 初修外国語8単位	【初修外国語 4単位】 I (週2回:2単位) II (週2回:2単位)		【初修外国語 4単位】 III A (週1回:1単位) III B (週1回:1単位) III C (週1回:1単位) III D (週1回:1単位)	
④初修外国語専修型 (※注1) 初修外国語12単位	【初修外国語 4単位】 I (週2回:2単位) II (週2回:2単位)		【初修外国語 8単位】 III A (週1回:1単位) III B (週1回:1単位) III C (週1回:1単位) III D (週1回:1単位) III E (週1回:1単位) III F (週1回:1単位) III G (週1回:1単位) III H (週1回:1単位)	

### (注1)「初修外国語専修型」を選択した場合の注意事項

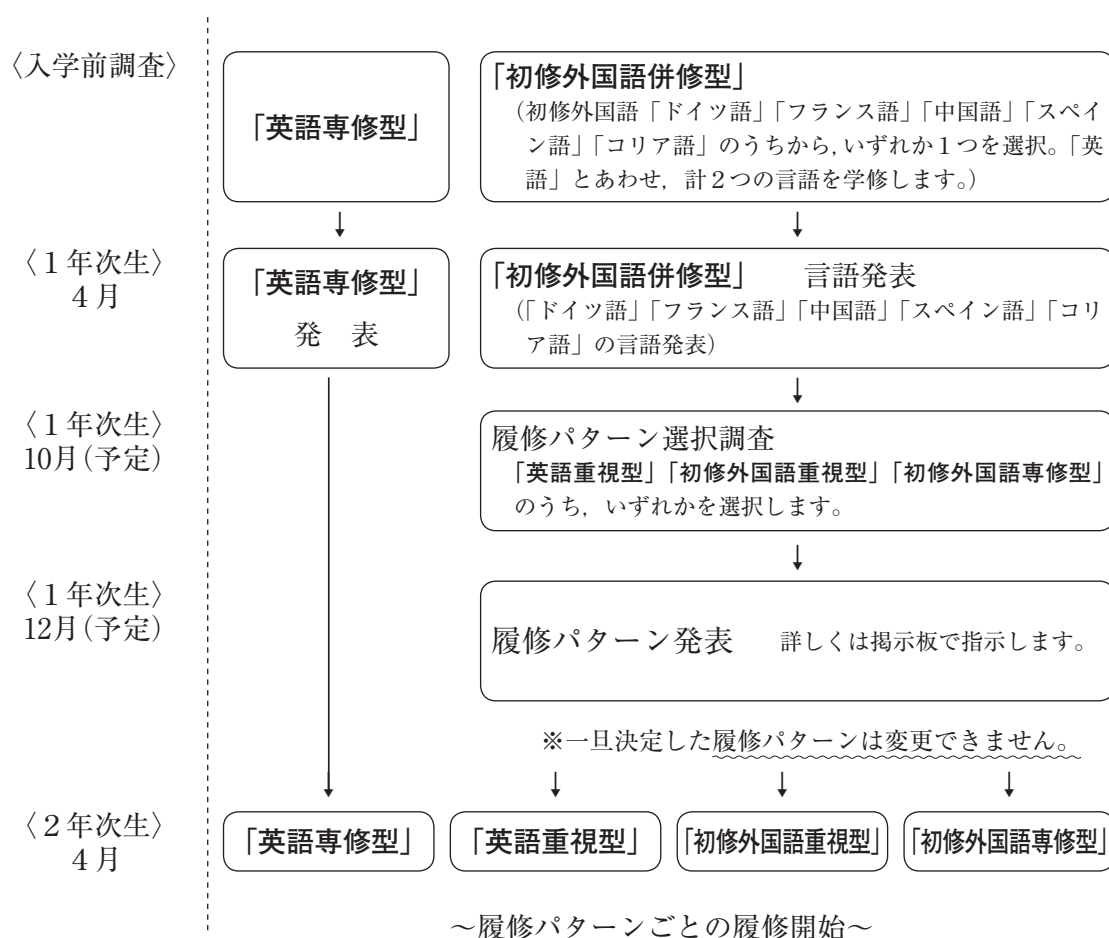
初修外国語専修型を選択した場合、1セメ・2セメで修得した「英語 I A・I B・I C・I D」の単位は、フリーゾーンで認定します。必修外国語12単位には算入されませんので注意してください。

(2) 先修制

必修外国語科目には、下記のとおり先修制が定められています。

先修制授業科目等	履修の要件となる授業科目名および単位
ドイツ語Ⅱ,Ⅲ	ドイツ語Ⅰ(2単位)
フランス語Ⅱ,Ⅲ	フランス語Ⅰ(2単位)
中国語Ⅱ,Ⅲ	中国語Ⅰ(2単位)
スペイン語Ⅱ,Ⅲ	スペイン語Ⅰ(2単位)
〈2014年度以降入学生〉 韓国語Ⅱ,Ⅲ	韓国語Ⅰ(2単位)

(3) 言語および履修パターンの選択方法



#### (4) 言語および履修パターンについて

##### 1) 入学前調査

入学前に、次のうち、いずれかの履修パターンを選択します。

- ・「英語専修型」
- ・「初修外国語併修型」(初修外国語「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「スペイン語」「ロシア語」のうちから、いずれか1つを選び、「英語」とあわせ、計2つの言語を学修します。)

新入生全員の選択科目に基づき大学で選考を行い、パターンが決まります。第1学期の履修登録時(4月初旬)に、Web履修登録画面にて確認してください。

##### 2) 「履修パターン」選択調査(「英語専修型」以外の学生対象)

必修外国語(12単位)には、「英語専修型」「英語重視型」「初修外国語重視型」「初修外国語専修型」の履修パターンがあります。みなさんは、この中からいずれかのパターンで履修することになります。

この調査は「英語専修型」以外の学生を対象として、1年次生の10月(予定)に行います。その結果を12月頃に発表します。

なお、一旦決定した履修パターンの変更は認められないので、注意してください。

詳細は、経営学部掲示板でお知らせします。

##### 3) 選択した履修パターン以外の必修外国語科目の履修希望受付(2年次以降)

経営学部教務課で受け付けます。結果は、授業開始までに経営学部掲示板で発表します。

詳細はP.50の「選択した履修パターンにある科目以外の必修外国語科目を履修したい場合」を参照してください。

##### 4) 初修外国語の言語変更希望受付(2年次以降)

経営学部教務課で受け付けます。結果は、授業開始までに経営学部掲示板で発表します。

詳細はP.51の「初修外国語の言語を変更したい場合」を参照してください。

##### (5) 再履修

必修の外国語科目が不合格となった場合は、下記の要領で必要単位数に相当する再履修用に関講された科目を登録、履修してください。

再履修するには、受講予定者自身が履修登録(本登録)の前に「事前登録」をする必要があります。希望の曜講時を選択し登録してください。

クラスは受講者数が均等になるよう大学で割り振りしますので、受講予定者自身が授業担当者(クラス)を選択できない場合があります。

履修方法等については、科目ごとに異なりますのでご注意ください。

## 1) 英語の再履修について

### ① 履修方法

#### a. 英語ⅠA～ⅠHの再履修

再履修用科目の「英語Ⅰ（再）」が複数開講されていますので、必要各単位数に相当する「英語Ⅰ（再）」を選択して履修してください。不合格となった科目数しか履修は認められませんのでご注意ください。

#### b. 英語ⅡA～ⅡDの再履修

再履修用科目の「英語Ⅱ（再）」が複数開講されていますので、必要単位数に相当する「英語Ⅱ（再）」を選択して履修してください。不合格となった科目数しか履修は認められませんのでご注意ください。

#### c. 授業方法・内容

通常の講義を行います。

#### d. 評価方法

小テスト・中間テスト・期末テスト・出席・授業態度などから総合的に評価し、最高点は79点となります。

## 2) 初修外国語（ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語）の再履修について

### a. 初修外国語Ⅰ・Ⅱ（中国語Ⅰ・Ⅱを除く）の再履修

不合格となった科目の再履修クラスあるいは正規クラスを選択して履修してください。

※クラス名は、別途配布の時間割表やWeb履修登録画面にて確認のこと。

### b. 中国語Ⅰ・Ⅱの再履修

不合格となった科目の再履修クラスを選択して履修してください。

※クラス名は、別途配布の時間割表やWeb履修登録画面にて確認のこと。

※中国語Ⅰの正規クラス（第1セメスター）が不合格になった場合は、再履修クラスを第2セメスターに配当しているので事前登録の必要はありません。第3セメスター以降に中国語Ⅰを履修する場合は事前登録が必要です。

### c. 初修外国語ⅢA～ⅢHの再履修

不合格となった科目あるいは再履修用科目（○○○語Ⅲ（再））を履修してください。

例) ドイツ語ⅢCを不合格となった場合、ドイツ語ⅢCあるいはドイツ語Ⅲ（再）を履修。

## (6) 選択した履修パターンにある科目以外の必修外国語科目を履修したい場合

(2年次生以降)

各自が初修外国語として選択した言語以外で、先修条件を満たしている必修外国語科目を履修することができます。履修を希望する場合は、経営学部教務課にある「希望届」を提出してください。ただし、「希望届」の内容、各言語の開講曜日、クラス編成などにより、許可されない場合があります。修得した単位はフリーゾーンとして卒業要件に含むことができます。

- 例：①英語専修型の学生が、「ドイツ語Ⅰ」を履修する場合
- ②フランス語を選択している英語重視型の学生が、「フランス語Ⅲ」を履修する場合
- ③初修外国語重視型の学生が「英語Ⅱ」を履修する場合
- ④中国語を選択している英語重視型または初修外国語重視型の学生が、「スペイン語Ⅰ」を履修する場合

#### (7) 初修外国語の言語を変更したい場合（2年次生以降）

一度選択した初修外国語の履修を放棄し、他の言語への変更を特に希望する場合は経営学部教務課にある「変更理由書」を提出してください。ただし、「変更理由書」の内容、各言語の開講曜日、クラス編成などにより、許可されない場合があります。変更が認められた場合は、新たにその外国語の「Ⅰ」から履修してください。

変更前に修得した言語の単位はフリーゾーンとして、卒業要件に含むことができます。

例：「ドイツ語Ⅰ」の単位修得後、フランス語に言語変更した場合、先に修得した「ドイツ語Ⅰ」は「フランス語Ⅰ」として読み替えられません。

## 選択外国語科目について

選択外国語科目には、新しい言語にチャレンジするための入門科目と発展科目が開設されています。より高度な運用能力（読む・聴く・話す・書く）の修得を図るとともに、そのことばが用いられている国・地域の文化的、社会的事情についての理解を深めることをめざします。

【入門科目】 開設言語	【発展科目】 開設言語
ドイツ語, フランス語, 中国語, スペイン語	2013年度以前入学生：英語, ドイツ語, フランス語, 中国語, スペイン語
	2014年度以降入学生：英語, ドイツ語, フランス語, 中国語, スペイン語, コリア語

また、これらの科目の他に、ポルトガル語, ロシア語, コリア語（選択）, ラテン語, ギリシア語が開設されており、みなさんの多様な興味・関心に応えています。

### (1) 開講科目

開講科目は下記のとおりです。

	1年次		2年次		3年次	
	1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ
【入門科目】 ドイツ語 フランス語 中国語 スペイン語				コミュニケーションI (2単位)	コミュニケーションI (2単位)	
【発展科目（英語）】			英語ⅡR 1 (2単位)	英語ⅡR 2 (2単位)	英語ⅢR 1 (2単位)	英語ⅢR 2 (2単位)
			英語ⅡS 1 (2単位)	英語ⅡS 2 (2単位)	英語ⅢS 1 (2単位)	英語ⅢS 2 (2単位)
	英語資格試験セミナー (2単位/サマーセッション)				英語ⅢG 1 (2単位)	英語ⅢW 2 (2単位)
【発展科目（初修外国語）】 ドイツ語 フランス語 中国語 スペイン語 (2014年度以降入学生) 코리아語			セミナー A (2単位)	セミナー B (2単位)		
			セミナー C (2単位)	セミナー D (2単位)		
			海外中国語研修講座 (2単位/通年集中)			
ポルトガル語 ロシア語 (2013年度以前入学生) 코리아語(選択)			I (2単位)	II (2単位)	ⅢA (2単位)	ⅢB (2単位)
ラテン語 ギリシャ語			ラテン語 (2単位/通年) ギリシャ語 (2単位/通年)			
			I (1単位)	II (1単位)		



(※注1)「海外中国語研修講座」は現地研修に先立ち、前年度に行われるグローバル教育推進センター開催の募集説明会で申込手続を行い、第1学期に行われる事前指導に必ず出席してください。

(※注2)「海外中国語研修講座」(2単位)は、経営学部教務課へ申し出ることにより、初修外国語重視型で履修中の人は、「中国語ⅢA～ⅢD(計4単位)」、初修外国語専修型で履修中の人は、「中国語ⅢA～ⅢH(計8単位)」のなかで、2単位まで充当されます。

(※注3) コリア語は、2014年度以降入学生には「初修外国語(必修外国語)」として開講されています。

(※注4)「ラテン語」(2単位/通年)および「ギリシア語」(2単位/通年)は2014年度に廃止、新たに「ラテン語Ⅰ」・「ラテン語Ⅱ」(各1単位)および「ギリシア語Ⅰ」・「ギリシア語Ⅱ」(各1単位)が開設されています。

(※注5) 専攻科目としての履修について

・「英語ⅢR1, R2, S1, S2, G1, G2, W1, W2」(各2単位)

8単位まで学部選択科目〔上級英語(R1, R2, S1, S2, G1, G2, W1, W2)〕として修得することができます(ただし、会計コース生はフリーゾーンとして認定しません)。

・「セミナーA, B, C, D」(各2単位)

8単位まで学部選択科目〔上級外国語A, B, C, D)〕として修得することができます(ただし、会計コース生はフリーゾーンとして認定します)。

・履修上の注意事項

「英語ⅢR1」と「上級英語R1」や「セミナーA」と「上級外国語A」は、同内容の科目なので、選択外国語科目と学部専攻科目の両方で履修することはできません(「英語ⅢR2, S1, S2, G1, G2, W1, W2」「セミナーB, C, D」も同様)。

選択外国語科目と学部専攻科目のどちらで履修するかは、履修登録時に決めなければなりません。なお、履修登録後の変更は認められません。

## (2) 先修制

選択外国語科目には下記のとおり先修制が定められています。

先修制授業科目など	履修の要件となる授業科目名および単位
ドイツ語セミナー A, B, C, D	「ドイツ語Ⅰ, Ⅱ」(もしくは「ドイツ語コミュニケーションⅠ, Ⅱ」〔国際関係コースの場合〕)(計4単位)
フランス語セミナー A, B, C, D	「フランス語Ⅰ, Ⅱ」(もしくは「フランス語コミュニケーションⅠ, Ⅱ」〔国際関係コースの場合〕)(計4単位)
中国語セミナー A, B, C, D	「中国語Ⅰ, Ⅱ」(もしくは「中国語コミュニケーションⅠ, Ⅱ」〔国際関係コースの場合〕)(計4単位)
スペイン語セミナー A, B, C, D	「スペイン語Ⅰ, Ⅱ」(もしくは「スペイン語コミュニケーションⅠ, Ⅱ」〔国際関係コースの場合〕)(計4単位)
〈2014年度以降入学生〉 コリア語セミナー A, B, C, D	「コリア語Ⅰ, Ⅱ」(計4単位)(〈2014年度以降入学生〉必修外国語)
ドイツ語コミュニケーションⅡ	ドイツ語コミュニケーションⅠ(2単位)
フランス語コミュニケーションⅡ	フランス語コミュニケーションⅠ(2単位)
中国語コミュニケーションⅡ	中国語コミュニケーションⅠ(2単位)
スペイン語コミュニケーションⅡ	スペイン語コミュニケーションⅠ(2単位)
英語ⅡR1, ⅡR2, ⅡS1, ⅡS2	「英語ⅠA, ⅠB, ⅠC, ⅠD」(計4単位)
英語ⅢR1, ⅢR2, ⅢS1, ⅢS2, ⅢG1, ⅢG2, ⅢW1, ⅢW2	「英語ⅠA, ⅠB, ⅠC, ⅠD, ⅠE, ⅠF, ⅠG, ⅠH」および「英語ⅡA, ⅡB, ⅡC, ⅡD」の内、4単位以上修得していること。

海外中国語研修講座	中国語Ⅰ、Ⅱ（計4単位）
〈2013年度以前入学生〉 コリア語Ⅱ（選択）、ⅢA（選択）、ⅢB（選択）	コリア語Ⅰ（選択）（2単位）
ポルトガル語Ⅱ、ⅢA、ⅢB	ポルトガル語Ⅰ（2単位）
ロシア語Ⅱ、ⅢA、ⅢB	ロシア語Ⅰ（2単位）

注：国際関係コース生のみ、初修外国語セミナーA、B、C、Dの先修条件となる科目に、「初修外国語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」（計4単位）が追加されます。

（例）ドイツ語セミナーAを履修したい場合、「ドイツ語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」を合格していれば、受講することが可能です。

## 教養科目（2007年度以前入学者：プログラム科目）について

教養科目は、「人間発達プログラム」「環境プログラム」「人権と平和プログラム」「情報と社会プログラム」「歴史と文化プログラム」「思想と科学プログラム」という6つのテーマに分類されており、自分の関心に応じて一つのプログラムに集中し、そこに開設されている科目を履修することで、より系統的に学ぶことができるようになっています。

各プログラムのテーマにそって系統的に履修することにより、みなさんは自分の専攻とらぶ教養の体系を自分自身で組み立てることができます。ただし、すべての教養科目は自由に選択できるようになっています。

### (1) 単位認定の方法

単位は、それぞれの科目ごとに認定されます。

### (2) 開講方式および履修方法について

- 1) すべての科目はそれぞれに「配当セメスター」が設定されており、配当セメスターより以前のセメスターでは履修できません。
- 2) 同一科目名の授業の中にも、学期完結型、学期連結型（通年）の開講方式があり、いずれの方式の授業でも履修できます（ただし、1科目のみ）。
- 3) 同一の科目名であれば、担当者が異なる場合でも、同じ科目として扱います。したがって、同じセメスターに二つ以上同時に履修することや一度合格した科目を再度履修することはできません。
- 4) 同一の科目名でありながら、「○○A」「○○B」「○○C」や「○○Ⅰ」「○○Ⅱ」「○○Ⅲ」という名称の科目は、それぞれ独立した科目であり、いずれも卒業要件として認定されます。「○○A」という科目を修得していなくても、「○○B」の履修は可能です。なお、「○○Ⅰ」「○○Ⅱ」「○○Ⅲ」の「Ⅰ」「Ⅱ」「Ⅲ」は科目内容のグレードを表していますので、できるだけ順序だてて履修してください。

### ※「スポーツ技術学演習」について

- ①「スポーツ技術学演習」を履修するためには、本学で行う健康診断を受けておか

なければなりません。健康診断の日程については「保健管理センターについて」(P.220) もしくは本学ホームページにて確認してください。

- ②各演習ともに、第1回目の授業は「体育館メインフロア（2階）」に集合してください。

## 留学生の必修外国語科目（日本語科目等）について

留学生は「日本語」および「留学生のための英語入門A」・「留学生のための英語入門B」を必修外国語として12単位まで履修することができます。

ただし、登録にあたっては必ず経営学部教務課で相談してください。

科目名	単位	配当年次	開講形態
日本語	1	1年次以上	学期完結型
留学生のための英語入門A※1	1	1年次以上	学期完結型
留学生のための英語入門B※2	1	1年次以上	学期完結型

※1 学則名は「英語IE」です。

※2 学則名は「英語IF」です。

## 2-1. 教養教育科目開設科目一覧

### 「仏教の思想」科目

◎は必修科目 ○は選択科目

授業科目名	単位	配当セメスター						備考
		1	2	3	4	5	6	
仏教の思想A	2	◎						2科目（4単位）必修 2科目（4単位）必修
仏教の思想B	2		◎					
歎異抄の思想Ⅰ	2			○				
歎異抄の思想Ⅱ	2				○			

### 言語科目

◎は必修外国語科目 ○は選択外国語科目

授業科目名	単位	配当セメスター						備考
		1	2	3	4	5	6	
英語ⅠA	1	◎						
英語ⅠB	1		◎					
英語ⅠC	1	◎						
英語ⅠD	1		◎					
英語ⅠE	1	◎						
英語ⅠF	1		◎					
英語ⅠG	1	◎						
英語ⅠH	1		◎					
英語ⅡA	1			◎				
英語ⅡB	1				◎			
英語ⅡC	1			◎				
英語ⅡD	1				◎			
ドイツ語Ⅰ	2	◎						
ドイツ語Ⅱ	2		◎					
ドイツ語ⅢA	1			◎				
ドイツ語ⅢB	1				◎			
ドイツ語ⅢC	1			◎				
ドイツ語ⅢD	1				◎			
ドイツ語ⅢE	1			◎				
ドイツ語ⅢF	1				◎			
ドイツ語ⅢG	1			◎				
ドイツ語ⅢH	1				◎			

授業科目名	単位	配当セメスター						備考
		1	2	3	4	5	6	
フランス語Ⅰ	2	◎						
フランス語Ⅱ	2		◎					
フランス語ⅢA	1			◎				
フランス語ⅢB	1				◎			
フランス語ⅢC	1			◎				
フランス語ⅢD	1				◎			
フランス語ⅢE	1			◎				
フランス語ⅢF	1				◎			
フランス語ⅢG	1			◎				
フランス語ⅢH	1				◎			
中国語Ⅰ	2	◎						
中国語Ⅱ	2		◎					
中国語ⅢA	1			◎				
中国語ⅢB	1				◎			
中国語ⅢC	1			◎				
中国語ⅢD	1				◎			
中国語ⅢE	1			◎				
中国語ⅢF	1				◎			
中国語ⅢG	1			◎				
中国語ⅢH	1				◎			
スペイン語Ⅰ	2	◎						
スペイン語Ⅱ	2		◎					
スペイン語ⅢA	1			◎				
スペイン語ⅢB	1				◎			
スペイン語ⅢC	1			◎				
スペイン語ⅢD	1				◎			
スペイン語ⅢE	1			◎				
スペイン語ⅢF	1				◎			
スペイン語ⅢG	1			◎				
スペイン語ⅢH	1				◎			
韓国語Ⅰ	2	◎						
韓国語Ⅱ	2		◎					
韓国語ⅢA	1			◎				
韓国語ⅢB	1				◎			
韓国語ⅢC	1			◎				
韓国語ⅢD	1				◎			
韓国語ⅢE	1			◎				

履修一般

教養教育科目

専攻科目

学部共通コース

他大学での学修

教職課程・その他

経営学研究科

学生生活

Q and A

授業科目名	単位	配当セメスター						備考
		1	2	3	4	5	6	
コリア語ⅢF	1			◎				
コリア語ⅢG	1			◎				
コリア語ⅢH	1			◎				
英語ⅡR1	2			○				
英語ⅡR2	2				○			
英語ⅡS1	2			○				
英語ⅡS2	2				○			
英語ⅢR1	2					○		
英語ⅢR2	2						○	
英語ⅢS1	2					○		
英語ⅢS2	2						○	
英語ⅢG1	2					○		
英語ⅢG2	2						○	
英語ⅢW1	2					○		
英語ⅢW2	2						○	
英語資格試験セミナー	2		○					
ドイツ語セミナーA	2			○				
ドイツ語セミナーB	2				○			
ドイツ語セミナーC	2			○				
ドイツ語セミナーD	2				○			
ドイツ語コミュニケーションⅠ	2				○			国際関係コース提供科目
ドイツ語コミュニケーションⅡ	2					○		国際関係コース提供科目
フランス語セミナーA	2			○				
フランス語セミナーB	2				○			
フランス語セミナーC	2			○				
フランス語セミナーD	2				○			
フランス語コミュニケーションⅠ	2				○			国際関係コース提供科目
フランス語コミュニケーションⅡ	2					○		国際関係コース提供科目
中国語セミナーA	2			○				
中国語セミナーB	2				○			
中国語セミナーC	2			○				
中国語セミナーD	2				○			
中国語コミュニケーションⅠ	2				○			国際関係コース提供科目
中国語コミュニケーションⅡ	2					○		国際関係コース提供科目
スペイン語セミナーA	2			○				
スペイン語セミナーB	2				○			
スペイン語セミナーC	2			○				

授業科目名	単 位	配当セメスター						備 考
		1	2	3	4	5	6	
スペイン語セミナーD	2				○			国際関係コース提供科目
スペイン語コミュニケーションI	2				○			
スペイン語コミュニケーションII	2					○		国際関係コース提供科目
コリア語セミナーA	2			○				通年集中科目
コリア語セミナーB	2				○			
コリア語セミナーC	2			○				
コリア語セミナーD	2				○			
海外中国語研修講座	2			○				
ポルトガル語I	2			○				
ポルトガル語II	2				○			
ポルトガル語III A	2					○		
ポルトガル語III B	2						○	
ロシア語I	2			○				
ロシア語II	2				○			
ロシア語III A	2					○		
ロシア語III B	2						○	
ラテン語I	1			○				
ラテン語II	1				○			
ギリシア語I	1			○				
ギリシア語II	1				○			

※下記の科目は留学生のみ履修可能です。

日本語	1	◎	◎					
留学生のための英語入門A	1	◎	◎					学則名（英語 I E）
留学生のための英語入門B	1	◎	◎					学則名（英語 I F）

履修一般

教養教育科目

専攻科目

学部共通コース

他大学での学修

教職課程・その他

経営学研究科

学生生活

Q and A

## 教養科目

●は選択必修科目として開講する基幹科目 ○は選択科目

科目区分	授業科目名	単位	配当セメスター						備考
			1	2	3	4	5	6	
人文科学系科目	哲学入門	2	●						1科目（2単位以上）必修
	哲学A	2	●						
	倫理学入門	2	●						
	倫理学A	2	●						
	クリティカル・シンキング	2	●						
	宗教学入門	4	●						
	宗教の世界A	2	●						
	宗教の世界B	2		●					
	中国の思想A	2	●						
	中国の思想B	2		●					
	芸術の世界A	2			●				
	芸術の世界B	2				●			
	日本の文学A	4	●						
	日本の文学B	4		●					
	中国の文学A	2	●						
	中国の文学B	2	●						
	西洋の文学A	2	●						
	西洋の文学B	2		●					
	文章表現法A	2	●						
	文章表現法B	2		●					
	言語と文化	2	●						
	日本の歴史A	4	●						
	日本の歴史B	4		●					
	アジアの歴史A	4	●						
	アジアの歴史B	4		●					
	西洋の歴史A	4	●						
	西洋の歴史B	2			●				
	西洋の歴史C	2				●			
	現代世界の歴史A	2	●						
	現代世界の歴史B	2		●					
	心理学	4	●						
	心の科学A	2	●						
	心の科学B	2		●					
教育学のすすめA	2	●							
教育学のすすめB	2		●						
現代社会と教育A	2			●					
現代社会と教育B	2				●				



科目区分	授業科目名	単位	配当セメスター						備考
			1	2	3	4	5	6	
人文科学系科目	哲学B	2			○				
	倫理学B	2			○				
	論理学	2			○				
	日本の文学C	2			○				
	歴史学入門	2			○				
	日本の歴史C	4			○				
	日本の文化	4				○			
	アジアの文化	2			○				
	応用心理学A	2			○				
	応用心理学B	2				○			
	教育原論A	2			○				
	教育原論B	2				○			
	学習・発達論A	2			○				
	学習・発達論B	2				○			
	人文科学セミナー	4			○				
社会科学系科目	法学のすすめ	2	●						法学部・政策学部履修不可 法学部・政策学部履修不可 法学部・政策学部履修不可 1科目（2単位以上）必修 経済学部・政策学部履修不可 経営学部履修不可
	日本国憲法	2	●						
	政治学のすすめ	2	●						
	社会統計学のすすめ	2	●						
	社会学のすすめ	2	●						
	地理学のすすめ	2	●						
	経済学のすすめ	2	●						
	社会調査のすすめ	2	●						
	経営学のすすめ	2	●						
	人権論A	2	○						
	人権論B	2		○					
	現代社会とメディア	2			○			法学部履修不可	
	現代社会と福祉	2			○				
	現代社会と法	2			○			法学部履修不可	
	環境と社会	2			○				
	平和学A	2			○				
	ジェンダー論	2			○				
	文化人類学	2			○				
	国際社会論	2			○				
	現代社会の諸問題	2			○				
地域論	2			○					
企業と会計	2			○			経営学部履修不可		

履修一般

教養教育科目

専攻科目

学部共通コース

他大学での学修

教職課程・その他

経営学研究科

学生生活

Q and A

科目区分	授業科目名	単 位	配当セメスター						備 考
			1	2	3	4	5	6	
社会科学系科目	現代社会と労働	2			○				
	社会思想史	2			○				
	英語で学ぶ日本の社会A	2	○						
	英語で学ぶ日本の社会B	2	○						
自然科学系科目	数学入門	2	●						} 1科目（2単位以上）必修
	数学への旅	2	●						
	確率・統計入門	2	●						
	宇宙の科学Ⅰ	4	●						
	物理学の世界	4	●						
	時間と空間の科学	2	●						
	自然科学史Ⅰ	2	●						
	生物科学のすすめ	4	●						
	生命科学のすすめ	4	●						
	生態学のすすめ	4	●						
	人類学のすすめ	4	●						
	環境学	4	●						
	情報科学入門	2			●				
	微分と積分	4	○						
	行列と行列式	4	○						
	数理統計学	4			○				
	数理と計算	2			○				
	数学の世界	4			○				
	数理と論証	2			○				
	宇宙の科学Ⅱ	2			○				
	地球の科学	4	○						
	エネルギー入門	2			○				
	自然科学史Ⅱ	2			○				
	科学論	2			○				
	技術論	2				○			
	平和学B	2			○				
	里山学	2	○						
日本の自然	4	○							
生命誌	2			○					
植物の自然誌	2			○					
動物の自然誌	2			○					
民族の自然誌	2			○					
人類進化学	2			○					

科目区分	授業科目名	単位	配当セメスター						備考
			1	2	3	4	5	6	
自然科学系科目	人間の生物学	4			○				
	自然誌実習	4			○				
	野外観察法	2			○				
	情報科学Ⅰ	2				○			
	情報科学Ⅱ	2					○		
	情報科学実習	4		○					
スポーツ科学系科目	健康とスポーツ	2			○				
	現代社会とスポーツ	2		○					
	スポーツ技術学演習	2	○						
	人間とスポーツA	2	○						
	人間とスポーツB	2	○						
	スポーツと人権・平和	2			○				
	スポーツ文化史	2			○				
	スポーツ科学最前線	2	○						
教養教育科目特別講義	2	○						4単位科目と2単位科目を複数開講するが、1科目(2単位/4単位)のみ卒業要件単位となる。	
教養教育科目特別講義	4	○							

## 注意事項

- 各印は配当セメスターを示しています。ただし、それ以上の学年・セメスターであれば受講可能です。  
(例：1年次配当科目であれば、2年次生以降も受講可能)
- 上記配当セメスターにかかわらず、開講セメスターは年度により変更することがあります。  
時間割冊子およびWeb履修登録画面で確認してください。

## 2-2. 教養教育科目開設科目一覧

### 「仏教の思想」科目

グレード	授業科目名	単位数	開講セメスター				備考
			1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	
200	仏教の思想A	2	○				4単位 必修
200	仏教の思想B	2		○			

### 外国語科目

〈必修外国語科目〉

グレード	授業科目名	単位数	開講セメスター						備考
			1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	
100	英語ⅠA	1	○						
100	英語ⅠB	1		○					
100	英語ⅠC	1	○						
100	英語ⅠD	1		○					
100	英語ⅠE	1	○						
100	英語ⅠF	1		○					
100	英語ⅠG	1	○						
100	英語ⅠH	1		○					
200	英語ⅡA	1			○				
200	英語ⅡB	1				○			
200	英語ⅡC	1			○				
200	英語ⅡD	1				○			
100	ドイツ語Ⅰ	2	○						
100	ドイツ語Ⅱ	2		○					
200	ドイツ語ⅢA	1			○				
200	ドイツ語ⅢB	1				○			
200	ドイツ語ⅢC	1			○				

〈必修外国語科目〉							備 考
グ レ イ ド	授 業 科 目 名	単 位 数	開講セメスター				
			1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	
200	ドイツ語ⅢD	1			○		
200	ドイツ語ⅢE	1			○		
200	ドイツ語ⅢF	1				○	
200	ドイツ語ⅢG	1			○		
200	ドイツ語ⅢH	1				○	
100	フランス語Ⅰ	2	○				
100	フランス語Ⅱ	2		○			
200	フランス語ⅢA	1			○		
200	フランス語ⅢB	1				○	
200	フランス語ⅢC	1			○		
200	フランス語ⅢD	1				○	
200	フランス語ⅢE	1			○		
200	フランス語ⅢF	1				○	
200	フランス語ⅢG	1			○		
200	フランス語ⅢH	1				○	
100	中国語Ⅰ	2	○				
100	中国語Ⅱ	2		○			
200	中国語ⅢA	1			○		
200	中国語ⅢB	1				○	
200	中国語ⅢC	1			○		
200	中国語ⅢD	1				○	
200	中国語ⅢE	1			○		
200	中国語ⅢF	1				○	
200	中国語ⅢG	1			○		
200	中国語ⅢH	1				○	
100	スペイン語Ⅰ	2	○				
100	スペイン語Ⅱ	2		○			
200	スペイン語ⅢA	1			○		
200	スペイン語ⅢB	1				○	
200	スペイン語ⅢC	1			○		
200	スペイン語ⅢD	1				○	
200	スペイン語ⅢE	1			○		
200	スペイン語ⅢF	1				○	
200	スペイン語ⅢG	1			○		
200	スペイン語ⅢH	1				○	

履  
修  
一  
般教  
養  
教  
育  
科  
目専  
攻  
科  
目学  
部  
共  
通  
コ  
ー  
ス他  
大  
学  
で  
の  
学  
修教  
職  
課  
程  
・  
そ  
の  
他経  
営  
学  
研  
究  
科学  
生  
生  
活Q  
a  
n  
d  
A

〈必修外国語科目〉								
グ レ イ ド	授 業 科 目 名	単 位 数	開講セメスター				備 考	
			1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ		5 セ メ
100	コリア語Ⅰ	2	◎					2014年度以降入学生のみ履修可
100	コリア語Ⅱ	2		◎				2014年度以降入学生のみ履修可
200	コリア語Ⅲ A	1			◎			2014年度以降入学生のみ履修可
200	コリア語Ⅲ B	1				◎		2014年度以降入学生のみ履修可
200	コリア語Ⅲ C	1			◎			2014年度以降入学生のみ履修可
200	コリア語Ⅲ D	1				◎		2014年度以降入学生のみ履修可
200	コリア語Ⅲ E	1			◎			2014年度以降入学生のみ履修可
200	コリア語Ⅲ F	1				◎		2014年度以降入学生のみ履修可
200	コリア語Ⅲ G	1			◎			2014年度以降入学生のみ履修可
200	コリア語Ⅲ H	1				◎		2014年度以降入学生のみ履修可

※下記の科目は留学生のみ履修可能です。

授 業 科 目 名	単 位 数	開講セメスター				備 考		
		1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ		5 セ メ	6 セ メ
日本語	1	◎	◎					
留学生のための英語入門A	1	◎	◎					学則名（英語ⅠE）
留学生のための英語入門B	1	◎	◎					学則名（英語ⅠF）

〈選択外国語科目〉							備 考	
グ レ イ ド	授 業 科 目 名	単 位 数	開講セメスター					
			1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ		5 セ メ
300	英語ⅡR1	2			○			
300	英語ⅡR2	2				○		
300	英語ⅡS1	2			○			
300	英語ⅡS2	2				○		
300	英語ⅢR1	2					○	
300	英語ⅢR2	2						○
300	英語ⅢS1	2					○	
300	英語ⅢS2	2						○
300	英語ⅢG1	2					○	
300	英語ⅢG2	2						○
300	英語ⅢW1	2					○	
300	英語ⅢW2	2						○
200	英語資格試験セミナー	2		○				
300	ドイツ語セミナーA	2			○			
300	ドイツ語セミナーB	2				○		
300	ドイツ語セミナーC	2			○			
300	ドイツ語セミナーD	2				○		
100	ドイツ語コミュニケーションI	2				○		国際関係コース提供科目
200	ドイツ語コミュニケーションII	2					○	国際関係コース提供科目
300	フランス語セミナーA	2			○			
300	フランス語セミナーB	2				○		
300	フランス語セミナーC	2			○			
300	フランス語セミナーD	2				○		
100	フランス語コミュニケーションI	2				○		国際関係コース提供科目
200	フランス語コミュニケーションII	2					○	国際関係コース提供科目
300	中国語セミナーA	2			○			
300	中国語セミナーB	2				○		
300	中国語セミナーC	2			○			
300	中国語セミナーD	2				○		
100	中国語コミュニケーションI	2				○		国際関係コース提供科目
200	中国語コミュニケーションII	2					○	国際関係コース提供科目
300	スペイン語セミナーA	2			○			
300	スペイン語セミナーB	2				○		
300	スペイン語セミナーC	2			○			
300	スペイン語セミナーD	2				○		

履  
修  
一  
般教  
養  
教  
育  
科  
目専  
攻  
科  
目学  
部  
共  
通  
コ  
ー  
ス他  
大  
学  
で  
の  
学  
修教  
職  
課  
程  
・  
そ  
の  
他経  
営  
学  
研  
究  
科学  
生  
生  
活Q  
a  
n  
d  
A

〈選択外国語科目〉							
グ レ イ ド	授 業 科 目 名	単 位 数	開 講 セ メ ス タ ー				備 考
			1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	
100	スペイン語コミュニケーションⅠ	2			○		国際関係コース提供科目
200	スペイン語コミュニケーションⅡ	2				○	国際関係コース提供科目
300	コリア語セミナーA	2			○		2014年度以降入学生のみ履修可
300	コリア語セミナーB	2				○	2014年度以降入学生のみ履修可
300	コリア語セミナーC	2			○		2014年度以降入学生のみ履修可
300	コリア語セミナーD	2				○	2014年度以降入学生のみ履修可
200	海外中国語研修講座	2			○		通年集中科目
100	ポルトガル語Ⅰ	2			○		
100	ポルトガル語Ⅱ	2				○	
200	ポルトガル語ⅢA	2					○
200	ポルトガル語ⅢB	2					○
100	ロシア語Ⅰ	2			○		
100	ロシア語Ⅱ	2				○	
200	ロシア語ⅢA	2					○
200	ロシア語ⅢB	2					○
100	コリア語Ⅰ	2			○		2013年度以前入学生のみ履修可
100	コリア語Ⅱ	2				○	2013年度以前入学生のみ履修可
200	コリア語ⅢA	2					○
200	コリア語ⅢB	2					○
200	ラテン語Ⅰ	1			○		2014年度から開講
200	ラテン語Ⅱ	1				○	「ラテン語」既修得者は履修不可
200	ギリシア語Ⅰ	1			○		2014年度から開講
200	ギリシア語Ⅱ	1				○	「ギリシア語」既修得者は履修不可



## 教養科目

プログラム	グレイド	授業科目名	単位数	配当セメスター						備考
				1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	
人間 発達 プロ グラ ム	200	心理学	4	○						
	200	心の科学A	2	○						
	200	心の科学B	2		○					
	300	応用心理学A	2			○				
	300	応用心理学B	2				○			
	200	哲学思想A	2	○						
	300	倫理思想C	2				○			
	200	教育原論A	2			○				
	200	教育原論B	2				○			
	200	発達と教育A	2			○				
	200	発達と教育B	2				○			
	300	心理学セミナー	4				○			
	200	国際社会と経済	2			○				
	200	教育学のすすめA	2	○						
	200	教育学のすすめB	2		○					
	300	現代社会と教育A	2			○				
	300	現代社会と教育B	2				○			
	200	時間と空間の科学	2	○						
	200	生理学	4				○			
	200	人類進化学	2			○				
200	生命と進化	4	○							
100	スポーツ技術学演習	2	○						「スポーツ技術学」既修者は履修不可	
200	スポーツ表現の実際	2			○					
100	人間とスポーツA	2	○							
200	健康とスポーツ	2			○					
環境 プロ グラ ム	200	自然論	2		○					
	200	倫理思想A	2			○				
	300	環境と社会	2				○			
	500	環境経済学	4				○			
	200	技術論	2				○			
	200	環境問題と企業	2		○					

履修一般

教養教育科目

専攻科目

学部共通コース

他大学での学修

教職課程・その他

経営学研究科

学生生活

Q and A

プログラム	グレード	授業科目名	単位数	配当セメスター						備考
				1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	
環境プログラム	200	環境論	4	◎						
	200	エネルギーの基礎	2	◎						
	200	エネルギーの利用	2		◎					
	200	生物と環境	4	◎						
	200	日本の自然	4	◎						
	200	植物の自然誌	2			◎				
	200	動物の自然誌	2			◎				
	200	生命誌	2			◎				
	200	野外観察法	2			○				
	300	自然誌実習	4			◎				
	200	民族の自然誌	2			◎				
	200	里山学	2		◎					
人権と平和プログラム	200	哲学思想B	2				◎			
	200	倫理思想B	2		◎					
	300	ヨーロッパの歴史C	2				◎			
	200	人権論A	2	◎						
	200	人権論B	2		◎					
	200	平和学A	2	◎						
	200	ジェンダーと仏教	2		◎					
	200	ジェンダー論	2	◎						
	200	女性と法	2			◎				
	100	現代社会と政治	2	◎						
	200	国際人権法入門	2			◎				
	200	現代世界の地域紛争	2		◎					
	200	現代社会と法	2	◎						
	300	刑事政策	2			◎				
	200	日本国憲法	2	◎						
	200	平和学B	2		◎					
300	現代司法の実際	2	◎						「民事司法の実際」既得者は履修不可	
200	スポーツと人権・平和	2				◎			「オリンピック運動と人権・平和」既得者は履修不可	
情報と社会プログラム	200	論理学A	2	◎						
	200	論理学B	2		◎					
	200	哲学思想C	2				◎			
	200	社会統計学I	2	◎						

プログラム	グレード	授業科目名	単位数	配当セメスター						備考
				1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	
情報と 社会 プログラム	200	社会統計学Ⅱ	2		◎					
	300	情報社会論	2				◎			
	300	社会調査法	2					◎		
	300	情報化社会と法	2				◎			
	200	経済社会の情報化	2		◎					
	200	マスコミ論A	2			◎				
	200	マスコミ論B	2				◎			
	100	確率・統計入門	2	◎						
	200	数理統計学	4			◎				
	200	集合と論理	4			◎				
	300	数学の世界	4			◎				
	100	情報科学実習Ⅰ	2		◎					
	200	情報科学実習Ⅱ	2			◎				
	100	情報科学入門Ⅰ	2			◎				
	200	情報科学入門Ⅱ	2			◎				
	300	情報科学入門Ⅲ	2					◎		
	300	英語で学ぶ日本の社会A	2	◎						
300	英語で学ぶ日本の社会B	2		◎						
歴史と 文化 プログラム	200	ヨーロッパの歴史A	4	◎						
	300	ヨーロッパの歴史B	2			◎				
	200	アメリカの歴史A	2	◎						
	200	アメリカの歴史B	2		◎					
	200	比較文化A	2			◎				
	200	比較文化B	2				◎			
	200	現代のヨーロッパA	2	◎						
	200	現代のヨーロッパB	2		◎					
	200	欧米の文化A	2			◎				
	200	欧米の文化B	2				◎			
	200	欧米の文学芸術A	2			◎				
	200	欧米の文学芸術B	2				◎			
	200	世界の宗教A	2	◎						
	200	世界の宗教B	2		◎					
	200	宗教と文化	4			◎				
200	日本の歴史A	4	◎							

履修一般

教養教育科目

専攻科目

学部共通コース

他大学での学修

教職課程・その他

経営学研究科

学生生活

Q and A

プログラム	グレード	授業科目名	単位数	配当セメスター						備考
				1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	
歴史と文化プログラム	200	日本の歴史B	4		◎					
	200	日本の歴史C	4			◎				
	200	日本の文化	4				◎			
	200	日本の文学A	4	◎						
	200	日本の文学B	4		◎					
	200	日本の文学C	2			◎				
	200	アジアの歴史A	4	◎						
	200	アジアの歴史B	4		◎					
	200	アジアの文化A	2			◎				
	200	アジアの文化B	2				◎			
	200	中国の文学A	2	◎						
	200	中国の文学B	2	◎						
	200	中国の思想A	2	◎						
	200	中国の思想B	2		◎					
	300	歴史と文化総合研究	4				◎			
	100	現代社会と経済	2	◎						
	300	文化と社会	2			◎				
	200	自然科学史	2	◎						
200	地球と生命の歴史	4				◎				
200	スポーツ文化史	2				◎			「スポーツ文化史(4単位)」 既修者は履修不可	
思想と科学プログラム	100	宗教学入門	2	◎						
	100	哲学入門	2	◎						
	100	倫理学入門	2	◎						
	100	論理学入門	2	◎						
	100	文章表現法A	2	◎						
	100	文章表現法B	2		◎					
	200	歴史学入門	2	◎						
	200	歎異抄の思想Ⅰ	2			◎				
	200	歎異抄の思想Ⅱ	2				◎			
	200	音楽の世界A	2			◎				
	200	音楽の世界B	2				◎			
	200	文化人類学のすすめ	2			◎				
100	経済学のすすめ	2		◎						

プログラム	グレード	授業科目名	単位数	配当セメスター						備考
				1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	
思想と科学プログラム	200	社会学のすすめ	2		◎					
	200	地理学のすすめ	2	◎						
	200	地域科学のすすめ	2			◎				
	100	数学入門	2	◎						
	100	数学への旅	2	◎						
	200	微分と積分	4	◎						
	200	行列と行列式	4	◎						
	300	微分方程式	2			◎				
	300	数理と計算	2					◎		
	100	運動の科学	4	◎						
	100	物質の科学	4		◎					
	200	生物学のすすめ	4		◎					
	200	生命科学のすすめ	4		◎		◎			
	100	人類学のすすめ	4		◎		◎			
	100	銀河と宇宙	4	◎			◎			
	100	星の誕生と進化	2	◎						
	200	太陽系の科学	4				◎			
	200	自然科学の論理	2				◎			
	100	現代社会とスポーツ	2	◎						
	100	スポーツ科学最前線	2				◎			
100	人間とスポーツB	2				◎				
200	言語と文化A	2	◎						2011年度以降入学生のみ受講可	
200	言語と文化B	2				◎				
300	教養教育科目特別講義	2	○						4単位科目と2単位科目を複数開講するが、1科目(2単位/4単位)のみ卒業要件単位となる。	
300	教養教育科目特別講義	4	○							

## 注意事項

- 1) 各印は配当セメスターを示しています。ただし、それ以上の学年・セメスターであれば受講可能です。  
(例：1年次配当科目であれば、2年次以降も受講可能)
- 2) 上記配当セメスターにかかわらず、開講セメスターは年度により変更することがあります。時間割冊子およびWeb履修登録画面で確認してください。

### 3. 教養教育科目の教育目標および履修方法

#### 教養科目，選択外国語科目の予備登録について

教養科目，選択外国語科目（以下，「教養科目」）では，各授業科目の受講者数を適正規模に調整するために「予備登録制」がとられています。したがって，教養科目などを受講するには，年次にかかわらず，必ず予備登録をする必要があります（第1学期には第1学期開講科目と通年科目，第2学期には第2学期開講科目の予備登録を行います）。予備登録を行う際は，学期ごとに定められている履修制限単位数に基づき，履修計画をたてた上で，予備登録をしてください。

なお，2015年度より，3年生以上も教養科目等を履修する際は必ず予備登録を行う必要があります。

ただし，3年生以上の学生は以下の「(6) 3年生以上も受講制限を行う科目」を除いて，予備登録を行った科目を必ず履修することができます（登録の取消ができません）ので，よく考えて予備登録を行ってください。

（一部予備登録が不要な科目もありますので，以下の「(5) 予備登録が不要な科目(P.75)」を参照してください。）

予備登録の結果，受講が許可された科目は，Web履修登録画面にあらかじめ確定した状態が表示されます。**登録の取消はできません**ので注意してください。

なお，予備登録で希望した科目の受講が許可されなかった場合や，予備登録を行わなかった場合は，「予備登録をしなくても履修登録が可能な科目」をWeb履修登録画面に表示しますので，その中から履修登録（本登録）することができます。

#### (1) 予備登録の方法

予備登録は，定められた期間内にポータルサイトのWeb予備・事前登録画面で希望科目を選択して行います。

なお，第1学期の予備登録期間は，時間割表の巻末資料を参考にしてください。

また，第2学期の予備登録期間は，履修説明会および経営学部掲示板で別途お知らせいたします。

#### (2) 予備登録できる上限科目数

**第1学期：7科目（通年科目を含む） 第2学期：5科目**

### (3) 予備登録結果発表について

予備登録結果はWeb履修登録画面で確認してください。

なお、発表日時（履修登録期間）については、履修説明会および経営学部掲示板で確認してください。

### (4) 予備登録にあたっての注意事項

- 1) 第1学期の予備登録では、第1学期および通年開講科目が予備登録対象となり、第2学期の予備登録は、第2学期開講科目が予備登録対象科目となります。ただし、4年次生以上は通年登録のため、第2学期開講科目についても第1学期に予備登録を行ってください。
- 2) 各年次ごとに定められている履修制限単位の範囲で予備登録をしてください。
- 3) 重複登録（同一曜講時に2科目以上の予備登録をすること）や二重登録（すでに修得した科目を再度登録すること、同時に同一科目を2科目以上登録すること）をした場合、当該科目はすべて無効となります。

### (5) 予備登録が不要な科目

以下の科目は予備登録をする必要がありません。受講を希望する場合は、直接、履修登録（本登録）をしてください。

「人権論A・B」（1年次配当科目）

「ドイツ語セミナーA・B・C・D」（2年次配当科目）

「フランス語セミナーA・B・C・D」（2年次配当科目）

「スペイン語セミナーA・B・C・D」（2年次配当科目）

「中国語セミナーA・B・C・D」（2年次配当科目）

「コリア語セミナーA・B・C・D」（2年次配当科目、2014年度以降入学生のみ履修可）

「海外中国語研修講座」（2年次配当科目） ※

※「海外中国語研修講座」の履修を希望する学生は、グローバル教育推進センターが開催する説明会に参加してください（開催日等はグローバル教育推進センターの掲示板にて確認してください）。その上で本登録を行います。なお、「中国語I・II」の計4単位を修得した学生だけが履修できますので注意してください。

(6) 3年生以上も受講制限を行う科目

授業科目名	授業科目名
英語ⅡS1	心理学セミナー
英語ⅡS2	教育学のすすめA
英語ⅡR1	教育学のすすめB
英語ⅡR2	現代社会と教育A
英語ⅢR1	現代社会と教育B
英語ⅢR2	スポーツ技術学演習
英語ⅢS1	スポーツ表現の実際
英語ⅢS2	環境経済学
英語ⅢG1	動物の自然誌
英語ⅢG2	生命誌
英語ⅢW1	野外観察法
英語ⅢW2	自然誌実習
英語資格試験セミナー	里山学
ドイツ語コミュニケーションⅠ	平和学A
フランス語コミュニケーションⅠ	刑事政策
中国語コミュニケーションⅠ	情報社会論
スペイン語コミュニケーションⅠ	社会調査法
ドイツ語コミュニケーションⅡ	マスコミ論A
フランス語コミュニケーションⅡ	マスコミ論B
中国語コミュニケーションⅡ	数学の世界
スペイン語コミュニケーションⅡ	英語で学ぶ日本の社会A
ポルトガル語Ⅰ	英語で学ぶ日本の社会B
ポルトガル語Ⅱ	情報科学実習Ⅰ
ポルトガル語ⅢA	情報科学実習Ⅱ
ポルトガル語ⅢB	情報科学入門Ⅲ
ロシア語Ⅰ	歴史と文化総合研究
ロシア語Ⅱ	文章表現法A
ロシア語ⅢA	文章表現法B
ロシア語ⅢB	音楽の世界A
	音楽の世界B
コリア語Ⅰ（選択）（注）	夏期集中講義科目
コリア語Ⅱ（選択）（注）	
コリア語ⅢA（選択）（注）	
コリア語ⅢB（選択）（注）	

注) 選択外国語のコリア語Ⅰ・Ⅱ・ⅢA・ⅢBは2013年度以前入学生のみ履修可。



#### 4. 専攻科目の教育目標および履修方法（2008年度以降入学生）

##### 専攻科目とは（2008年度以降入学生）

専攻科目とは、経営学・会計学をより専門的に学修するための科目です。みなさんは、大学に入学してはじめて経営学や会計学に触れる人がほとんどだと思います。経営学部のカリキュラムは、経営学・会計学の基礎から段階を追って学修できるようになっています。学年が進むにしたがい、より高度に、より専門化していきます。専攻科目は、授業の開講形態により「講義科目」と「演習科目」に分かれています。また、みなさんが基礎から学べるように、学年ごとに、段階的に科目が配置されています。

履  
修一  
般教  
養  
教  
育  
科  
目専  
攻  
科  
目学  
部  
共  
通  
コ  
ー  
ス他  
大  
学  
で  
の  
学  
修教  
職  
課  
程  
・  
そ  
の  
他経  
営  
学  
研  
究  
科学  
生  
生  
活Q  
a  
n  
d  
A

## 講義科目

大学での講義で最初に驚くのは、受講者数の多さではないでしょうか。高校のように数十人という講義はまれで、大教室になると500以上の学生が受講する科目もあります。また、講義科目の多くは、教授が一方的に講義を進めるというスタイルで行われます。

### 第1 Semester 配置科目

目的：経営学・会計学とはどんな学問なのか、どのようなテーマを学修するのかをできるだけ具体的にイメージしてもらい、経営学・会計学に親しんでもらうことが目的です。

第1 Semesterでの学部専攻の講義科目は以下の必修科目の4科目です。

科目名	講義内容
情報リテラシー (必修)	ワープロ、表計算、プレゼンテーションの各ソフトの利用法を学び、大学生活で必要となる基本的なコンピュータスキルの修得を目指します。
現代のビジネス (必修)	経営学がどのような問題を扱うのかについてのアウトラインを理解してもらいます。できるだけ事例を挙げながら、現代社会のビジネスの実態を学びます。
簿記入門 (必修)	商業簿記の基礎的な事柄について理解してもらいます。経営学部の学生として最低限知っておいてもらいたい簿記の基礎知識を分かりやすく解説します。
経営と情報 (必修)	現代の企業活動において求められる情報処理活動の基本的な仕組みと、最新動向を紹介するなかで、経営の情報化に関する基礎知識を学びます。

## 第2セメスター配置科目

目的：経営学・会計学には幅広くさまざまな学問分野があります。それぞれの分野ごとにその入門的な科目を配置し、みなさんに経営学・会計学の基礎的な知識の修得をしてもらうことが大きな目的です。

第2セメスターでの学部専攻の講義科目は必修科目の1科目、選択必修科目5科目、選択科目1科目です。(P.81参照)

なお、選択必修科目の中には、みなさんが所属するコース・モデルによって、コース・モデル必修科目となるものが含まれています。1年生の間に、自分が所属しようと思うコース・モデルを決め、P.81～の専攻科目一覧を参考にして、計画的に講義を履修して下さい。

科目名	講義内容
現代の企業会計 (必修)	企業会計の基礎的な事柄について理解してもらいます。経営学部の学生として最低限知っておいてもらいたい会計の知識を分かりやすく解説します。
現代社会と企業 (選択必修)	企業は社会環境と無関係ではられません。社会環境が変化すれば当然、企業に求められる機能や役割も変化していきます。こうした企業と社会、特に現代社会における問題を学んでいきます。
経営とコンピュータ利用 (選択必修)	今日の企業経営では、さまざまな業務にコンピュータや通信ネットワーク・システムが活用されます。コンピュータがどのように活用され、情報がどのように扱われているのかを学びます。
企業経営の管理 (選択必修)	企業経営をどのように管理していくのか。企業全体に係る管理や分野別の管理など、その特質について学んでいきます。経営環境の変化を踏まえながらも、経営管理の基礎的な理論についても学修していきます。
日本と世界の経済 (選択必修)	企業経営は実体経済の動きと密接に結びついています。また、経済環境の変化が企業経営に与える影響はとても大きなものです。企業経営を勉強する上で不可欠な実体経済の動きについて、現代経済のしくみとその動きを中心に学修します。
初級商業簿記 (選択必修)	簿記は、基礎から積み木を積み上げるように知識を増やさなければなりません。この科目では、簿記入門で得た簿記の基礎知識を用いて、仕訳、試算表、精算表、貸借対照表、損益計算書の作成方法を学修します。

※第2セメスターに開設される選択科目は、P.81～の専攻科目一覧を参照してください。

### 第3セメスター配置科目

目的：第4セメスターになると各自が所属するコース・モデルを決めて学修領域を絞り込み、それぞれの学修目標を意識した系統的な科目の履修をしなければなりません。そのため、第3セメスターでは、卒業までの学修目標を意識し、多様な学問領域の中から自分に適した方向を探すことを目的としています。

第3セメスターでの学部専攻の講義科目は、選択必修科目3科目、選択科目です。

以下の学部選択必修科目は、みなさんが所属するコース・モデルによって、コース・モデル必修科目となりますので、P.81～の専攻科目一覧を確認し、履修する科目を決めて下さい。

科目名	講義内容
現代企業の成り立ち (選択必修)	「会社」とはいつ頃、どんな経緯で誕生したのでしょうか。時代の変化の中で「会社」の機能や社会的な役割がどのように変化してきたのかを歴史的に整理し理解していきます。
マーケティングの基礎 (選択必修)	マーケティングという言葉がビジネスの世界でよく使われるようになってきました。商品を守る仕組みとしてのマーケティングの基礎的な事柄を学んでいきます。
企業の国際化 (選択必修)	国際化という言葉はよく耳にする言葉のひとつです。企業の国際化を発展段階的にみていきます。また、国際化に伴い、多国籍企業などさまざまな企業形態が登場しています。こうした問題も取り上げていきます。

※第3セメスターに開設される選択科目は、P.81～の専攻科目一覧を参照してください。

専攻科目一覧〈2008年度以降入学生用〉

	グレード番号	授業科目名	担当者	単位数	開講セメスター								コース (モデル)				備考		
					1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ	経営・組織	経営・市場	経営・世界	会計			
専攻基礎科目群	必修科目	100	情報リテラシー	時間割表参照	1	○								☆	☆	☆	☆	4科目すべて必修	
		100	現代のビジネス		2	○									☆	☆	☆		☆
		100	簿記入門		2	○									☆	☆	☆		☆
		100	経営と情報		2	○									☆	☆	☆		☆
		100	現代の企業会計		2		○								☆	☆	☆		☆
	選択必修科目	200	現代企業の成り立ち	西川(浩)	2			○						★	○	○	○	コース(モデル)によって、コース必修科目となる科目があるので、注意してください。	
		200	現代社会と企業	細川	2		○							○	○	○	★		
		200	経営とコンピュータ利用	野間・小林	2		○							★	★	○	○		
		200	マーケティングの基礎	藤岡・守屋	2			○						○	★	○	○		
		200	企業の国際化	林(尚)・宋	2			○						○	○	★	○		
200		企業経営の管理	岩田	2		○							★	○	○	○			
200		日本と世界の経済	山下・吉田	2		○							○	★	★	○			
200	初級商業簿記	藤木・濱田	2		○							○	○	○	★				
コース(モデル) 選択必修・選択・学部選択科目	300	経営管理論	坂本	2			○						●	△	□	△	注1		
	300	経営戦略論	夏目・宋	2			○						△	●	△	△			
	300	国際経営論	林(尚)	2				○					□	△	●	□			
	400	オペレーションズ・マネジメント	村上	2					○				△	□	△	□			
	300	マーケティング論	藤岡	2				○					△	●	□	□			
	400	マーケティング・リサーチ	藤岡	2					○				□	△	□	□			
	300	人的資源管理論	西川(清)	2			○						●	□	□	△			
	300	組織行動論	松田	2						○			●	□	□	□			
	300	経営組織論	玉井	2						○			●	□	□	△			
	300	商品学	守屋	2				○					△	●	□	□			
	400	商品開発論	守屋	2					○				□	△	□	□			
	400	経営学原理	竹林	2					○				△	□	□	□			
	300	中小企業経営論	東	2					○				△	●	□	□		注2	
	300	ロジスティクス	浜崎	2				○					□	△	△	□			
	300	国際経営戦略論	夏目・宋	2					○				□	△	●	□		注3	
	400	経営立地論	鍛塚	2				○					□	△	△	□			
	300	アジア企業経営論	木下	2					○				□	□	●	□			
	400	経営意思決定論	岩田	2					○				△	□	□	□			
	400	企業経営を視る	東	2						○			△	△	□	□			
	300	財務会計入門	藤木	2				○					△	△	△	●			
	300	財務会計論	藤木	2					○				△	△	△	●			
	300	中級商業簿記	濱田	2				○					□	□	□	△			
	400	上級商業簿記	濱田	2					○				□	□	□	△			
	400	工業簿記	井手	2				○					□	□	□	△			
	400	原価計算論	山本	2					○				□	△	□	●			
400	管理会計論	山本	2						○			△	□	□	●				
400	会計監査論	加藤(正)	2						○			□	□	□	●				
400	国際会計論	井手	2						○			□	□	□	●				

注1 (経営戦略論 担当者：夏目，宋)：臨時セメ変更3→4

注2 (中小企業経営論 担当者：東)：臨時セメ変更5→6

注3 (アジア企業経営論 担当者：木下)：臨時セメ変更5→6

履修一般

教養教育科目

専攻科目

学部共通コース

他大学での学修

就職課程・その他

経営学研究科

学生生活

Q and A

専攻科目一覧表 (2008年度以降入学生用)

グレード番号	授業科目名	担当者	単位数	開講セメスター								コース (モデル)				備考	
				1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ	経営・組織	経営・市場	経営・世界	会計		
300	キャッシュフロー会計論	濱田	2					○					□	□	□	●	
500	会計情報解読論	藤川	2					○					□	□	□	△	
300	連結会計論	鈴木	2					○					□	□	□	●	
400	所得税法	休講	2					○					□	□	□	△	隔年開講
400	法人税法	加藤(久)	2				○						□	□	□	△	隔年開講
300	財務管理論	林(幸)	2				○						△	□	□	●	
400	証券市場論	田村	2					○					□	△	△	△	
300	現代金融論	三谷	2				○						△	□	△	△	
400	現代銀行論	三谷	2						○				□	△	□	△	注4
300	株式会社論	細川	2			○							△	□	●	△	
400	企業統治論	于	2				○						△	□	□	△	
300	企業倫理論	西村	2				○						●	●	●	●	
400	産業技術論	雀部	2					○					△	□	□	□	注5
400	マクロ経済学	休講	2					○					□	△	□	△	
300	経済原論	山下	2				○						□	●	□	△	
300	経営史	藤田	2				○						●	□	□	□	
300	流通システム論	崔	2				○						□	●	△	□	注6
400	日本経営史	小西	2					○					□	□	△	□	注7
300	日本経済論	吉田	2			○							□	□	△	□	
400	多国籍企業論	杉本	2						○				□	□	△	□	
300	国際比較経営史	西川(浩)	2					○					□	□	●	□	
400	国際比較社会論	妻木	2					○					□	□	△	□	
400	国際比較経営論	陸	2						○				□	□	△	□	
300	国際流通論	川端	2					○					□	△	●	□	
300	中国ビジネス論	張	2				○						□	□	●	□	
500	現代中国のビジネス	木下・松野	4						○				□	□	△	□	
400	起業論A	新藤	2					○					□	△	□	□	
400	起業論B	新藤	2						○				□	△	□	□	
400	経営革新論	大西	2						○				△	□	□	□	
300	公共経営論	三宅	2					○					●	□	□	□	
400	京都企業論	山西	2						○				□	△	□	□	
400	環境経営論	金	2						○				△	□	□	□	
500	ものづくりの現場	秋庭	2					○					△	□	□	□	
500	地域と企業	細川	4					○					□	△	□	□	
400	民法	松野	2					○					□	□	□	△	
400	商法	神吉	2			○							△	□	□	△	注8
400	会社法	今川	2				○						△	□	□	△	注9
400	労働法	脇田	2					○					△	□	□	□	注10
400	経済法	瀬領	2						○				□	△	□	△	
300	経営データの分析A	小池・文能・日野	2			○							□	△	□	□	
300	経営データの分析B	小池・西岡・小林	2				○						□	△	□	□	

注4 (現代銀行論 担当者: 三谷): 臨時セメ変更6→5

注5 (産業技術論 担当者: 雀部): 臨時セメ変更5→6

注6 (流通システム論 担当者: 崔): 臨時セメ変更4→3

注7 (日本経営史 担当者: 小西): 臨時セメ変更5→6

注8 (商法 担当者: 神吉): 臨時セメ変更3→4

注9 (会社法 担当者: 今川): 臨時セメ変更4→3

注10 (労働法 担当者: 脇田): 臨時セメ変更5→6

専攻科目一覧表 (2008年度以降入学生用)

	グ レ イ ド 番 号	授 業 科 目 名	担 当 者	単 位 数	開講セメスター								コース (モデル)				備 考
					1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	7 セ メ	8 セ メ	経 営 ・ 組 織	経 営 ・ 市 場	経 営 ・ 世 界	会 計	
コース (モデル) 選択必修・選択・学部 選択科目	300	経営情報システム論	野間	2			○						●	□	□	□	
	400	経営数学	山下	2			○						□	△	□	□	
	500	プログラミングおよび実習A1	寺島・栃尾	2				○					□	□	□	□	
	500	プログラミングおよび実習A2	寺島・栃尾	2					○				□	□	□	□	
	500	プログラミングおよび実習B1	小池	2				○					□	□	□	□	
	500	プログラミングおよび実習B2	小池	2					○				□	□	□	□	
	300	経営情報活用論	寺島	2			○						□	●	□	□	
	400	情報産業論	大西	2				○					□	△	□	□	
	400	意思決定の科学	西岡	2				○					□	□	□	□	
	300	地域企業論	秋庭	2			○						□	□	□	□	
	300	経営学基礎論	竹林	2		○							□	□	□	□	
	300	ビジネスコミュニケーションA(英)	嶋林	2		○							□	□	△	□	
	400	ビジネスコミュニケーションB(英)	BIE	2			○						□	□	△	□	
	300	ビジネスコミュニケーションA(中国)	孫	2				○					□	□	△	□	
	400	ビジネスコミュニケーションB(中国)	孫	2					○				□	□	△	□	
	200	経営基礎総合	休講	2			○						□	□	□	□	
	400	アジア政治論	休講	4					○				□	□	△	□	
	300	中国政治論	四方	2			○						□	□	△	□	
	400	アジア経済論	島根	4					○				□	□	△	□	
	400	中国経済論	大原	4					○				□	□	△	□	
500	国際金融論	竹中	4					○				□	□	△	□		
400	ファイナンス理論	足立	4			○						□	□	□	△		
200	統計学	牧	4	○								□	□	□	△		
教職用	500	政治学原理	田中	④				○									
外書購読科目	300	上級英語 R 1	時間割表 参照	2			○					□	□	□	□		
	300	上級英語 R 2		2				○				□	□	□	□		
	300	上級英語 W 1		2				○				□	□	□	□		
	300	上級英語 W 2		2					○			□	□	□	□		
	300	上級英語 S 1		2				○				□	□	□	□		
	300	上級英語 S 2		2					○			□	□	□	□		
	300	上級英語 G 1		2				○				□	□	□	□		
	300	上級英語 G 2		2					○			□	□	□	□		
	300	上級外国語 A		2		○						□	□	□	□		
	300	上級外国語 B		2			○					□	□	□	□		
	300	上級外国語 C		2			○					□	□	□	□		
	300	上級外国語 D		2				○				□	□	□	□		
		経営学特別講義	次ページ	8								△	△	△	△		
		実践講座	参照	8								△	△	△	△		
履修指 導科目	100	フレッシュャーズ・ゼミ	時間割表 参照	2	○							□	□	□	△		
	200	基礎演習		4		○						□	□	□	△		
	400	演習		⑫				○				□	□	□	△		

注11  
注12  
注13  
注14

注11 (中国政治論 担当者: 四方): 臨時セメ変更3→4      注13 (中国経済論 担当者: 大原): 臨時セメ変更5・6→5  
注12 (アジア経済論 担当者: 島根): 臨時セメ変更5・6→5      注14 (国際金融論 担当者: 竹中): 臨時セメ変更5→6

〈経営コース〉 ☆: 学部必修科目 ○: 学部選択必修科目 ★: モデル必修科目 ●: モデル選択必修科目  
△: モデル選択科目 □: 学部選択科目  
〈会計コース〉 ☆: 学部必修科目 ○: 学部選択必修科目 ★: コース必修科目 ●: コース選択必修科目  
△: コース選択科目 □: フリーゾーン

### 経営学特別講義一覧

授 業 科 目 名	開講セメ	グレード	単位	担当者名	区 分				備 考
					組	市	世	会	
特講・Global Understanding and Communication	4	400	4	White Sean	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
特講・現代中国の産業と企業	6	300	2	陸 雲江	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
特講・女性と社会的弱者のための経営学	6	400	2	李 洙任	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
特講・映画構造論—文化と産業—	4	400	2	廣瀬 純他	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
特講・情報発信の理論と実践	5	400	2	木下 徹弘	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
特講・フィールドスタディ演習	2	200	2	秋庭 太他	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
特講・我が社の経営と京都	6	400	2	山西 万三他	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

※経営学特別講義の卒業要件に参入できる単位数は、「その他履修についての注意事項」を参照してください。

### 実践講座一覧

授 業 科 目 名	開講セメ	グレード	単位	担当者名	区 分				備 考
					組	市	世	会	
実践・メディアと表現技法	3	400	2	富田 力子	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
実践・情報とセキュリティ	4	400	2	富田 力子	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
実践・コンプライアンスの実際	5	400	2	岸本, 木田	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
実践・マイ・キャリアデザイン	4	200	②	飯吉 弘子	/				
実践・貿易と貿易実務	4	400	2	浜崎 章洋	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
実践・ビジネス分野の異文化コミュニケーション	4	400	2	李 洙任 他	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
実践・放送メディアの実際と論理A—メディア・リテラシーを育てる—	3	400	2	岸本文利 他	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
実践・放送メディアの実際と論理B—メディア・リテラシーを育てる—	4	400	2	岸本文利 他	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

※実践講座の卒業要件に参入できる単位数は、「その他履修についての注意事項」を参照してください。  
 ※実践・マイ・キャリアデザインは、2010・2011年度に履修した場合のみ、「大学コンソーシアム京都のインターンシップ」、協定型インターンシッププログラム、BIEプログラム「Community Service Learning (ボランティア活動)」と合わせて**上限8単位**まで卒業要件単位として認定します。2009年度以前、2012年度以降に履修された場合は随意科目扱いとなります。

## 先修制

専攻科目には以下のとおり先修制が定められている科目があります。

先修制科目	履修の先修要件となる授業科目名
プログラミングおよび実習A 2	プログラミングおよび実習A 1
プログラミングおよび実習B 2	プログラミングおよび実習B 1
ビジネスコミュニケーションB(中国)	ビジネスコミュニケーションA(中国)
起業論B	起業論A
実践・放送メディアの実際と論理B—メディア・リテラシーを育てる—	実践・放送メディアの実際と論理A—メディア・リテラシーを育てる—



## その他履修についての注意事項

- (1) 外書講読科目「上級英語 R 1, R 2, S 1, S 2, G 1, G 2, W 1, W 2」および「上級外国語 A, B, C, D」は各々**8単位**まで学部選択科目（会計コース生はフリーゾーン）として卒業要件単位に算入できます。詳細は、P.39, P.53の「選択外国語科目について」を参照してください。
- (2) 学部共通コース以外の学生が、学部共通コース科目を履修することは原則としてできませんが、特別に許可された場合にかぎり、その科目は随意科目（**卒業要件単位に算入できない**）扱いとなりますが、受講することはできます（外国語セミナーを除く）。学部共通コース科目の履修を希望する場合は、人数調整の関係があるので事前に経営学部教務課へ相談に来てください。ただし、スポーツサイエンスコースの次の4科目（「スポーツマーケティング論」、「スポーツマネジメント論」、「スポーツ政策論」、「スポーツビジネス論」）のうち、4単位まで学部選択科目（会計コース生はコース選択科目）として卒業要件単位に算入できます（学部内コース生のみ対象）。
- (3) 経営学特別講義は、**8単位**まで卒業要件単位に算入でき、これを超えたものは随意科目扱いとなります。なお、原則として単年度開講のため、次年度開講予定は未定です。
- (4) 実践講座は、**8単位**まで卒業要件単位に算入でき、これを超えたものは随意科目扱いとなります。なお、原則として単年度開講のため、次年度開講予定は未定です。
- (5) 専攻科目で、それぞれの分野の卒業要件単位数を超えて修得した場合、下記の表のとおり単位集計します。

### 〈経営コース〉

集計分野	超過科目の扱い
学部必修科目 (☆)	
学部選択必修科目 (○)	超過分の単位は学部選択科目へ
モデル必修科目 (★)	
モデル選択必修科目 (●)	超過分の単位はモデル選択科目へ
モデル選択科目 (△)	超過分の単位は学部選択科目へ
学部選択科目 (□)	超過分の単位はフリーゾーンへ
フリーゾーン	

### 〈会計コース〉

集計分野	超過科目の扱い
学部必修科目 (☆)	
学部選択必修科目 (○)	超過分の単位はフリーゾーンへ
コース必修科目 (★)	
コース選択必修科目 (●)	超過分の単位はコース選択科目へ
コース選択科目 (△)	超過分の単位はフリーゾーンへ
フリーゾーン (□)	

※教養教育科目超過分もフリーゾーンへ単位集計されます。

## 演習科目

もっとも大学らしい授業形態が少人数の演習（ゼミナール）です。教授が一方的に講義を進める講義科目とは正反対に、みなさんが中心になって、自らの手で講義を進めていくものです。演習は、1年生から4年生まで、さまざまなタイプのものがあります。演習は必修科目ではありませんが、積極的な履修を勧めています。

なお、演習募集に関しては、それぞれの演習の募集が始まる時期に募集説明会を行い、応募方法などをお知らせします。

### 第1 Semester：フレッシュャーズ・ゼミ（クラス指定）

フレッシュャーズ・ゼミは、入学して最初に経験する演習です。大学で学修することの意味を考え、学修を進めていくための知識、例えば、ディスカッションの仕方、レポートの書き方といった基本的な技術を学びます。

### 第2・第3 Semester：基礎演習

基礎演習は、第4 Semester以降に行われる演習への入門的なゼミという位置づけで運営されています。担当者ごとにテーマが異なりますので、関心のある演習を選択することができます。基礎演習の募集は、1年生の6月上旬～7月中旬にかけて、ゼミごとに説明会が行われますので、それを参考にして自分にあった演習を選んでください。ただし、面接や書類選考などによって選考が行われる場合もあり、希望するゼミを選択できないこともありますので、注意してください。

### 第4・5・6・7・8 Semester：演習・演習論文

#### <学部共通コース>

※学部共通コースの演習は、各コースのページを参照してください。

#### <学部内コース>

演習は、第4 Semesterからスタートし、第8 Semesterの演習論文指導まで、2年半続きます。演習論文を提出し、合格すれば12単位が認定されます。

演習の募集は、2年生の5月中旬から7月中旬に行います。面接や書類選考によって選考が行われますので、自分が学修したいテーマをよく考えておいてください。

#### <演習論文を書こう>

演習論文は必修ではありませんが、4年間のみなさんの学修の成果を示すものです。自ら調べて、自らの考えを、論理的に、自らの言葉で表現することは、資料の調べ方や論理的な文章の書き方を身につけることとともに生涯忘れない知識となるでしょう。資料を調べる方法や論理的に文章を書く能力は、社会人になっても求められる能力ですから、できる限り、演習論文を書くようにしましょう。

## 基礎演習ガイド

(1年第2学期～2年第1学期) 開講時間：1年第2学期・水3 2年第1学期・水2  
(※坂本ゼミのみ2年第1学期・木5開講)

担当者	テーマ	主な担当科目
秋庭 太	基礎学習スキル獲得&プロジェクト活動による基礎能力養成	地域企業論
井手 健二	ライフ・プラン（生活設計）について学ぶ	国際会計論
岩田 浩	現代人の「教養」として経営学の基礎を学ぶ	経営意思決定論
加藤 正浩	イノベーション（発想の転換）をする力を身につける	会計監査論
角岡 賢一	京都企業論	英語
木下 徹弘	経営や経済の英語を学ぼう/プレゼンテーションをやってみよう	アジア企業経営論
鍬塚 賢太郎	「場所のチカラ」を探り、伝える	経営立地論
小池 俊隆	失敗-失敗は勝利へつながら道を開く	プログラミングおよび実習B1・B2
小長谷 大介	京都の世界遺産・近代化遺産に触れよう	自然科学史
坂本 雅則	グループワークを通じて「マネジメント能力」を体感する	経営管理論
妻木 進吾	現場から学ぶ方法を身につける	人権論
寺島 和夫	ビジネスデータ分析入門	経営情報活用論
夏目 啓二	企業と社会の読解力を身につけよう	国際経営戦略論
西岡 久充	情報通信技術と人・組織の関係を探る	意思決定の科学
西川 浩司	会社を観察するための能力を身につけよう	国際比較経営史
濱田 崇嘉	複式簿記の仕組みをロジカルに説明する	キャッシュフロー会計論
林 尚毅	フェアトレードから企業と社会を考える	国際経営論
藤岡 章子	現代企業の「仕組み」を考える	マーケティング論
藤木 潤司	職業会計人になるための基礎知識を徹底して学ぶ	財務会計論
細川 孝	大学で学ぶ, 経営学部で学ぶ-授業料・奨学金問題, 就活問題, 経営学検定試験(初級), レポートの執筆	株式会社論
ホワイト ショーン・アラン	グローバルな人間のあり方を追って	英語
三谷 進	金融の基本を学びながら, 企業経営のあり方を考える	現代金融論
山下 章夫	価格の意味を考える	経営数学
李 洙任	グローバル市場におけるリスクマネジメントと異文化対応力	英語
陸 云江	企業の国際化とそれに必要なグローバル人材について考える	

演習ガイド

(2年第2学期～4年第1学期)

開講時間：2年第2学期・水2  
(※坂本ゼミのみ2年第2学期・木5)

担当者	テーマ	主な担当科目
秋庭 太	学生主導型テーマ設定による個人研究ゼミ	地域企業論
井手 健二	証券アナリストの基礎知識にふれる	国際会計論
岩田 浩	現代人の「教養」として経営学(マネジメント)の理解を深める	経営意思決定論
加藤 正浩	経営・会計のイノベーション研究	会計監査論
木下 徹弘	ポジションペーパーを書いて議論し、問題解決能力を育成する	アジア企業経営論
楯塚 賢太郎	企業の立地と地域の魅力を考える	経営立地論
小池 俊隆	ビジネスでのコンピュータ活用	プログラミングおよび実習B1・B2
坂本 雅則	グループワークを通じて「マネジメント能力」を獲得する	経営管理論
鈴木 学	財務諸表を理解し分析してみよう	連結会計論
妻木 進吾	社会問題に実証的にアプローチする	人権論
寺島 和夫	小売業・サービス業における顧客満足	経営情報活用論
西岡 久充	組織におけるICT活用を考える	意思決定の科学
西川 浩司	イノベーション(≡企業が関わるあらゆる創造)って何だ? その捉え方を学び、そして実際に知ろう	国際比較経営史
野間 圭介	「データによって説得する力をつける」「企画力ある人に育つ」	経営情報システム論
濱田 崇嘉	財務会計の根本理論を理解する	キャッシュフロー会計論
林 尚毅	グローバリゼーションと経営学	国際経営論
藤岡 章子	現代企業のマーケティングとソーシャル・メディア	マーケティング論
藤木 潤司	職業会計人になるための専門的な能力の習得をめざす	財務会計論
藤田 誠久	企業家活動にみる経営発展と経営戦略	経営史
三谷 進	現代金融の諸課題の分析	現代金融論
山下 章夫	企業の価格戦略を学ぶ	経営数学

## プログラム科目

新しいカリキュラムは、ビジネスの現場で学ぶ実習教育を重視し、基礎教育（必修科目・選択必修科目）→実習教育（プログラム科目）→理論教育（専攻科目・演習論文）を通じて、グローバル化する世界経済と変化の激しい時代に活躍できる人材の育成を重点目標にしています。

基礎教育では、高校ではあまり学ばなかった経営学、会計学とはどういう学問なのか、どういったことを4年間で学ぶのかといったことから学修を始めます。そして、経営管理や財務会計など経営学、会計学を学ぶ上で基礎となる科目を学修し、経営学、会計学のどの分野に自分の興味、関心があるのかを見つけます。

次に、実習教育です。実習教育は、さまざまな企業経営の現場に出向き、今後の学修の課題を見つけます。その上で、これまで研究されてきた経営学、会計学の理論を学修し、これまで言われていたことに対して、基礎教育、実習教育、理論教育を経て考えた自分なりの考えを演習論文にまとめます。これが、新しいカリキュラムのコンセプトです。

こうして生まれた新カリキュラムの目玉となるのが、経営コースに設置された「現場で学ぶ経営学」をコンセプトに開設されるプログラム科目です。プログラム科目には、4つのプログラムがあります。

### (1) ものづくりの現場

龍谷大学が所在する京都は、ハイテク部品産業を中心に有名企業が集積し、グローバルに活躍する企業がたくさんあります。また、京都と隣接する大阪には世界に冠たる家電企業をはじめ、中小企業が多数集まる地域もあり、まさにものづくりの街と言えます。

これまで、経営学では管理論を中心に製造業をクローズアップしてきました。20世紀の初めのアメリカでは、フレデリック・テイラーという技術者が、モノを生産する際に、科学的根拠に基づく管理をすべきだと提唱しました。工場で働く人の中には、能力が優れていて、生産性の高い人もいれば、そうでない人もいます。テイラーは、工場で働く人が行う各作業について、どれだけの時間がかかるのかをストップウォッチで計測し、標準的な作業時間を算出したのです。そして、これをもとに、1日の公正な作業量を設定し、作業や道具の標準化を行いました。その後も、フォード・システムやトヨタ・カンバン方式など、工場の生産システムは改善が繰り返されてきています。

この科目では、日本企業の競争力の源泉である高品質な製品を作り出す現場である工場に着目します。そして、経済のグローバル化が進み、人件費の安い中国、ベトナムなどと競争をしなければならない日本のメーカーが、今、ものづくりの現場でどのような工夫を凝らして、グローバル競争に勝ち抜こうとしているのかを学修します。

## (2) 地域と企業

京都は平安時代以来、1000年近く都がおかれていた街であり、社寺仏閣がたくさんある伝統のある街です。こうした文化・歴史的背景のもと、京都には他の地域とは異なり、着物や仏壇、陶器などの伝統工芸品を製造、販売するお店がたくさんあります。また、京都は日本を代表する観光都市でもあり、土産物を売るお店やホテルなどもたくさんあります。

企業は、自らが立地する「地域」の特質を活かし、競争上の優位を創り出し、企業経営を行っています。上の例の場合、京都に仏壇、仏具を売るお店が多いのは、お寺が多いからです。

この科目では、企業経営において、企業が所在する「地域」が、いかに重要な経営資源であり、それをどのように活用しているのかを学修します。

## (3) 現代中国のビジネス

今の世界経済を語る上で欠かすことができない中国。経済のグローバル化が進展し、日本企業にとって中国はなくてはならない存在となっています。それは、世界の工場としてだけでなく、市場としても極めて魅力的な存在になっていることからわかります。皆さんも、テレビでニュースを見ていると、毎日「中国」という言葉を耳にするでしょう。そのくらい、日本にとって中国はなくてはならない存在になっているのです。

皆さんが現地研修する大連は、上海に次ぐ中国2番目の経済都市で、4,000社以上（2013年12月現在）の日本の企業が進出しています。しかし、海外における企業経営では文化や国民性、法制度や金融システムなどが異なっており、それによって、国内で企業経営をしているのとは異なる課題が存在します。中国はじめ海外に進出している企業は、法制度や金融システムが異なる国で、文化や国民性の異なる国の人とともに企業経営を行うわけですから、日本国内では予想されないさまざまな課題にもぶつかることでしょう。

この科目では、大連での現地研修を通じて、経済発展の著しい中国で、日本企業が海外へ進出する際にどのような課題があり、それをどのように克服し、また新たな課題に対してどのように取りくんでいるのかということ学修します。

#### (4) 起業論A・起業論B

企業には、必ず創業期が存在します。それは、事業部門の立ち上げでもそうでしょうし、会社の立ち上げでもそうです。起業をするには、事業計画や資金調達、販路確保など様々な要素が必要ですが、これらすべてを満足に整えた上で起業するケースは稀でしょう。つまり、何らかのリスクを負って船出するケースが多いのです。そのため、多くの企業家は与えられた条件下で、できる限りリスクを抑えつつ起業しているのです。

起業論Aでは、最初に起業に関する理論的な説明が行われます。その後に、協力先企業から実際に直面している課題を頂き、戦略策定や市場調査などを行い、頂いた課題に対する解決方策を考案します。また、起業論Bでは協力先企業から頂いた課題事業での事業計画を実際に策定します。

こうしたプロセスを経て、起業や企業内での新規事業立ち上げの際に必要な知識の修得を目指します。

プログラム科目詳細は、以下のホームページで確認してください。

<http://www.biz.ryukoku.ac.jp/pc/index.html>

## 専攻科目とは（2007年度以前入学生対象）

専攻科目とは、経営学・会計学をより専門的に学修するための科目です。みなさんは、大学に入学してはじめて経営学や会計学に触れる人がほとんどだと思います。経営学部のカリキュラムは、経営学・会計学の基礎から段階を追って学修できるようになっています。学年が進むにしたがい、より高度に、より専門化していきます。専攻科目は、授業の開講形態により「講義科目」と「演習科目」に分かれています。また、みなさんが基礎から学べるように、学年ごとに、段階的に科目が配置されています。

## 講義科目

大学での講義で最初に驚くのは、受講者数の多さではないでしょうか。高校のように数十人という講義はまれで、大教室になると500人以上の学生が受講する科目もあります。多くの講義科目は、教授が一方向的に講義を進めるというスタイルで行われます。

### 第1 Semester 配置科目

目的：経営学・会計学とはどんな学問なのか、どのようなテーマを学修するのかをできるだけ具体的にイメージしてもらい、経営学・会計学に親しんでもらうことが目的です。

第1 Semesterでの学部専攻の講義科目は必修科目（P.94参照）の3科目です。

科目名	講義内容
現代のビジネス (必修)	経営学がどのような問題を扱うのかについてのアウトラインを理解してもらいます。できるだけ事例を挙げながら、現代社会のビジネスの実態を学びます。
経営と情報 (必修)	現代の企業活動において求められる情報処理活動の基本的な仕組みと、最新動向を紹介するなかで、経営の情報化に関する基礎知識を学びます。
簿記入門 (必修)	商業簿記の基礎的な事柄について理解してもらいます。経営学部の学生として最低限知っておいてもらいたい簿記の基礎知識を分かりやすく解説します。

### 第2 Semester 配置科目

目的：経営学・会計学には幅広くいろいろな学問分野があります。それぞれの分野ごとにその入門的な科目を配置し、みなさんに経営学・会計学の基礎的な知識の修得をしてもらうことが大きな目的です。

第2 Semesterでの学部専攻の講義科目は必修科目の1科目、選択必修科目4科目、選択科目2科目です。（P.94参照）



科目名	講義内容
現代の企業会計 (必修)	企業会計の基礎的な事柄について理解してもらいます。経営学部の学生として最低限知っておいてもらいたい会計の知識を分かりやすく解説します。
現代社会と企業 (選択必修)	企業は社会環境と無関係ではられません。社会環境が変化すれば当然、企業に求められる機能や役割も変化していきます。こうした企業と社会、特に現代社会における問題を学んでいきます。
経営とコンピュータ利用 (選択必修)	今日の企業経営では、さまざまな業務にコンピュータや通信ネットワーク・システムが活用されます。コンピュータがどのように活用され、情報がどのように扱われているのかを学びます。
企業の国際化 (選択必修)	国際化という言葉はよく耳にする言葉のひとつです。企業の国際化を発展段階的にみていきます。また、国際化に伴い、多国籍企業などさまざまな企業形態が登場しています。こうした問題も取り上げていきます。
企業経営の管理 (選択必修)	企業経営をどのように管理していくのか。企業全体に係る管理や分野別の管理など、その特質について学んでいきます。経営環境の変化を踏まえながらも、経営管理の基礎的な理論についても学修していきます。

※第2 Semesterに開設される選択科目は、P.94～の専攻科目一覧を参照してください。

### 第3 Semester配置科目

目的：第4 Semesterになると各自が学修領域を絞り込み、それぞれの学修目標を意識した系統的な科目の履修をしなければなりません。そのため、第3 Semesterでは、卒業までの学修目標を意識し、多様な学問領域の中から自分に適した方向を探すことを目的としています。

第3 Semesterでの学部専攻の講義科目は、選択必修科目3科目、選択科目です。

科目名	講義内容
現代企業の成り立ち (選択必修)	「会社」とはいつ頃、どんな経緯で誕生したのでしょうか。時代の変化の中で「会社」の機能や社会的な役割がどのように変化してきたのかを歴史的に整理し理解していきます。
マーケティングの基礎 (選択必修)	マーケティングという言葉がビジネスの世界でよく使われるようになってきました。商品を売る仕組みとしてのマーケティングの基礎的な事柄を学んでいきます。

※第3 Semesterに開設される選択科目は、P.94～の専攻科目一覧を参照してください。

専攻科目一覧〈2007年度以前入学生用〉

(注) 単位数が○で囲まれている科目は履修制限単位に含まれない科目。

●印は必修科目, ▲印は選択必修科目, 無印は選択科目, ■印は系統的履修モデル

専攻基礎科目群	グレード番号	授業科目名	担当者	単位数	開講セメスター								系統的履修モデル									
					1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ	ビジネスに役立つ	10年先を 考える	専門家を 目指す	公務員を 目指す						
													営業・販売	財務・経理	総務・労務	国際業務	情報化推進	全般的管理	事業創造	職業会計士	Sエンジニア	公務員
専攻基礎科目群	必修科目	100 ●現代のビジネス	時間割表参照	2	○																	
		100 ●簿記入門		2	○																	
		100 ●経営と情報		2	○																	
		100 ●現代の企業会計		2	○																	
	選択必修科目	200 ▲現代企業の成り立ち	西川(浩)	2			○															
		200 ▲現代社会と企業	細川	2		○																
		200 ▲経営とコンピュータ利用	野間・小林	2		○																
		200 ▲マーケティングの基礎	藤岡・守屋	2			○															
		200 ▲企業の国際化	林(尚)・宋	2			○															
		200 ▲企業経営の管理	岩田	2		○																
選択科目	300 経営データの分析A	小池・文能・日野	2			○																
	300 経営データの分析B	小池・西岡・小林	2				○															
企業のマネジメント群	300 経営管理論	坂本	2			○							■		■							
	300 経営戦略論	夏目・宋	2			○									■	■						
	300 国際経営論	林(尚)	2				○							■	■	■						
	400 オペレーションズ・マネジメント	村上	2					○								■						
	300 マーケティング論	藤岡	2				○						■			■				■		
	300 人的資源管理論	西川(清)	2				○								■							
	300 組織行動論	松田	2						○							■						
	300 経営組織論	玉井	2						○							■				■		
	300 商品学	守屋	2						○					■			■					
	400 経営学原理	竹林	2							○						■				■		
	300 中小企業経営論	東	2								○						■					
	300 ロジスティクス	浜崎	2									○								■		
	300 国際経営戦略論	夏目・宋	2												■	■						
	400 経営立地論	鋤塚	2											■								
	300 アジア企業経営論	木下	2													■						
	400 経営意思決定論	岩田	2														■			■		
会計と金融群	300 財務会計論	藤木	2												■		■	■	■			
	200 初級商業簿記	藤木・濱田	2		○										■	■						
	300 中級商業簿記	濱田	2			○									■							
	400 工業簿記	井手	2			○									■							
	400 原価計算論	山本	2				○								■					■		
	400 管理会計論	山本	2							○					■	■				■		
	400 会計監査論	加藤(正)	2								○				■					■		
	400 国際会計論	井手	2									○			■					■		
	300 キャッシュフロー会計論	濱田	2										○		■					■		
	500 会計情報解読論	藤川	2												■					■		
	300 財務管理論	林(幸)	2												■					■		
	400 証券市場論	田村	2												■					■		
	300 現代金融論	三谷	2												■					■		

注1：(経営戦略論 担当：夏目、宋)：臨時セメ変更3→4 注3：(アジア企業経営論 担当：木下)：臨時セメ変更5→6  
注2：(中小企業経営論 担当：東)：臨時セメ変更5→6

専攻科目一覧〈2007年度以前入学生用〉

グレード番号	授業科目名	担当者	単位数	系統的履修モデル																	
				開講セメスター								ビジネスに役立つ									
				1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ	営業・販売	財務・経理	総務・労務	国際業務	情報化推進	全般的管理	10年先を考える	事業創造	職業会計士	Sエンジニア
経営と社会群	300 株式会社論	細川	2			○															
	400 企業統治論	于	2				○														
	400 産業技術論	雀部	2					○													
	400 マクロ経済学	休講	2					○													
	300 経済原論	山下	2				○														
	300 経営史	藤田	2				○														
	300 流通システム論	崔	2				○														
	400 日本経営史	小西	2					○													
	300 日本経済論	吉田	2				○														
	400 多国籍企業論	杉本	2						○												
	300 国際比較経営史	西川(浩)	2					○													
	400 国際比較社会論	妻木	2					○													
	300 環境経営論	金	2						○												
	400 民法	松野	2					○													
	400 商法	神吉	2					○													
	400 会社法	今川	2					○													
	400 労働法	脇田	2						○												
	400 経済法	瀬領	2							○											
500 政治学原理(随意)	田中	④							○												
情報とコミュニケーション群	300 経営情報システム論	野間	2				○														
	400 経営数学	山下	2				○														
	500 プログラミングおよび実習A1	寺島・栴尾	2					○													
	500 プログラミングおよび実習A2	寺島・栴尾	2						○												
	500 プログラミングおよび実習B1	小池	2						○												
	500 プログラミングおよび実習B2	小池	2							○											
	300 経営情報活用論	寺島	2					○													
	400 情報産業論	大西	2						○												
経営学研究科	200 日本と世界の経済	山下・吉田	2				○														
	400 マーケティング・リサーチ	藤岡	2					○													
	400 商品開発論	守屋	2					○													
	400 企業経営を視る	東	2						○												
	300 財務会計入門	藤木	2					○													
	400 上級商業簿記	濱田	2						○												
	300 連結会計論	鈴木	2						○												
	400 所得税法	休講	2						○												
	400 法人税法	加藤(久)	2							○											
	400 現代銀行論	三谷	2								○										
	300 企業倫理論	西村	2						○												
	400 国際比較経営論	陸	2							○											
	300 国際流通論	川端	2								○										
	300 中国ビジネス論	張	2									○									

注4：(産業技術論 担当：雀部)：臨時セメ変更5→6  
 注5：(流通システム論 担当：崔)：臨時セメ変更4→3  
 注6：(日本経営史 担当：小西)：臨時セメ変更5→6  
 注7：(商法 担当：神吉)：臨時セメ変更3→4

注8：(会社法 担当：今川)：臨時セメ変更4→3  
 注9：(労働法 担当：脇田)：臨時セメ変更5→6  
 注10：(現代銀行論 担当：三谷)：臨時セメ変更6→5

履修一般  
 教養教育科目  
 専攻科目  
 学部共通コース  
 他大学での学修  
 就職課程・その他  
 経営学研究科  
 学生生活  
 Q and A

専攻科目一覧〈2007年度以前入学生用〉

グレード番号	授業科目名	担当者	単位数	系統的履修モデル																						
				開講セメスター								ビジネスに役立つ														
				1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ	営業・販売	財務・経理	総務・労務	国際業務	情報化推進	全般的管理	10年先を 考える	事業創造	職業会計士	専門家を 目指す	S エンジニア	公務員 を目指す			
500	現代中国のビジネス	木下・松野	4								○															
400	起業論A	新藤	2					○																		
400	起業論B	新藤	2						○																	
400	経営革新論	大西	2						○																	
300	公共経営論	三宅	2					○																		
400	京都企業論	山西	2							○																
500	ものづくりの現場	秋庭	2					○																		
500	地域と企業	細川	4					○																		
400	意思決定の科学	西岡	2					○																		
300	地域企業論	秋庭	2				○																			
300	経営学基礎論	竹林	2			○																				
300	ビジネスコミュニケーションA(英)	嶋林	2			○																				
400	ビジネスコミュニケーションB(英)	BIE	2				○																			
300	ビジネスコミュニケーションA(中国)	孫	2					○																		
400	ビジネスコミュニケーションB(中国)	孫	2						○																	
200	経営基礎総合	休講	2				○																			
外書購読科目	300	上級英語R 1	時間割表参照	2					○																	
	300	上級英語R 2		2						○																
	300	上級英語S 1		2					○																	
	300	上級英語S 2		2						○																
	300	上級英語G 1		2					○																	
	300	上級英語G 2		2						○																
	300	上級英語W 1		2					○																	
	300	上級英語W 2		2						○																
	300	上級外国語A		2			○																			
	300	上級外国語B		2				○																		
	300	上級外国語C		2			○																			
	300	上級外国語D		2				○																		
	経営学特別講義		18																							
	実践講座		16																							
履修指導科目	100	フレッシュアーズゼミ	時間割表参照	2	○																					
	200	基礎演習	参照	4		○																				
	300	総合演習Ⅰ		④				○																		
	400	総合演習Ⅱ		⑧					○																	
	400	専攻演習		⑫						○																

新旧科目比較対照表

	2001・2002年度開講		2003～2008年度開講		2009年度以降開講		備 考
	授業科目名	単位	授業科目名	単位	授業科目名	単位	
必修科目	現代のビジネス	2	現代のビジネス	2	現代のビジネス	2	
	簿記入門	2	簿記入門	2	簿記入門	2	
	経営と情報	2	経営と情報	2	経営と情報	2	
	現代の企業会計	4	現代の企業会計	2	現代の企業会計	2	
選択必修科目	現代企業の成り立ち	2	現代企業の成り立ち	2	現代企業の成り立ち	2	
	現代社会と企業	2	現代社会と企業	2	現代社会と企業	2	
	経営とコンピュータ利用	2	経営とコンピュータ利用	2	経営とコンピュータ利用	2	
	マーケティングの基礎	2	マーケティングの基礎	2	マーケティングの基礎	2	
	企業の国際化	2	企業の国際化	2	企業の国際化	2	
	企業経営の管理	2	企業経営の管理	2	企業経営の管理	2	
学部選択科目					日本と世界の経済	2	2009年度より科目新設
	経営管理論	4	経営管理論	2	経営管理論	2	
			経営戦略論	2	経営戦略論	2	
	国際経営論	4	国際経営論	2	国際経営論	2	
	生産管理論	4	生産管理論	2	オペレーションズ・マネジメント	2	2009年度より科目名称変更
	マーケティング論	4	マーケティング論	2	マーケティング論	2	
					マーケティング・リサーチ	2	2009年度より科目新設
	労務管理論	4	人的資源管理論	2	人的資源管理論	2	
	経営心理学	4	組織行動論	2	組織行動論	2	
	経営組織論	4	経営組織論	2	経営組織論	2	
	商品学	4	商品学	2	商品学	2	
					商品開発論	2	2009年度より科目新設
	経営学原理	4	経営学原理	2	経営学原理	2	
	中小企業経営論	4	中小企業経営論	2	中小企業経営論	2	
	物流経営論	4	ロジスティクス	2	ロジスティクス	2	
	国際経営戦略論	4	国際経営戦略論	2	国際経営戦略論	2	
	国際経営立地論	4	経営立地論	2	経営立地論	2	
	アジア企業経営論	4	アジア企業経営論	2	アジア企業経営論	2	
	経営意志決定論	4	経営意志決定論	2	経営意思決定論	2	
					企業経営を視る	2	2009年度より科目新設
					財務会計入門	2	2009年度より科目新設
	財務会計論	4	財務会計論	2	財務会計論	2	
	中級簿記論	4	商業簿記	2	初級商業簿記	2	2008年度より科目名称変更
			中級簿記	2	中級商業簿記	2	2009年度より科目名称変更
					上級商業簿記	2	2009年度より科目新設
	上級簿記論	4	工業簿記	2	工業簿記	2	
	原理計算論	4	原理計算論	2	原価計算論	2	
	管理会計論	4	管理会計論	2	管理会計論	2	
	会計監査論	4	会計監査論	2	会計監査論	2	
	国際会計論	4	国際会計論	2	国際会計論	2	
	情報会計論	4	会計情報論	2	キャッシュフロー会計論	2	2009年度より科目名称変更
	会計情報解読論	4	会計情報解読論	2	会計情報解読論	2	
				連結会計論	2	2009年度より科目新設	
				所得税法	2	2009年度より科目新設	
				法人税法	2	2009年度より科目新設	
財務管理論	4	財務管理論	2	財務管理論	2		
証券市場論	4	証券市場論	2	証券市場論	2		
金融論	4	現代金融論	2	現代金融論	2		
				現代銀行論	2	2009年度より科目新設	

	2001・2002年度開講		2003～2008年度開講		2009年度以降開講		備 考
	授業科目名	単位	授業科目名	単位	授業科目名	単位	
学 部 選 択 科 目	企業論	4	企業論	2	株式会社論	2	2009年度より科目名称変更
			企業統治論	2	企業統治論	2	
					企業倫理論	2	2009年度より科目新設
	産業技術論	4	産業技術論	2	産業技術論	2	
			マクロ経済学	2	マクロ経済学	2	
	経済原論Ⅱ	4	経済原論	2	経済原論	2	
	経営史	4	経営史	2	経営史	2	
	経営社会学	4	経営社会学	2			2009年度より科目廃止
	流通システム論	4	流通システム論	2	流通システム論	2	
	日本経営史	4	日本経営史	2	日本経営史	2	
	日本産業論	2	日本産業論	2	日本経済論	2	2009年度より科目名称変更
	多国籍企業論	4	多国籍企業論	2	多国籍企業論	2	
	国際比較経営史	4	国際比較経営史	2	国際比較経営史	2	
	国際比較社会論	4	国際比較社会論	2	国際比較社会論	2	
					国際比較経営論	2	2009年度より科目新設
					国際流通論	2	2009年度より科目新設
					中国ビジネス論	2	2009年度より科目新設
					現代中国のビジネス	4	2009年度より科目新設
					起業論A	2	2009年度より科目新設
					起業論B	2	2009年度より科目新設
					経営革新論	2	2009年度より科目新設
					公共経営論	2	2009年度より科目新設
					京都企業論	2	2009年度より科目新設
	環境経営論	2	環境経営論	2	環境経営論	2	
					ものづくりの現場	2	2009年度より科目新設
					地域と企業	4	2009年度より科目新設
	民法	4	民法	2	民法	2	
	商法第一部	2	商法第一部	2	商法	2	2009年度より科目名称変更
	商法第二部	4	商法第二部	2	会社法	2	2009年度より科目名称変更
	労働法	4	労働法	2	労働法	2	
	経済法	4	経済法	2	経済法	2	
	税法	4	税法	2			2009年度より科目廃止
	経営データの分析A	2	経営データの分析A	2	経営データの分析A	2	
	経営データの分析B	2	経営データの分析B	2	経営データの分析B	2	
	経営情報システム論	4	経営情報システム論	2	経営情報システム論	2	
	経営数学	4	経営数学	2	経営数学	2	
	プログラミングA	2	プログラミングおよび実習A1	2	プログラミングおよび実習A1	2	科目名称および単位数変更
	経営情報処理実習A	2	プログラミングおよび実習A2	2	プログラミングおよび実習A2	2	
	プログラミングB	2	プログラミングおよび実習B1	2	プログラミングおよび実習B1	2	
	経営情報処理実習B	2	プログラミングおよび実習B2	2	プログラミングおよび実習B2	2	
	経営情報活用論	4	経営情報活用論	2	経営情報活用論	2	
	情報産業論	4	情報産業論	2	情報産業論	2	
システム分析	2	システム管理	2			2009年度より科目廃止	
		ネットワークとセキュリティ	2			2009年度より科目廃止	
		マルチメディア表現法	2			2009年度より科目廃止	
ビジネス英語A	4	ビジネス英語A	2			2009年度より科目廃止	
ビジネス英語B	4	ビジネス英語B	2			2009年度より科目廃止	
				意思決定の科学	2	2010年度より科目新設	
				地域企業論	2	2010年度より科目新設	
				経営学基礎論	2	2010年度より科目新設	

	2001・2002年度開講		2003～2008年度開講		2009年度以降開講		備 考
	授業科目名	単位	授業科目名	単位	授業科目名	単位	
学部 選 択 科 目					ビジネスコミュニケーションA(英)	2	2009年度より科目新設
					ビジネスコミュニケーションB(英)	2	2009年度より科目新設
					ビジネスコミュニケーションA(中国)	2	2009年度より科目新設
					ビジネスコミュニケーションB(中国)	2	2009年度より科目新設
					経営基礎総合	2	2009年度より科目新設
					アジア政治論	4	2009年度より科目新設
					中国政治論	2	2009年度より科目新設
					アジア経済論	2	2009年度より科目新設
					中国経済論	2	2009年度より科目新設
					国際金融論	4	2009年度より科目新設
					ファイナンス理論	4	2009年度より科目新設
					統計学	4	2009年度より科目新設
	政治学原理(随意)	④	政治学原理(随意)	④	政治学原理(随意)	④	
外書 購 読 科 目	上級英語R 1	2	上級英語R 1	2	上級英語R 1	2	
	上級英語R 2	2	上級英語R 2	2	上級英語R 2	2	
	上級英語W 1	2	上級英語W 1	2	上級英語W 1	2	
	上級英語W 2	2	上級英語W 2	2	上級英語W 2	2	
	上級英語S 1	2	上級英語S 1	2	上級英語S 1	2	
	上級英語S 2	2	上級英語S 2	2	上級英語S 2	2	
	上級英語G 1	2	上級英語G 1	2	上級英語G 1	2	
	上級英語G 2	2	上級英語G 2	2	上級英語G 2	2	
	上級外国語A	2	上級外国語A	2	上級外国語A	2	
	上級外国語B	2	上級外国語B	2	上級外国語B	2	
	上級外国語C	2	上級外国語C	2	上級外国語C	2	
	上級外国語D	2	上級外国語D	2	上級外国語D	2	
	経営学特別講義	14	経営学特別講義	18	経営学特別講義	8	
	実践講座	10	実践講座	16	実践講座	8	
留学生	留学生のための経営学	④	留学生のための経営学	④			2008年度より科目廃止
演 習	フレッシュャーズゼミ	2	フレッシュャーズゼミ	2	フレッシュャーズゼミ	2	
	基礎演習	4	基礎演習	4	基礎演習	4	
					演習	12	2009年度より科目新設
	専攻演習	⑫	専攻演習	⑫			2009年度より募集停止
	総合演習Ⅰ	④	総合演習Ⅰ	④			2009年度より募集停止
	総合演習Ⅱ	⑧	総合演習Ⅱ	⑧			2009年度より募集停止

## 経営学特別講義一覧

授業科目名	開講セメ	グレード	単位	担当者	備考
特講・Global Understanding and Communication	4	400	4	White Sean	
特講・現代中国の産業と企業	6	300	2	陸 雲江	
特講・女性と社会的弱者のための経営学	6	400	2	李 洙任	
特講・映画構造論—文化と産業—	4	400	2	廣瀬 純他	
特講・情報発信の理論と実践	5	400	2	木下 徹弘	
特講・フィールドスタディ演習	2	200	2	秋庭 太他	
特講・我が社の経営と京都	6	400	2	山西 万三他	

※経営学特別講義の卒業要件に算入できる単位数は、P.75を参照してください。

## 実践講座一覧

授業科目名	開講セメ	グレード	単位	担当者	備考
実践・メディアと表現技法	3	400	2	富田 力子	
実践・情報とセキュリティ	4	400	2	富田 力子	
実践・コンプライアンスの実際	5	400	2	岸本, 木田	
実践・マイ・キャリアデザイン	4	200	②	飯吉 弘子	
実践・貿易と貿易実務	4	400	2	浜崎 章洋	
実践・ビジネス分野の異文化コミュニケーション	4	400	2	李 洙任 他	
実践・放送メディアの実際と論理A—メディアリテラシーを育てる—	3	400	2	岸本 文利 他	
実践・放送メディアの実際と論理B—メディアリテラシーを育てる—	4	400	2	岸本 文利 他	

※実践講座の卒業要件に算入できる単位数は、「その他履修についての注意事項」を参照してください。  
 ※実践・マイ・キャリアデザインは、2010・2011年度に履修した場合のみ、「大学コンソーシアム京都のインターンシップ」、協定型インターンシッププログラム、BIEプログラム「Community Service Learning（ボランティア活動）」と合わせて**上限8単位**まで卒業要件単位として認定します。2009年度以前、2012年度以降に履修された場合は随意科目扱いとなります。



## 先修制

専攻科目には以下のとおり先修制が定められている科目があります。

先修制科目	履修の先修要件となる授業科目名
プログラミングおよび実習 A 2	プログラミングおよび実習 A 1
プログラミングおよび実習 B 2	プログラミングおよび実習 B 1
ビジネスコミュニケーション B (中国)	ビジネスコミュニケーション A (中国)
起業論 B	起業論 A
実践・放送メディアの実際と論理 B - メディア・リテラシーを育てる -	実践・放送メディアの実際と論理 A - メディア・リテラシーを育てる -

## その他履修についての注意事項

- (1) 外書講読科目「上級英語 R 1, R 2, S 1, S 2, G 1, G 2, W 1, W 2」および「上級外国語 A, B, C, D」は各々 8 単位まで学部選択科目として卒業要件単位に算入できます。詳細は、P.53の「選択外国語科目について」を参照してください。
- (2) 学部共通コース以外の学生が、学部共通コース科目を履修することは原則としてできませんが、特別に許可された場合にかぎり、その科目は随意科目扱い（卒業要件単位に算入できない）となりますが、受講することはできます（外国語セミナーを除く）。学部共通コース科目の履修を希望する場合は、人数調整の関係で事前に経営学部教務課へ相談に来てください。ただし、スポーツサイエンスコースの次の 4 科目（「スポーツマーケティング論」, 「スポーツマネジメント論」, 「スポーツ政策論」, 「スポーツビジネス論」）のうち、4 単位まで学部選択科目として卒業要件単位に算入できます（学部内コース生のみ対象）。
- (3) 経営学特別講義は、18 単位まで卒業要件単位に算入でき、これを超えたものは随意科目扱いとなります。なお、原則として単年度開講のため、次年度開講予定は未定です。
- (4) 実践講座は、16 単位まで卒業要件単位に算入でき、これを超えたものは随意科目扱いとなります。なお、原則として単年度開講のため、次年度開講予定は未定です。

## 演習論文提出要領（4年次生）

- (1) 演習論文を提出しなければ、演習の単位は修得できません。
- (2) 対象：演習〔4年〕受講者全員。
- (3) 論文題目提出：7月上旬（予定）に、経営学部教務課へ提出（原則として変更は認められません。提出日は、後日掲示します）。
- (4) 論文提出：12月上旬（予定）、10月頃演習担当者より配付する論文表紙シールを、各自が用意した紙ファイル（A4サイズ、左綴じ2つ穴）に貼り、経営学部教務課へ提出（提出日や紙ファイルの種類は、後日掲示します）。

### (5) 論文提出要領

できるかぎり次の要領にしたがって、演習論文要旨、目次、本文、脚注、参考文献リストをワープロまたはパソコンにて作成してください。

- 1) 用紙の種類：上質白紙
- 2) 用紙サイズ：A4判（縦置き）
- 3) 印字の要領：

#### ①演習論文要旨（P.103の「演習論文要旨作成例」参照）

- a. 記載事項：提出年度、担当者名、題目、学籍番号、氏名、要旨
- b. 印字方向：横書き
- c. 要旨字数：400字以内（40字／行×10行）、1枚
- d. 上下、左右の余白  
上下余白：35mm、左余白：30mm、右余白：25mm
- e. 文字サイズ、フォント：指定なし

#### ②本文（P.103の「本文作成例」参照）

- a. 印字方向：横書き
- b. 1ページの字数：1200字（40字／行×30行）
- c. 上下、左右の余白：  
上下余白：35mm、左余白：30mm、右余白：25mm
- d. 文字サイズ：10.5ポイントを標準的なサイズとする。
- e. 本文のフォント：“明朝体”を使うこと。
- f. 頁数：本文の各項のフッター中央部に“ページ数”を印字すること（ただし本文以外には不要）。
- g. 原則として、禁則処理をすること。

#### ③目次、脚注、参考文献リスト（P.104の「目次作成例」、「脚注作成例」、「参考文献リスト作成例」参照）

- a. 印字方向：横書き（それぞれ本文と別の用紙に印字すること）

- b. 上下左右の余白：  
 上下余白：35mm，左余白：30mm，右余白：25mm
- c. 字数，文字サイズ，フォント：指定なし
- d. 目次は論文の最初につけること。
- e. 脚注，参考文献リストは本文の最後にまとめて記載することが望ましい。

④本文の提出枚数

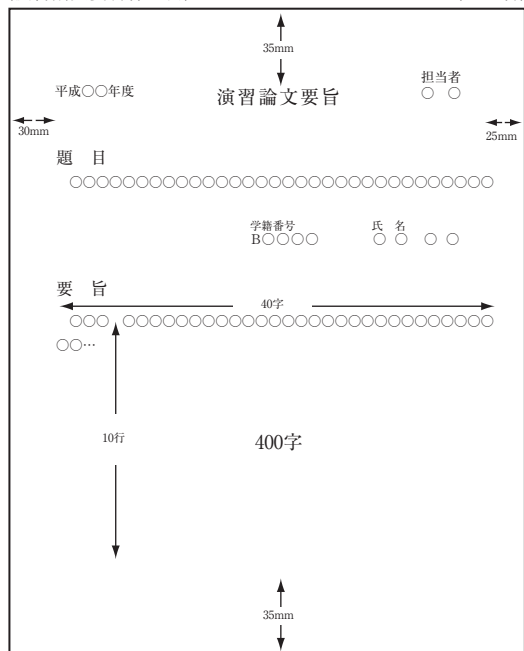
10枚（12,000字）以上16枚（20,000字）程度（本文のみの枚数であって，目次，脚注，参考文献リストは除く）。

A 4判横書400字詰経営学部論文用紙を使用する場合の提出枚数は，30枚以上50枚程度（本文のみ）とします。この場合，論文表紙シールに記入する枚数は，1200字／頁に換算した枚数を記入してください。目次，脚注，参考文献リストは，上記ワープロ（パソコン）作成例を参考に，手書きにて作成してください。手書きの場合は必ず黒のボールペンまたは万年筆を使用してください。

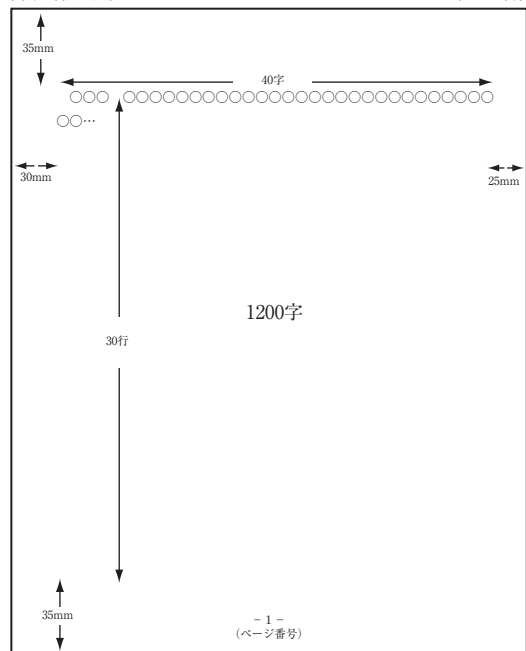
注：複数名が共同で論文を作成する場合，以下の要領にしたがってください。

- a. 演習論文要旨：各々提出してください。なおその際は，共同執筆者の氏名を本人氏名欄の下に明記してください。
- b. 本文の提出枚数は各々が上記枚数を満たさなければなりません。また，執筆担当部分を目次の余白に明記してください。
- c. 論文提出：1部で可。ただし，共同執筆者全員で（揃って）提出してください。

(演習論文要旨作成例) (A 4判)



(本文作成例) (A 4判)





さらに教授の評価を得ることによって単位が認定（修得）されます。それゆえ、以下の説明を参考にし、独創的で内容ある演習論文を作成してください。

## (2) 演習論文を作成するために

### 1) 題目（テーマ）の選定

演習論文を書くために、まず、あらかじめ題目を選定せねばなりません。題目は演習で勉強していることやそれに関する内容、自分が本当に興味を抱いていることにもとづいて選定するのが良いでしょう。指導教授の適切な助言を得て、自分が最も関心を持つ内容を正確に表現するような題目を選定することが必要です。

### 2) 資料の収集

題目が決定すれば、それに関係する適切な資料を検索・収集する作業に入ります。この作業は主に2つの方法があります。第1は題目に関係のある何冊かの書物を精読し、その中に出てくる資料をメモし、それらを検索する方法です。第2は最初から題目に関係のある資料を「文献目録」から検索する方法です。これらの方法によって、まず自分の題目にあった参考資料を図書館、資料室および各種の資料センターで的確かつ迅速に収集することが必要です。また、コンピュータを利用した資料収集も有効です。

## (3) 演習論文を書くために

### 1) 論文の構成

さて、整理し、精読した資料をもとに、論文を組み立てる作業に入ります。論文はまず、問題提起があり、それを本文で立証し、結論を持った構成でなければなりません。それゆえ、一般的には論理の構成を序論、本論、結論とするのが基本のかたちです。序論では問題提起を行い、論文の概要や目的を明らかにし、できるだけ簡単に要領よくまとめねばなりません。本論は論文の論理展開の中心部分ですから、序論での問題提起を各章節を通じて、さまざまな角度、視点から具体的に論理を展開しなければなりません。結論は締め括りの部分であり、自分の積極的、かつ独創的な考えを示すことが必要です。

### 2) 論文の推敲と表現

論文の構成が定まれば、いよいよ執筆に取りかかる作業へ移ります。一般に、文体は「～である」調が基本であり、平明な表現で、誤字や間違った言葉の使い方に極力注意し、用語の吟味にも気を配る必要があります。また、何度か読み返し、推敲を重ねることも必要です。

#### (4) 演習論文を書くための留意点

- 1) 図や表を使用する場合、出典を明らかにし、通し番号（例えば図1，表1など）をつけること。
- 2) 論文の最初に目次をつけること。
- 3) 論文の中で他人の論文や著書から引用した時は、必ず引用部分とその文献を明示すること。ことわりなしに引用すること（そのまま写すこと）は、窃盗と同じ罪をおかすことなので厳に慎むこと。
- 4) 引用の仕方はそのまま引用する場合は、邦文では「 」, 欧文では“ ”を用い、その右肩に注番号(例えば1))をつけ、本文の最後の脚注で出典を明らかにすること。
- 5) 邦文の引用文献の書き方は次のようにすること。
  - ①単行書：著者名，書名，発行所，発行年，引用のページ  
例：龍谷太郎『経営学入門』龍谷大学出版会，1993年，50ページ
  - ②論文：著者名，論文名，雑誌名，巻号，発行年月，引用のページ  
例：龍谷太郎「日本的経営について」『経営学論集（龍谷大学）』第29巻第2号，1993年4月，60ページ（なお複数ページにわたる場合は，60～62ページとすること）
- 6) 欧文の引用文献の書き方は次のようにすること。
  - ①単行書（邦訳のない場合）：著者名，書名，発行所，発行地，発行年，引用ページ  
例：Taro Ryukoku, Japanese Management, Ryukoku University Press, Kyoto, 1983, pp.25-28. (引用が1ページだけの場合は，例えばp.25とする。)
  - ②単行書で邦訳のある場合には上述の単行書のあとに括弧して次のように書くこと。  
(龍谷太郎訳『日本的経営』龍谷大学出版会，1983年，25～28ページ)
- 7) 引き続き，また重ねて引用する文献名は邦文の場合，同上ないし前掲書とし，欧文の場合はibid, ないしop. cit.,と略してもよい。ただし，前掲書（op. cit.）の場合は引用ページを書くこと。
- 8) 演習論文を作成する際に使用した参考文献は，論文の最後に邦文の場合は著者名の五十音順に，欧文の場合はアルファベット順に書くことが望ましい。

#### 〈付録〉 演習論文を書くための参考文献

- (1) 龍谷大学経営学部『Freshers' Study Guide』
- (2) 龍谷大学社会科学研究所『経済・産業情報ガイド』1992年
- (3) 木村時夫『事例レポート・論文の書き方』南雲堂，1979年
- (4) 杉原四郎，井上忠司，榎本隆司『研究レポートのすすめ－卒論・ゼミ論のまとめ方－』有斐閣，1979年

## 5. コース制

### コース制とは

コース制は学修の目標を明確にすることと、系統的な科目履修を積極的に勧めていくことを目的とした制度です。みなさんは、第4セメスターから「学部内コース」もしくは「学部共通コース」のいずれかに所属して学修を深めていくことになります。「学部内コース」「学部共通コース」とも、さらにそれぞれにいくつかのコースが設置されています。それぞれのコースによって、卒業要件単位数や演習の履修方法に違いがありますので、みなさんの学修目標に照らして適切なコース選択をしてください。コース・モデルの選択は、2年次の6月下旬から7月上旬に行います。

なお、一旦選択したコースは原則として変更できませんので、慎重にコースを選択してください。

### 学部内コース（2008年度以降入学生）

学部内コースは、経営学・会計学の特定分野をより深く専門的に学ぶためのコースです。学部内コースには、「経営コース」と「会計コース」の2つがあります。

また、経営コースには、「組織をリードする」、「市場と情報を活用する」、「世界へ羽ばたく」の3つの履修モデルがあります。

#### 経営コース「組織をリードする」履修モデルでなにを学ぶのか

企業が存続するには、利益を上げなければなりません。利益を上げるためには、生産性を高めることや、より魅力のある商品を作るなどの収益性向上にむけた工夫が必要です。

例えば、高い生産性を実現するためには、そこで働く人々を適切に管理しなければなりません。1920年代、アメリカのウェスタン・エレクトリック社では、生産性を高めるために、ホーソン実験と呼ばれる有名な実験がメイヨーという人によって行われました。彼は、工場の照明の明暗が作業効率にどのような影響を与えるのかという実験や、労働者の自由な討論により、従業員が心底にもつ不満や意見などを聞き出すという実験を行いました。また、配線工、ハンダづけ工、検査工という3つの作業集団を対象にした観察実験を行い、労働者もつ感情を明らかにしました。これらの実験結果から、メイヨーは、組織の生産性を高めるためには、賃金や労働条件ではなく、人間関係を重視せねばならないことを発見したのです。

ホーソン実験は一例ですが、この履修モデルでは、組織の運営・管理のために必須となる経営管理や人的資源管理、組織行動、経営組織などについて学びます。経営史では、実

際に行われた経営者の意思決定を中心として、企業活動を歴史的に考察します。公共経営論では、非営利組織がいかなるマネジメント手法をとっているのかを学びます。「組織をリードする」履修モデルでは、変化する現代の組織をマネジメントし、いろいろな現場でリーダーシップを発揮できる能力を身につけることを目指します。

#### 経営コース 「市場と情報を活用する」履修モデルで学ぶこと

市場には、商品が売買される市場、お金をやり取りする金融市場、さらには、人々が働く場を探し、企業が働き手を探す労働市場などさまざまな市場があります。こうした市場での取引において、企業はさまざまな情報を活用しています。例えば、みなさんがコンビニエンスストアでモノを買うとき、レジで“ピッ”という音をさせてバーコードを読み取ります。あの“ピッ”という音とともにみなさんが何を買ったのかという情報が蓄積され、最後にレジのキーを操作して、どんな世代の人が購入したのかというデータを蓄積しています。

ところで、みなさんも小学生の頃にサイコロを6回振って、「1」の出る確率は何分の1ですか？という問題を解いたことがあるでしょう。答えは6分の1です。でも、実際に6回サイコロを振って「1」は6分の1の確率で出るでしょうか。出るときもあれば、出ないときもあります。しかし、10万回や100万回降れば、「1」の出る確率は限りなく6分の1に近づきます。同様に、みなさんの家の近くのお店だけで取ったデータよりも、日本全国に点在するすべての店舗から売れた商品のデータを集める方が、サイコロの例と同じように、一般的に売れる商品が何かがわかるようになります。現代企業は、さまざまな市場や情報をうまく活用して、経営環境の変化に対応する市場戦略を策定し、それぞれの市場の特性にあわせて商品開発、マーケティング、販売促進、物流、立地などの事業活動を行っているのです。

この履修モデルでは、企業活動の舞台となる市場（金融市場、労働市場、地域社会といったさまざまな市場）や戦略策定に必要な情報の活用方法などを学びます。このように、「市場と情報を活用する」履修モデルでは、あらゆる市場と情報を創造し、マネジメントできる能力を身につけることを目指します。

#### 経営コース 「世界へ羽ばたく」履修モデルで学ぶこと

世界経済のグローバル化に合わせて、世界の企業は、国境を越え人・モノ・カネ・情報を活用し、企業経営を行っています。昨今は、日本企業が海外進出を加速させる一方で、世界各国の企業が日本へ進出してきました。また、国境を越えた企業買収も行われるようになってきました。2010年には、中国の山東如意科技集団がレナウンを子会社化してTOBが話題になりました。

一方、「世界の工場」と言われていた中国は、高い経済成長を背景に「世界の市場」へ



と変化を遂げつつあります。さらに中国の株式市場の急落が、リーマン・ショックと呼ばれる世界株安につながっていくなど、中国は世界経済において大きなウエイトを占める存在になりつつあります。また、中国に進出する日本企業は急増し、2009年現在、中国には日本企業が5,000社以上も進出していて、第2位の進出先であるアメリカを大きく引き離しています。中国へ進出する理由も大きく変化しています。以前の調査では、中国への進出目的は、ユニクロに代表されるようにコスト削減が最も多かったのですが、最近では、中国でモノを作り、中国市場で売る「現地生産・現地販売」を目的とする進出が増えてきています。このように、これからの企業経営を考える上で、欧米は言うまでもなく、中国およびアジア地域は無視できない存在になっています。

この履修モデルでは、世界経済が劇的な変化を遂げている中で、日本企業のグローバル戦略、欧米企業・アジア企業・中国企業の経営の特徴について、中国やアメリカへの短期留学を通じて学びます。このように、「世界に羽ばたく」履修モデルでは、世界や東アジアで事業展開する企業のマネジメント能力を身につけることを目指します。

### 会計コースで学ぶこと

会計学とは、企業が行った経済活動を数値によって把握、記録、分析し、その企業の財政状態や経営成績を示す財務諸表（貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書など）の概念・仕組みやその機能を学ぶ学問です。

会計学には大きく分けて2つの分野があります。一つは、企業外部の利害関係者（投資家や債権者など）に対して、企業の収益性や安全性、成長性など意思決定に役立つ材料となる情報を提供することを目的とした財務会計、もう一つは企業経営者の意思決定に役立つ情報を提供する管理会計です。

会計コースでは、会計実務を行う上で根本となり、かつ必須の知識である簿記および基礎的な会計理論に関する科目を充実させ、これらの科目を基礎に財務会計・連結会計・キャッシュフロー会計・国際会計・会計監査・管理会計などの科目を、段階的に配置し、みなさんの能力が確実にステップアップできるようにしています。

また、税理士や公認会計士といった国家資格の在学中の取得を目指して簿記、財務会計論、税法、原価計算論、会計監査論が低年次で履修できるようなカリキュラムになっています。そして、大企業の財務・経理担当者のような、より専門性が高く、かつ、国際的な会計知識を必要とする進路を志す人には、管理会計論、会計情報解読論、国際会計論などの高度な専門知識を修得できるような科目も設置しています。このように、会計コースでは職業会計人として、より高度な会計実務に適應できる能力、会計実務のさまざまな場面において生じる問題を的確に把握・分析する能力、それを解決するための判断能力、会計に関する専門的な知識と高潔な倫理観などを身につけることを目指します。

## 学部内コース（2007年度以前入学生）

学部内コースは、経営学・会計学の特定分野をより深く専門的に学ぶためのコースです。学部内コースには、「経営総合コース」と「経営専攻コース」の2つがあります。

### 経営総合コース

経営学に係るさまざまなテーマについて広く学修したいという学修目標を達成するためのコースです。特定の研究領域について深く専門的な研究をするには明確な目標設定とテーマ選択が不可欠ですが、経営総合コースでは、さまざまな学修を積み重ねながら、卒業後の進路（就職先）なども考慮して学修目標を明確化し、系統的な学修を指向していきます。経営総合コース生はコースで開講される演習を選択することができます。演習は「ⅠとⅡ（演習論文含む）」からなっていますが、「演習Ⅰ」だけの履修もできます。また、許可されれば第6セメスターから異なる担当者の「演習Ⅰ」を履修することもできます。

### 経営専攻コース

経営学の特定領域について明確な学修目標を持って、深く専門的な研究を継続して学修するためのコースです。経営専攻コース生は、演習を中心に、各自の学修目標に照らした系統的な科目履修を指導教授のもとで行い、所期の学修目標を達成します。経営専攻コース生は、コースに開講される同一担当者の「演習Ⅰ・Ⅱ」を継続して履修し、「演習論文」を提出、その評価で12単位を一括して認定されます。

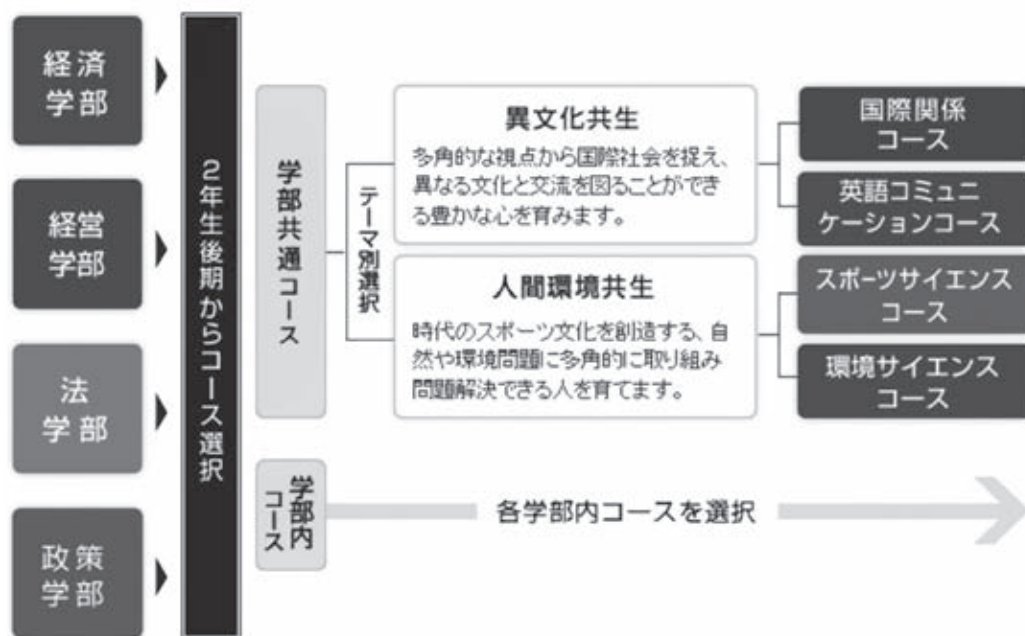
## 学部共通コース（2008年度以降入学生対象）

### (1) コースの理念・目的

大学に対する社会の要請や学生の関心、進学目的は、さまざまな社会状況や時代を敏感に反映したものとなっています。これらの要請に、従来の学部編成だけでは応えられない部分が生じています。そこで、経営学部のカリキュラムを学修する一方で、学部の枠組みを超え、自らの興味・関心に基づくあるいは自分の将来の進路に照準を合わせた講義を、系統的かつ重点的に受講できるように開設されたのが「学部共通コース」です。

「学部共通コース」では、各コース独自の科目と、本学で既に開設されている科目の中から各コースの趣旨や目的に沿った科目を選び、それらを体系化・組織化して提供するものです。学部共通コースは、「国際関係コース」「英語コミュニケーションコース」「スポーツサイエンスコース」「環境サイエンスコース」の4コースを開設しています。みなさんの進路と各コースの内容をよく確認し、検討したうえで履修してください。

### 学部共通コースの仕組み



## (2) 募集日程について

### 1) 申込受付

学部共通コース履修希望者は、下記の時期に申込を受け付けますので、忘れないようにしてください。

なお、「国際関係コース」および「英語コミュニケーションコース」の申込希望者は、定められている「コースに進むための要件」の充足見込みが必要です。(要件は、P.113学部共通コースについてを確認してください。) 申込・選考結果発表の時期、場所は以下のとおりです。

申込時期	5月上旬～中旬〈予定〉
申込場所	紫英館 1階 教学部
第1次選考結果発表時期	5月下旬〈予定〉
第1次選考結果発表場所	学部共通コース掲示板(許可予定者を発表します。)
第2次結果発表	9月上旬～中旬〈予定〉
第2次選考結果発表場所	学部共通コース掲示板(許可予定者から先修条件を満たした人を発表します。)

※なお、選考の結果、募集定員に満たない場合、追加募集を実施することがあります。

※詳細な日程については、決定次第、学部共通コース掲示板等でお知らせします。

### 2) 履修登録

履修登録は、第4セメスター登録時に行います。

### 3) 卒業要件

学部共通コースに所属している経営学部生が、経営学部を卒業するには、学部共通コースの修了条件を満たすと同時に、経営学部の卒業要件も満たさなければなりません(P.27・28を確認してください)。コース修了認定者は「学業成績証明書」「卒業・学業成績証明書」にコース修了認定に関する記載をします。

## (3) コース離脱(変更)について

学部共通コースのカリキュラムは、第4セメスターから第8セメスターの5セメスターにわたって編成されており、最後まで履修することが重要です。途中で履修を取りやめることは、その後の履修に不利になることもあります。

例えば、途中でコースを変更すると、既に修得した単位が卒業要件やコース修了要件に含まれず、「随意科目」扱いになる場合もあるので注意してください。

※コース離脱(変更)の申し出のタイム・リミットおよび手続き

やむを得ずコースを変更するのは、第4セメスター終了時までとし、それ以降の変更は認められません。コース変更を希望する場合は、「学部共通コース離脱(変更)届」を教学部に提出してください。当該コース運営委員会の議を経て経営学部教授会にて決定します。

## 6. 学部共通コースについて

### 国際関係コース

#### (1) コースの目的

国際関係コースの目的は、国際社会が直面する諸問題や世界の各地域における人々の営みを、学部の枠組みを越えて幅広くかつ専門的に学ぶことにあります。このコースでは、多様な分野の教員が講義や演習を担当し、学生はそうした多彩な教員の指導のもとで現代世界の政治・経済・文化・社会のあり方を主体的に学修・研究していきます。国際関係コースは、本学のなかで最も古く、かつ最も学際的な学部共通コースであり、長期留学や海外語学研修などを希望する学生に対して最も強力なサポートを提供しているコースでもあります。

#### (2) コースの内容と特色

コースの目的を達成するために、以下の諸点を核とするカリキュラムを編成しています。

- 1) 国際社会が直面している諸問題をさまざまな角度から総合的にとらえるために「**国際関係論Ⅰ**」「**地域研究入門**」を必修とします。
- 2) 世界の各地域の政治、経済、社会、歴史、文化などをより深く学ぶために「**地域研究**」をコースの重要な科目として位置づけます。
- 3) 書物で学ぶだけでなく、経験を通じて生きた知識を吸収し、自らの問題解決に活用する技を学ぶには、積極的に海外に出かけるのが一番です。こうして知識や体験を身につけたと認められる場合は、それを単位として修得できる「**海外研修制度**」が設けられています。海外の教育機関などで取得した修了証、または海外での研修状況をまとめたレポートなどを提出することにより、所定の基準に基づき、単位が認定されます(この制度の詳細は、教学部までお問い合わせください)。

国際関係コース コースカリキュラム体系表

コース科目	【必修科目】 「国際関係論Ⅰ」「地域研究入門」	4単位	
	【選択必修科目】 〔コース指定外国語〕 「国際関係コース開設科目および配当セメスター」参照	4単位 (※注1)	
	【選択A群】 〔地域研究〕〔学部共通特別講義〕〔学部提供演習〕〔コース内演習〕 「国際関係コース開設科目および配当セメスター」参照	24単位 (※注2)	
学部提供科目	【選択B群】 〔経済学部提供科目〕〔経営学部提供科目〕〔法学部提供科目〕 〔政策学部提供科目〕(2011年度以降入学学生のみ受講可) 「国際関係コース開設科目および配当セメスター」参照	12単位 (※注3)	
学部専攻科目	〔必修科目〕	9単位	
	〔選択必修科目〕	経営学部専攻科目一覧を参照	
	〔選択科目〕		
フリーゾーン		16単位	
教養教育科目	〔仏教の思想〕	教養教育科目開設科目一覧を参照	4単位
	〔必修外国語科目〕		12単位
	〔教養科目〕		16単位
卒業要件単位		125単位	

(※注1) 4単位以上修得した単位は、4単位までは選択A群の単位として認定します。また、8単位を超えて修得した単位は、フリーゾーンの単位として認定します。

(※注2) 24単位以上修得した単位は、フリーゾーンの単位として認定します。

(※注3) 12単位以上修得した単位は、フリーゾーンの単位として認定します。

また、選択B群の経営学部提供科目に限り、超過分の単位を、未充足の「学部選択科目」の卒業要件単位に含めることができます。

## 国際関係コース コースカリキュラム体系表

コース科目	【必修科目】 「国際関係論Ⅰ」「地域研究入門」	4単位
	【選択必修科目】 〔コース指定外国語〕 「国際関係コース開設科目および配当セメスター」参照	4単位 (※注1)
	【選択A群】 〔地域研究〕〔学部共通特別講義〕〔学部提供演習〕〔コース内演習〕 「国際関係コース開設科目および配当セメスター」参照	24単位 (※注2)
学部提供科目	【選択B群】 〔経済学部提供科目〕〔経営学部提供科目〕〔法学部提供科目〕 「国際関係コース開設科目および配当セメスター」参照	12単位 (※注3)
学部専攻科目	〔必修科目〕	8単位
	〔選択必修科目〕	経営学部専攻科目一覧を参照
	〔選択科目〕	
		20単位
フリーゾーン		16単位
教養教育科目	〔仏教の思想〕	4単位
	〔必修外国語科目〕	教養教育科目開設科目一覧を参照
	〔プログラム科目〕	
		16単位
卒業要件単位		124単位

(※注1) 4単位以上修得した単位は、4単位までは選択A群の単位として認定します。また、8単位を超えて修得した単位は、フリーゾーンの単位として認定します。

(※注2) 24単位以上修得した単位は、フリーゾーンの単位として認定します。

(※注3) 12単位以上修得した単位は、フリーゾーンの単位として認定します。

また、選択B群の経営学部提供科目に限り、超過分の単位を、未充足の「学部選択科目」の卒業要件単位に含めることができます。

## 国際関係コース 開設科目および配当セメスター

(※次年度以降は、学部共通コースの掲示板等でご確認ください。)

必修科目			
セメスター	授業科目名	単位	備考
4	国際関係論Ⅰ	2	2015年度は5セメスターにも開講
4	地域研究入門	2	

選択必修科目			
セメスター	授業科目名	単位	備考
コース指定外国語			
3	中国語セミナーA	2	<p>【登録上の注意】</p> <p>※①A～①Eおよび②～⑨の内、いずれか1つを選択し、同一グループ内から4単位履修すること。</p> <p>※①A～①Eおよび②～⑨の内、教養教育科目（選択外国語）として開講される科目の履修については、教養教育科目における先修条件に準拠します。</p> <p>※2007年度から同一言語のⅠ・Ⅱもしくは同一言語のコミュニケーションⅠ・Ⅱがセミナーの先修条件になりました。（国際関係コース生のみ）</p> <p>ただし韓国語にはコミュニケーションⅠ・Ⅱは開講されていないので、必修外国語の韓国語で先修条件を充たしてください。</p> <p>2014年度以降入学生のみ履修可</p> <p>※第3セメスターまでに履修した場合には、コース所属後にコース指定外国語に振り替わります。</p> <p>選択外国語の韓国語Ⅰ・Ⅱ・ⅢA・ⅢBは、2013年度以前入学生のみ履修可。</p> <p>2014年度以前入学生は不開講、2015年度以降入学生は廃止</p> <p>(※注1) 英語コミュニケーションコース提供科目</p>
4	中国語セミナーB	2	
3	中国語セミナーC	2	
4	中国語セミナーD	2	
3	海外中国語研修講座	2	
3	ドイツ語セミナーA	2	
4	ドイツ語セミナーB	2	
3	ドイツ語セミナーC	2	
4	ドイツ語セミナーD	2	
3	フランス語セミナーA	2	
4	フランス語セミナーB	2	
3	フランス語セミナーC	2	
4	フランス語セミナーD	2	
3	スペイン語セミナーA	2	
4	スペイン語セミナーB	2	
3	スペイン語セミナーC	2	
4	スペイン語セミナーD	2	
3	韓国語セミナーA	2	
4	韓国語セミナーB	2	
3	韓国語セミナーC	2	
4	韓国語セミナーD	2	
3	ポルトガル語Ⅰ	2	
4	ポルトガル語Ⅱ	2	
5	ポルトガル語ⅢA	2	
6	ポルトガル語ⅢB	2	
3	ロシア語Ⅰ	2	
4	ロシア語Ⅱ	2	
5	ロシア語ⅢA	2	
6	ロシア語ⅢB	2	
3	韓国語Ⅰ（選択）	2	
4	韓国語Ⅱ（選択）	2	
5	韓国語ⅢA（選択）	2	
6	韓国語ⅢB（選択）	2	
3	海外英語研修講座	2	
5	英語ⅢR1	2	
6	英語ⅢR2	2	
5	英語ⅢW1	2	
6	英語ⅢW2	2	
5	英語ⅢS1	2	
6	英語ⅢS2	2	
5	英語ⅢG1	2	
6	英語ⅢG2	2	
4	英語コミュニケーションⅠ	2	
5	英語コミュニケーションⅡ	2	
5	Intercultural Discussion（※注1）	2	
4	中国語コミュニケーションⅠ	2	
5	中国語コミュニケーションⅡ	2	
4	ドイツ語コミュニケーションⅠ	2	
5	ドイツ語コミュニケーションⅡ	2	
4	スペイン語コミュニケーションⅠ	2	
5	スペイン語コミュニケーションⅡ	2	
4	フランス語コミュニケーションⅠ	2	
5	フランス語コミュニケーションⅡ	2	

(※注1) 履修に際しては、「英語コミュニケーションコース開設科目および配当セメスター」の(※注1)をよく読んでください。



選 択 科 目 A 群				
セメスター	授業科目名	単位	備 考	
地 域 研 究				
4	ヨーロッパ研究A	2	2015年度は5セメスターに開講 2015年度は4セメスターで開講	
5	ヨーロッパ研究B	2		
4	ヨーロッパ研究C	2		
5	ヨーロッパ研究D	2		
4	東アジア研究A	2		
5	東アジア研究B	2		
4	東南アジア研究A	2		
5	東南アジア研究B	2		
4	北米研究A	2		
5	北米研究B	2		
4	中南米研究A	2		
5	中南米研究B	2		
4	南北問題研究A	2		
5	南北問題研究B	2		
4	異文化研究A	2		
5	異文化研究B	2		2015年度は不開講
4	情報・コミュニケーションの技法	2		隔年開講・2015年度不開講
4	多文化映像論A	2		2015年度は不開講
5	多文化映像論B	2		
5	フィールドワーク実習	2		
5	国際関係論Ⅱ	2		
4	現代国際関係史	2		
5	国際ジャーナリズム論	2		
学 部 共 通 特 別 講 義				
5～6	学部共通特別講義Ⅰ ※注1	4	英語コミュニケーションコース提供科目 2015年度は5セメスターのみ開講	
5～6	学部共通特別講義Ⅱ	4	2015年度不開講	
4	学部共通特別講義Ⅲ	2	2015年度不開講	
4	学部共通特別講義Ⅳ	2		
4	学部共通特別講義Ⅴ	2		
4	学部共通特別講義Ⅵ	2	2015年度不開講	
4	学部共通特別講義Ⅶ	2	2015年度不開講	
演 習				
4～5	国際関係コース演習Ⅰ(特別演習Ⅰ) ※注2	4	演習Ⅱと卒業研究は継続履修一体科目 (両科目を修得して8単位認定)	
6～7	国際関係コース演習Ⅱ(特別演習Ⅱ) ※注2	4		
8	卒業研究(特別演習Ⅲ) ※注2	4		
4～8	経済学部提供演習	12	開講形態は各学部の開講形態に準ずる(※注3)	
4～8	経営学部提供演習	12		
4～8	法学部提供演習	10		
4～8	政策学部提供演習	10		

(※注1) 履修に際しては、「英語コミュニケーションコース開設科目および配当セメスター」の(※注1)をよく読んでください。

(※注2) 〈 〉内は、学則科目名。

(※注3) 【経済学部提供演習】開講形態は「国際関係コース演習Ⅰ・Ⅱ」に準じます。学則名称は「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」「卒業研究」です。

【経営学部提供演習】演習は、4～8セメまで演習を履修し、演習論文を提出することで12単位が一括認定されます。

【法学部提供演習】【政策学部提供演習】「演習Ⅰ」(4単位)、「演習Ⅱ(卒業研究を含む)」(6単位)の計10単位となります。

選 択 科 目 B 群			
セメスター	授業科目名	単位	備 考
経済学部提供科目			
4	アメリカ経済史	4	2015年度は5・6セメスターで開講
5	国際金融論	4	2015年度は6セメスターで開講
4	国際協力論	4	
3	アジア経済史	4	2015年度は4セメスターに開講
4	ヨーロッパ経済史	4	2015年度は事前登録必要
4	地域経済論	4	
4	アジア経済論（※注1）	4	2015年度は5セメスターに開講
4	比較経済論（※注1）	4	2015年度は5セメスターで開講
4	開発経済学	4	
4	ヨーロッパ経済論（※注1）	4	
5	農業・資源経済学	4	
3	日本経済史	4	
3	経済地理学	4	2015年度は5・6セメスターで開講
5	経済思想史	2	
3	社会調査の技法	2	事前登録必要
4	フィールドワークの技法	2	事前登録必要
経営学部提供科目			
4	国際経営論	2	
6	多国籍企業論	2	
5	国際比較経営史	2	
5	国際経営戦略論	2	
5	国際比較社会論	2	
5	アジア企業経営論	2	2015年度は第6セメスターで開講
法学部提供科目			
4	国際法Ⅰ	4	
5	国際法Ⅱ（※注2）	2	
6	国際法Ⅲ（※注2）	2	
6	国際私法	4	
6	国際政治論	4	
3	アフリカ政治論A	4	2015年度は4セメスターで開講・「アフリカ政治論」既修得者は履修不可
3	アフリカ政治論B	2	2015年度不開講・「アフリカ政治論」既修得者は履修不可
5	国際取引法	2	
4	開発援助論	2	2015年度は第5セメスターで開講
3	中東政治論	2	
6	アジア政治論	4	
4	中国政治論	2	
2	アメリカ政治論	2	
3	ヨーロッパ政治論	2	
5	国際環境法（※注3）	2	
5	現代中国の法と社会	2	
政策学部提供科目（2011年度以降入学生対象）			
4	文化・観光政策	2	
4	比較地域政策論	2	
4	アジアの地域・都市政策	2	
5	欧州の地域・都市政策	2	
5	米国の地域・都市政策	2	

（※注1）「アジア経済論」「比較経済論」「ヨーロッパ経済論」は2011年度から単位数変更になりました。2010年度までに同科目の単位を修得した場合は、単位数変更後の科目は履修できません。

（※注2）国際法Ⅱ、Ⅲの履修は、国際法Ⅰを履修することが望ましいです。  
内容は、シラバスを参照してください。

（※注3）「国際環境法入門」から名称変更したため、「国際環境法入門」既修得者は履修できません。

## 国際関係コースの履修について

(1) 募集定員 90名

(2) コースへ進むための先修科目

第3 Semester終了までに「必修外国語（英語・初修外国語）」を4単位以上修得していること。ただし、外国人留学生（正規留学生）で本コースを志望する人はこの限りではありません。

(3) 演習について

演習には、国際関係コース演習と学部提供演習の2種類があり、そのうちどちらか一方を履修することができます。

1) 国際関係コース演習Ⅰ・Ⅱ

「演習Ⅰ」（第4～第5 Semester 配当，4単位）、「演習Ⅱ」（第6～第7 Semester 配当，4単位）および「卒業研究」（「演習Ⅱ」を受講した者が第8 Semesterの個人指導を受けて4単位）からなります。第5 Semester終了時に「演習Ⅰ」受講者の評価が行われます。この評価に基づいて、「演習Ⅱ」および「卒業研究」を受講できる人と受講できない人とに区分されます（評価基準は以下のとおり）。

したがって、「演習Ⅰ」受講者全員が自動的に「演習Ⅱ」および「卒業研究」を受講できるとは限らないので注意してください。また、「演習Ⅱ」と「卒業研究」は継続履修一体科目であり、両方を修得することによって8単位が認定されます（「演習Ⅱ」の単独受講のみでは単位認定されないので注意してください）。

演習Ⅰの評価と演習Ⅱ・卒業研究の履修の可否

「演習Ⅰ」の評点	「演習Ⅰ」の評価	「演習Ⅰ」の認定単位	演習Ⅱ・卒業研究の履修の可否
80～100	合格	4	可能
70～79	合格	4	
60～69	合格	4	
59以下	不合格	0	不可能

2) 学部提供演習

この演習は所属学部に限らず、他学部の提供演習も履修可能です。ただし、開講形態は、演習提供学部により異なりますので、「国際関係コース開設科目および配当 Semester」の（※注3）をよく読んで履修を決定してください。また、所属学部の必修科目と同一曜講時で開講されていないことも、必ず確認してください。

## 英語コミュニケーションコース

### (1) コースの目的

日本の英語学修システムにはおよそ百年の歴史がありますが、その内容は従来「読む」こと、言い換えれば「受信」のための学修が主体でした。いま、真の異文化交流が叫ばれるとき、「発信」のための英語の必要性がますます痛感されています。本学の英語教育体制もここ十数年にわたり、必修部分に種々のオプションを用意して、このニーズに応えようとしてきました。

しかし、学生の適性や各人の目指す進路の多様性を考えれば、このようなオプションの到達目標設定には限度があります。そこで、適性と意欲をもつ学生諸君のために、「英語コミュニケーションコース」が開設されました。

このコースのカリキュラムは主として、「発信」のための口語英語技能修得という趣旨を徹底させたものです。

しかしながら、もちろん言語の背後には思想があり、外国語の背景には外国文化があります。外国文化に対する激しい好奇心と勉学意欲なしに、外国語を深く学修することはできません。また、「発信」ということになれば、日本についての問題意識も各自自分の中に育てなければなりません。「英語コミュニケーションコース」設置科目の中にも文化を学ぶ科目が用意されていますが十分ではありません。学生諸君がその点に十分留意し、関連科目を適切に選択履修することにより、「技能」修得を主たる目標とする「英語コミュニケーションコース」での学修の成果をより内実あるものにしてほしいと思います。

コースカリキュラム体系表

コース科目	【必修】 Oral Communication I A (4単位) Oral Communication I B (4単位) Writing I (2単位) Oral Communication II A (4単位) Oral Communication II B (4単位) Writing II (2単位)	20単位	
	【選択】 「英語コミュニケーションコース開設科目および担当セメスター」 参照		28単位
学部専攻科目	〔必修科目〕	9単位	
	〔選択必修科目〕	経営学部専攻科目一覧を参照	10単位
	〔選択科目〕		14単位
フリーゾーン		12単位	
教養教育科目	〔仏教の思想〕	教養教育科目開設科目一覧を参照	4単位
	〔必修外国語科目〕		12単位
	〔教養科目〕		16単位
卒業要件単位		125単位	

※選択科目28単位を超えて修得した単位は、フリーゾーンの単位として認定します。

※コース必修科目は、指定クラス、指定セメスターで履修してください。

コースカリキュラム体系表

コース科目	【必修】 Oral Communication I A (4単位) Oral Communication I B (4単位) Writing I (2単位) Oral Communication II A (4単位) Oral Communication II B (4単位) Writing II (2単位)		20単位
	【選択】 「英語コミュニケーションコース開設科目および担当セメスター」 参照		
学部専攻科目	〔必修科目〕	経営学部専攻科目一覧を参照	8単位
	〔選択必修科目〕		4単位
	〔選択科目〕		20単位
フリーゾーン			12単位
教養教育科目	〔仏教の思想〕	教養教育科目開設科目一覧を参照	4単位
	〔必修外国語科目〕		12単位
	〔プログラム科目〕		16単位
卒業要件単位			124単位

※選択科目28単位を超えて修得した単位は、フリーゾーンの単位として認定します。

※コース必修科目は、指定クラス、指定セメスターで履修してください。

## 英語コミュニケーションコース開設科目および配当 Semester

(※次年度以降は、学部共通コースの掲示板等でご確認ください。)

Semester	授業科目名	単位	開講回数	備考
必修科目 (20単位)				
4	Oral Communication I A	4	週2回	必修10単位
	Oral Communication I B	4	週2回	
	Writing I	2	週1回	
5	Oral Communication II A	4	週2回	必修10単位
	Oral Communication II B	4	週2回	
	Writing II	2	週1回	
選択科目 (28単位以上)				
4～	米国文化 I	2	週1回	2年生に強く推奨 (後期のみ開講)
	英国文化 I	2		
5～	米国文化 II	2	週1回	3年生に強く推奨 (前期のみ開講)
	英国文化 II	2		
4～	English in the World	2	週1回	前期と後期に同一科目を開講
	文化比較	2		
	Intensive Reading	2		
	Reading Fluency	2		後期のみ開講
	Communicative Grammar I	2		
5～	英米事情	2	週1回	前期と後期に同一科目を開講
	Business Writing	2		
	Critical Essay	2		
	Process Writing	2		
	Public Speaking	2		前期のみ開講
	Debate and Discussion	2		
	Dynamics of Expression	2		
	Communicative Grammar II	2		
6～	Intercultural Discussion (※注1)	2		後期のみ開講
5～	学部共通特別講義 I (※注1)	4	週2回	前期のみ開講
4～	学部共通特別講義 II (※注2)	2		※2015年度は後期のみ開講
6～	学部共通特別講義 III	2	週1回	後期のみ開講
	学部共通特別講義 IV	2		
	学部共通特別講義 V	2		
5～	海外研修 (※注3) (研修先は変更・追加する場合があります)	4	集中	海外研修は4～6週間を予定。 4単位まで修了要件単位として認定。
5～	英語資格試験セミナー (※注4)	2	集中	
6	Seminar I	2	週1回	
7	Seminar II	2	週1回	
8	卒業研究 (※注5)	4	週1回	
5～	Forum (※注6)	2	週1回	前期のみ開講

(※注1) 受講人数は、下記受講資格のいずれかを満たす学生で、上限15名（うち留学生は全体の3分の1以内）程度とし、正規・交換留学生を含む希望者が制限人数を上回った場合は、主に下記受講資格の優先順位と志望理由の内容で登録許可者を選考します。

ただし、留学生受講者の選考は、英語で日常会話ができる程度を目安とし、担当教員による面接を行います。

**【受講資格】**

(1) 長期海外留学経験者

英語が堪能であり、海外（英語でのプログラムに限る）の高校または大学などで半年以上学んでいること。

(2) 短期海外留学経験者

海外への留学経験（英語でのプログラムに限る）が2ヶ月以上半年未満であり、TOEFL®スコア Computer-based score 173以上（Paper-based score 500以上）であること。

(3) 海外への留学経験はないが、TOEFL®スコアがComputer-based score 173以上（Paper-based score 500以上）であること。

(4) 面接

(※注2) 2014年度以前に「学部共通特別講義Ⅱ（4単位）」を履修した学生は、「学部共通特別講義Ⅱ（2単位）」は受講できません。

(※注3) 「海外研修」は、125ページの「海外研修について」を参照してください。

(※注4) 「英語資格試験セミナー」を第3セメスターまでに履修した場合は、コース所属後に、自動的にコース選択科目として取り扱われます。コース所属後の履修（4セメスター以降）は、コースの登録コードで履修登録してください。

(※注5) (1) 「卒業研究」を履修するには、原則として「SeminarⅡ」の登録が必要です。「SeminarⅡ」の登録時に「卒業研究」の登録も行ってください。

(2) 卒業研究は、「SeminarⅡ」の担当者に個別指導を受け、研究論文を提出する形態をとります。

(3) 留学後（帰国後）の「卒業研究」の履修について

事前に教学部窓口まで申し出てください。（指導教員の許可が必要です。）

(4) 留学による「卒業研究」の履修について

4年次に留学する学生は「SeminarⅡ（7セメ配当）」は履修できませんが、以下の手続きを行うことにより、「卒業研究」の履修が可能となります。

《手続き方法》

1) 「卒業研究」の単位認定希望者は、留学前に指導教員に研究計画書を提出してください。

2) 指導教員は研究計画書に対する指導計画書を作成し、留学中も指導を行います。

3) 学生は、中間報告書を指導教員に提出してください。

4) 「卒業研究」を指導教員に提出してください。

(※注6) 半期で2～3回程度のゲストスピーカーを招いた講演会や報告会を開催し、講演会の後に討論、レポートの提出、授業を行い、それを担当者が評価します。



## 海外研修について

海外研修の受講を希望する人は、研修説明会（夏期：4月中旬，春期：10月上旬に開催）に必ず出席し、研修期間は英語コミュニケーションコース担当教員、教学部またはグローバル教育推進センターに問い合わせてください。

詳細な日程は、英語コミュニケーションコース掲示板を参照してください。

（※）夏期の海外研修は、サマーセッションと期間が重複する場合があります。サマーセッションは履修辞退ができないため（履修辞退対象外科目）、その場合は、サマーセッションを優先してください。

研修期間：4～6週間

- ①夏期休業期間（8月～9月）〈(参考) 研修説明会例年4月中旬〉
- ②春期休業期間（2月～3月）〈(参考) 研修説明会例年10月上旬〉

**研修先**（当該年度の研修先は、グローバル教育推進センターまたは研修説明会でお知らせします。）

〈参考（2014年度研修先）〉

- ・ University of Manitoba (CANADA)
- ・ UCLA Extension (USA)
- ・ UC Davis Extension (USA)
- ・ Canterbury Christ Church University (UK)
- ・ University College Cork (IRELAND)
- ・ Deakin University (AUSTRALIA)

**研修先** 他当該年度の研修先は、国際部または研修説明会でお知らせします。

〈参考（過去の研修先）〉

- ・ York University (CANADA)
- ・ University of British Columbia (CANADA)
- ・ Adelphi University (USA)
- ・ UC Santa Barbara Extension (USA)
- ・ University of Pennsylvania (USA)
- ・ University of Westminster (UK)
- ・ University of Edinburgh (UK)
- ・ University of the Sunshine Coast (AUSTRALIA)
- ・ University of Queensland (AUSTRALIA)
- ・ RMIT University (AUSTRALIA)
- ・ Edith Cowan University (AUSTRALIA)
- ・ Griffith University (AUSTRALIA)

- ・ Christchurch Polytechnic Institute of Technology (NEW ZEALAND)
- ・ University of Auckland (NEW ZEALAND)

履修登録：研修説明会にて配布の参加申込書を提出してください。

※Web履修登録は不要です。

成績評価：研修に行った学期で認定します。

- ①夏期休業期間：前期
- ②春期休業期間：後期

## 英語コミュニケーションコース生のBIE Programへの参加について

BIE Programに参加した場合、「Semester program」のみ英語コミュニケーションコース科目での単位認定を行います。

BIE program「Semester program」の詳細は、グローバル教育推進センターで配付している「留学ガイド」やグローバル教育推進センターホームページ（URL <http://intl.ryukoku.ac.jp>）を参考にしてください。

## 英語コミュニケーションコースの履修について

### (1) 募集定員 60名

※コース所属希望者には試験を行い、指導の参考にすると同時に、応募者多数の場合は選考基準の一部として用いることもあります。

### (2) 先修条件

#### 1) コースに進むための先修科目

第3 Semester 終了までに、必修外国語(英語) 4単位を修得していること。

#### 2) 次のいずれかのスコアをもっている場合は、無条件に受け入れます。

・ TOEFL® ITPスコア420以上

・ TOEFL®スコア Computer-based score 110以上 (Paper-based score 420以上)

#### 3) ただし、外国人留学生(正規留学生)で、1), 2) の条件をを満たさない場合でも、面接などを行い、受け入れる場合があります。

### (3) コース修了条件

1) コース必修科目 20単位 (開設科目一覧表を参照)

2) コース選択科目 28単位以上 (開設科目一覧表を参照)

合計 48単位以上

コースの科目各のうち、一部成績表の記載を短縮しています。

学則・科目名	システム表示上名称
Oral Communication I A	Oral Com. I A
Oral Communication I B	Oral Com. I B
Oral Communication II A	Oral Com. II A
Oral Communication II B	Oral Com. II B
Intercultural Discussion	Interc. Disc. ※
Debate and Discussion	Debate & Dis. ※
Dynamics of Expression	Dynamic. Expres. ※
Communicative Grammar I	Communic. Gram I ※
Communicative Grammar II	Communic. Gram II ※
English in the World	Engl. in World ※
Intensive Reading	Intens. Reading ※

※2012年度前期以前の成績表より、表示を若干変更しています。

## スポーツサイエンスコース

### (1) コースの目的

フィットネスクラブに入会する高齢者，そして，フットサルに参加する若者の増加などに見られるように，今日，スポーツは多くの人々にとってなくてはならないものになっています。そうした「するスポーツ」に限らず，メディアを通して，あるいは競技場での「みるスポーツ」も，また国民生活に深く浸透しつつあります。

こうしたスポーツへの期待と関心の高まりは，今世紀にはますます拡大していくものと思われれます。そうしたとき，以下にあげるような問題を解決することが必要です。

- 1) 競技力向上のための科学的で合理的なコーチングやトレーニング方法の確立。
- 2) 幼児から高齢者にいたるまでの，ライフステージやライフスタイルに対応した健康増進のための運動プログラムの開発。
- 3) これらの知識を現場で使いこなし，普及していくことのできるスポーツ指導者の育成。
- 4) さまざまな分野に広がり重要度を増しつつあるスポーツビジネスやスポーツ行政における，経営・管理能力と企画・調整能力を兼ね備えた人材の育成。
- 5) スポーツ文化に関する多方面からの調査・研究の推進と，その成果に基づく幅広く奥深い知識と教養を身に付けた人材の育成。

スポーツサイエンスコースは，まさにこうした時代の要請を視野に入れつつ，講義や実験・実習をとおして幅広い教養と高度な専門的知識・技能を修得してもらうためのものです。

常日頃スポーツを実践したりスポーツに興味・関心を持つ学生諸君が，将来，さまざまなスポーツ関連諸分野での有能な働き手として活躍してもらいたいと願っています。

スポーツサイエンスコースカリキュラム体系表

コース科目	【選択必修科目】		4科目 10単位
	<p>○「スポーツサイエンスコース演習Ⅰ」</p> <p>○「現代スポーツ論」「近代スポーツ史」のどちらか1科目を必ず修得してください。</p> <p>○「身体運動の生理学」「身体運動の機能解剖学」「身体運動の制御と学習」のいずれか1科目を必ず修得してください。</p>		
	【選択】		30単位
	「スポーツサイエンスコース開設科目および担当semester」を参照してください。		
学部専攻科目	〔必修科目〕	経営学部専攻科目一覧を参照してください。	9単位
	〔選択必修科目〕		10単位
	〔選択科目〕		14単位
フリーゾーン			12単位
教養教育科目	〔仏教の思想〕	教養教育科目開設一覧を参照してください。	4単位
	〔必修外国語科目〕		12単位
	〔教養科目〕		24単位
卒業要件単位			125単位

履修一般

教養教育科目

専攻科目

学部共通コース

他大学での学修

教職課程・その他

経営学研究科

学生生活

Q and A

スポーツサイエンスコースカリキュラム体系表

スポーツサイエンスコースは、2009年度より新カリキュラムとなりました。科目履修にあたっては「スポーツサイエンスコース開設科目および配当セメスター（2009年度以降）」の備考欄をよく読んで間違いのないよう履修登録してください。

コース科目	<b>【選択必修科目】</b> <input type="radio"/> 「スポーツサイエンスコース演習Ⅰ」 <input type="radio"/> 「現代スポーツ論」「近代スポーツ史」のどちらか1科目を必ず修得してください。 <input type="radio"/> 「身体運動の生理学」「身体運動の機能解剖学」「身体運動の制御と学習」のいずれか1科目を必ず修得してください。	4科目 10単位	
	<b>【選択】</b> 「スポーツサイエンスコース開設科目および配当セメスター」を参照してください。	30単位	
学部専攻科目	[必修科目]	経営学部専攻科目一覧を参照してください。	8単位
	[選択必修科目]		4単位
	[選択科目]		20単位
フリーゾーン			12単位
教養教育科目	[仏教の思想]	教養教育科目開設一覧を参照してください。	4単位
	[必修外国語科目]		12単位
	[プログラム科目]		24単位
卒業要件単位			124単位

## スポーツサイエンスコース 開設科目および配当セメスター（2009年度以降）

（※次年度以降は、学部共通コースの掲示板等でご確認ください。）

選 択 必 修 科 目（4科目10単位以上）				
セメスター	授業科目名	単位	備 考	
4	身体運動の生理学	2	1科目（2単位）は必ず修得すること 2015年度は第6セメスター開講	4科目（10単位）は必ず修得すること
4	身体運動の機能解剖学	2		
4	身体運動の制御と学習	2		
4	現代スポーツ論	2		
4	近代スポーツ史	2		
4・5	スポーツサイエンスコース演習Ⅰ〈特別演習Ⅰ〉	4		
選 択 科 目（30単位以上）				
4	スポーツ栄養学	2		
4	スポーツビジネス論	2	「スポーツ産業論（4単位）」既修得者は受講不可	
4	学部共通特別講義Ⅲ	2	2015年度は不開講	
5	スポーツ競技力論	2		
5	スポーツマネジメント論	2		
5	エクササイズテクニク ※1	2	「ストレングス&コンディショニング実習」既修得者は受講不可	
5	スポーツメディア論	2		
5	スポーツ医学	2	2015年度は第6セメスター開講	
5	スポーツ統計学 ※1	2		
5	スポーツ政策論	2	「スポーツ政策論（4単位）」既修得者は受講不可	
5	スポーツトレーニングの原理	2	「スポーツトレーニング論（4単位）」既修得者は受講不可	
5	健康スポーツ論	2	「健康スポーツ論（4単位）」既修得者は受講不可	
5	体力学 ※1	2	2015年度は第6セメスター開講、「体力学（4単位）」既修得者は受講不可	
5	フィットネスプログラミングⅠ	2	「フィットネスプログラミングの基礎」既修得者は受講不可	
5	スポーツ心理学Ⅰ	2	「スポーツ心理学（4単位）」既修得者は受講不可	
5	学部共通特別講義Ⅰ（プロスポーツビジネス研究）	4or2	2015年度不開講、「学部共通特別講義Ⅰ（メジャーリーグビジネス研究2単位として開講）（2単位）」既修得者は受講不可	
6	スポーツマーケティング論	2		
6	スポーツ法学	2		
6	バイオメカニクス ※1	2		
6	地域スポーツ論	2	「スポーツ政策論（4単位）」既修得者は受講不可	
6	スポーツ文化論	2		
6	スポーツトレーニングの方法	2	「スポーツトレーニング論（4単位）」既修得者は受講不可	
6	栄養と健康	2	「健康スポーツ論（4単位）」既修得者は受講不可	
6	スポーツ生理学	2	2015年度は第5セメスター開講	
6	フィットネスプログラミングⅡ ※1	2	「フィットネストレーニング実習」既修得者は受講不可	
6	スポーツ心理学Ⅱ	2	「スポーツ心理学（4単位）」既修得者は受講不可	
5・6	インターンシップ実習	4		
6	学部共通特別講義Ⅱ（水泳）※1	4or2	2単位として開講 ※3	
6	学部共通特別講義Ⅳ（スポーツ産業の現状と課題）	2		
6	学部共通特別講義Ⅴ	2	2015年度は不開講	
6・7	スポーツサイエンスコース演習Ⅱ〈特別演習Ⅱ〉※2	4	※4	
8	卒業研究〈特別演習Ⅲ〉※2	4	※4	

※1 次の科目は、事前登録および志望理由書によって受講制限を行います。

- |                  |                   |
|------------------|-------------------|
| ○「エクササイズテクニク」    | ○「バイオメカニクス」       |
| ○「体力学」           | ○「フィットネスプログラミングⅡ」 |
| ○「学部共通特別講義Ⅱ（水泳）」 | ○「スポーツ統計学」        |

※2 く）内は、学則科目名。

※3 既に「学部共通特別講義Ⅱ（運動とライフスタイル）」を修得した学生も履修できます。

※4 「スポーツサイエンスコース演習Ⅱ」および「卒業研究」は、「スポーツサイエンスコース演習Ⅰ」を修得しなければ履修できません。また、「スポーツサイエンスコース演習Ⅱ」と「卒業研究」は、両方を履修・修得することによって8単位が認定されます。（「スポーツサイエンスコース演習Ⅱ」の単独受講のみでは単位認定されないので注意してください。）

〈備考〉

- 若干の科目については、集中講義として開講する場合があります。
- 選択必修科目を10単位を超えて履修した場合には、選択科目の単位として認定されます。
- 選択科目30単位を超えて履修した場合には、フリーゾーンの単位として認定されます。

## スポーツサイエンスコースの履修について

### (1) 募集定員 80名程度

ただし、応募者が定員を大幅に超過した場合、「志望理由書」によって選考することがあります。

### (2) カリキュラムについて

#### 1) 選択必修科目【10単位以上】

- ①「現代スポーツ論」(2単位)または、「近代スポーツ史」(2単位)のうち、どちらか1科目を修得してください。
- ②「身体運動の生理学」(2単位),「身体運動の機能解剖学」(2単位),「身体運動の制御と学習」(2単位)のうち、いずれか1科目を修得してください。
- ③「スポーツサイエンスコース演習Ⅰ」(4単位)の履修を勧めます。
- ④選択必修科目を10単位を超えて履修した場合は、選択科目の単位として認定します。

#### 2) 選択科目【30単位以上】

- ①選択科目群の中から30単位以上を修得してください。
- ②「スポーツサイエンスコース演習Ⅱ」と「スポーツサイエンスコース演習Ⅲ」(あわせて8単位)の履修を勧めます。
- ③選択科目を30単位以上修得した場合は、フリーゾーンの単位として認定します。

#### 3) 「インターンシップ実習」(4単位)について

2009年度より、スポーツ分野におけるキャリア形成科目としてインターンシップ科目を設置しています。本学インターンシッププログラムの1つである「体験型インターンシップ」の「協定型インターンシップ」のうち、本コースが指定する企業・団体などをインターンシップ先とし、合格として認定された場合、スポーツサイエンスコース選択科目「インターンシップ実習」(4単位)として単位認定します。

また、2010年度・2011年度に経営学部専攻科目「実践・マイ・キャリアデザイン」の単位を修得した場合は、これも含めて上限8単位しか認定されません。

#### 4) 「スポーツサイエンスコース演習Ⅱ」を登録する場合、「スポーツサイエンスコース演習Ⅰ」を修得していなければなりません。

#### 5) コース修了条件

選択必修科目、選択科目あわせて40単位以上を修得しなければなりません。



### (3) 学修上の注意

- 1) 選択必修科目は、スポーツ科学のさまざまな分野の基礎となる科目なので、すべて履修することを勧めます。
- 2) 「スポーツサイエンスコース演習Ⅱ」の履修を希望する学生は、「近代スポーツ史」「スポーツ政策論」「スポーツ産業ビジネス論」「健康スポーツ論」「体力学」「スポーツ生理学」「スポーツトレーニング論」の中から、関係する科目を履修することを勧めます。
- 3) 「スポーツサイエンスコース演習Ⅰ」(4単位)、「スポーツサイエンスコース演習Ⅱ」と「スポーツサイエンスコース演習Ⅲ(卒業研究)」(あわせて8単位)は原則として配当semester以外での受講はできません。また「スポーツサイエンスコース演習Ⅱ」と「スポーツサイエンスコース演習Ⅲ(卒業研究)」(あわせて8単位)は原則として連続受講してください。留学等により連続受講できない場合は、指導教員に相談の上、教学部窓口まで申し出てください。
- 4) 「健康運動実践指導者」, 「アシスタントマネジャー」, 「トレーニング指導者」, 「CSCS」, 「NSCA-CPT」の資格を取得したい学生は、以下に記載してあるそれぞれの解説をよく読んで必要な科目を履修してください。

#### 『健康運動実践指導者』『アシスタントマネジャー』『トレーニング指導者』などの資格取得希望者へー科目履修上の注意ー

スポーツサイエンスコースには、『健康運動実践指導者』『アシスタントマネジャー』『トレーニング指導者』などの資格取得を希望する学生に対応したカリキュラムが用意されています。それぞれの資格取得に必要な科目をあらかじめ確認し、科目の履修登録を行ってください。

#### 『健康運動実践指導者』について

スポーツサイエンスコースは、(財)健康・体力づくり事業財団が資格認定する『健康運動実践指導者』の養成校(受験要件としての講習会免除)として、体育学部やスポーツ系学部と同様に認定されています。

健康運動実践指導者の資格試験の受験を希望する人は、受験条件となっている科目をすべて計画的に履修してください。

#### (1) 健康運動実践指導者の資格認定とは

健康運動実践指導者とは、医学的基礎知識、運動生理学の知識、健康づくりのための運動指導の知識・技術などをもち、健康づくりを目的として作成された運動プログラム

に基づき、ジョギング、エアロビック・ダンス、水泳および水中運動等のエアロビック・エクササイズ、ストレッチング、筋力、筋持久力トレーニングなどの補強運動の実践指導を行うことができると財団法人健康・体力づくり事業財団から認められた人に与えられます。

主として、健康増進センター、保健所、市町村保健センター、民間健康増進施設（フィットネスクラブなどの施設）などにおいて、健康づくりのための運動の実践的指導で活躍している人や、将来そのような活動に携わりたいと思っている人が、この資格を取得しています。現在、財団法人健康・体力づくり事業財団には、全国で22,000名の健康運動実践指導者が登録されています。

## (2) 健康運動実践指導者養成校とは

健康運動実践指導者の資格は、資格認定試験に合格すれば得られます。ところが、この認定試験の受験資格を得るためには『健康運動実践指導者養成講習会』（講義17単位、実習16単位の合計33単位・受講料131,000円）を受講しなければなりません。

ただし、財団法人健康・体力づくり事業財団が健康運動実践指導者養成講習会のカリキュラムと同等以上の科目を設置している大学などを健康運動実践指導者養成校として認定した場合は、この講習会の受講が免除されます。

本学は『健康運動実践指導者養成校』として認定されましたので、スポーツサイエンスコース生は、下記の科目を受講し単位を修得すれば、『健康運動実践指導者養成講習会』を受講しなくても資格認定試験の受験資格が与えられます。（受講料が不要となります）

## (3) 資格試験の受験資格（養成講習会受講免除）を得るために必要な科目

「身体運動の生理学」、 「身体運動の機能解剖学」、 「健康スポーツ論」、 「スポーツトレーニングの原理」、 「スポーツ栄養学」、 「スポーツ医学」、 「エクササイズテクニク」、 「フィットネスプログラミングⅠ」、 「フィットネスプログラミングⅡ」、 「体力学」、 「スポーツ生理学」、 「スポーツ心理学Ⅰ」、 「スポーツ心理学Ⅱ」、 「バイオメカニクス」、 「学部共通特別講義Ⅱ（水泳）」

## **(財) 日本体育協会公認『アシスタントマネジャー』、『スポーツリーダー』について**

スポーツサイエンスコースでは、(財)日本体育協会が認定するマネジメント資格「アシスタントマネジャー」を取得するための養成講習会免除適応コースの承認を受けました。「アシスタントマネジャー」を取得するためのカリキュラムには、スポーツ指導者基礎資格「スポーツリーダー」の内容も含まれているため、「アシスタントマネジャー」受験資格と「スポーツリーダー」の2つの資格を同時に取得できます。ただし、受講対象は、2008年度以降入学生が対象となります。

### (1) (財) 日本体育協会公認「アシスタントマネジャー」とは

(財) 日本体育協会公認マネジメント資格には、「クラブマネジャー」と「アシスタントマネジャー」があります。「クラブマネジャー」とは、地域スポーツクラブなどにおいて、クラブ会員が継続的に快適なクラブライフを送ることができるよう、健全なクラブ経営を行うためのマネジメント能力を身につけるための資格です。「アシスタントマネジャー」は、その組織経営のための諸活動をサポートするために必要なスポーツクラブのマネジメントに関する基礎的知識を有し、協働できる能力を身につけるための資格です。本コースにおいて、定められた科目を履修することで、「アシスタントマネジャー」資格取得のための養成講習会の受講を免除され、卒業年度の検定試験によって資格取得が可能になります。

### (2) 資格検定試験の受験資格（養成講習会免除）を得るために必要な科目

(財) 日本体育協会公認マネジメント資格「アシスタントマネジャー」を取得するためには、専門のマネジメント関連科目と「スポーツリーダー」に関する基礎関連科目を履修しなければなりません。卒業年度までに、下記の科目を履修した者は、(財) 日本体育協会公認「アシスタントマネジャー」の養成講習会の受講を免除され、受験資格を得ることができます。また、(財) 日本体育協会公認「スポーツリーダー」資格を同時に取得することができます。この「スポーツリーダー」資格は、日本体育協会の他の資格を取得する際に必要となります。

ただし、「アシスタントマネジャー」は受験資格のみであるため、卒業年度に(財) 日本体育協会が実施する検定を受験しなければなりません（検定試験前に特別講習会1時間を受講）。

「スポーツマネジメント論」, 「スポーツビジネス論」, 「地域スポーツ論」, 「スポーツ政策論」, 「スポーツ文化論」, 「スポーツトレーニングの原理」, 「スポーツトレーニングの方法」, 「スポーツ医学」, 「スポーツ栄養学」, 「フィットネスプログラミングⅠ」, 「現代スポーツ論」, 「スポーツ法学」, 「スポーツ心理学Ⅰ」, 「スポーツ心理学Ⅱ」, 「健康スポーツ論」

## 『トレーニング指導者』について

スポーツサイエンスコースは日本トレーニング指導者協会が認定する資格「トレーニング指導者」を取得するための養成講習会のカリキュラムに沿った教育が実施されている学校として「トレーニング指導者養成校」に認定されています。

### (1) 日本トレーニング指導者協会とは

主にスポーツ選手の競技力向上や一般人の健康・体力増進を目的とした体力トレーニングの指導に関わる人を対象として、効果的な活動を推進するために必要な理論と実践に関する普及・教育及び研究活動、指導者の養成及び研修、指導者間の交流及び相互扶助等に関する事業を行い、我が国のスポーツ振興や国民の健康・体力増進、トレーニング指導者の職域や雇用機会の拡大並びに社会的地位の向上に寄与することを目的として2006年4月15日に任意団体として創立されています。そして、NPO法人（特定非営利活動法人）の認証申請を経て、2006年8月21日に、正式に「特定非営利活動法人日本トレーニング指導者協会」として設立されました。

本協会が認定資格「トレーニング指導者」を取得するための養成講習会のカリキュラムに沿った教育が実施されている学校に対し、「トレーニング指導者養成校」として認定する事業を開始しました。

### (2) トレーニング指導者とは

中高年者における生活習慣病の予防と生活の質的向上や介護予防の観点から、一般人の体力づくりの必要性が社会的に求められてきています。国や地方自治体の関係諸機関、民間フィットネスクラブの経営者、パーソナル・トレーナーの間では、これらに関する科学的知識と指導技術を習得しようとする動きが急速に広まってきています。また、競技スポーツのパフォーマンス向上のためのトレーニングでも、これまで以上により専門的で高度な筋力強化が必要であることが共通認識になってきています。

こうした状況下で、今後、多様な目的に即した体力向上のためのプログラムを提供し、指導できるフィットネスや体力づくりのインストラクター、パーソナル・トレーナー、ストレングス&コンディショニング・コーチ、スポーツ指導者が必要とされています。トレーニング指導者とは、まさにそういったニーズに応えるものです。

### (3) 資格試験の受験資格（養成講習会免除）を得るために必要な科目

本学卒業者（または卒業見込み者）で下記科目を修了した者は、「トレーニング指導者」の受験の際、養成講習会が免除されます。

「身体運動の機能解剖学」、「身体運動の制御と学習」、「身体運動の生理学」、「健康スポーツ論」、「栄養と健康」、「エクササイズテクニク」、「スポーツ医学」、「スポーツ栄養学」、「スポーツ競技力論」、「スポーツサイエンスコース演習Ⅰ・Ⅱ（長谷川・村田）」、「スポーツ心理学Ⅰ」、「スポーツ心理学Ⅱ」、「スポーツトレーニングの原理」、「スポーツトレーニングの方法」、「スポーツ法学」、「体力学」、「スポーツ生理学」、「バイオメカニクス」、「フィットネスプログラミングⅠ」、「フィットネスプログラミングⅡ」

## 環境サイエンスコース

地球温暖化や異常気象，リサイクルやエコロジー，こんな言葉を耳にしない日はないでしょう。人類が大きな変化を経験した20世紀を通して，人々が気づいたのが「環境」という言葉でした。企業や行政でも環境会計やISO14001の認証（国際環境規格14001）など環境に関する取り組みが積極的に行われてきました。暮らしの心地よさと豊かさ，環境と経済という互いに矛盾する価値をどう調和させるかが，現在の問題でしょう。また，2011年には東日本大震災の津波などが原因で，福島第一原子力発電所から大量の放射性物質が漏れ，原発の安全性に対する信頼が揺らいでいます。今日では環境との調和は，生産や開発への制約条件というよりは，むしろ，人々が理想として追求する価値となっています。

人類が今なぜ，このような問題につきあたっているのか？この問題の本質はどこにあるのか？はさまざまな受けとめ方があります。「産業や経済のあり方の問題」，「天然資源やエネルギーの問題」，「科学と技術の本質にかかわる問題」，「地球上の人口爆発の問題」，「社会システムの欠陥の問題」，「現代の消費文明と生活スタイルの問題」，「豊かさや進歩といった考え方の中に潜む根本的な問題」など，さまざまな角度からの見方があります。20世紀までは，あたりまえとされてきた人生観，社会観，人間観そのものがまるごと，21世紀では問い直されています。

これまで自然を単に利用するだけの対象と見て，自然と社会との関係を見なかったこと，環境と経済を対立するものと考えてきたことなどが誤りであったと指摘されています。さまざまな環境問題，さらに深く人間と自然の共生，環境と政策，制度の問題にとり組もうとするのが，環境サイエンスコースです。自然だけ，社会だけ，人間だけと区別して捉えるのではなく，それらすべてに係わる多面的な学修，調査および総合的な研究の場です。

このコースの学修の特徴として，自然そのものに触れる野外授業や現実問題に取り組む実習系科目を通して，印象深い学修体験を重ねていくことができます。

## 環境サイエンスコース3つの視点

このコースのカリキュラムがよりどころとする基本精神は，次の3つの視点からなります。

### (1) エコロジーおよび自然史の視点

100年ほど前から，人間を含むさまざまな生物たちとその環境との‘関係の学’として生態学（エコロジー）という名の学問が発展してきました。その研究を通して明らかになったことは，‘空気や水，光，その他あらゆる物質が循環する地球上の物質圏と，あらゆる生命体が連鎖し循環している地球上の生物圏とが，どんな生物にとってもそれが生

きていくうえで必要不可欠な条件、つまり生存のための環境となっている’ことです。

地球という惑星に住むわれわれ人類にとっては、自分たちの生存を許してきた“環境”についての理解を、しっかりとした自然観・宇宙観にもとづく骨太な理論体系のなかに位置づけることが望まれます。

そのため‘広大な宇宙とそのなかに浮かぶ地球、その上に発生した生命の進化という一つの壮大な歴史をたどる’自然史的視点に立って、生物学、気象学をはじめとする自然科学関連諸分野も可能なかぎり広く学びます。

## (2) 社会科学の視点

どの環境問題にも社会的側面がかかわっています。問題をひきおこしたのも、またそれを解決するのも、人間社会です。社会科学でも、これまでの歴史的反省にもとづいて、問題解決に向けての新たな方法と分野とを開発しつつあります。例えば、地球温暖化やごみ問題の顕在化により、従来の規制一辺倒から経済的な手法の必要性が言われています。また、環境問題を解決するためにさまざまな法律や政策が制定、執行され、被害者救済のための訴訟が行われています。世界、国、自治体、地域における環境問題の背景、社会的要因、環境問題解決のための法政策などを環境政策論、環境管理論、国際環境法などの科目を通じて広く学びます。

## (3) 哲学・倫理学および人文科学の視点

環境問題は近代の世界観、人間観と深くかかわっています。自然界の産物である人間が、自然と共生し他者との間での公正な生き方を探求するには、あらためて近代の歴史をふり返り、その社会がもってきた人間観・自然観を再検討することが必要になります。

現代が直面する問題意識の上に、人文科学および哲学・倫理学の基本を学びなおします。

21世紀に入り、私達はますます生活のあらゆる場面で、何が環境と人々の幸福とを両立させる途であり、どのような生き方が将来の世代に対して責任を負うことになるかを考え、行動しなければならなくなっています。世代間の公平、生物種間の公正という考え方が人類の普遍的な思想となることは間違いありません。環境サイエンスコースでは、所属学部も関心も異なる多様な人々が集まり、それぞれの学部の専門分野の視点と環境に関して蓄積されてきた科学的知見とを総合して、既存の学問的枠組みにおさまらない新しい学修・研究の場を作り出すことを目指します。

環境サイエンスコースカリキュラム体系表

コース科目	<b>【必修科目】</b> 環境学A（2単位）環境学B（2単位） 合計4単位		4単位
	<b>【選択必修科目】</b> 選択必修A群（人文・社会科学系）・B群（自然科学系）から 最低各4単位を履修してください。		12単位 （※注1）
	<b>【選択科目】</b> 「環境サイエンスコース開設科目および担当セメスター」を参 照してください。（※注3）		32単位 （※注2）
学部専攻科目	[必修科目]	経営学部専攻科目一覧を参照。	9単位
	[選択必修科目]		10単位
	[選択科目]		14単位
フリーゾーン			12単位
教養教育科目	[仏教の思想]	教養教育科目開設科目一覧を参照。	4単位
	[外国語科目]		12単位
	[教養科目]		16単位
卒業要件単位			125単位

（※注1）12単位以上修得した単位は、選択科目の単位として認定します。

（※注2）32単位以上修得した単位は、フリーゾーンの単位として認定します。

（※注3）経営学部提供科目を履修すると、登録コードが経営学部の専攻科目であっても、環境サイエンスコースの選択科目として集計されます。詳細は経営学部教務課までお問い合わせください。

環境サイエンスコースカリキュラム体系表

コース科目	【必修科目】 環境学A（2単位）環境学B（2単位） 合計4単位		4単位
	【選択必修科目】 選択必修A群（人文・社会科学系）・B群（自然科学系）から 最低各4単位を履修してください。		12単位 （※注1）
	【選択科目】 「環境サイエンスコース開設科目および担当セメスター」を参 照してください。（※注3）		32単位 （※注2）
学部専攻科目	〔必修科目〕	経営学部専攻科目一覧を参照。	8単位
	〔選択必修科目〕		4単位
	〔選択科目〕		20単位
フリーゾーン			12単位
教養教育科目	〔仏教の思想〕	教養教育科目開設科目一覧を参照。	4単位
	〔外国語科目〕		12単位
	〔プログラム科目〕		16単位
卒業要件単位			124単位

（※注1）12単位以上修得した単位は、選択科目の単位として認定します。

（※注2）32単位以上修得した単位は、フリーゾーンの単位として認定します。

（※注3）経営学部提供科目を履修すると、登録コードが経営学部の専攻科目であっても、環境サイエンスコースの選択科目として集計されます。詳細は経営学部教務課までお問い合わせください。



環境サイエンスコース開設科目および配当セメスター

(※次年度以降は、学部共通コースの掲示板等でご確認ください。)

必修科目						
セメスター	授業科目名	単位	修了条件	備考		
4	環境学A (※注1)	2	必修 (4単位)			
5	環境学B (※注1)	2				
選択必修科目						
セメスター	授業科目名	単位	修了条件	備考		
A群 (人文・社会科学系)						
4	環境と倫理	2	コース選択必修 (12単位) ※A群・B群より最低 各4単位を履修	2011年度以降は4セメスター開講 前年度2学期受験生のみ1学期履修可能 卒年次生は2学期開講科目の履修不可 (※注5)		
4	環境と経済	2				
4	環境とビジネス(経営学部提供科目)	2				
4	環境と法(法学部提供科目)	2				
5	環境管理論Ⅰ	2				
4	環境政策論Ⅰ	2				
4-5	コンピュータシステム論	4				
B群 (自然科学系)						
4	生態学A (※注2)	2				
5	生態学B (※注2)	2				
4	地球と環境	2	2015年度は4セメスターに開講			
5	環境地理学	2				
4	自然保護論	2				
5	化学物質と環境	2				
選択科目						
セメスター	授業科目名	単位	修了条件	備考		
6	シミュレーション技法	2	選択科目 (32単位) (演習を含む)	2015年度は4セメスターに開講 2013年度以前入学生：不開講・2014年度以降入学生：廃止		
5	複雑系の科学	2				
5	都市経済論	2				
5	エコマーケティング	2				
6	環境史	2				
5	環境アセスメント論	2				
6	環境政策論Ⅱ	2				
5	地域環境論	2				
4	気候と気象	2				
5	生物共棲論	2				
5	水界生態論	2				
5-6	環境フィールドワーク	4				
6	環境管理論Ⅱ	2				
4	学部共通特別講義A	2				
4	学部共通特別講義B	2				
4	学部共通特別講義C	2				
5・6	環境実践研究 (※注3)	2				
4-5	演習Ⅰ	4			※演習Ⅱおよび卒業研究は演習Ⅰを修得 しなければ履修できません ※演習Ⅱと卒業研究は継続履修一体科目 (両科目を修得して8単位認定)	
6-7	演習Ⅱ	4				
8	卒業研究	4				
経済学部提供科目						
4	経済開発論(2005年度以前入学生対象)	4	2015年度は6セメスター開講			
4	開発経済学(2006年度以降入学生対象)	4				
経営学部提供科目						
5	産業技術論	2				
法学部提供科目						
4	国際環境法 (※注4)	2		2015年度は5セメスター開講 2012年度以前入学生：不開講・2013年度以降入学生：廃止		
5	都市政策論	2				
政策学部提供科目 (2011年度以降入学生対象)						
4	持続可能な発展概論	2		2015年度不開講		
4	科学技術政策	2				
4	景観・まちなみ保存政策	2				
5	環境エネルギー政策	2				
サマーセッションに開講						

(※注1) 「環境学」から名称変更のため、「環境学」既修得者は履修できません。  
 (※注2) 「生態学」から名称変更のため、「生態学」既修得者は履修できません。  
 (※注3) P.142 環境実践研究についてを参照してください。  
 (※注4) 「国際環境法入門」から名称変更のため、「国際環境法入門」既修得者は履修できません。  
 (※注5) 変則通年科目につき卒年次生は履修できませんが、履修を希望する場合は教学部に相談ください。

履修一般  
 教養教育科目  
 専攻科目  
 学部共通コース  
 他大学での学修  
 就職課程・その他  
 経営学研究科  
 学生生活  
 Q and A

## 環境実践研究について

### (1) 概要

講義時間以外に国内外の団体が開催するプログラムやエコツアーなどに、ある一定期間参加して単位を修得します。自らが環境保全活動や環境問題の実態を把握する研究やプログラムで実習し、実践活動終了後、環境サイエンスコースの講義で自らの体験を口頭発表し、その報告書を提出します。

実践する相手先は各自が見つけて手配し、その必要な経費は各自で負担してください。

実践の概要は原則として以下のとおりとします。

#### 1) 実践期間

2週間程度（実践期間が2週間に満たない場合でも、計画時の実践内容によって適宜判断します。）

#### 2) 実践研究の相手先

①報酬のないもの

②受け入れ先が明確な企業、行政、NPO・NGO団体など

例えば、

I. 国内・海外インターンシップ

II. 社会活動ボランティア

III. 国内・海外エコツアー など

#### 3) 単位認定 2単位

#### 4) 成績評価

単位修得の必要条件：実践終了後、実践研究内容をコースの講義（環境学Aまたは環境学B）等で口頭発表します。あわせて発表内容のレポートを提出してください。これに基づき、授業担当者（環境学Aまたは環境学Bと同じ）が成績評価をします。（評価が第1学期で行われれば第1学期の成績、第2学期で行われれば第2学期の成績として扱います。）

#### 5) 履修の手続きについて

実践前に必ず計画書を教学部窓口へ提出し、環境サイエンスコース運営委員会で承認を受けてから出発してください。（学期始めの履修登録は不要です。）

なお、計画書提出の締切日は次のとおりですので注意してください。

・第1学期に成績評価を受ける場合：第1学期の履修登録期間最終日（4月）

・第2学期に成績評価を受ける場合：第1学期の授業期間最終日（7月）

## 環境サイエンスコースの履修について

(1) 募集定員 60名程度

(2) カリキュラムについて

1) 必修科目【4単位】

環境学A（2単位）、環境学B（2単位）の合計4単位

2) 選択必修科目【12単位】

選択必修科目として合計12単位を修得してください。ただし、A群（人文・社会科学系）科目・B群（自然科学系）科目から、それぞれ4単位以上を修得してください。

選択必修科目を12単位以上修得した場合は、選択科目の単位として認定します。

3) 選択科目【32単位】（演習・卒業研究を含む）

①選択科目群から32単位以上を修得してください。

②選択科目を32単位以上修得した場合は、フリーゾーンとして認定します。

4) 演習および卒業研究について

①環境サイエンスコースでは「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」において、人文・社会科学系分野、自然科学系分野の演習をそれぞれ開設しています。

②「演習Ⅰ」・「演習Ⅱ」は同一分野の継続的履修が望まれます。

③「演習Ⅱ」を履修するには「演習Ⅰ」を修得しておくことが必要です。

ただし、本コースでは環境について十分な知識と理解を得るために、多面的な学修を重視しており、演習Ⅱ受講時に他分野の演習Ⅰを受講することもできます。

（※受講希望人数により選考することがあります。）

（※演習Ⅰ受講時に他分野の演習Ⅰを受講することはできません。）

④「演習Ⅱ」と「卒業研究」は継続履修科目であり、両方を修得することで8単位が認定されます。

5) コース修了条件

必修科目、選択必修科目、選択科目あわせて48単位以上を修得するものとします。

(3) コースでの学修について

1) 本コースでは社会科学系分野科目、自然科学系分野科目が設置されており、環境に対する十分な知識と理解を得るため両分野からの履修が望まれます。

2) 本コースでは環境という視点からフィールドワークや実践研究科目が設置されており、学生諸君の積極的な取り組みを期待します。

3) 本コースでの学修を深めるために、教養科目にある環境にかかる科目の履修が望ま

れます。

#### (4) 資格取得

本コースでの学修を通じて、eco検定（環境社会検定）や3R・低炭素社会検定などのさまざまな検定の受験に有利な知識を身につけることができます。

- (1) 本コースにおける所定の単位取得者はNPO法人自然環境復元協会が実施する環境再生医・初級の認定が受けられます。学内申請方法等については、教学部窓口までお問い合わせください。
- (2) 本コース3年生には、12月（予定）に東京商工会議所が実施するeco検定（環境社会検定試験）の受験を義務付けます。（団体申し込みを行い、受験費用は大学負担とします。）「環境学B」の授業等において、対策を行います。

## 7. 他大学での受講

### 大学コンソーシアム京都 単位互換科目

大学コンソーシアム京都では、「単位互換授業」や「インターンシップ・プログラム」などを開講しています。以下では、「単位互換制度」と「インターンシップ・プログラム」を説明します。

#### (1) 「単位互換制度」について

単位互換制度とは、経営学部があらかじめ認定対象科目（掲示でお知らせします）として認めた科目を「単位互換履修生」として受講し、試験に合格すれば、下記の要領にしたがって単位が認定されます。受講料は無料です（ただし、科目により実習・演習料金などが別途必要となることがあります）。

「単位互換科目」は、科目提供大学や「キャンパスプラザ京都」（京都駅前）で開講されています。

#### (2) 資格要件

履修条件は、下記のとおりです。不明な点は経営学部教務課で確認してください。

##### ・教養科目としての単位認定について

対 象 学 年	1～3年次
認 定 対 象 科 目	経営学部教授会があらかじめ認めた科目（科目は掲示で別途お知らせします）。
単 位 認 定	教養科目（教養教育科目の選択科目）として4単位まで認定します。4単位を超えたものは、 <u>随意科目扱い</u> となります。
履 修 登 録 制 限	大学コンソーシアム京都科目は、履修登録制限単位に含まれません。ただし、登録できる科目数は、単位数に係わらず各年次2科目までです（ <u>専攻科目の単位認定対象科目も含みます</u> ）。
そ の 他	重複登録（本学で登録した科目と同一曜講時に登録すること）や移動時間から受講が困難であると考えられる科目の受講はできません。重複登録をした場合は、両方の科目とも無効になります。また、既に単位認定された科目を再度履修することはできません。 単位認定対象科目以外の科目は、随意科目として申し込みが可能です。

・専攻科目としての単位認定について

対 象 学 年	2・3年次
認 定 対 象 科 目	経営学部教授会があらかじめ認めた科目（科目は掲示で別途お知らせします）。
単 位 認 定	<b>学部選択科目</b> （ただし、会計コース生は、コース選択科目）として <b>4単位</b> まで認定します。4単位を超えたものは、 <u>随意科目</u> 扱いとなります。
履 修 登 録 制 限	大学コンソーシアム京都科目は、履修登録制限単位に含まれません。ただし、登録できる科目数は、単位数に係わらず各年次 <b>2科目</b> までです（教養科目の単位認定対象科目も含まれます）。
そ の 他	重複登録（本学で登録した科目と同一曜講時に登録すること）や移動時間から受講が困難であると考えられる科目の受講はできません。重複登録をした場合は、両方の科目とも無効になります。また、既に単位認定された科目を再度履修することはできません。 単位認定対象科目以外の科目は、随意科目として申し込みが可能です。

(3) 出願手続きについて

「大学コンソーシアム京都 単位互換制度」で提供される授業の履修を希望する学生は、以下の図の流れに沿って出願手続きを行ってください。

**4月初旬** ※出願日については、ポータルサイト（学内版）で確認してください。

：大学コンソーシアム京都科目受講登録

※大学コンソーシアム京都科目の履修登録はすべて4月に行います。

※出願手続は、ポータルサイトにログインして、「大学コンソーシアム京都単位互換出願」に入力してください。

※受講機会拡大のため、集中科目・後期科目の定員に余裕がある科目について6月初旬と9月中旬に追加登録をおこないます。6月追加登録は集中科目および後期科目、9月後期登録は後期科目の定員に余裕がある科目のみとなります。

※科目開設大学の都合で、男子学生の受講制限や、科目の性質から学部および学年が制限される場合があるので注意してください。受講資格は、大学コンソーシアム京都のホームページ「単位互換開講科目Webシラバス」を参照してください。

※申込者多数の場合は、選考（書類選考など）を行う場合があります。

**4月末頃：選考結果発表（掲示およびメール）**

※履修を許可された人は、科目開設大学によっては、指定の期日までに所定の手続き（身分証明書用写真の提出や、実習費用の納入など）を必要とする場合も

ありますので、科目開設大学の指示に従ってください。

※ 6月追加登録は6月中旬、9月後期登録は10月上旬に選考結果をお知らせします。

#### (4) 単位互換履修生の学籍およびその取り扱い

- 1) 履修手続きを完了した人は、科目開設大学の「単位互換履修生」となります。
- 2) 単位互換履修生は許可を受けた科目が受講でき、当該科目の試験に合格すれば、単位認定を受けることができます。
- 3) 単位互換履修生は、自分が受講する科目開設大学の定める範囲で、履修期間中に限り、その大学の施設（図書館など）を利用できます。
- 4) 休講・補講・教室変更などの連絡は、大学コンソーシアム京都のホームページ(<http://www.consortium.or.jp/>)で確認してください。

#### (5) 試験について

試験期間は、科目開設大学によって異なります。当該科目と本学の試験日時が重なる場合は、ただちに経営学部教務課で相談してください。

なお、単位互換科目の試験と本学の定期試験が重なった場合は以下のとおり取り扱いします。

本学の 授業科目	大学コンソ シアム科目	対 応 方 法	本学の科目 の追試対象	追試受験料
◎	◎	大学コンソーシアム京都科目を優先して受験させる	認める	免 除
○	◎	大学コンソーシアム京都科目を優先して受験させる	認める	免 除
◎	○	本学の科目を優先して受験すること。ただし、本人の判断により選択可能。	認める	必 要
○	○	本人の判断により選択	認める	必 要

◎印は、卒業要件に関する科目（教職課程科目を含む）

○印は、随意科目として扱う科目

#### (6) その他の注意事項

大学コンソーシアム京都の単位互換科目のほとんどは人数制限があり、希望者全員が受講できるものではありません。しかし、受講が許可されたにも関わらず、受講を放棄する学生がいます。受講を許可された科目を放棄することは、受講を許可されなかった学生のみならず、科目開設大学にも大変な迷惑をかけることとなります。出願にあたっては、途中で放棄しないよう慎重に科目を選択し、受講が許可された場合は必ず最後まで受講してください。大学コンソーシアム京都の単位互換科目の成績は全て3月下旬に配布される第2学期（後期）分の成績表に記載されます。

## 大学コンソーシアム京都「インターンシップ・プログラム」

大学コンソーシアム京都が実施する「インターンシップ・プログラム」には、以下のプログラムがあります。

- ①短期実践型（夏期）（「ビジネスコース」・「パブリックコース」）  
夏期休暇を中心としたインターンシップを企業や行政機関、NPO・NGO団体などで行う。
- ②長期プロジェクト型（「プログレスコース」）  
3～6ヶ月の長期にわたり企業、NPOなどで実際に一つのプロジェクトを担当する。

「インターンシップ・プログラム」は、最終評価に合格すれば、下記の要領にしたがって単位が認定されます。「インターンシップ・プログラム」の受講を希望する学生は、本学の授業や定期試験などと「インターンシップ・プログラム」の日程が重なることも考えられますので、経営学部教務課で事前に相談してください。

なお、コースのプログラム内容などは、インターンシップ支援オフィスで配付する2015年度の「インターンシップ・プログラム実習生募集ガイド」で確認してください。

### (1) 資格要件

経営学部生の履修条件は下記のとおりです。

対 象 学 年	2・3年次
認 定 対 象 科 目	1コース4単位として、学部選択科目（ただし、会計コース生はコース選択科目）で認定します。 なお、協定型インターンシップ、BIEプログラムの「Community Service Learning（ボランティア活動）」と合わせて <b>上限8単位</b> しか認定できません。また、2010年度・2011年度に実践・マイ・キャリアデザインを受講した場合は、本科目の単位も8単位の中に含まれます。
履 修 登 録 制 限	本学の履修制限単位には含まれません。ただし、登録できるコース数は <b>1年間に1コース</b> までです。
成 績 評 価	点数評価ではなく、「合格」か「不合格」で評価されます。

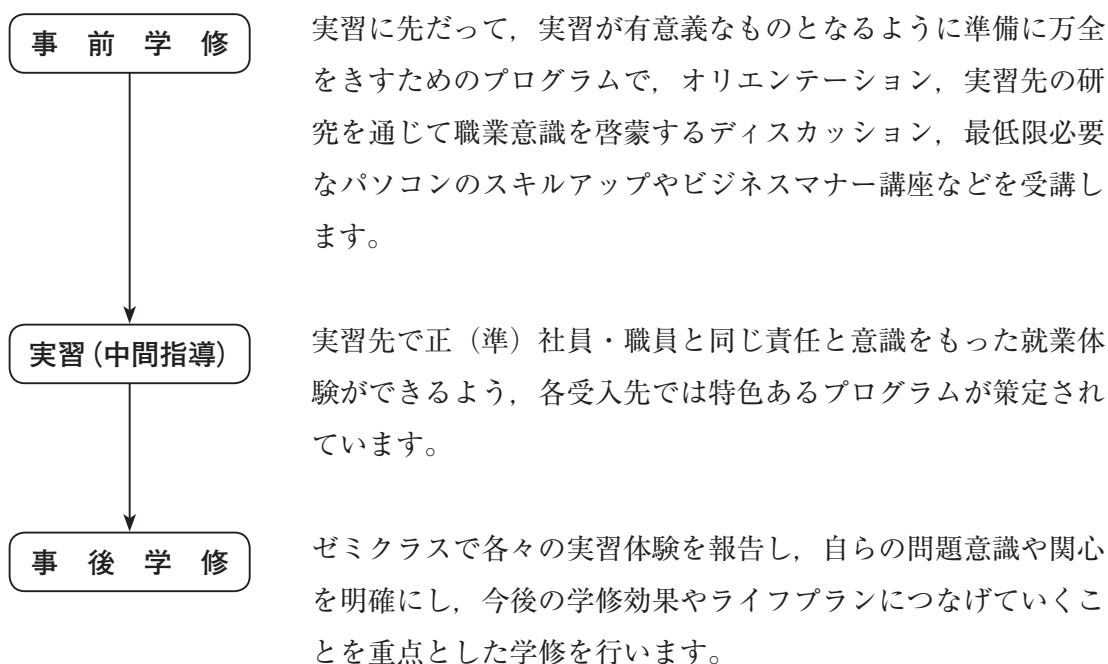
### (2) 出願手続について

インターンシップ支援オフィスで「インターンシップ・プログラム実習生募集ガイド」と受講を希望するコースの「インターンシップ・プログラム出願票」を受け取り、「募集ガイド」を熟読のうえ、「出願票」に必要事項を記入、写真を貼付し、キャンパスプラザ京都の「大学コンソーシアム京都事務局窓口」に定められた期日までに提出してください。

なお、出願できるのは、1名につき1コースであり、複数コースへの出願、同一コースの重複出願があった場合は、すべてを無効にしますので注意してください。



### (3) インターンシップ・プログラムの枠組みについて



### (4) 実習先の決定について

実習生の希望や適正を考慮して、大学コンソーシアム京都インターンシップ事業推進室の総合コーディネーターを中心とした「選考委員会」にて決定されます。この際、受け入れ人数の問題などで、必ずしも希望する業界や職種で実習できない場合があることを出願時から理解しておいてください。

### (5) 定期試験および追試験受験資格の認定

インターンシップ実習受入先の都合により、やむを得ず実習期間と定期試験日時が重なることがあります。当該実習と定期試験日時が重なることが判明した場合、すぐに経営部教務課に相談してください。

なお、インターンシップ(大学コンソーシアム京都、協定型とも)の実習期間が本学の定期試験と重なった場合は、以下のとおり取り扱います。

本学の授業科目	インターンシップ	対応方法	本学の科目の追試対象	追試受験料
◎	◎	インターンシップ実習を優先する	認める	免除
○	◎	インターンシップ実習を優先する	認める	免除
◎	○	本人の判断により選択可能	認める	必要
○	○	本人の判断により選択可能	認める	必要

◎印は、卒業要件に関する科目(教職課程科目を含む)

○印は、随意科目として扱う科目

## インターンシップに参加して

経営学部 4 回生 朝倉達也



私は2014年度の大学コンソーシアム京都主催のインターンシッププログラムにおいて、四国アイランドリーグplusのプログラムに参加しました。私がこのインターンシップに参加しようと思ったきっかけは、他の人とは違ったこと・変わったことをやってみたいという思いがあったからです。また、私自身スポーツ全般が好きで、

その中でも特に野球が大好きであり、なおかつ少しでもスポーツに関わっているいろいろな人々と交流を図りたいと思ったことがこのインターンシップを選んだ理由でした。

それでは、このインターンシップがどのようなものであったかということについて書こうと思います。

まず、このプログラムは独立リーグ四国アイランドリーグplusに所属する徳島インディゴソックスというチームのメンバーの一員として活動するというものでした。今回は、私たち大学コンソーシアム京都のインターンシップ生と立命館大学スポーツ健康科学部との共同プロジェクトでした。他大学かつ学年も様々であったため、初めて顔合わせをした時にはとても緊張しました。しかし、今でもそのメンバーとは交流は続いており、参加して良かったと思っています。

試合運営にあたり、私たちは企画部、広報部、営業部という3部門に分かれたのですが、その中で私は営業部に所属しました。営業部の内容は、主に企業様や個人様に対しての協賛金提供のお願い、球場周辺などへの営業回りをメインに行うことでした。また、その他にも個人的に他部門のサポーターとして活動を行っている時もありました。先生方の指導のもと、実際に営業先との電話対応や営業回りなど、他のプロジェクトでは出来ない貴重な体験ができました。実際に、協賛金を企業様や個人様から頂くための交渉もあり、交渉が失敗した時などはショックではありましたが、それも含め良い体験をさせて頂きました。

以上のような運営準備に携わりながら、9月15日(月)に滋賀県の皇子山球場で行われる試合を迎えました。当日は、会場設営や割り振られた役割で試合の運営に携わりました。試合運営は無事成功し、終わった後の喜びは忘れることができません。このプログラムに参加して本当に良かったと今でも思います。

簡単ですが、以上で私のインターンシップについての体験談を終わりにしたいと思います。2015年度はどのような内容になるかは分かりませんが、スポーツに携わりたい・お金を動かすということなどに興味がある方はぜひ参加していただきたいと思います。また、このプログラム以外にも魅力的なプログラムは数多くあると思います。自分でよく考えて選択し、6か月という期間を充実したものにして、参加してよかったと思えるように頑張ってください。この体験談を見て、少しでも参考になれば幸いです。

## 協定型インターンシッププログラム

本学では、学生の自立とキャリア形成を支援する実践的な教育プログラムとして協定型インターンシップを行っています。このインターンシップは、建学の精神にもとづくきめ細かな事前・事後学修を行う、本学独自の特色あるインターンシッププログラムです。このプログラムの具体的な内容は、インターンシップ支援オフィス発行の「インターンシッププログラム2015」を参照してください。資格要件などは、以下のとおりです。

### (1) 資格要件

経営学部生は下記の条件で卒業要件単位として認定します。

対 象 学 年	2・3年次
認 定 対 象 科 目	1コース4単位として、学部選択科目（ただし、会計コースはコース選択科目）で認定します。 ※なお、BIEプログラム「Community Service Learning（ボランティア活動）」、「大学コンソーシアム京都のインターンシップ・プログラム」と合わせて <b>上限8単位</b> しか認定できません。また、2010年度・2011年度に実践・マイ・キャリアデザインを受講した場合は、本科目の単位も8単位の中に含まれます。
履 修 登 録 制 限	本学の履修制限単位には含まれません。
成 績 評 価	点数評価ではなく、「合格」か「不合格」で評価されます。

### (2) 応募方法

本プログラムの応募方法などは、インターンシップ支援オフィスで配付される募集要項を参照してください。

### (3) シラバス

協定型インターンシップの講義概要は、次のページを参照してください。

### (4) 定期試験および追試験受験資格の認定

P.19, 21を参照してください。

### (5) 注意事項

このインターンシップ・プログラムは、事前学習・実習・事後学習のすべてのカリキュラムを通じて、キャリア形成を支援する内容となっているため、欠席はできません。

また、途中で辞退することは、実習先をはじめ、受講できなかった学生にも大変な迷惑をかけることになるため、特別な事情がない限り認められません。

## 2015年度 協定型インターンシップ 授業計画 (予定)

※次年度以降は、インターンシップ支援オフィスの掲示板等で確認してください。

回	学舎	日	時	講師	講義名	内容	使用教室
①	大宮	6月20日 (土)	1限目	担当教員 総合コーディネーター	オリエンテーション	・総合コーディネーター挨拶, 担当教員からのコメント ・インターンシップにどのような態度で臨むべきか ・事前, 事後学習の概要と諸注意	全員 大教室
			2限目	担当教員 総合コーディネーター	事前学習全体ワーク	コミュニケーションスキルに関するワークショップ	全員 清和館 3階
			3限目	担当教員 総合コーディネーター	龍谷大学の歴史 (自校史学習)	自校史を知り「龍大代表」としての自覚を持つ	全員 本館2階 講堂
			4限目	担当教員 総合コーディネーター	事前学習グループワーク①	ゼミ形式によるグループワーク	ゼミ教室
②	深草	6月27日 (土)	1限目	外部講師 担当教員	ビジネスマナー①	心構え, 第一印象, 敬語の使い方, マナー など 学生はスーツ着用	全員 3号館 地下食堂
			2限目	総合コーディネーター	ビジネスマナー②	電話応対 (事前訪問時の電話応対), 来客応対, 名刺交換 など	
			3限目	外部講師 総合コーディネーター 卒業生3名	OB/OGによるパネルディスカッション	「私にとっての職業。職業を通じて考える人生」	全員 大教室
<b>学生による実習先直前訪問 (6/28～7/10)</b>							
③	深草	7月11日 (土)	1限目		事前学習グループワーク②		ゼミ教室
			2限目	担当教員 総合コーディネーター	事前学習グループワーク③	ゼミ形式によるグループワーク	
			3限目		事前学習グループワーク④		
			4限目	卒業生1名 総合コーディネーター	「職」の専門家による仕事概論	企業経営者による講演	
④	瀬田	7月18日 (土)	1限目	担当教員 総合コーディネーター	事前学習グループワーク⑤	ゼミ形式によるグループワーク	ゼミ教室
			2限目	担当教員 総合コーディネーター	実習直前オリエンテーション	インターンシップの意義, 準備, 諸注意, ハラスメントについて 学生はスーツ着用	全員 大教室
					結団式	総合コーディネーター・担当教員からのコメント	全員 大教室
			3限目	担当教員 担当教員	補講① ※	インターンシップ実習期間が実働10日間に満たない場合, 補講①②の両方に出席が必要です。	講義室
予備時間		7月18日 (土)	4限目 5限目		台風等の影響により実施できなかった場合の予備時間です。予定を空けておいてください。 ※実施にあたり当日のスケジュールについては, 事前にお伝えします。	別途連絡	
<b>インターンシップ実習 (原則として, 8/6～9/9) (総合コーディネーター・担当教員による中間指導)</b>							
⑤	深草	9月14日 (月)	1限目		実習後オリエンテーション	総合コーディネーター 実習後の確認 30分程度	全員 大教室
			2限目	担当教員 総合コーディネーター	事後学習グループワーク①	ゼミ形式によるグループワーク	ゼミ教室 および ※5号館 情報実習室も10部屋確保。ただし, 5限目以降も利用する場合は別途申請が必要となる
			3限目		事後学習グループワーク②		
			4限目	担当教員	事後学習グループワーク③		
補講②		4限目	担当教員	補講② ※	インターンシップ実習期間が実働10日間に満たない場合, 補講①②の両方に出席が必要です。	講義室	
⑥	深草	9月15日 (火)	1限目		事後学習グループワーク④	ゼミ形式によるグループワーク	ゼミ教室
			2限目		事後学習グループワーク⑤		
			3限目	担当教員 総合コーディネーター	事後学習グループワーク⑥		
			4限目		学内報告会	学習成果をプレゼンテーション	全員 3-301
			5限目		評価会	企業担当者より評価を頂くと共に交流を深める	全員 4号館 地下食堂

※インターンシップ実習期間が実働10日間に満たない場合, 補講①・補講②への出席が必要です。

## 東洋大学との相互学生交流プログラム (ICAAP)

経営学部では、1999年4月から東京にある東洋大学経営学部との間で単位互換のための相互学生交流プログラム(Inter College Academic Alliance Program)を実施しています。

これは、東京と京都という文化的・地理的風土を全く異にする他地域・他大学で学ぶことで、同一地域・同一圏内の大学のみで学ぶ以上の幅広い視点からの学修が可能となり、多様で新鮮な経験を積む機会を得ることを目的としたものです。

派遣期間は毎年4月1日から翌年3月31日までの1年間のものと、半年間の2つのプログラムがあり、派遣する学生数は、毎年若干名の予定です。派遣対象者は2年生・3年生(派遣・受入時)の正規学生ですが、実施年度によって異なります。

なお、派遣期間の学費は龍谷大学へ納入すれば、東洋大学の学費は免除されます。ただし、履修する科目によっては、実習料などが別途必要となる場合があります。

龍谷大学から東洋大学経営学部へ派遣される学生の資格、条件、履修方法などは以下のとおりです。詳細は東洋大学経営学部の履修要覧を参照するとともに経営学部教務課にお問い合わせください。

派遣対象学年	2・3年次
応募資格	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年次派遣学生 〈4月派遣〉(1年プログラム, セメスタープログラムとも) 1年次配当の必修科目を修得済みで、修得単位数が37単位以上であること。 〈10月派遣〉(セメスタープログラムのみ) 2年次1学期配当までの必修科目を修得済みで、修得単位数が55単位以上であること。</li> <li>・3年次派遣学生 〈4月派遣〉(1年プログラム, セメスタープログラムとも) 教養教育科目および専攻科目の必修科目、コース必修科目を修得済みで、修得単位数が73単位以上であること。 〈10月派遣〉(セメスタープログラムのみ) 教養教育科目および専攻科目の必修科目、各コースの必修科目を修得済みで、修得単位数が91単位以上であること。 ※2・3年次とも応募時には単位修得見込みでよいが、派遣時に単位が修得できていない場合は派遣を取り消します。</li> </ul>
応募方法	経営学部掲示板および学内広報を通じて公募します。
選考方法	書類選考および面接などを実施します。
派遣キャンパス	東洋大学白山キャンパス (東京都文京区白山)
授業の開設方法	東洋大学では原則としてセメスターで開講されています。
履修可能科目	東洋大学経営学部開講科目および東洋大学経営学部生が履修可能な他学部開講科目

<p>単 位 認 定</p>	<p>派遣学生の本学での単位取得状況に応じて、東洋大学で修得した単位のうち、学則第38条で規定する範囲で単位認定します。  (なお、2年次生で派遣された場合は、必修外国語4単位を優先的に履修し、かつ本学部の選択必修科目に近い領域の科目を履修することが望ましい)。  ただし、海外留学、大学コンソーシアム京都科目などを履修し、既に単位認定を受けている場合は、その分を学則第38条に基づく認定単位数から差し引いた単位数が認定されます。  なお、東洋大学で教職関連科目を修得しても、本学の教職関連科目としては単位認定しません。</p>
<p>演 習 の 選 択</p>	<p>東洋大学でも演習の履修が可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2年次派遣学生</li> <li>(1) 本学で基礎演習を履修中であり、かつ本学に復帰後に演習の履修を希望する学生が、東洋大学の基礎演習Ⅱ（3セメスター開講）を修得した場合、本学経営学部の基礎演習の単位として4単位を認定します。</li> <li>(2) 東洋大学の基礎演習Ⅲ（4セメスター開講）を修得した場合、本学での演習は継続履修とし、復帰後に演習に所属できます。</li> <li>(3) 本学で基礎演習を履修していない学生が、東洋大学で基礎演習Ⅲ（4セメスター開講）を修得した場合、本学復帰後の演習に所属できます。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3年次派遣学生</li> <li>(1) 本学で演習を履修中の学生は、東洋大学で演習Ⅰ（5セメスター開講）・Ⅱ（6セメスター開講）を修得した場合、本学での演習は継続履修とします。</li> <li>(2) 本学で演習を履修していない学生が、東洋大学で演習Ⅰ、演習Ⅱを修得した場合、本学の演習（4単位）で読み替えます。  ただし、本学へ復帰後、演習には所属できません。</li> </ul>
<p>そ の 他</p>	<p>履修制限単位やその他科目の履修などは、東洋大学の履修規定によります（東洋大学履修要覧を参照してください）。</p>

## 相互学生交流プログラム（ICAAP）体験記

林田 拓真

私は今回、「相互学生交流プログラム」を利用して、大学3年生の1年間の間、東洋大学へ国内留学することにしました。もともと東京の企業への就職願望があり、新しい環境で生活することは自分自身の成長にもつながると考えたからです。

東洋大学では経営学科の歴史専門のゼミを選択しました。龍谷大学では経営コース（市場と情報を活用するモデル）に所属し、マーケティングについて学んでいますが、他の分野についても学んでみようと思い、このゼミを選びました。ゼミでの学修内容は、企業の歴史や背景を調べたり、その展望を考えたりと、歴史から未来の企業の姿を読み取るようなものでした。

私は「セブン-イレブンのビジネスイノベーション」をテーマに、企業を調べ、4～5回の間接報告を経て論文を書き上げました。今存在している企業がどこから始まり、どのような過程を経て存在しているのかを学ぶことは、就職活動する上でとても参考になり、自分のためになったと思います。

ゼミのメンバーは2年生を含めて20人ほどで、みんな仲が良く、9月には2泊3日のゼミ合宿もあり、とても充実していました。また、経営学会やOB・OG会など、さまざまな人たちと関わることができ、良い刺激になりました。

生活面でもすごく良い経験になったと思います。これまでひとり暮らしの経験がない中での知らない都会での生活は、はじめはかなり不安でした。掃除、料理、洗濯、お金の管理のすべてを自分ひとりですするという、京都での生活では絶対できなかったことを経験できたことで、1年間経った今では、自分の身の回りのことはほぼ自分でできるようになりました。

東洋大学への留学をきっかけに、知らない場所へ行くときも、知らないことをするときも、まず自分でやってみようと思えるようになりました。この経験をとおして成長でき、自信がつけました。

私は、この「相互学生交流プログラム」に挑戦したことで、勉強面でも生活面でも非常に貴重な経験をすることができたと思っています。関東の企業に興味のある方や、もっとたくさんを経験したいと思う方は、自分自身をゆっくりと見つめ直す意味でも、このプログラムを活用していろいろなことを学んで欲しいです。

## 龍谷大学の留学制度

龍谷大学では、国際社会に貢献できる人材の育成を目的として、学生の海外派遣を積極的に推進するため、以下のような留学制度があります。

経済、社会、文化、政治などあらゆる局面で国際的な相互依存関係が深まっている現在、海外の大学での学修、文化交流を通して広い視野と柔軟な発想を学ぶことは、みなさんにとって有意義な経験となることでしょう。

詳しくは、グローバル教育推進センターホームページ (<http://intl.ryukoku.ac.jp>) やグローバル教育推進センター（和顔館）、国際学部教務課（6号館1F）で配付している「留学ガイド」を参考にしてください。

## 交換留学

交換留学とは、学術研究および国際理解のために海外の大学と学生交換協定を締結し、学費の免除や奨学金を受けて留学する制度です。この協定に基づき、原則として毎年同じ人数の学生を派遣・受入しています。

留学期間は原則1年間で、その期間、龍谷大学の学費免除（ただし、留学生在籍料は必要）、留学先大学の学費免除が受けられます。

募集案内、応募方法などは、グローバル教育推進センター、国際学部教務課で配付している「留学ガイド」やグローバル教育推進センターホームページを参考にしてください。



学生交換協定校 (24カ国 52大学・学部)

地域	留 学 先		応 募 方 法
ア ジ ア	中 国	上海師範大学, 同済大学, 中国人民大学, 大連外国語大学, 大連外国語大学日本語学院 (経営)	語学試験および面接によって選考します。 応募締切は, 各募集大学によって異なります。
	台 湾	国立台湾師範大学, 東海大学, 長庚大学 (理工学研究科生のみ), 国立中央大学 (理工学研究科生のみ)	
	韓 国	東国大学, 東亜大学	
	タ イ	チュラロンコン大学, アサンブション大学, タマサート大学	
	ベトナム	ハノイ大学	
	東ティモール	東ティモール国立大学	
北 米	アメリカ	カリフォルニア州立大学ノースリッジ校, アンティオークカレッジ, 南ミズーリ州立大学, 米国仏教大学院, カリフォルニア大学デービス校 (理工学研究科生のみ), 東テネシー州立大学, アイダホ大学, アリゾナ州立大学, ハワイ大学マノア校	
	カナダ	キングス・ユニバーシティ・カレッジ, カルガリー大学, クワントレン・ポリテクニク大学, ヒューロン・ユニバーシティ・カレッジ, ランガラカレッジ (国際学部生のみ)	
中 南 米	メキシコ	プエブラ榮譽州立自治大学	
オセアニア	オーストラリア	RMIT大学, マードック大学, デーキン大学	
ヨーロ ッ パ	ロシア	モスクワ大学アジア・アフリカ学院	
	ウクライナ	キエフ大学	
	ポーランド	ワルシャワ経済大学	
	イギリス	セントラル・ランカシャー大学, イーストアングリア大学, ミドルセックス大学, バンガー大学, オックスフォード・ブルックス大学	
	アイルランド	ユニバーシティ・カレッジ・コーク	
	ドイツ	デュースブルグ・エッセン大学, プレーメン応用科学大学 (理工学研究科生のみ), ロイファナ大学 (理工学研究科生のみ)	
	フランス	リヨン第3大学	
	イタリア	ボローニャ大学 (理工学研究科生のみ), サレルノ大学 (理工学研究科生のみ)	
	フィンランド	東フィンランド大学 (旧ヨエンスウ大学)	
	スウェーデン	リネウス大学 (旧ベクショー大学)	
	デンマーク	オーフス大学	
	オランダ	ラドバウド大学 (理工学研究科生のみ)	
	スペイン	バルセロナ自治大学, バレンシア大学	
アフリカ	ポルトガル	リスボン大学高等技術院 (理工学研究科生のみ)	
	スロバキア	コメンスキー大学人文学部	
	南アフリカ	クワズール・ナタール大学	
	アンゴラ	アゴスティーニョネット大学 (理工学研究科生のみ)	
	マラウイ	マラウイ大学 (理工学研究科生のみ)	

※留学先大学の都合により条件を変更する場合や募集を行わない場合がありますので, グローバル教育推進センターホームページで確認してください。

## BIE Programについて

BIE Program (Berkeley Interculutual English Program) は、龍谷大学のRyukoku University Berkeley Center (アメリカ・バークレー) を利用した本学独自の留学プログラムです。英語学習とCommunity Service Learning (ボランティア活動)、講義を組み合わせたプログラムで5-week (5週間) とSemester (半年間) の2つのプログラムが1年間に2回ずつ行われます。

バークレーで修得した単位は、5-weekプログラムは6単位まで、Semesterプログラムは18単位まで単位を認定します。ただし、BIE Programのインターンシップ (Community Service Learning (ボランティア活動)) は、協定型インターンシップ、大学コンソーシアム京都「インターンシップ・プログラム」と合わせて**上限8単位**しか認定できません。また、2010年度・2011年度に実践・マイ・キャリアデザインを受講した場合は、本科目の単位も8単位の中に含まれます。詳しくは、経営学部教務課にお問い合わせください。

なお、BIE Programの実施時期、説明会開催予定は以下のとおりです。

	留学期間	募集時期
5-week summer program	8月上旬～9月下旬	4月頃
5-week spring program	2月中旬～3月下旬	9月～10月頃
Fall semester program	10月上旬～2月中旬	4月頃
Spring semester program	3月下旬～7月下旬	9月～10月頃

## 私費留学について

私費留学とは、自分で留学したい大学を探し、留学希望先大学からの受入承認を得て留学する方法です。留学先は、原則として「大学」でなければなりませんし、留学の目的は、みなさんの所属コースの専門知識の修得でなければなりません。ですから、私費留学を計画する場合は、必ず指導教員に相談してください。

また、私費留学をするには、留学前に経営学部教授会の承認を得る必要があります。私費留学を認められると、龍谷大学の学費が免除されます（ただし、留学在籍料は必要）ので、事前に経営学部教務課に相談してください。

〈提出書類〉

- (1) 留学願書（※）
- (2) 学業成績証明書
- (3) 指導教授の推薦書（※）
- (4) 健康診断書（※）
- (5) 留学先大学からの受入通知書の写し
- (6) 留学先大学の資料

（※）は国際センターホームページよりダウンロードしてください。

## 短期留学について

カリキュラムやクラブ活動などの関係で長期間大学を離れることができない学生には、夏期休暇や冬期休暇を利用した短期留学がお勧めです。

本学では、これらの休暇を利用した語学研修や異文化体験などのプログラムを設けています。（各プログラムの開講は年度によって異なります。）

詳細は、グローバル教育推進センター、教学部（学部共通コース）にお問い合わせください。

## 個人留学（休学して留学する）

大学を休学した場合、留学先で勉強した期間は在学期間に算入されません。また、単位の認定も行われません。1年間（ないし半年間）海外の専門語学学校で語学をみっちり勉強したいという学生や、ワーキングホリデーをしてみたい、海外でボランティアをしてみたいという学生がよく利用する方法です。

## 留学期間中のゼミの扱いについて

海外留学に行く際のゼミの取り扱い、下記のとおりとします。ただし、以下の説明は経営学部内コース生のみ対象となりますので、学部共通コース生は所属コースで事前に確認してください。

- (1) 1年間留学に行く場合、ゼミの継続は認めません。  
ただし、4年生で海外留学する場合（表⑪）は、ゼミの継続と演習論文の執筆ができます。
- (2) 半年間の留学は、基礎演習を除いてゼミの継続が認められます。ただし、第4 Semesterで留学へ行く場合（表④）は、第5 Semesterからゼミへ受け入れます（ただし、担当者によっては受け入れが不可能な場合もあります）。

### 〈2008年度以降入学生〉

〈演習（5 Semester～8 Semester） 合計12単位取得可能〉

第4 Semesterからはじまる演習に第5 Semesterから所属し、第8 Semesterも履修してください。

- (3) ゼミの募集期間に日本にいない場合は、帰国後にゼミの選考をうけられます（表②・表③・表④）。希望者は経営学部教務課に申し出てください（ただし、担当者によっては受け入れが不可能な場合もあります）。

**ゼミの継続が可能な場合であっても、事前に担当教員（選考中の場合は所属予定の教員）にゼミ継続の許可を得なければなりません。**ゼミの継続履修を希望するには、「帰国後のゼミ履修に係る承諾書」を提出しなければなりませんので、希望者は経営学部教務課に申し出てください。

	留学期	留学期間	影響する演習	演習受入 (演習継続)	修得単位数	演習論文
①	2 Semester	半年間	基礎演習	継続不可	基礎演習 0 単位	執筆可能
②	3 Semester	半年間	基礎演習	継続不可	基礎演習 0 単位	執筆可能
③	3・4 Semester	1年間	基礎演習・演習	5 Semesterからの 受入可能	基礎演習 0 単位 演習 (12 単位)	執筆可能
④	4 Semester	半年間	演習	5 Semesterからの 受入可能	演習 (12 単位)	執筆可能
⑤	4・5 Semester	1年間	演習	継続不可	演習 (0 単位)	執筆不可
⑥	5 Semester	半年間	演習	継続可能	演習 (12 単位)	執筆可能
⑦	5・6 Semester	1年間	演習	継続不可	演習 (0 単位)	執筆不可
⑧	6 Semester	半年間	演習	継続可能	演習 (12 単位)	執筆可能
⑨	6・7 Semester	1年間	演習	継続不可	演習 (0 単位)	執筆不可
⑩	7 Semester	半年間	演習	継続可能	演習 (12 単位)	執筆可能
⑪	7・8 Semester	1年間	演習	継続可能	演習 (12 単位)	執筆可能
⑫	8 Semester	半年間	論文指導	継続可能	演習 (12 単位)	執筆可能

## 私の留学体験記（交換留学・カリフォルニア州立大学ノースリッジ校）

野田 莉恵子

3回生の8月から10ヵ月間アメリカに交換留学へ行きました。私が留学を決めた理由は、「何事にも受け身で主体性のない自分を変えたい」「実用的な英語能力を身に着けたい」という思いからです。留学に行くまでは大きな挑戦は避け、特に大きな挫折もなく淡々と過ごしていたように思います。自分に自信が無く、周囲と比較しては、自分に対する評価を過剰に気に留め「自分らしさ」を失っていたことに気がつきました。そこで、自分を変えるなら今動くしかないと考えました。私



費留学ではなく、交換留学を選んだ一番の理由は、単なる語学授業ではなく現地の大学生に混じり学部授業を受けられるからです。留学当初は語学の壁に悩み、友人をつくるのに本当に時間がかかりました。講義やクラスメートの会話のスピードに全くついていけず、発言しては恥をかき、居場所のなさやふがいなさに毎日苦しみ泣いて帰ることもよくありました。でもそんな時に支えになったのが、日本にいる友人やゼミの教授、家族の存在でした。一生懸命頑張ると宣言して送り出してもらったのに、自分はまだなにも努力していない。そこで、授業では最前列に座り必ず発言し、授業後は教授に質問しに行くなど積極的な姿勢で取り組むことから始めました。また、毎週ジムで行われるダンス教室に一人で参加したり、部活動の経験を活かしてバドミントン部に入部したり、新しい環境に飛び込むことを心がけました。続けるうちに度胸がつき、相手の出方をみて発言する消極的な姿勢が改善されました。すると、今まで話しかけてくれなかったクラスメートから声をかけられるようになり、「日本人にも積極的で社交的な人がいるんだ！」とアメリカ人を驚かせ、固定観念を払拭することもできました。

留学経験で学んだ一番大切なことは、英語の習得でもなく、就職活動のためでもありません。龍谷大学という狭い世界から一歩踏み出して、世界をフィールドに一生懸命頑張っている人たちと出会い刺激を受け、自分のちっぽけさに気づかされ、限界を広げられたことだと考えています。

またアメリカ人学生の学業に対する姿勢を見て、私たちは同じ大学生として危機感を覚えるべきだと感じました。彼らは、卒業のための単位をとるためではなく、将来のキャリアを想定して慎重に授業を選び、真剣に学業に取り組みます。これは、日本の大学制度により生じる違いでもあると思います。ですが、「何のために経営学を学び、何のためにこの授業を受けるのか」を常に念頭に置くことは誰にでもできることです。海外にいけば必ず聞かれます。私自身、帰国後学業に対する意識も変わり、もう一度1回生から勉強し直したいと思ったほどです。その考え方の違いが、将来に大きく影響を与えるのではないかと私は捉えています。これは私の一意見ですが、可能であれば龍谷大学で経営学を専門的に学び、留学先で学業を通して英語を身につけられることをお勧めします。経営学部コースを選択しながら交換留学に挑む人が少ないと聞くのは、ゼミを抜けなければならないことや語学面での不安からだと思っています。ですが、交換留学にいけば英語が話せるだけでは通用しません。英語は単なるツール



であるというのは本当だと実感しました。

時間に縛られず、思うがまま自由にアクションを起こせるのは大学生だけの特権です。卒業間際になり「留学しておけばよかった」という友人の声を本当によく聞きます。語学に対する不安はあると思いますが、誰にでも平等にチャンスはあります。この体験記を見て、これから留学に挑戦したいと思ってくれる人が一人でも増え、より充実した学生生活を送っていただけることを願います。こちらでは大まかにしか書いていませ

んが、もし興味を持っていただけたのであれば、留学マンスリーレポートという龍谷大学のHPに留学生の体験記が詳しく掲載されています。ぜひご覧いただき、参考にしていただけたらと思います。

## 私の留学体験記（私費留学・ペンシルバニア大学）

鳴谷 浩和

私は4回生の3月から約半年間アメリカ・フィラデルフィアのペンシルバニア大学の語学学校に通いました。

周りの同回生が就活をするこの時期に行ったのは、卒業後アメリカのビジネススクールに通いたいという入学当初から持っていた目標に前進するためでした。3回生までの大学生活において、所属している秋庭ゼミでの学習は僕にとって凄く充実したもので中途半端にしたくなかったのと、英語サークルESSで幹部をやっていたというのもあって、諸々の兼ね合いからなかなか大きな一歩を踏み出すに至れませんでした。しかし、最終的な目標は依然として持ち続けていたので、すべてが一旦落ち着くこの時期がわたしにとってベストだったのです。

私費留学では、自分のプラン・留学目的に合わせてより柔軟に時期・期間、そして場所を選べることができます。私が通った語学学校のあるペンシルバニア大学は、ビジネス分野ではアメリカはもとより、世界でも五本の指に数えられるほどの大学です。わたしが行ったのは語学学校だったので、直接ビジネスを学ぶわけではないのですが、大学の教授にアポイントメントを取って、大学の講義を何度か聴講したりすることのできたので、すごく貴重な経験をできました。加えて、これは自分の勝手なイメージですが、西海岸のほうは日本人が割合として多いような気がして、東海岸でより日本人が少ないとエージェントから聞いていたこの大学を選びました。結局、日本人は程々いたものの、授業内ではほとんど日本人は自分ひとりか、いても2、3人。総合的に見て、環境的に申し分ないところでした。



よく言われることですが、私費留学は、英語をこれから勉強していく人と一緒に学校に通うことになるので、交換留学と比べるとネイティブ英語に触れる機会というのは少ないかもしれません。しかし、似た境遇にある同士であるからこそ、周りとすぐに打ち解けやすい環境があります。加えて、多くの国籍の人が集まるので、これまで接したことの無い国の人の文化や性格が私生活や学校の授業を通して知れてとても面白いのです。フィラデルフィアはNYにもワシントンにもバ

スで日帰り出来るほど最高のロケーションだったので、週末は語学学校の友達やルームメイトとよくショッピングや観光しに行ったりしていました。

今回の留学中、常に意識したのが「まずは行動してみる」ということです。熟考することも大切ですが、いつまでも決断を先延ばしにしていると、気づいた時にはその好機は過ぎてしまっているものです。留学中は特に、そのような機会に溢れています。私も留学前は、行動する前はいろいろと考えてしまって結局「まあやらんでも何とかかなるか」となってしまいがちだったのですが、いろんな面で損しているのではないかと感じ、アグレッシブに行動してみることにしました。いざやってみて、苦労することはあっても後悔することはほとんどなかったです。例として、語学学校ではネイティブと話す機会があまりないかもしれないと先述しましたが、わたしはあちらでSNSや大学内の掲示板の情報をもとに、日本語を学びたいネイティブとのコミュニティーに参加することで、こちらが日本語を教えるのと同時に、現地のアメリカ人と英語で話す機会を得ることができました。

留学をするかしないかも本当に大きな決断だと思います。ただ、やはり行ってみたいと思うのは、留学してそこで培った英語力はもちろん、そこでの経験や、これまで知らなかった新たな自分の可能性の発見は、今後の自分の成長を支える大きな糧となるということです。留学に行きさえすれば、人は変われるというわけではないですが、変わる転機となりえる可能性が留学には十二分にあると私は実感しています。



## 8. 教職課程（2014年度以前入学生対象）

### 教職課程の概要

龍谷大学の教職課程は、教員を目指す学生のために設置されたものであり、これまで多くの優秀な人材を教育界に送り出してきたという誇るべき実績を持っています。

教育改革が叫ばれる今日、教員の資質能力向上が特に大きな課題となっています。そのため本学では、教科等に関する確かな専門的知識を身につけ、その上に、広く豊かな教養、人間の成長・発達についての深い理解、生徒に対する教育的愛情、教育者としての使命感等を持ち、これらを基盤とした実践的指導力を養成することを目的として教職課程を編成しています。

教員は常に生徒と向き合い、実践的に対応しなければなりません。単なる批判者ではなく、何事にも自主的・主体的・集団的な取組ができる力を身につけてほしいものです。また、積極的・意欲的に教職を目指すとともに、社会的な常識も身につけるよう心がけてください。

4年間の教職課程の中で教育実習は大きな意味をもちます。教育実習は学校現場で行うので、社会的な責任を負うことにもなります。みなさんが十分に研鑽を積み、実り豊かな教育実習を行い、また、教員採用試験を突破して教壇に立って欲しいと願っています。

なお、本学の教職課程は、法定最低限度以上の講義を開設しています。また、免許法関係の変更も多く、免許取得の道が複雑にもなってきていますので、この履修要項をよく読み、理解することが大切です。

### 経営学部・経営学研究科において取得できる教育職員免許状の種類

教育職員免許法に基づき、本学が認定を受けている免許状の種類は下記のとおりです。

免許教科	学部で取得できる免許状		大学院で取得できる免許状	
	中学校教諭	高等学校教諭	中学校教諭	高等学校教諭
社会	一種免許状			
地理歴史		一種免許状		
公民		一種免許状		
商業		一種免許状		専修免許状

## 教育職員免許状の授与を受けるための基礎資格と最低修得単位数

『教育職員免許法』に定める法律上の最低修得単位数は、下記のとおりです。そのほかに、『教育職員免許法』第5条および『教育職員免許法施行規則』第66条の6に定める「日本国憲法」2単位、「体育」2単位、「外国語コミュニケーション」2単位、「情報機器の操作」2単位が必要です。

また、中学校の普通免許状の授与を受けようとする者は、「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」に定める「介護等体験」が必要です。本学の「介護等体験」（旧科目名「教育実践研究I」）（2単位）がこれにあたります。

なお、本学の教職課程で免許を取得する為に必要な単位数等については、本学が定める履修基準により、下記の表に記載している科目の区分や単位数とは異なりますので、留意してください。

本学で教員免許状を取得するのに必要な科目等については次ページ以降を参照してください。

免許状の種類		基礎資格	最低修得単位数			
			教科に関する科目	教職に関する科目	教科又は教職に関する科目	合計
中学校 教諭	専修	修士の学位を有すること （※大学院に1年以上在学し30 単位以上修得した場合を含む）	20	31	32	83
	一種	学士の学位を有すること	20	31	8	59
高等学校 教諭	専修	修士の学位を有すること （※大学院に1年以上在学し30 単位以上修得した場合を含む）	20	23	40	83
	一種	学士の学位を有すること	20	23	16	59

※但し、大学院に「1年以上在学30単位以上修得」を基礎資格として免許状を取得し、その後修士の学位を取得した場合であっても免許の基礎資格欄を「修士学位取得」に変更することはできません。したがって、やむを得ない事情がある場合を除き、修士学位取得予定者は「修士学位取得」を基礎資格として申請することが望ましいといえます。

## 本学で教員免許状を取得するには（一種免許状）

本学で教員免許状を取得するには、「基礎資格」を卒業時に充たすことと、次ページの図に示した科目群の単位を修得することが必要です。専修免許状の取得方法についてはP.186を参照してください。



## 科目および科目群

人権論 A・B

⇒ 4単位必修  
詳細はP.141に記載。

+

「教育職員免許法施行規則」  
第66条の6に定める科目⇒ 「日本国憲法」 2単位  
「体育」 2単位  
「外国語コミュニケーション」 2単位  
「情報機器の操作」 2単位  
上記各区分2単位以上修得し、  
合計8単位以上必修

+

教職に関する科目

⇒ 詳細はP.169に記載。

+

教科に関する科目

⇒ 必修単位を含む最低修得単位数は教科ごとに異なります。  
詳細はP.172に記載。

+

【中学校教諭免許状取得希望者のみ】  
介護等体験に関する科目⇒ 2単位必修  
詳細はP.181に記載。

☆教育実習は教育実習前年度（3年次終了時）に次に掲げる先修科目の単位を修得していないと参加できません。

☆教育実習の先修科目

大学（大学院）	単位
教育原論（AまたはB）	2
発達と教育（AまたはB）	2
各教科の指導法	4
人権論（AおよびB）	4
介護等体験 （旧科目名：教育実践研究Ⅰ） ※中学校一種免許取得予定者のみ	2
教育実習指導Ⅰ（事前指導） （旧科目名：教育実践研究Ⅱ）	1

## 教職課程の履修にあたっての注意事項

### (1) 履修登録制限単位について

時間割表に科目名とともに記載されている登録コードが「Z」で始まる科目については履修登録制限に含まれないので、制限単位を超えて履修登録をすることができます。

具体的には下記の科目は履修制限単位に含まれません。

#### 1) 教職に関する科目

ただし、教職に関する科目を兼ねている教養教育科目（共同開講科目）・専攻（固有）科目は制限登録単位に含まれます。

#### 2) 介護等体験に関する科目の「介護等体験」（旧科目名「教育実践研究Ⅰ」）

#### 3) 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目の「教職コンピュータ基礎」

#### 4) 一部の教科に関する科目（下表参照）

教科	社 会	地理歴史	公 民	商 業
科目名	日本史概説 外国史概説 人文地理学 地理学（地誌） 自然地理学 法学概論 倫理学概論 政治学原理 哲学概論 宗教学概論	日本史概説 日本政治史 日本経済史 日本法制史A 日本法制史B 外国史概説 西洋政治史 西洋法制史A 西洋法制史B ヨーロッパ経済史 アメリカ経済史 アジア経済史 人文地理学 地理学（地誌） 経済地理学 自然地理学	国際政治論 国際法Ⅰ 心理学概論 法学概論 倫理学概論 哲学概論 宗教学概論 政治学原理	職業指導

### (2) 事前登録・予備登録が必要な科目について

教員免許取得のために必要な科目は大部分の教職に関する科目を除き、ほとんどが教養教育科目（共同開講科目）・専攻科目等です。これらの中には事前登録・予備登録をしないと受講できない科目がありますので、履修要項等で確認しておくようにしてください。

**(3) 2教科以上の免許状を取得しようとする場合の注意点について**

- 1) 「教科に関する科目」は取得しようとする教科ごとに履修しなければなりません。
- 2) 「教科に関する科目」以外は取得しようとする教科にかかわらず共通ですが、「教職に関する科目」の教科教育法は取得しようとする教科ごとに履修しなければなりません。

**(4) 教員免許取得上の「必修」「選択」について**

次のページ以降に出てくる履修要件の「必修」「選択」は教員免許取得上のものです。卒業要件の「必修」「選択」科目とは異なりますので注意してください。

**(5) 次のページ以降に出てくる『分野』という記載について**

- |             |               |
|-------------|---------------|
| 「教養」→教養教育科目 | 「共同」→共同開講科目   |
| 「専攻」→専攻科目   | 「コース」→国際関係コース |
| 「随意」→随意科目   |               |

**(6) 教職課程に関する諸連絡について**

教職課程に関する連絡は、原則として経営学部掲示板では行いません。教職課程履修者は教職センター掲示板を常に見るように心がけてください。

また、諸手続きや説明会等への参加は厳守してください。無断欠席等の場合、履修できなくなることがあります。

**人権論（本学指定の必修科目）**

4単位必修です。

授業科目名	単位数	分野
人権論A	2	教養（共同）
人権論B	2	教養（共同）

## 「教育職員免許法施行規則」第66条の6に定める科目

免許法施行規則 に定める科目	本学開講の関連科目および単位数				
	科目名	単位数	履修要件	分野	備考
日本国憲法	日本国憲法	2	必修	教養	
体 育	オリンピック運動と人権・平和★	2	2単位必修	教養(共同)	
	スポーツと人権・平和	2		教養(共同)	
	健康とスポーツ	2		教養(共同)	
	スポーツと環境★	2		教養(共同)	
	現代社会とスポーツ	2		教養(共同)	
	スポーツ技術学★	2		教養(共同)	
	スポーツ技術学演習	2		教養(共同)	
	スポーツ表現の実際	2		教養(共同)	
	人間とスポーツA	2		教養(共同)	
	人間とスポーツB	2		教養(共同)	
外国語コミュニ ケーション	英語 I A	1	2単位必修	教養(共同・共通)	
	英語 I B	1		教養(共同・共通)	
	英語 I C	1		教養(共同・共通)	
	英語 I D	1		教養(共同・共通)	
	英語 II A	1		教養(共同・共通)	
	英語 II B	1		教養(共同・共通)	
	ドイツ語 I	2		教養(共同・共通)	
	フランス語 I	2		教養(共同・共通)	
	中国語 I	2		教養(共同・共通)	
	スペイン語 I	2		教養(共同・共通)	
	コリア語 I	2		教養(共同・共通)	
情報機器の操作	経営データの分析 A ※1	2	2単位必修	専攻	
	プログラミングおよび実習 A 1	2		専攻	
	プログラミングおよび実習 A 2	2		専攻	
	プログラミングおよび実習 B 1	2		専攻	
	プログラミングおよび実習 B 2	2		専攻	
	情報科学実習 I ※2	2		教養(共同)	
	情報科学実習 II ※2	2		教養(共同)	
	教職コンピュータ基礎	2		随意	

※1. 2009年度以降に単位修得した場合のみ「情報機器の操作」(2単位)として認定します。

※2. 「情報科学実習 I・II」の受講にあたってはコンピュータに関する一定の知識を習得していることが前提となります。シラバス(講義概要)を熟読の上、受講してください。

★印の科目は現在開講されていない科目を表します。

## 教職に関する科目の履修方法

(2011年度以降入学生適用)

免許法施行規則に定める科目区分等		中学校教諭、高等学校教諭一種免許状					備考
科目	各科目に含める必要事項	本学開講科目	単位数	履修要件	分野	担当セメスター	
教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種機会の提供等	教職論	2	必修	随意	3	
教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論A	2	1科目	教養	3	A B両科目を履修することが望ましい
		教育原論B	2	必修		4	
		人権教育論	2	選択	随意	4	不開講
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）	発達と教育A	2	1科目	教養	3	A B両科目を履修することが望ましい
発達と教育B	2	必修	4				
・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	学校教育社会学	2	必修	随意	4	※1	
教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法	教育課程論	2	必修	随意	4	
	・各教科の指導法 《免許状の教科ごとに4単位必修です》	商業科教育法	4	左記参照	随意	5～6	
		社会科教育法Ⅰ	4		随意	5～6	
		社会科教育法Ⅱ《選択》	4		随意	7～8	
		地理歴史科教育法	4		随意	5～6	
		公民科教育法	4		随意	5～6	
	・道徳の指導法 《中学免許取得希望者のみ必修》	道徳教育指導法	2	左記参照	随意	6	※2
・特別活動の指導法	特別活動論	2	必修	随意	3		
・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	教育の方法と技術	2	必修	随意	5	※3	
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法	生徒指導論（進路指導を含む）	2	必修	随意	5	
教育実習	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	学校カウンセリング論	2	必修	随意	6	※4
		教育実習指導Ⅰ（事前指導）	1	必修	随意	5～6	
教職実践演習		教育実習指導ⅡA（実習・事後指導）	4	1科目	随意	7～8	中学校免許取得希望者必修 ※5
		教育実習指導ⅡB（実習・事後指導）	2	必修	随意	7～8	高等学校免許取得希望者必修 ※5
教職実践演習		教職実践演習（中・高）	2	必修	随意	8	※6

- ※1 臨時セメスター変更：2014年度は3セメおよび4セメで開講します。
- ※2 高校免許取得希望者が、中学免許取得に必要な「道徳教育指導法（2単位）」を修得した場合は、法律で定める「教科又は教職に関する科目」に充当されます。ただし、一種免許状取得に必要として開講している「教科に関する科目」および「教職に関する科目」には充当できません。
- ※3 臨時セメスター変更：2014年度は6セメで開講します。
- ※4 臨時セメスター変更：2014年度は5セメで開講します。
- ※5 中高両免許取得者は教育実習指導ⅡAを登録すること。詳細についてはP.179「教育実習について」を参照してください。
- ※6 「教職実践演習」の履修については、P.184「教職実践演習の履修について」を参照して下さい。

## (2010年度入学生適用)

免許法施行規則に定める科目区分等		中学校教諭、高等学校教諭一種免許状					備考
科目	各科目に含める必要事項	本学開講科目	単位数	履修要件	分野	配当セメスター	
教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種機会の提供等	教職論	2	必修	随意	3	旧科目名「教師論」※1
教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論A	2	1科目必修	教養	3	A B 両科目を履修することが望ましい
		教育原論B	2			4	
		人権教育論	2	選択	随意	4	不開講
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）	発達と教育A	2	1科目必修	教養	3	A B 両科目を履修することが望ましい
		発達と教育B	2			4	
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	学校教育社会学	2	必修	随意	4	旧科目名「教育制度論」※1 ※2
教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法	教育課程論	2	必修	随意	4	
		商業科教育法	4	左記参照	随意	5～6	
	社会科教育法Ⅰ	4	随意		5～6		
	社会科教育法Ⅱ《選択》	4	随意		7～8		
	地理歴史科教育法	4	随意		5～6		
	公民科教育法	4	随意		5～6		
	・各教科の指導法 《免許状の教科ごとに4単位必修です》						
	・道徳の指導法 《中学免許取得希望者のみ必修》	道徳教育指導法	2	左記参照	随意	6	※3
・特別活動の指導法	特別活動論	2	必修	随意	3		
・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	教育の方法と技術	2	必修	随意	5	旧科目名「メディア教育論」※1 ※4	
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導の理論及び方法	生徒指導論（進路指導を含む）	2	必修	随意	5	
	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	学校カウンセリング論	2	必修	随意	6	※5
教育実習		教育実習指導Ⅰ（事前指導）	1	必修	随意	5～6	旧科目名「教育実践研究Ⅱ」※1
		教育実習指導ⅡA（実習・事後指導）	4	1科目必修	随意	7～8	旧科目名「教育実践研究ⅢA」※1 中学校免許取得希望者必修 ※6
		教育実習指導ⅡB（実習・事後指導）	2		随意	7～8	旧科目名「教育実践研究ⅢB」※1 高等学校免許取得希望者必修 ※6
教職実践演習		教職実践演習（中・高）	2	必修	随意	8	※7

※1 旧科目名称で既修の学生については、新科目名称の科目を履修する必要はありません。

※2 臨時セメスター変更：2014年度は3セメおよび4セメで開講します。

※3 高校免許取得希望者が、中学免許取得に必要な「道徳教育指導法（2単位）」を修得した場合は、法律で定める「教科又は教職に関する科目」に充当されます。ただし、一種免許状取得に必要として開講している「教科に関する科目」および「教職に関する科目」には充当できません。

※4 臨時セメスター変更：2014年度は6セメで開講します。

※5 臨時セメスター変更：2014年度は5セメで開講します。

※6 中高両免許取得者は「教育実習指導ⅡA」（旧科目名「教育実践研究ⅢA」）を登録すること。詳細についてはP.179「教育実習について」を参照してください。

※7 「教職実践演習」の履修については、P.184「教職実践演習の履修について」を参照して下さい。

(2009年度以前入学生適用)

免許法施行規則に定める科目区分等		中学校教諭、高等学校教諭一種免許状					備考	
科目	各科目に含める必要事項	本学開講科目	単位数	履修要件	分野	配当セメスター		
教職の意義等に関する科目	・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） ・進路選択に資する各種機会の提供等	教職論	2	必修	随意	3	旧科目名「教師論」※1	
教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論A	2	1科目必修	教養(共同)	3	A B 両科目を履修することが望ましい	
		教育原論B	2			4		
		★同和教育論	2	選択	随意	6		不開講
		人権教育論	2	選択	随意	4		不開講
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）	発達と教育A	2	1科目必修	教養(共同)	3	A B 両科目を履修することが望ましい	
		発達と教育B	2			4		
・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	学校教育社会学	2	1科目必修	随意	4	旧科目名「教育制度論」※1 ※2		
	★教育行政学	4			5~6	2002年度以降入学生は「学校教育社会学」（旧科目名「教育制度論」）が必修 教育行政学は不開講		
教育課程及び指導法に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法	教育課程論	2	必修	随意	4		
		商業科教育法	4	左記参照	随意	5~6		
	社会科教育法	4	随意		5~6	2000年度~2005年度入学生		
	社会科教育法Ⅰ	4	随意		5~6	2006年度以降入学生		
	社会科教育法Ⅱ〔選択〕	4	随意		7~8	2006年度以降入学生		
	地理歴史科教育法	4	随意		5~6			
	公民科教育法	4	随意		5~6			
	・道徳の指導法 《中学免許取得希望者のみ必修》	道徳教育指導法	2		左記参照	随意	6	※3
・特別活動の指導法	特別活動論	2	必修	随意	3			
・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	教育の方法と技術	2	必修	随意	5	旧科目名「メディア教育論」※1 ※4		
	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	生徒指導論（進路指導を含む）	2	必修	随意	5		
・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	学校カウンセリング論	2	必修	随意	6	※5		
	総合演習	教職総合演習	2	必修	随意	5	※6 2012年度科目廃止。	
教育実習	教育実習指導Ⅰ（事前指導）	1	必修	随意	5~6	旧科目名「教育実践研究Ⅱ」※1		
	教育実習指導ⅡA（実習・事後指導）	4	1科目必修	随意	7~8	旧科目名「教育実践研究ⅢA」※1 中学校免許取得希望者必修 ※7		
	教育実習指導ⅡB（実習・事後指導）	2		随意	7~8	旧科目名「教育実践研究ⅢB」※1 高等学校免許取得希望者必修 ※7		

- ※1 旧科目名称で既修の学生については、新科目名称の科目を履修する必要はありません。  
 ※2 臨時セメスター変更：2014年度は3セメおよび4セメで開講します。  
 ※3 高校免許取得希望者が、中学免許取得に必要な「道徳教育指導法（2単位）」を修得した場合は、法律で定める「教科又は教職に関する科目」に充当されます。ただし、一種免許状取得に必要として開講している「教科に関する科目」および「教職に関する科目」には充当できません。  
 ※4 臨時セメスター変更：2014年度は6セメで開講します。  
 ※5 臨時セメスター変更：2014年度は5セメで開講します。  
 ※6 2012年度までに履修できていない場合は、教職センターに相談をしてください。  
 ※7 中高両免許取得者は「教育実習指導ⅡA」（旧科目名「教育実践研究ⅢA」）を登録すること。詳細についてはP.179「教育実習について」を参照してください。

★印の科目は現在開講されていない科目を表します。

## 教科に関する科目の履修方法

教科に関する科目は専攻（固有）科目の他に、随意科目・学部共通コースの科目もあります。随意科目の配当セメスターは下記の通りです。

科目名〈単位数〉	配当セメスター								備 考
	1	2	3	4	5	6	7	8	
日本史概説 〈4〉					○				
外国史概説 〈4〉					○				
人文地理学 〈4〉					○				
自然地理学 〈4〉					○				
地理学（地誌） 〈4〉					○				
倫理学概論 〈4〉					○				
心理学概論 〈4〉					○				
哲学概論 〈4〉					○				2014年度休講
宗教学概論 〈4〉					○				2014年度休講
法学概論 〈4〉					○				
国際政治論 〈4〉						○			
国際法 〈4〉						○			
日本経済史 〈4〉						○			2014年度は5セメ開講
職業指導 〈4〉					○				
日本政治史 〈4〉					○				2014年度は6セメ開講
日本法制史A 〈2〉					○				
日本法制史B 〈2〉						○			
西洋政治史 〈4〉					○				
西洋法制史A 〈2〉					○				
西洋法制史B 〈2〉						○			
ヨーロッパ経済史 〈4〉						○			
アメリカ経済史 〈4〉						○			2014年度は5・6セメ開講
アジア経済史 〈4〉						○			
経済地理学 〈4〉						○			2014年度は5・6セメ開講
政治学原理 〈4〉					○				

選択科目は選択科目群全体から必要単位を修得してください。特定の科目群の科目のみで必要単位を修得しても問題ありません。



## 教科に関する科目の履修について（2008年度以降入学生）

中学校教諭一種免許状 社会（2008年度以降入学生適用）（ ）内は単位数

教科に関する科目 および科目群	本学開講の関連科目および単位数				
	必修単位	必修科目	分野	選択科目	分野
日本史および 外国史	8	日本史概説 (4) 外国史概説 (4)	随意 随意	日本経営史 (2) 経営史 (2) 国際比較経営史 (2)	専攻 専攻 専攻/ コース
地理学 (地誌を含む。)	12	人文地理学 (4) 自然地理学 (4) 地理学(地誌) (4)	随意 随意 随意		
「法律学, 政治学」	4	政治学原理 (4) 法学概論 (4) 2科目中1科目必修	随意 随意	民法 (2) 労働法 (2)	専攻 専攻
「社会学, 経済学」	2	経済原論 (2)	専攻	国際比較社会論 (2) マクロ経済学 (2) 日本と世界の経済 (2) 現代金融論 (2)	専攻/ コース 専攻 専攻/ コース 専攻
「哲学, 倫理 学, 宗教学」	4	倫理学概論 (4)	随意	哲学概論 (4) 宗教学概論 (4)	随意 随意

### 履修上の注意

1. 必修科目30単位以上を修得しなければなりません。選択科目はできるだけ履修してください。
2. 「民法」「労働法」の4単位科目も選択科目に含まれます(現在開講されていない科目)。

高等学校教諭一種免許状 地理歴史（2008年度以降入学生適用）（ ）内は単位数

教科に関する科目 および科目群	本学開講の関連科目および単位数				
	必修単位	必修科目	分野	選択科目	分野
日本史	4	日本史概説 (4)	随意	日本経営史 (2) 日本政治史 (4) 日本経済史 (4) 日本法制史A (2) 日本法制史B (2)	専攻 随意 随意/ コース 随意 随意
外国史	4	外国史概説 (4)	随意	経営史 (2) 国際比較経営史 (2) 西洋法制史A (2) 西洋法制史B (2) 西洋政治史 (4) ヨーロッパ経済史 (4) アメリカ経済史 (4) アジア経済史 (4)	専攻 専攻/ コース 随意 随意 随意 随意/ コース 随意/ コース 随意/ コース
人文地理学およ び自然地理学	8	人文地理学 (4) 自然地理学 (4)	随意 随意	経済地理学 (4) 経営立地論 (2)	随意/ コース 専攻
地誌	4	地理学(地誌) (4)	随意		

### 履修上の注意

1. 必修科目20単位を含め、計32単位以上を修得しなければなりません。

高等学校教諭一種免許状 公民（2008年度以降入学生適用）（ ）内は単位数

教科に関する科目 および科目群	本学開講の関連科目および単位数				
	必修単位	必修科目	分野	選択科目	分野
「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」	4	法学概論 (4)	随意		
		(国際法を含む。)			
		政治学原理 (4)	随意	民法 (2)	専攻
		(国際政治を含む。)		労働法 (2)	専攻
		国際法 (4)	随意／ コース	会社法 (2)	専攻
国際政治論 (4)	随意／ コース	経済法 (2)	専攻		
4科目中1科目必修					
「社会学, 経済学（国際経済を含む。）」	2	経済原論 (2)	専攻	現代金融論 (2)	専攻
				国際経営論 (2)	専攻／ コース
				株式会社論 (2)	専攻
				多国籍企業論 (2)	専攻／ コース
				マクロ経済学 (2)	専攻
国際比較社会論 (2)	専攻／ コース				
日本と世界の経済 (2)	専攻				
「哲学, 倫理学, 宗教学, 心理学」	4	倫理学概論 (4)	随意	哲学概論 (4)	随意
		心理学概論 (4)	随意	宗教学概論 (4)	随意
		2科目中1科目必修			

履修上の注意

1. 必修科目 3 科目10単位を含め、計32単位以上を修得しなければなりません。
2. 必修科目中、規定以上に修得した科目は選択科目として認めます。
3. 国際関係コースの学生は「国際法 I」を修得することで免許取得上は「国際法」の単位として認定されます。

高等学校教諭一種免許状 商業（2008年度以降入学生適用）（ ）内は単位数

教科に関する科目 および科目群	本学開講の関連科目および単位数				
	必修単位	必修科目	分野	選択科目	分野
商業の関係科目	8	現代のビジネス (2)	専攻	財務管理論 (2)	専攻
				人的資源管理論 (2)	専攻
				経営数学 (2)	専攻
				経営管理論 (2)	専攻
				財務会計論 (2)	専攻
				原価計算論 (2)	専攻
				商品学 (2)	専攻
				マーケティング論 (2)	専攻
				商法 (2)	専攻
				経営情報システム論 (2)	専攻
				流通システム論 (2)	専攻
				ビジネスコミュニケーションA(英) (2)	専攻
				国際経営戦略論 (2)	専攻／ コース
				初級商業簿記 (2)	専攻
				プログラミングおよび実習A1 (2)	専攻
プログラミングおよび実習B1 (2)	専攻				
職業指導	4	職業指導 (4)	随意		

履修上の注意

1. 必修科目12単位を含め、計32単位以上を修得しなければなりません。

## 教科に関する科目の履修について（2003年度～2007年度入学生）

中学校教諭一種免許状 社会（2003年度～2007年度入学生適用）（ ）内は単位数

教科に関する科目 および科目群	本学開講の関連科目および単位数				
	必修単位	必修科目	分野	選択科目	分野
日本史および 外国史	8	日本史概説 (4) 外国史概説 (4)	随意 随意	日本経営史 (2) 経営史 (2) 国際比較経営史 (2)	専攻 専攻 専攻/ コース
地理学 (地誌を含む。)	12	人文地理学 (4) 自然地理学 (4) 地理学(地誌) (4)	随意 随意 随意		
「法学, 政治学」	4	政治学原理 (4) 法学概論 (4) 2科目中1科目必修	随意 随意	民法 (2) 労働法 (2)	専攻 専攻
「社会学, 経済学」	2	経済原論 (2)	専攻	経営社会学 (2) 国際比較社会論 (2) マクロ経済学 (2) 日本と世界の経済 (2) 現代金融論 (2)	専攻 専攻/ コース 専攻 専攻 専攻
「哲学, 倫理学, 宗教学」	4	倫理学概論 (4)	随意	哲学概論 (4) 宗教学概論 (4)	随意 随意

### 履修上の注意

1. 必修科目30単位以上を修得しなければなりません。選択科目はできるだけ履修してください。
2. 「民法」「労働法」の4単位科目も選択に含まれます（現在開講していない科目）。

高等学校教諭一種免許状 地理歴史（2003年度～2007年度入学生適用）（ ）内は単位数

教科に関する科目 および科目群	本学開講の関連科目および単位数				
	必修単位	必修科目	分野	選択科目	分野
日本史	4	日本史概説 (4)	随意	日本経営史 (2) 日本政治史 (4) 日本経済史 (4) 日本法制史A (2) 日本法制史B (2)	専攻 随意 随意 随意 随意
外国史	4	外国史概説 (4)	随意	経営史 (2) 国際比較経営史 (2)  西洋法制史A (2) 西洋法制史B (2) 西洋政治史 (4) ヨーロッパ経済史 (4)  アメリカ経済史 (4)  アジア経済史 (4)	専攻 専攻/ コース  随意 随意 随意 随意/ コース 随意/ コース 随意/ コース
人文地理学および自然地理学	8	人文地理学 (4) 自然地理学 (4)	随意 随意	経済地理学 (4) 経営立地論 (2)	随意 専攻
地誌	4	地理学（地誌） (4)	随意		

履修上の注意

1. 必修科目20単位を含め、計32単位以上を修得しなければなりません。

高等学校教諭一種免許状 公民（2003年度～2007年度入学生適用）（ ）内は単位数

教科に関する科目 および科目群	本学開講の関連科目および単位数				
	必修単位	必修科目	分野	選択科目	分野
「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」	4	法学概論 (4)	随意	民法 (2) 労働法 (2) 商法第二部 (2) 経済法 (2)	専攻 専攻 専攻 専攻
		政治学原理 (4) (国際政治を含む。)	随意		
		国際法 (4)	随意/ コース		
		国際政治論 (4)	随意/ コース		
4科目中1科目必修					
「社会学、経済学（国際経済を含む。）」	2	経済原論 (2) (国際経済を含む。)	専攻	現代金融論 (2)	専攻
				国際経営論 (2)	専攻/ コース
				経営社会学 (2)	専攻
				企業論 (2)	専攻
				多国籍企業論 (2)	専攻
				マクロ経済学 (2)	専攻
※国際比較社会論 (2)	専攻				
「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	4	倫理学概論 (4)	随意	哲学概論 (4)	随意
		心理学概論 (4)	随意	宗教学概論 (4)	随意
		2科目中1科目必修			

履修上の注意

1. 必修科目 3科目10単位を含め、計32単位以上を修得しなければなりません。（2005年度より変更）。
2. 必修科目中、規定以上に修得した科目は選択科目として認めます。
3. 国際関係コースの学生は「国際法Ⅰ」を修得することで免許取得上は「国際法」の単位として認定されます。
4. 「民法」「労働法」「商法第二部」「経済法」の4単位科目も選択科目に含まれます。（現在開講していない科目）。
5. 2006年度以前に修得した「国際比較社会論（2単位）」は、教科に関する科目として認められません。

高等学校教諭一種免許状 商業（2003年度～2007年度入学生適用）（ ）内は単位数

教科に関する科目 および科目群	本学開講の関連科目および単位数				
	必修単位	必修科目	分野	選択科目	分野
商業の関係科目	8	現代のビジネス (2) 現代の企業会計 (2) 経営と情報 (2) 簿記入門 (2)	専攻 専攻 専攻 専攻	財務管理論 (2)	専攻
				人的資源管理論 (2)	専攻
				経営数学 (2)	専攻
				経営管理論 (2)	専攻
				財務会計論 (2)	専攻
				原価計算論 (2)	専攻
				商品学 (2)	専攻
				マーケティング論 (2)	専攻
				商法第一部 (2)	専攻
				経営情報システム論 (2)	専攻
				流通システム論 (2)	専攻
				ビジネス英語A (2)	専攻
				国際経営戦略論 (2)	専攻/ コース
				商業簿記 (2)	専攻
プログラミングおよび実習A1 (2)	専攻				
プログラミングおよび実習B1 (2)	専攻				
職業指導	4	職業指導 (4)	随意		

履修上の注意

1. 必修科目12単位を含め、計32単位以上を修得しなければなりません。

## 教育実習について

### (1) 本学における教育実習に関する科目

教育実習は、大学における事前・事後指導と中学校または高等学校において実施する教育実習を履修します。

本学では、次のとおり開講しています。

科目名	単位	内容	開講semester
教育実習指導Ⅰ（事前指導） （旧科目名：教育実践研究Ⅱ）	1	事前指導	5～6
教育実習指導ⅡA（中一・二種免許必修） （旧科目名：教育実践研究ⅢA）	4	実習および事後指導	7～8
教育実習指導ⅡB（高一種免許必修） （旧科目名：教育実践研究ⅢB）	2	実習および事後指導	7～8

※中学校・高等学校の両方の免許を取得する場合は、「教育実習指導ⅡA」（旧科目名「教育実践研究ⅢA」）（4単位）を履修する必要があります。

#### ・「教育実習指導Ⅰ（事前指導）」（旧科目名「教育実践研究Ⅱ」）について

教育実習の大学での事前指導を内容として、教育実習実施の前年度に登録・履修することとなり、教育実習の先修科目として設定されています。

#### ・「教育実習指導ⅡA・ⅡB」（旧科目名「教育実践研究ⅢA・ⅢB」）について

教育現場における実習を内容とします。なお、実習後、事後指導を行います。

不明な点があれば教職センターまたは、経営学部教務課まで問い合わせてください。また授業日程等の連絡事項については常に教職センター掲示板にて行います。

### (2) 教育実習についての基本的留意事項

『教育職員免許法』に基づき、免許取得条件の重要科目に教育実習があります。教育実習は法律により、中学校免許には5単位、高等学校免許には3単位の修得が必要です。

実習実施の前年度までに「教育実習指導Ⅰ（事前指導）（1単位）」（旧科目名「教育実践研究Ⅱ」）を修得した後、「教育実習指導ⅡA（4単位）またはⅡB（2単位）」（旧科目名「教育実践研究ⅢA」「教育実践研究ⅢB」）で教育実習に参加し、大学における事後指導を受けますが、そのすべてに合格することが必要です。

とりわけ、中学校、高等学校における教育実習は、実習校での正規の教育活動の中で行われます。実習生であってもその学校の教師として、自覚と責任を持って参加し、その学校の教育目標を理解し、校則、規律等を守り、勤務時間内だけでなく、実習期間全体を通して教育活動に専念しなければなりません。さらに授業実践においては、大学で

履修した理論や、模擬授業等教育実践活動の体験を生かし、授業範囲の教材研究等を十二分に、成果を上げるよう万全の努力をする必要があります。

このようなことを充分果たせる能力と自覚を養うため、先修科目の設定や、事前・事後指導等を厳しく実施しています。

教育実習は前述した内容の他に、大学と実習校との間で所定の手続き等を行い、厳密なルールのもとに実施されています。したがって、実習を予定している学生と大学および実習校との間でも一定の手続きが必要です。実習生個々の不注意や、安易な対応があれば受入校に多大な迷惑がかかり、また今後の教育実習について重大な支障が起こることがありますので注意してください。

今日の法制においては、実習生受け入れは各学校にとっては義務ではなく、将来の教師養成という高邁な立場からの協力によるものです。実習生がこの理念を損なうようなことがあれば教育実習の制度を揺るがすことにもなりかねません。

教育実習にあたっては、前年から注意深く説明を聞き慎重を期す覚悟が必要であり、些細なことでも不明な点は、教職センターまたは、経営学部教務課に問い合わせ指示どおり対処するよう心がけてください。ルール等に外れるものは実習資格を失うこともありますので、慎重に対処してください。

### (3) 教育実習の単位登録

履修登録期間中に所定の単位登録をしなければ教育実習は受けられません。また教育実習実施の前年度に実施する説明会で教育実習の〈第1次予備登録〉および〈第2次予備登録〉の手続きが必要です。(説明会で登録書類を配付しますので必ず出席しなさい。欠席の場合は以後の受講はできません。)

### (4) 教育実習の受講資格

- 1) 当該年度(教育実習実施年度)において卒業見込みの者
- 2) 前年度中に〈教育実習予備登録〉等所定の手続きを完了している者
- 3) 前年度までに次の科目の単位を修得している者(※P.165を参照してください)

### (5) 教育実習の評価

教育実習の評価は「教育実習指導Ⅰ(事前指導)」(旧科目名「教育実践研究Ⅱ」)1単位と「教育実習指導ⅡA(中一種免必修)」(旧科目名「教育実践研究ⅢA」)4単位または「教育実習指導ⅡB(高一種免必修)」(旧科目名「教育実践研究ⅢB」)2単位を個々に評価します。なお、「教育実習指導ⅡAまたはⅡB」については、実習校での成績と大学における成績による総合評価とします。



## (6) 教育実習校の選定

教育実習校は、原則として実習希望者の出身校で実施できるよう、あらかじめ前年度中に個別に内諾を得ることが必要です（地域によっては内諾を得るのに特別な手続きがあります。詳細は3年次4月の説明会で説明します。）。内諾の後に大学と実習校との間で依頼等諸手続きを開始します。しかし、出身校に取得を希望する免許教科のない場合（例：宗教科，商業科，工業科等）は、前年度中に大学と協議し、大学指定校等によって実習することができますが、個人の安易な判断ではできませんので、事前に必ず教職課程担当教員と面談の上、承認を得てください。

## (7) 教育実習の事務手続

教育実習は厳密なルールの基に、大学と教育実習実施校および所管の教育委員会との間で所定の手続きを行うことによってすすめられる制度です。教育実習に参加する前年度当初から、説明会等に必ず出席して遺漏のないようにしてください。

なお、これらの教育実習に関する説明会は「教育実習指導Ⅰ（事前指導）」（旧科目名「教育実践研究Ⅱ」）の中で行います。

## 「介護等体験」の履修について

### (1) 本学における介護等体験に関する科目

中学校教諭免許状を授与申請する者は、1998年4月1日施行の「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律（以下『介護等体験法』）」により、障がい者、高齢者等に対する介護、介助、これらの人々との交流等の体験（「介護等体験」）が必要です。介護等体験は、大学における事前・事後指導と特別支援学校、社会福祉施設等において実施する体験諸活動を履修します。

本学では、次のとおり開講しています。

科目名	単位	内容	担当セメスター
介護等体験 (旧科目名：教育実践研究Ⅰ)	2	事前指導, 介護等体験, 事後指導	3～4

※旧科目名称で既修の学生については、新科目名称の科目を履修する必要はありません。

### (2) 介護等体験についての基本的留意事項

「介護等体験法」に基づき、中学校の教諭の普通免許状の授与を受けようとする者は、介護等体験が必要となります。その内容は、特別支援学校および社会福祉施設等で、障がい者、高齢者等に対する介護、介助、これらの人々との交流等の体験を行うものです。その日数は、特別支援学校2日間、社会福祉施設等5日間とされています。

また、これにともない、介護等体験をより豊かなものにしたたり、より円滑に進めるため、大学での事前・事後指導を行います。

介護等体験においては、諸学校や諸施設における多様な活動の中で、ボランティア意識をより高めるとともに、体験期間終了後も、より広範な社会的活動の実践に是非つなげてほしいと考えています（ボランティアについてはP.185参照）。

介護等体験は、特別支援学校や社会福祉施設等の全面的な協力の下で、正規の教育活動中や福祉活動中において行われます。体験等の活動といえども、指導や活動に当たられている教員や職員と同様に、自覚と責任をもって参加し、諸学校や諸施設の規則や規律を守り、誠意と熱意をもって介護等の体験に専念しなければなりません。

特に介護等体験は、大学と当該教育委員会や当該社会福祉協議会との間で、体験を円滑に進めるために必要なルールを設定し、所定の手続きや調整を行いながら実施することになります。そのために、介護等体験を予定している学生と大学や諸学校・諸施設との間でも、一定の手続きが必要です。体験者の不注意、不用意な言動や安易な対応があれば、受入学校・施設に多大な迷惑がかかり、今後の介護等体験について重大な支障が起こることがありますので注意してください。

些細なことでも不明な点は、教職センターまたは、経営学部教務課に問い合わせ、指示通り対処するよう心がけてください。また、ルール等に外れる者は、体験の資格を失うこととなりますので、慎重に対処してください。

### (3) 介護等体験の単位登録

指定された年次に、「介護等体験」（旧科目名：教育実践研究Ⅰ）の単位登録が必要です。

### (4) 介護等体験の受講対象

中学校教諭一種免許状および中学校教諭二種免許状を授与申請する者のうち、下記の項目に該当する者

- 1) 1998年度以降の入学生
- 2) アの学年への編転入生
- 3) 1998年度以降の科目等履修生
- 4) その他

\*大学院生等で受講対象が分からない者は、教職センターまたは、経営学部教務課に問い合わせること。

### (5) 介護等体験を免除される者

上記の介護等体験の受講対象者のうち、「介護等体験法」に示された次の者は、介護等体験を免除されます。

ただし、介護等体験を免除される者は、履修登録期間中に教職センターに連絡し、所定の用紙にその旨を記入してください。

- 1) 1998年4月1日以前に大学等に在学した者で、これらを卒業するまでに教育職員免許法別表第1に規定する小学校または中学校の教諭の普通免許状に係る所要資格を得た者
- 2) 介護等に関する専門的知識及び技術を有するとして文部科学省令で定める者

- ①保健師の免許を受けている者
- ②助産師の免許を受けている者
- ③看護師の免許を受けている者
- ④准看護師の免許を受けている者
- ⑤特別支援学校の教員の免許を受けている者
- ⑥理学療法士の免許を受けている者
- ⑦作業療法士の免許を受けている者
- ⑧社会福祉士の資格を有する者
- ⑨介護福祉士の資格を有する者
- ⑩義肢装具士の免許を受けている者

\*上記①～⑩の免許状と中学校教諭免許状とを並行して授与申請する者は、「介護等体験」(旧科目名「教育実践研究Ⅰ」)の履修登録が必要となります。

- 3) 身体上の障がいにより介護等体験を行うことが困難な者として文部科学省令で定める者。身体障害者福祉法の規定により交付された身体障害者手帳に、障がいの程度が1級から6級である者として記載されている者

#### (6) 介護等体験を行う諸学校・諸施設の選定と事務手続き

介護等体験を行う諸学校・諸施設の選定は、原則として大学と当該教育委員会や当該社会福祉協議会との間で、協議と調整を経て決定します。なお、特別な理由があって出身の都道府県での介護等体験を希望する者は、事前に必ず教職課程担当の教員に申し出て指示に従ってください。

「介護等体験」(旧科目名「教育実践研究Ⅰ」)の授業日程等については常に教職センター掲示板に注意し、必ず出席してください。事前に連絡のない無断欠席や書類未提出者は、履修登録後であっても介護等体験を希望しない者として事務手続きを進めます。

#### 2014年度 介護等体験に関するスケジュール (実施日時等は教職センター掲示板で連絡)

スケジュール	時期	内容	対象
申込説明会①	前年度10月	介護等体験の意義や制度等の説明、事前調査	希望者全員
申込説明会②	前年度1月	体験申込用紙の記入および提出、諸連絡	希望者全員
介護等体験に向けての講演会	前年度および当該年度	特別支援学校や福祉施設における介護等体験について	希望者全員
「介護等体験」(旧科目名「教育実践研究Ⅰ」)の履修登録	当該年度4月		希望者全員
介護等体験用の健康診断	当該年度4月	健康診断受診	
事前説明会A	当該年度4月	介護等体験の意義と課題、前期体験者の学校・施設の配当発表、体験にあたっての留意事項	該当者全員
事前説明会B	当該年度9月	介護等体験の意義と課題、後期体験者の学校・施設の配当発表、体験にあたっての留意事項	該当者全員
体験実施	当該年度5月～年度末	特別支援学校：2日間 福祉施設：5日間の体験	該当者
体験終了報告	各体験終了後随時	証明書確認、記録簿提出	該当者

## ※注意事項

- ・介護等体験は全国共通の制度ですが、その実施に関しては、各都道府県で個別に運用されています。また、介護等体験は教育委員会、特別支援学校、社会福祉協議会および社会福祉施設の全面的な協力を得て、初めて実施できるものです。そのため本学としては、受入都道府県によって異なる申込日程や提出書類に対処し、より充実した体験ができるようにするため、介護等体験を行う前年度から申込説明会や講演会を開催するなど、綿密にスケジュールを立てて準備を進めています。したがって、中学校免許取得希望者は、体験前年度の10月に開催する申込説明会から、必ず出席するようにください。
- ・指定された日時に出席および書類提出がない場合は、受講の意志なきものとして処理します。
- ・特別支援学校、社会福祉施設のそれぞれの体験終了時すぐに介護等体験修了証明書を深草教職センターまで持参してください。
- ・介護等体験修了証明書は再発行されませんので、教員免許状申請時まで大切に保管してください。

## 教職実践演習の履修について

### (1) 「教職実践演習」の受講対象者

2010年度以降入学生で、校種に関わらず教員免許状を取得しようとする者。

ただし2009年度以前入学生で、2012年度までに「教職総合演習」を履修できない場合は、「教職実践演習」を履修する必要がありますので、教職センターまで相談に来て下さい。

### (2) 「教職実践演習」の受講資格

- 1) 当該年度の前期まで、教職カルテの記入を行っている者。(教職カルテについては、教職課程の授業科目の中で、随時説明します。)
- 2) 前年度までに教育実習先修科目の単位を修得している者。(P.165「教育実習先修科目一覧」を参照して下さい。)

#### ※「教職カルテ」

教職カルテは、教職課程を履修する学生全員が、「教職課程での学びの記録(ポートフォリオ)」を記入するもので、教職課程の履修登録の役割も果たしています。

具体的には、教職に関わってどのような学びを行ってきたか、ボランティア活動等にどのように取り組んできたかの記録を残していくものです。また、半期毎に自らの学びを振り返り、反省点や今後への抱負等も書き込んでいきます。教職カルテは、教職担当教員も参照することができ、学生指導の資料として活用することになります。

「教職実践演習」は、教職課程の総まとめの授業であり、受講生の「履修カルテ」を参考にしながら、教員としての資質能力の向上を目指すもので、主に次の4つの事項を扱います。

- ①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項
- ②社会性や対人関係能力に関する事項
- ③生徒理解や学級経営等に関する事項
- ④教科内容等の指導力に関する事項

### (3) 教職実践演習の評価について

「教職実践演習」は、教職課程の集大成として位置付けられる科目です。そのため「教職実践演習」の合否判定については以下のとおり行います。

- ・「教育実習指導ⅡA・ⅡB」（旧科目名「教育実践研究ⅢA・ⅢB」）の他、教職課程に関する科目の取得状況を含めて総合的に判断する。

## 学校現場へのボランティア活動について

近年、公立学校におけるクラブや放課後の活動の指導補助、授業中の児童・生徒の指導援助等に関わるボランティアが盛んになってきました。教職を目指すみなさんにとっても「現場を学ぶ」絶好のチャンスですので、積極的に取り組んでほしいものです。

ただし、教育活動の一端に参加するのですから、それなりの姿勢や心構えが要求されるのは当然です。ルールを守り、社会人として容認される服装や品位のある言動を期待しています。

ボランティア事業については、都道府県や学校を設置している市町村単位で立案し、実施されている所が多いようです。例えば、現在、京都市内公立学校、京都府内（山城地区）公立学校、大阪府内公立学校などでは、数多くの学校が受入れを行っています。ただ、地域や学校によって形態は様々ですので、本学のNPO・ボランティア活動センターや教職センター掲示板等を活用して、情報を集めてください。

なお、京都市立学校については、本学と京都市教育委員会との間で、「学生ボランティア」学校サポート事業についての協定書を締結し、次のようなルールを決めています。

概 要	京都市教育委員会では、2003年度から「学生ボランティア」学校サポート事業を実施しています。この事業は、大学との連携の下、教職を目指す学生や高い専門的知識・技能を持った学生が市立学校・幼稚園で教育活動にかかわることで自己の資質の向上を図る機会を提供しています。
参 加 資 格	3年次以上で「介護等体験」（旧科目名「教育実践研究Ⅰ」）の単位を修得していることを原則とする。
対 象 学 校 ・ 園	京都市立幼稚園，小学校，中学校，高等学校，総合支援学校
ボランティアの内容（例）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学級担任の補助，学校行事・部活動等の補助</li> <li>2. 各教科等の指導におけるティーム・ティーチングの補助</li> <li>3. コンピュータや理科実験などの実技の補助</li> <li>4. 特別な教育的支援の必要な児童・生徒への支援</li> <li>5. 障がいのある児童・生徒の学習・学校生活への支援</li> <li>6. 外国人児童・生徒の学校生活における相談・コミュニケーション支援・通訳</li> <li>7. 放課後における子どもの学習相談・遊び</li> </ol>
応 募 方 法	<p>京都市教育委員会教員養成支援室のホームページ  (<a href="http://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/page/0000002748.html">http://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/page/0000002748.html</a>) を見て応募したいボランティアを選ぶ。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>各学舎の教職センターへ申し出る（教職課程担当教員との面談，保険加入の手続き）</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>学校へ連絡し，面接日時を予約する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>面接の結果，活動内容・時期が決定すれば活動開始</p>

## 専修免許状について（大学院生が取得できる対象となります）

中学校教諭専修免許状または高等学校教諭専修免許状とは修士の学位を有する（もしくは、大学院に1年以上在学し、30単位以上を修得した者）と共に一種免許状を現に有し、または、一種免許状を取得するのに必要な全単位を修得していることを前提として授与される、より上級の免許状です。

### （1）専修免許状の取得方法

1) 大学（本学・他大学とも）の学部在学中にすでに一種免許状を取得している場合

①学部で取得した免許状の教科と在学する研究科で取得できる免許状の教科が同じ場合

大学院修士課程での専攻開講科目24単位以上を修得することにより免許状を取得することができます。

②学部で取得した教科と在学する研究科で取得できる免許状の教科が異なる場合  
この場合、専修免許状は取得できません。

例) 経営学部（社会の免許を取得）から文学研究科日本語日本文学専攻（国語の教職課程がある）へ進学した場合など

2) 大学（本学・他大学とも）の学部在学中に一種免許状を取得していない場合

大学院在学中に一種免許状取得に必要な単位を科目等履修により修得し、かつ在籍する研究科での自専攻開講科目24単位以上を修得することにより専修免許状を取得することができます。一種免許状取得の要件は学部生と同じです。

## (2) 単位の取得方法

大学院修士課程の科目は、下記の科目を除きすべて免許状取得に必要な単位として認められています。

☆免許状取得に認められない科目

演習Ⅰ，演習Ⅱ（ともに2003年度入学生適用科目）

## 編・転入生の履修について

他大学，他学部または短期大学部等より，本学の3年次に編・転入し，教職課程を履修しようとする者は，経営学部教務課において履修指導を受けてください。なお編・転入した者については原則として編・転入した学年の入学年度の履修要項に従って履修してください。

教育実習の先修科目を編入初年度である3年次に履修する必要があります。特に「介護等体験」（旧科目名「教育実践研究Ⅰ」）の履修については，事前指導との関係もあるので編転入後，早急に経営学部教務課または教職センターまで相談に来てください。

## 教育職員免許状の出願

教育職員免許状は，教育職員免許法第5条6項により，各都道府県教育委員会が授与するものです。したがって，本学において所定の単位を修得した者は，本人が居住する都道府県の教育委員会に免許授与の申請をすることによって教育職員免許状を取得することができます。これを「個人申請」といいます。また，大学が一括して京都府教育委員会に免許申請する場合を「一括申請」といいます。一括申請ができる者は，3月卒業（修了）予定者のみです。一括申請を希望する方は，出願についての説明会・書類の受付を行いますので，これに従ってください。日時については事前に教職センター掲示板で連絡します。この説明会は卒業式の当日に免許状が授与されるよう行なうもので，書類提出等を怠ると，卒業の日に免許状の授与ができないので充分注意する必要があります。

9月卒業（修了）の人はすべて個人申請となります。個人申請の場合は，卒業（修了）後に申請することになります。教育委員会ごとに手続書類の様式等が異なりますので，申請する教育委員会になるべく早めに指導を受けてから手続きを行うようにしてください。

## 小学校教諭免許状取得支援制度

2007年4月から、2007年度以降入学生（短期大学部生を除く）を対象に、「小学校教諭免許状取得支援制度」を開始しています。これは、本学在学中に「佛教大学通信教育部特別科目等履修生」として、小学校教諭の免許状を取得するために必要な単位を修得する制度です。

本制度については、1年生を対象に4月以降に開催する教職課程履修説明会にて説明しますので、履修者は必ず参加してください。説明会の詳細については教職センター掲示板でお知らせします。

### 参考

#### 小学校教員資格認定試験制度について

本学の教職課程で取得できる免許状の他に、小学校教諭二種免許状を教員資格認定試験に合格することにより取得できる方法として、「小学校教員資格認定試験」が文部科学省により実施されています。この認定試験に合格した者は、都道府県教育委員会に申請して、小学校教諭二種免許状の授与を受けることができます。

認定試験の受験資格は、大学に2年以上在学し、かつ62単位以上を修得した者とされているので、本学学生は、在学中でも受験資格があります。「試験の案内」は、毎年5月初旬頃に文部科学省（ホームページ <http://www.mext.go.jp>）から発表されます。ただし、試験の内容、時期、試験場などは一定していませんので、詳細については教職センターに問い合わせてください。過去の試験の案内や問題は、文部科学省のホームページで閲覧することができます。



## 【参考】教育実習に関する年間スケジュール

実施年度	教科名	スケジュール		内 容		該 当 者	実施担当 提出先等
		内 容	実施時期	出身校実習	指定校実習		
実習前年度	教育実習指導 I	「教育実習指導 I (事前指導)」(旧科目名)「教育実践研究 II」受講登録	4月			実習希望者	経営学部 教務課 Web登録
		教職課程 オリエンテーション	4月	教育実習第 1 次予備登録		実習希望者全員	講義担当者
		教育実習説明会 A	5月			実習希望者全員	教職センター
		実習校予備交渉	5月～7月	出身校への実習申込	京都市立校は 事前説明会に 参加	実習希望者各自	
		教育実習説明会 B	9月	教育実習第 2 次予備登録		実習予定者全員	教職センター
		個別面接	10月～11月	府県市別に実施	指定校実習 希望者	該当者のみ	教職センター
		書類提出	10月	説明会 B で配付の書類提出		実習予定者全員	教職センター
実習実施年度	教育実習指導 II A または II B	「教育実習指導 II A (教育実習：中一種免) または II B (教育実習：高一種免)」(旧科目名「教育実践研究 III A」「教育実践研究 III B」)受講登録	4月			実習受講有資格者	経営学部 教務課 Web登録
		教育実習申込	4月			実習受講有資格者	教職センター
		教育実習説明会 C	4月	実習関係手続書類配付		実習受講有資格者	教職センター
		実習校配当発表	5月		大学指定校・ 京都市立校等 配当校発表	指定・配当希望者	教職センター
		実習校別個別指導	5月		大学指定校・ 京都市立校等	該当者	教職センター
		実習実施	5月～11月	実習校の指示・受け入れ条件に従って実施		実習生全員	
		教育実習巡回指導	5月～11月	近畿圏実習校等に巡回実施。実習期間前または実習前半に巡回指導教員に連絡し、指導を受ける。		実習生全員	
		教育実習事後指導	5月～11月	実習終了後、所定のレポート提出、指導を受ける		実習終了者	教職センター
		教員免許状一括申請説明会および書類提出	9月～10月	免許申請手続書類配布および書類提出		一括申請希望の有資格者	教職センター
		免許状授与	3月 卒業証書授与式	免許授与受渡書類 教育実習簿返還		免許取得者	教職センター

## 注意事項

- ①スケジュール表の中の説明会・書類付および書類提出等の日時は、少なくとも 1 週間前に教職センター掲示板で伝達しますので、前記のスケジュールには特に注意してください。なお、指定された日時に出席および書類提出がない場合は、受講の意志なき者として以後一切受付けないことがあります。
- ②公立学校での教育実習実施については、所管の教育委員会への申込手続きを必要とする場合が多く、またその申込手続きの方法、書式、申込時期が異なります。必ず説明会に参加し、所定の手続きを取る必要があります。

## 9. 学校図書館司書教諭課程・図書館司書課程

### 学校図書館司書教諭課程

司書教諭とは、小学校・中学校・高等学校の図書館で専門的職務に従事する教員のことをいいます。学校図書館法の改正により、12学級以上の規模を持つすべての小・中・高校の図書館への司書教諭の配置が義務づけられました。

司書教諭は学校司書と同じく、学校図書館における専門的職務であり、深い人間理解に基づく、豊かな読書指導を行うことはもとより、読書会、研究会、鑑賞会、映写会、資料展示会などの開催や、児童・生徒の学修に対して図書館の利用に関する指導を行うことなどを職務としています。

#### (1) 学校図書館司書教諭の資格の取得

本学で司書教諭の資格を取得するには、以下の2つの条件を備えていなければなりません。

- 1) 教員免許状を有すること
- 2) 司書教諭に関する所定の科目を修得していること

したがって、司書教諭の資格を取得するには、卒業に必要な科目のほかに「教職課程」と「学校図書館司書教諭課程」の2課程を履修しなければなりません。そのため4年間もしくはそれ以上にわたる綿密な履修計画をたてる必要があります。

#### (2) 開設科目

文部省令で定める司書教諭に関する科目と単位数、および本学で該当する科目と単位数は、以下の表のとおりです。必修科目5科目10単位の修得が必要です。

	法令上の科目		本学開設科目		開講 学舎	配 当 セ メ	配 当 年 次	備 考
	科 目 名	単 位 数	科 目 名	単 位 数				
必 修 科 目	学校経営と学校図書館	2	(学)学校経営と学校図書館	2	深 草	3	2年次以上	
	学校図書館メディアの構成	2	(学)学校図書館メディアの構成	2	深 草	3	2年次以上	
	学習指導と学校図書館	2	(学)学習指導と学校図書館	2	深 草	4	2年次以上	
	読書と豊かな人間性	2	(学)読書と豊かな人間性	2	深 草	4	2年次以上	
	情報メディアの活用	2	(学)情報メディアの活用	2	深 草	4	2年次以上	

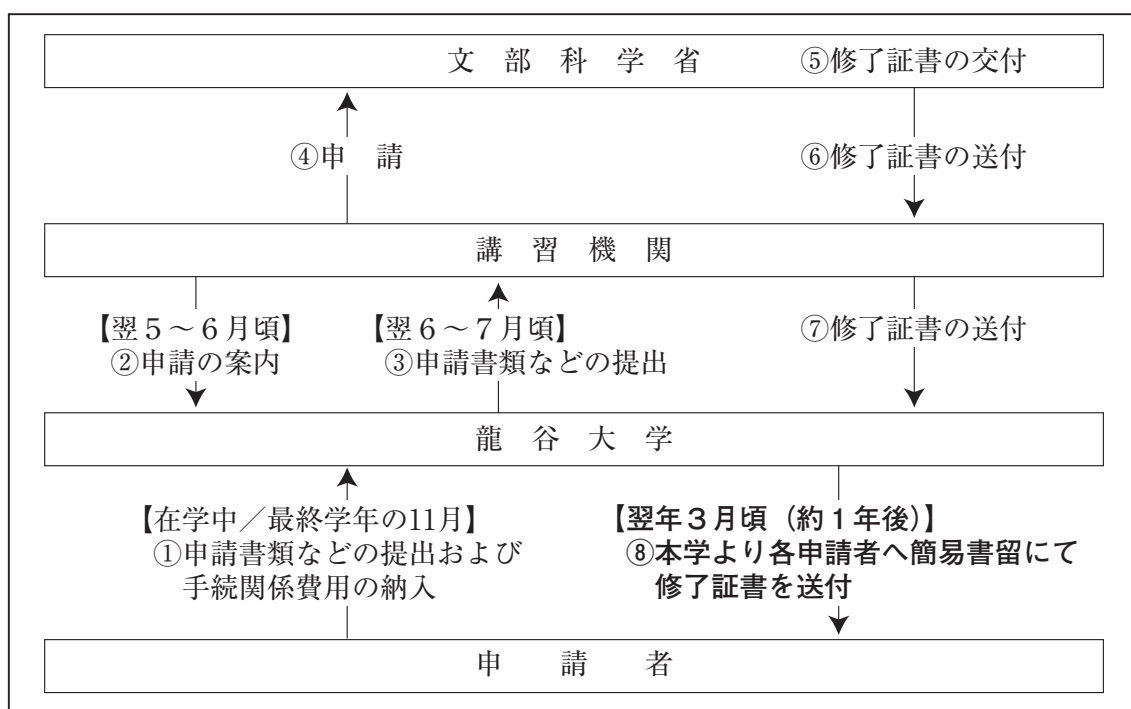
### (3) 学校図書館司書教諭講習「修了証書」授与申請の手続き

司書教諭講習を修了したことを証するには、文部科学省に学校図書館司書教諭講習「修了証書」授与申請の手続きをしなければなりません。手続きは、文部科学大臣の委嘱を受けた大学などの教育機関（近畿圏では、滋賀大学、京都教育大学、大阪教育大学、奈良教育大学、和歌山大学など）を通じて行います。

ただし、次の3つの条件をすべて満たし、在学中に所定の手続きをすれば、本学で申請手続きができます。

#### 【学部生の場合】

- 1) 翌年3月に卒業すること
- 2) 4年生の10～11月頃に「教員免許状一括申請」の申し込み手続きをしていること。  
一括申請の申し込み手続きをしていない人は、本学で学校図書館司書教諭講習「修了証書」の授与申請ができませんので、卒業後に個人で申請することになります。
- 3) 卒業までに（2）で挙げた司書教諭に関する科目をすべて修得していること。  
申請手続きなどは、11～12月頃に卒業予定者に対し掲示およびポータルサイトにてお知らせします。  
なお、この場合「修了証書」は、申請した翌年（卒業の1年後）の3月以降に本学より申請者に郵送する予定です。



このように、卒業から約1年かけて手続きが行われますので、卒業後に申請内容に変更（改氏名、本籍地変更、住所変更など）があれば、すぐに文学部教務課（075-343-3317）に連絡してください。これを怠ると、正しく「修了証書」が発行されず、場合によっては修了証書が授与されませんので注意してください。

## 図書館司書課程

図書館司書とは、図書館等で資料の選択、収集、整理（分類、目録）、情報サービスなどを行う専門的職員です。公共図書館、大学図書館、専門図書館、学校図書館などで働いています。

生涯学習社会といわれる現代において図書館司書が果たす役割は大きく、利用者に対して質の高いサービスを提供でき、多様なニーズに対応できる人材が求められています。また図書資料だけにとどまらず国際化・情報化の時代にふさわしく情報メディアの収集・管理、情報検索などについての自在な活用能力も求められています。

### （１）図書館司書資格の取得

本学において、図書館司書の資格を取得するには、以下の２つの条件を備えなければなりません。

- 1) 大学を卒業していること
- 2) 図書館に関する所定の科目を修得していること（「図書館法」第5条第1項第1号）

「図書館法」および「図書館法施行規則」で定める図書館司書に関する科目と単位、および本学でのそれに該当する科目と単位は、（２）開設科目一覧のとおりです。図書館法の改正に伴い、2012（平成24）年度から図書館司書課程のカリキュラムが変わりました。

2012年度以降入学生（2012・2013年4月入学の編転入学生を含む）と2011年度以前入学の学部在学生在で修得すべき科目および単位数が異なりますので注意してください。

### （２）開設科目一覧

#### 【2011年度以前入生】

必修科目22単位および選択必修科目から2科目4単位以上、計26単位以上の修得が必要です。

	法令上の科目		本学開設科目		開講学舎	配当セメ	配当年次	備考
	科目名	単位数	科目名	単位数				
甲群 (必修科目)	生涯学習概論	1	(司)生涯学習概論	2	深草	1	1年次以上	
	図書館概論	2	(司)図書館情報学概論	2	深草	1	1年次以上	
	図書館経営論	1	(司)図書館経営論	2	深草	4	2年次以上	
	図書館サービス論	2	(司)図書館サービス論	2	深草	2	1年次以上	
	情報サービス概説	2	(司)情報サービス論	2	深草	3	2年次以上	
	レファレンスサービス演習	1	(司)情報サービス論実習	1	深草	4	2年次以上	注1※
	情報検索演習	1	(司)情報検索実習	1	深草	3	2年次以上	※
	図書館資料論	2	(司)図書館資料論	2	深草	2	1年次以上	
	専門資料論	1	(司)専門資料論	2	深草	3	2年次以上	
	資料組織概説	2	(司)資料組織論	2	深草	3	2年次以上	
	資料組織演習	2	(司)資料組織実習A	1	深草	4	2年次以上	注1※
			(司)資料組織実習B	1	深草	4	2年次以上	注1※
児童サービス論	1	(司)児童サービス論	2	深草	3	2年次以上		
乙群 (選択必修科目)	図書及び図書館史	1	(司)図書及び図書館史	2	深草	3	2年次以上	
	資料特論	1	(司)資料特論	2	深草	4	2年次以上	
	コミュニケーション論	1	(司)コミュニケーション論	2	深草	3	2年次以上	
	情報機器論	1	(司)情報機器論	2	深草	3	2年次以上	注2
	図書館特論	1	(司)図書館特論	2	深草	5	3年次以上	注3※

※の科目は、Web予備・事前登録が必要です。「図書館特論」は、Web予備・事前登録に加え、申込用紙の提出が必要です。Web予備・事前登録の受付期間および「図書館特論」申込用紙の提出期間は教養教育科目（共同開講科目）と同じです。「図書館特論」申込用紙はポータルサイトからダウンロードできます。

#### 注1：先修制について

以下の科目には、先修科目が設定されていますので注意してください。

授業科目	履修の要件となる授業科目および単位数
(司)情報サービス論実習	(司)情報サービス論（2単位）
(司)資料組織実習A	(司)資料組織論（2単位）
(司)資料組織実習B	(司)資料組織論（2単位）

#### 注2：「(司)情報機器論」の履修について

この科目は選択科目ではありますが、情報メディアの収集・管理、情報検索などについての自在な活用能力も求められているという観点から、可能な限り全員履修することが望ましい。

#### 注3：「(司)図書館特論」の履修について

この科目の履修については、別途（3）の項を参照してください。

★図書館司書資格を取得希望で単位を一部未修得で卒業した場合

旧カリキュラムで図書館司書に必要な科目を修得できず卒業した場合、卒業後は科目等履修生として履修を続けることは可能ですが、新カリキュラムで取り直す必要があります。その際、2012年度以降に修得した旧課程科目は新課程科目に読み替えることができませんので注意してください。(2011年度以前に修得した単位の2012年度以降入学生のカリキュラムへの読み替えはP.196のとおりです。)

このことを踏まえて、図書館司書資格の取得を希望される方は、在学中に必修科目22単位、選択必修科目2科目4単位以上の計26単位を修得しておいてください。

★配当セメは変更になる場合があります。当該年度の時間割表で確認してください。

【2012年度以降入学生（2012・2013年4月入学の編転入学生を含む）】【科目等履修生含む】

必修科目22単位および選択必修科目から2科目3単位以上、計25単位以上の修得が必要です。

	法令上の科目		本学開設科目		開講 学舎	配 当 セ メ	配当年次	備考
	科 目 名	単 位 数	科 目 名	単 位 数				
甲 群 ( 必 修 科 目)	生涯学習概論	2	(司)生涯学習概論	2	深草	1	1年次以上	注1
	図書館概論	2	(司)図書館情報学概論	2	深草	1	1年次以上	
	図書館情報技術論	2	(司)図書館情報技術論	2	深草	3	2年次以上	
	図書館制度・経営論	2	(司)図書館制度・経営論	2	深草	4	2年次以上	
	図書館サービス概論	2	(司)図書館サービス概論	2	深草	2	1年次以上	
	情報サービス論	2	(司)情報サービス論	2	深草	3	2年次以上	
	児童サービス論	2	(司)児童サービス論	2	深草	3	2年次以上	
	情報サービス演習	2	(司)情報サービス実習A	1	深草	3	2年次以上	※
			(司)情報サービス実習B	1	深草	4	2年次以上	注2※
	図書館情報資源概論	2	(司)図書館情報資源概論	2	深草	2	1年次以上	
	情報資源組織論	2	(司)情報資源組織論	2	深草	3	2年次以上	
情報資源組織演習	2	(司)情報資源組織実習A	1	深草	4	2年次以上	注2※	
		(司)情報資源組織実習B	1	深草	4	2年次以上	注2※	
乙 群 ( 選 択 必 修 科 目)	図書・図書館史	1	(司)図書・図書館史	2	深草	2	1年次以上	
	図書館情報資源特論	1	(司)図書館情報資源特論	2	深草	3	2年次以上	
	図書館実習	1	(司)図書館実習	1	深草	5	3年次以上	注3※
	図書館基礎特論	1	(司)図書館基礎特論	2	深草	2	1年次以上	
	図書館サービス特論	1	(司)図書館サービス特論	2	深草	3	2年次以上	
	図書館施設論	1	(司)図書館施設論	2	深草	3	2年次以上	
	図書館総合演習	1	(司)図書館総合演習	2	深草	5	3年次以上	

※の科目は、Web予備・事前登録が必要です。「図書館実習」は、Web予備・事前登録に加え、申込用紙の提出が必要です。Web予備・事前登録の受付期間および「図書館実習」申込用紙の提出期間は教養教育科目（共同開講科目）と同じです。「図書館実習」申込用紙はポータルサイトからダウンロードできます。

注1…文学部専攻科目として開講されている「生涯学習概論」（4単位）を取得しても司書課程の「(司)生涯学習概論」の単位には認定されません。「生涯学習概論」（4単位）を既に修得（または修得予定）している場合でも、司書課程の資格取得を希望する者は、「(司)生涯学習概論」（2単位）を必ず履修してください。

注2…先修制について

以下の科目には、先修科目が設定されていますので注意してください。

授業科目	履修の要件となる授業科目および単位数
(司)情報サービス実習B	(司)情報サービス論（2単位）
(司)情報資源組織実習A	(司)情報資源組織論（2単位）
(司)情報資源組織実習B	(司)情報資源組織論（2単位）

注3…「(司)（図書館実習）」の履修について

この科目の履修については、別途（4）の項を参照してください。

★配当セメは変更になる場合があります。当該年度の時間割表で確認してください。

### (3) 「(司) 図書館特論」または「(司) 図書館実習」の履修について

#### ア. 履修登録資格

- ①前年次までに前項（2）の甲群（必修科目）をすべて修得済みの者。
- ②履修登録に際しての選考に合格した者（科目の性格上、多人数の受講が不可能であるため事前選考します）。

#### イ. 実習内容

実際に図書館の現場で業務の実習をすることで、業務の実際についての理解を深めます。準備段階では、図書館を実際に訪問してパブリックサービスを利用者として網羅的に理解し、スムーズに実習できるようにします。また、その過程で利用者として図書館に関わることと、スタッフとして図書館に関わることの違いを認識します。

実習後には、詳細な報告書を作成し、図書館業務の理解を深めます。

#### ウ. 実習費等

実習受け入れ先によっては、実習費や保険加入費が必要な場合があります。

(4) 旧カリキュラムで修得した単位の「2012年度以降入学生用科目」への読み替え表

ただし、読み替えが可能な科目は2011年度以前に旧カリキュラムで修得済みの単位に限る。

対象者：科目等履修生（大学院生の学部科目履修も含む）

旧カリキュラム					新カリキュラム				
法定上の科目	本学開設科目	単 位 数	必修 選択 区分	読 み 替 え	法定上の科目	本学開設科目	単 位 数	必修 選択 区分	
生涯学習概論	(司)生涯学習概論	2	必修	→	生涯学習概論	(司)生涯学習概論	2	必修	
図書館概論	(司)図書館情報学概論	2	必修	→	図書館概論	(司)図書館情報学概論	2	必修	
情報機器論	(司)情報機器論 ※1	2	選択	→	図書館情報技術論	(司)図書館情報技術論	2	必修	
図書館経営論	(司)図書館経営論	2	必修	→	図書館制度・経営論	(司)図書館制度・経営論	2	必修	
図書館サービス論	(司)図書館サービス論	2	必修	→	図書館サービス概論	(司)図書館サービス概論	2	必修	
情報サービス概説	(司)情報サービス論	2	必修	→	情報サービス論	(司)情報サービス論	2	必修	
児童サービス論	(司)児童サービス論	2	必修	→	児童サービス論	(司)児童サービス論	2	必修	
情報検索演習	(司)情報検索実習	1	必修	→	情報サービス演習	(司)情報サービス実習A	1	必修	
レファレンスサービス演習	(司)情報サービス論実習	1	必修	→	情報サービス演習	(司)情報サービス実習B	1	必修	
図書館資料論	(司)図書館資料論	2	必修	→	図書館情報資源概論	(司)図書館情報資源概論	2	必修	
資料組織概説	(司)資料組織論	2	必修	→	情報資源組織論	(司)情報資源組織論	2	必修	
資料組織演習	(司)資料組織実習A	1	必修	→	情報資源組織演習 ※2	(司)情報資源組織実習A	1	必修	
	(司)資料組織実習B	1	必修	→		(司)情報資源組織実習B	1	必修	
図書及び図書館史	(司)図書及び図書館史	2	選択	→	図書・図書館史	(司)図書・図書館史	2	選択	
専門資料論	(司)専門資料論 ※3	2	必修	→	図書館情報資源特論	(司)図書館情報資源特論 ※3	2	選択	
資料特論	(司)資料特論 ※3	2	選択	→					
図書館特論	(司)図書館特論	2	選択	→	図書館実習	(司)図書館実習	1	選択	
コミュニケーション論	(司)コミュニケーション論	2	選択	→	図書館サービス特論	(司)図書館サービス特論	2	選択	

- ※1 旧カリキュラムで選択必修科目の「情報機器論（2単位）」を未修得の者は新カリキュラム「図書館情報技術論（2単位）」を修得してください。
- ※2 「情報資源組織実習A（1単位）」「情報資源組織実習B（1単位）」の両科目を取得することで法定上の科目「情報資源組織演習（2単位）」に相当します。
- ※3 「図書館情報資源特論（2単位）」への読み替えは、「専門資料論（2単位）」「資料特論（2単位）」のいずれか1科目です。



## 10. 本願寺派教師資格課程

## 本願寺派教師資格課程

〈2015年度以降入学者対象〉

本山教師科目	本学開講の関連科目	年次	単位	備 考
真 宗 教 義	真 宗 学 概 論	2	4	1年配当の教養科目
仏 教 教 義	仏 教 学 概 論	2	4	
真 宗 史	真 宗 教 団 史	1	4	
仏 教 史	仏教の思想 A・B	1	4	
宗 教 概 説	宗 教 学 入 門	1	4	
勤 式 作 法	勤 式	1	4	
宗 門 法 規	宗 門 法 規	1	2	
布 教 法	教 化 法	1	4	

〈2014年度以前入学者対象〉

本山教師科目	本学開講の関連科目	年次	単位	備 考
真 宗 教 義	真 宗 学 概 論	2	4	1年配当の教養（プログラム）科目
仏 教 教 義	仏 教 学 概 論	2	4	
真 宗 史	真 宗 教 団 史	1	4	
仏 教 史	仏教の思想 A・B	1	4	
宗 教 概 説	※宗 教 学	1	4	
勤 式 作 法	勤 式	1	4	
宗 門 法 規	宗 門 法 規	1	2	
布 教 法	教 化 法	1	4	

※本願寺派教師資格「宗教概説」は、「宗教学入門（2単位）」と「世界の宗教A（2単位）」  
または「世界の宗教B（2単位）」の合計4単位を修得してください。

## 11. 特別研修講座・各種講座・試験

課程	目的・内容	担当部署
開教使課程	将来、海外開教使（外国における真宗伝道）を志す人のために、必要な知識を修得させることを目的とした講座	文学部教務課窓口
職業会計士課程	商業簿記・工業簿記の基礎力・応用力を養成する講座 日本商工会議所簿記検定試験2級の合格をめざします。	経営学部教務課窓口
矯正・保護課程	刑務所、少年院、少年鑑別所などで働く矯正職員、犯罪や非行をしてしまった人たちの社会復帰の手助けをする保護観察官等の専門職やボランティアとして活躍する人々を養成することを目的としています。	(全学) 矯正・保護総合センター事務部窓口 (深草) 法学部教務課窓口 (大宮) 文学部教務課窓口 (瀬田) 社会学部教務課窓口
法職課程	司法書士試験をはじめ、各種公務員試験（裁判所事務官試験など）の合格や法科大学院進学を目指す学生に対し、体系的かつ効率的な講座及び最新の試験情報などを提供し、合格者を輩出することを目的としています。	法学部教務課窓口
教員採用試験対策講座	教員採用試験突破のための基礎力・実践力を養成する講座	教職センター窓口
キャリア支援講座  ※受講希望者が少ない場合、開講できないことがあります。 ※名称は変更することがあります。 ※開講する学舎が限定されていることがあります。	〈目的・内容〉 就職活動のサポートや公務員試験対策、将来のキャリアアップのための資格試験対策などを目的とした各種講座 〈就職対策系〉 就職筆記試験対策講座／エントリーシート対策講座／ 〈試験対策〉 公務員講座 〈資格系〉 TOEIC®講座／旅行業務取扱管理者講座／FP技能士講座（3級・2級AFP）／宅地建物取引士講座／基本情報技術者講座／MOS講座（Excel2013, Word2013）／社会福祉士国家試験講座／介護職員初任者研修講座／CAD利用技術者講座（2級）／色彩検定講座／秘書検定講座／	キャリアセンター (深草・瀬田・大宮) 窓口
RECコミュニティカレッジ 外国語コース	〈生涯学習講座「RECコミュニティカレッジ」の外国語コース〉 REC生涯学習講座「RECコミュニティカレッジ」の「外国語コース」では、入門から上級までレベルに応じた英語講座を多数開講しているほか、中国語、韓国語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語も開講しており、語学力を向上させ、正規の授業を補完できる内容となっています。 本学学生は割引価格で受講できます。詳しくはREC(京都・滋賀)の窓口で配布している『RECコミュニティカレッジパンフレット』をご覧ください。  ※「RECコミュニティカレッジ」では、「外国語コース」のほか、「仏教・こころ」「文化・歴史」など多様な講座を開講しています。	REC事務部 (京都・滋賀)

※TOEIC®, TOEFL®はエデュケーション・テスト・サービス (ETS) の登録商標です。この (印刷物／製品／ウェブサイト) はETSの検討を受けまたはその承認を得たものではありません。

## 第3部 経営学研究科

履  
修  
一  
般

教  
養  
教  
育  
科  
目

専  
攻  
科  
目

学  
部  
共  
通  
コ  
ー  
ス

他  
大  
学  
で  
の  
学  
修

教  
職  
課  
程  
・  
そ  
の  
他

経  
営  
学  
研  
究  
科

学  
生  
生  
活

Q  
a  
n  
d  
A

## 大学院経営学研究科入学ガイド

学部を卒業した後も、「経営学をより深く学びたい」、「より高度な研究を続けたい」という方のために経営学研究科修士課程では、以下の3つのコースを開設しています。

本学経営学部の方を対象とした「学内推薦入試」、「給付奨学金制度」もありますので、関心のある方は経営学部教務課までお越し下さい。

### カリキュラム紹介

#### 【アカデミック・コース】

研究者または高度専門職業人養成のためのコースです。広い視野に立つ精深な学識を備え、かつ(1)その専攻分野における研究能力、または(2)高度な専門性を要する職業等に必要の高度な専門知識を修得することを目的とします。

修了要件：外国文献研究4単位、演習4単位を含む30単位以上を修得。

修了年次に修士論文を提出して合格すること。

#### 【ビジネス・コース】

学部卒業生を対象に、2年間での修了を前提とするコースです。経営学をより深く理解し、修了後にビジネスの現場で活躍することを目的とします。平日夜間・土曜日に開講される科目の他、平日の昼間に開講されるアカデミック・コースの科目も受講することができます(単位数に制限があります)。

本コースには、マネジメント・プログラム、企業会計プログラムの2つのプログラムがあります。

修了要件：コア科目と演習I(2単位)および演習II(4単位)を含む30単位以上を修得。

修了年次に修士論文を提出して合格すること。

#### 【日中連携ビジネス・コース】

中国のビジネス事情に通暁し、中国での事業化能力を持つ専門職を養成します。また、日本と中国のビジネスについて学びたいという方にとっても有益なコースです。

受講生が中国で事業展開することを想定してビジネス・プランを立て、そのプランの実現可能性を中国(大連)に行って現地調査(約1週間)し、レポートにまとめる実習的な科目も設置しています。

修了要件：コア科目，演習Ⅰ（2単位）および演習Ⅱ（4単位）を含む30単位以上を修得，修了年次に課題研究を提出して合格すること。

### 経営学研究科の5つのポイント

1. 多様なカリキュラムで「学びたい」ニーズに応える。
2. 少人数制で，教員のきめ細かい指導が受けられる。
3. 教員はビジネスの第一線で活躍している実務家教員 ※
4. 平日夜間（18時25分～），土曜日を中心とした時間割 ※
5. 安価な学費，奨学金も充実  
※（ビジネス・コース，日中連携ビジネス・コースのみ）

## 学内推薦入試について（6月・2月）

本学経営学部在籍者で経営学研究科に入学を希望する方のために，学内推薦入試制度があります。本入試を利用すれば，口述試問のみで受験することが可能です（税理士試験免除申請者のみ会計学を課します）。

コースによって出願資格が異なりますので，詳しくは経営学部教務課までお越し下さい。

## 奨学金制度について（2015年度新設）

本学の大学院は，学内進学者に対して，大変充実した給付奨学金制度があります。

- ・大学院学内進学奨励給付奨学生（予約採用型）  
→入学試験の結果により給付者を決定し，入学後に給付されます。

給付金額：1名につき15万円

- ・龍谷大学給付奨学生（大学院研究奨励給付奨学生）  
→入学後に学業成績優秀者に対して給付されます。

給付金額：1名につき30万円

内容は年度により変更することがあります。

詳細は経営学部教務課までお問い合わせください。

## 修了生からのメッセージ

私は、修士課程アカデミック・コース修了の中村公彦と申します。

大学院を修了し修士の学位を得るためには、「修士論文」もしくは「課題研究」を完成させ提出しなければなりません。私は、CSR（企業の社会的責任）論を研究しています。CSR論は、企業と社会の関係を考える非常に興味深い議論です。修士論文を完成させるためには、日々の継続的な個人研究の蓄積が必須です。そして文献やノートの整理は膨大な量になります。龍谷大学大学院では大学院生専用の共同研究室が設置されています。経営学研究科の研究室には、個人机（26席）、個人ロッカー、本棚、共同のパソコンなどが設置されており、充実した研究環境であると思います。

個人研究は、入学後に決まる担当教員の指導のもとです。本研究科では少人数教育が1つの特色といえます。大学院大学化に伴って定員数の増加した他大学の大学院と異なり、きめ細やかな指導を受けることができます。また、少人数教育の良い点として、担当教員とは研究上の指導を受けるだけでなく、食事などの個人的な交流も深まるといことが挙げられます。そして、そこから個人研究へのヒントだけでなく、私の目指す研究職としての心構えなど日常では得ることのできない指導や助言を受けられることもあります。

共に研究をすすめる大学院生も多様です。大きく分けると、留学生、社会人院生、そして私のような研究職を目指す院生の3つに分かれます。意外に思われるかもしれませんが、経営学研究科の大学院生のうちの多くが社会人院生と留学生です。そして、多様な経験を持った院生との交流は非常に刺激的です。例えば、社会人院生は、日中は仕事に就き、夜間や休日に研究を進めています。社会人院生は、私のような研究職を目指す院生が知らないビジネスの現場をよく知っています。取引先でのシステムの故障や他社から引き抜きを持ちかけられた話など、ビジネスの現場の話は理論を中心に学ぶものにとっても非常に興味深いものです。

このように龍谷大学大学院経営学研究科は、非常に恵まれた研究環境です。わたし自身もここで大いに研究をすすめることができました。



## 第4部 学生生活の手引き

履  
修  
一  
般

教  
養  
教  
育  
科  
目

専  
攻  
科  
目

学  
部  
共  
通  
コ  
ー  
ス

他  
大  
学  
で  
の  
学  
修

教  
職  
課  
程  
・  
そ  
の  
他

経  
営  
学  
研  
究  
科

学  
生  
生  
活

Q  
a  
n  
d  
A

## 1. 学部の窓口

### 経営学部教務課開室時間

経営学部教務課の授業期間・試験期間中の窓口取扱時間は以下のとおりです。

曜日など	開室時間	備 考
月～金	8：45～17：15	ただし、火曜日のみ10：30～17：15※
土、日、祝日ならびに 大学が定める休業日		窓口の業務は行っておりません。

※なお、授業期間・試験期間以外の期間は、11：30～12：30は閉室します。

### 大学からの連絡・通知

大学からみなさんへの連絡や通知は、特別な場合を除いてすべて掲示板で行います。大学に来たらまず掲示板を見る習慣をつけてください。電話による問い合わせには、一切応じませんので、注意してください。

掲示板	掲示内容	掲示場所
経営学部教務課	履修方法、休講・補講情報、定期試験、レポート作成など教育課程に関すること 学部共通コースに関すること	6号館(紫英館)東側
教 学 部	教育課程全般 学部共通コースに関すること	
教職センター	教職課程に関すること	
グローバル教育 推進センター	国際交流・留学生別科に関すること	
学 生 部	奨学金・アルバイトに関すること 学生生活全般	樹林
キャリアセンター	就職・資格講座などに関すること	5号館(紫明館)1階キャリアセンター

※大学の事務組織変更やキャンパス整備等により掲示内容や掲示板の設置場所が変更になる場合があります。

※休講・補講情報・教室変更はポータルサイト上でも公開しています。

本学ホームページ (<http://www.ryukoku.ac.jp/>) の「ポータルサイト (学内者向け)」からアクセスしてください。



ポータルの利用には全学統合認証のIDとパスワードが必要です。

ただし、受付日や受付時間により公開に時差が生じることがあるとともに当日に連絡があった休講には対応できない場合があります。

- ・休講：休講日を含めて30日前から公開しています。
- ・補講：予定が入り次第、随時公開しています。
- ・教室変更（臨時）：変更日を含めて30日分を表示しています。
- ・教室変更（恒常）：変更日を含めて前後30日分を表示しています。

なお、携帯電話からもアクセスできます。携帯電話を使って、休講・補講・教室変更を見るには、パソコン用のポータルサイトで「携帯電話アクセス番号の設定」が必要です。携帯電話では以下の情報を公開しています。

- ・休講：休講日を含めて3日前から公開しています。
- ・補講：予定が入り次第、随時公開しています。
- ・教室変更（臨時）：変更日を含めて3日分を表示しています。
- ・教室変更（恒常）：変更日を含めて前後30日分を表示しています。

※ポータルサイト上での公開情報はあくまでも補足的なものです。必ず経営学部の掲示板で確認するよう心がけてください。

※本学以外の第三者機関による休講情報提供サービスなどが存在しますが、本学が提供する公式の情報は上記サイトのみです。

※休講・補講、教室変更については、メールでの配信サービスも実施しています。パソコン用ポータルの「連絡先・メールアドレス・メール受信設定」で設定可能です。

## 届書・願書および各種証明書

経営学部教務課で取り扱う届書および願書には以下のものがあり、提出の際はすべて本学所定の用紙を使用してください。所定用紙は経営学部教務課でお渡しします。

※印のものは、保証人の連署が必要です。

	事 項	摘 要
届書	授業欠席届	所定用紙+診断書または理由書
	※保証人変更届	所定用紙
	改姓名届	所定用紙+住民票記載事項証明書
	現住所変更届	所定用紙
願書	※休学願	P.216, 217を参照してください。
	※復学願	
	※退学願	
	追試験願	P.21を参照してください。

## オフィス・アワー

オフィス・アワーとは、教員に学修上の相談や指導をうけることができる時間（授業時間以外）のことです。

- (1) 教員ごとにオフィス・アワーが決められています。
- (2) 実施時間は、教員によって異なります。以下の表を参考にして希望の教員に学修上の相談や指導をうけてください。

### 経営学部オフィス・アワー一覧

教員名	オフィス・アワー	その他
秋庭 太	(第1学期) 毎週 月曜日 12:15~13:00	事前にメール (akiba@biz.ryukoku.ac.jp) にて予約してください。
	(第2学期) 毎週 月曜日 12:15~13:00	
井手 健二	(第1学期) 毎週 月曜日 15:00~16:00	紫英館ホール受付にて予約してください。
	(第2学期) 毎週 月曜日 16:45~17:30	
今村 潔	(第1学期) 毎週 月・木 15:00~17:00	紫英館ホール受付にて予約してください。
	(第2学期) 毎週 月・木 15:00~17:00	
岩田 浩	(第1学期) 毎週 火曜日 13:15~15:00	事前にメールにて予約してください。
	(第2学期) 毎週 火曜日 16:45~18:00	
大西 謙	(第1学期) 随時受け付けします。	事前にメール (onishi@biz.ryukoku.ac.jp) にて予約してください。
	(第2学期) 随時受け付けします。	
梶脇 裕二		
加藤 正浩	(第1学期) 随時受け付けします。	事前にメール (katou@mail.ryukoku.ac.jp) にて予約してください。
	(第2学期) 随時受け付けします。	
角岡 賢一	(第1学期) 毎週 水曜日 13:00~14:30 木曜日 13:00~15:00	事前にメール (shakuanjuu@gmail.com) で予約してください。
	(第2学期) 毎週 木曜日 13:00~15:00	
木下 徹弘	(第1学期) 毎週 火曜日 12:45~13:30	紫英館ホール受付にて予約してください。
	(第2学期) 毎週 火曜日 12:45~13:30	
國重 裕	(第1学期) 毎週 火曜日 13:00~14:30	事前にメール (knjiga@biz.ryukoku.ac.jp) にて予約してください。
	(第2学期) 毎週 火曜日 13:00~14:30	
國松 豊	(第1学期) 随時受け付けします。	事前にメール (kunimats@biz.ryukoku.ac.jp) にて予約してください。
	(第2学期) 随時受け付けします。	
鍬塚賢太郎	(第1学期) 随時受け付けします。	講義・ゼミの終了後、各教室にて予約してください。
	(第2学期) 随時受け付けします。	
小池 俊隆	(第1学期) 毎週 月曜日 12:30~13:10	紫英館ホール受付にて予約してください。
	(第2学期) 毎週 月曜日 12:30~13:10	
小長谷大介	(第1学期) 随時受け付けします。	事前にメール (konagaya@biz.ryukoku.ac.jp) にて予約してください。
	(第2学期) 随時受け付けします。	
坂本 雅則	(第1学期) 毎週 火曜日 12:15~13:00	紫英館受付で予約してください。
	(第2学期) 毎週 火曜日 12:15~13:00	
重本 直利		
嶋林 昭治	(第1学期) 毎週 火曜日 10:45~12:15	紫英館ホール受付で在室確認をしてください。
	(第2学期) 毎週 火曜日 10:45~12:15	
鈴木 学	(第1学期) 随時受け付けします。	紫英館受付を通して予約してください。
	(第2学期) 随時受け付けします。	
竹内 綱史	(第1学期) 毎週 火曜日 13:15~14:45	紫英館受付を通して予約してください。
妻木 進吾	(第1学期) 随時受け付けします。	紫英館受付を通して予約してください。
	(第2学期) 随時受け付けします。	

教員名	オフィス・アワー	その他
寺島 和夫	(第1学期) 毎週 水曜日 12:30~13:00 (第2学期) 毎週 水曜日 12:30~13:00	事前にメール (terasima@biz.ryukoku.ac.jp) にて予約してください。
夏目 啓二	(第1学期) 毎週 金曜日 9:00~10:30 (第2学期) 毎週 金曜日 9:00~10:30	事前にメール (natsume@biz.ryukoku.ac.jp) にて予約してください。
西岡 久充	(第1学期) 随時受け付けします。 (第2学期) 随時受け付けします。	紫英館受付を通して予約してください。
西川 清之	(第1学期) 毎週 火曜日と金曜日に随時受け付けします。 (第2学期) 毎週 火曜日と金曜日に随時受け付けします。	紫英館受付を通して予約してください。
西川 浩司	(第1学期) 毎週 火曜日 12:30~13:00 (第2学期) 毎週 火曜日 12:30~13:00	紫英館受付を通して電話予約してください。
野間 圭介	(第1学期) 随時受け付けします。 (第2学期) 随時受け付けします。	事前にメール (noma@biz.ryukoku.ac.jp) にて予約してください。
長谷川岳史	(第1学期) 毎週 月曜日 12:30~13:30 (第2学期) 毎週 月曜日 12:30~13:30	紫英館受付を通して電話連絡してください。
長谷川 裕	(第1学期) 随時受け付けします。 (第2学期) 随時受け付けします。	事前にメール (hasegawa@biz.ryukoku.ac.jp) にて予約してください。
濱田 崇嘉	(第1学期) 随時受け付けします。 (第2学期) 随時受け付けします。	紫英館ホール受付を通して予約してください。
林 尚毅	(第1学期) 毎週 火曜日 12:30~13:00 (第2学期) 毎週 火曜日 12:30~13:00	事前にメール (hayashi@biz.ryukoku.ac.jp) にて予約してください。
廣瀬 純	(第1学期) 随時受け付けします。 (第2学期) 随時受け付けします。	事前にメール (jun_fujita_hirose@ybb.ne.jp) にて予約をしてください。
藤岡 章子	(第1学期) 毎週 水曜日 14:45~15:15 (第2学期) 毎週 水曜日 14:45~15:15	紫英館ホール受付にて予約してください。
藤木 潤司	(第1学期) 毎週 水曜日 13:30~14:30 (第2学期) 毎週 火曜日 13:30~14:30	事前にメール (fujiki@biz.ryukoku.ac.jp) にて予約してください。
藤田 誠久	(第1学期) 随時 (ただし、木曜日の終日と金曜日の午後を除く) (第2学期) 随時 (ただし、木曜日の終日と金曜日の午後を除く)	事前にメール (fujita@biz.ryukoku.ac.jp) にて予約してください。氏名、件名を必ず記入のこと。授業終了後の質問は随時受け付けます。
細川 孝	(第1学期) 随時受け付けします。 (第2学期) 随時受け付けします。	事前にメール (hosokawa@biz.ryukoku.ac.jp) にて連絡してください。
White Sean Allan	(第1学期) 毎週 火曜日 13:30~14:30 (第2学期) 毎週 火曜日 13:30~14:30	特に予約はいりませんが、口頭またはメール (white@biz.ryukoku.ac.jp) にて事前に連絡すると確実です。オフィス・アワー以外の時間は事前に予約してください。
増田 靖彦	(第1学期) 随時受け付けします。 (第2学期) 随時受け付けします。	事前にメールにて予約してください。メールアドレスは経営学部教務課で確認してください。
松永 敬子	(第1学期) 毎週 水・金 12:30~13:00 (第2学期) 毎週 水・金 12:30~13:00	事前にメール (matsunaga@biz.ryukoku.ac.jp) にて予約してください。
三谷 進	(第1学期) 毎週 水曜日 12:30~13:00 (第2学期) 毎週 水曜日 12:30~13:00	事前にメール (mitani@biz.ryukoku.ac.jp) にて予約してください。
守屋 晴雄	(第1学期) 随時受け付けします。 (第2学期) 随時受け付けします。	時間のかかりそうな要件でなければ、予約の必要はありません。ただし、予約をした方が確実です。メールアドレスは経営学部教務課で確認してください。
山下 章夫	(第1学期) 毎週 火曜日 12:30~13:00 (第2学期) 毎週 火曜日 12:30~13:00	事前にメール (yamasita@biz.ryukoku.ac.jp) にて予約してください。
李 洙任	(第1学期) 毎週 火曜日 16:45~18:15 水曜日 10:45~12:15 (第2学期) 毎週 火曜日 16:45~18:15 水曜日 10:45~12:15	事前にメール (lee@biz.ryukoku.ac.jp) にて予約してください。
小松 知子	(第1学期) 毎週 木曜日 14:00~16:30 (第2学期) 毎週 木曜日 14:00~16:30	事前にわかれば、メール (makhuatheet@biz.ryukoku.ac.jp) か口頭で予約してください。
松野 稔	(第1学期) 毎週 月曜日 13:00~16:00 土曜日 10:00~13:00 (第2学期) 毎週 月曜日 14:00~18:00 土曜日 13:00~15:00	事前にメール (matsuno-m@biz.ryukoku.ac.jp) にて予約、または紫英館受付を通して予約してください。
山西 万三	(第1学期) 毎週 水曜日 12:15~13:15 (第2学期) 毎週 水曜日 12:15~13:15	事前にメール (myamanishi@biz.ryukoku.ac.jp) にて予約してください。

## 2. 授業休止の取り扱い基準 (交通機関の不通, 警報発令などの場合の授業についての取り扱い)

ストライキなどで交通機関が不通となった場合や, 暴風警報, 特別警報, 特別警報に位置づける警報が発令された場合は, この基準にしたがってください。

### 全学休講となる場合

次の(1)(2)のどちらかが発生すれば, その時点でただちに全学休講とします。

(1) 下記のうち, 2つ以上の交通機関が運行を中止した場合は, その時点でただちに全学休講とします。

対象とする交通機関および区間は以下のとおりです。

- |                        |
|------------------------|
| ① J R (米原～西明石)         |
| ② 京都市営バス・京都市営地下鉄 (全区間) |
| ③ 京阪電車 (出町柳～淀屋橋)       |
| ④ 阪急電車 (河原町～梅田, 梅田～三宮) |
| ⑤ 近鉄電車 (京都～橿原神宮前)      |

(2) 以下のいずれかの地域に暴風警報, 特別警報 (大雨, 暴風, 高潮, 波浪, 大雪, 暴風雪), 特別警報に位置づける警報 (地震・津波・噴火) が発令された場合, その時点でただちに全学休講とします。

- |                                     |
|-------------------------------------|
| (地域)                                |
| ① 京都府南部 (京都・亀岡, 南丹・京丹波, 山城中部, 山城南部) |
| ② 大阪府 (北大阪, 大阪市, 東部大阪, 泉州, 南河内)     |
| ③ 滋賀県南部 (近江南部, 東近江, 甲賀)             |

### 授業の開始基準

以下の表に記載の時間までに, 交通機関の運行再開および暴風警報, 特別警報, 特別警報に位置づける警報解除の場合は, 以下の表のとおり授業や試験を実施します。

運行開始の時刻および警報解除時刻	授業・定期試験開始講時
午前6時まで	1 講時から平常どおり実施
午前10時まで	3 講時から平常どおり実施
午後2時まで	6 講時から平常どおり実施
午後2時以降	終日休講

## その他の注意事項

- (1) 上記以外に、通学不能または通学困難と学長が認めた場合は、全学休講とすることがあります。
- (2) 定期試験期間中にこの措置が適用された場合、当該試験については別途掲示で指示します。

## 暴風警報、特別警報、特別警報に位置づける警報が出された場合に全学休講となる区域について

本学の「授業休止の取扱基準（P.208）」で規定している区域は、気象庁の発表区域に従えば、以下のとおりとなります。

気象庁は、警報・注意報を二次細分区域で発表しますが、これを受けてメディア等では、簡潔かつ効果的に情報を伝えるために、状況に応じて「一次細分区域」、「市町村等をまとめた地域」、「二次細分区域」のいずれかによって該当する区域をお知らせします。下表のいずれかに暴風警報、特別警報、特別警報に位置づける警報が発令されているか確認するようにしてください。

【一次細分区域】	【市町村等をまとめた地域】	【二次細分区域】
京都府南部	南丹・京丹波	南丹市，京丹波町
	京都・亀岡	京都市，亀岡市，向日市，長岡京市，大山崎町
	山城中部	宇治市，八幡市，城陽市，京田辺市，久御山町，宇治田原町，井手町
	山城南部	木津川市，和束町，精華町，笠置町，南山城村
大阪府	大阪市	大阪市
	北大阪	豊中市，池田市，吹田市，高槻市，茨木市，箕面市，摂津市，島本町，豊能町，能勢町
	東部大阪	守口市，枚方市，八尾市，寝屋川市，大東市，柏原市，門真市，東大阪市，四条畷市，交野市
	南河内	富田林市，河内長野市，松原市，羽曳野市，藤井寺市，大阪狭山市，太子町，河南町，千早赤阪村
	泉州	堺市，岸和田市，泉大津市，貝塚市，泉佐野市，和泉市，高石市，泉南市，阪南市，忠岡町，熊取町，田尻町，岬町
滋賀県南部	東近江	近江八幡市，東近江市，竜王町，日野町
	近江南部	野洲市，守山市，草津市，栗東市，大津市南部
	甲賀	甲賀市，湖南市

【注】二次細分区域は、市町村を原則としますが、一部の市町村では、それらが分割されて設定されるケースがあります。本学「授業休止の取扱基準」で規定する区域では、大津市がこれに該当し、北部と南部に分割され、大津市南部のみが基準の該当区域となります。（大津市北部に暴風警報，特別警報，特別警報に位置づける警報が発令されても全学休講とはなりません。）

## 裁判員制度に伴う裁判員（候補者）に選任された場合の手続きについて

2009年5月施行の「裁判員の参加する刑事裁判に関する法律」（「裁判員法」）に伴い、みなさんが裁判員（候補者）に選任される可能性があります。

「呼出状」が届いて、教育上の配慮が必要な場合は、速やかに経営学部教務課に相談してください。

裁判員（候補者）を務める場合は、当該学部長から当該授業科目を授業欠席することおよびそれによる教育上の不利益について講義担当者に配慮を求めることとします。試験は追試験を受験できることとし、追試験料は無料とします。

### 3. 証明書

#### 交付について

各種証明書の発行は原則として証明書自動発行機（以下「発行機」という）で発行します。なお、証明書によっては、発行機で発行できない証明書がありますので、発行機で各種証明書の交付願を出力し、経営学部教務課へ申し出て下さい。なお、証明書の発行、受理には学生証が必要です。電話や電子メールでの申請は一切受け付けませんので、注意してください。

#### 各種証明書

証明書の手数料は以下のとおりです。「発行機」で証明書を直接発行するか、もしくは交付願を出力してください。

交付日	証明書の種類	手数料	備考
即日交付	在学証明書	1通100円	左記証明書は、「発行機」で直接発行できます。
	卒業証明書		
	卒業見込証明書		
	学業成績証明書		
	健康診断証明書	1通200円	
	卒業・学業成績証明書		
	卒業見込・学業成績証明書		
	学割証	無料	
2日後交付	単位修得証明書	1通100円	左記証明書は、「発行機」で証明書交付願を出力し、経営学部教務課に提出してください。
	単位修得見込証明書		
	在籍証明書		
	教育職員免許状取得見込証明書		
	本願寺派教師資格科目履修証明書		
	調査書		
	その他各種証明書		
1週間後交付	学力に関する証明書	1通200円	
	英文証明書	1通300円	

※卒業見込証明書は、データ更新などの処理に伴い発行できない期間がありますので注意してください。

## 学割証 (学校学生生徒旅客運賃割引証) (手数料無料, 即日交付)

学割証は、「発行機」で交付します (学生証持参のこと)。交付枚数は年度毎に1人10枚, 1回の交付枚数は1週間に2枚以内です。

### (1) 学割証の使用についての注意

- 1) 学割証裏面の注意事項を厳守すること。
- 2) 学割証は本人のみ使用できますが学生証を携帯していない場合は使用できません。
- 3) 学割証を不正に使用した場合は, 大学へのペナルティーとして, 学割証の交付停止, 既交付分が回収されるなど, 他の学生への不利益が生じますので, 不正使用は絶対にしないでください。
- 4) 学割証は101km以上の区間を乗車・乗船する場合に使用できます。割引率は普通運賃の2割引, 有効期間は発行日から3カ月間です。なお, 夏期・冬期・春期休暇前には学割証の申し込みが集中しますので, 余裕を持って発行してください。
- 5) 学生8名以上で (ただし, 学生8名の他に教職員 (非常勤講師含む) 1名以上の引率者を含むことを条件として) 旅行する場合は, 運賃が5割引 (ただし, 引率者は3割引) となる制度があります。申込用紙 (生協サービス事業部, 各主要駅, 旅行代理店などで求めてください) を出発日2週間前までに以下の窓口へ提出し, 手続きすれば即日発行されます。

ゼミナールやクラスの場合・・・経営学部教務課

クラブやサークルの場合・・・学生部

## 証明書自動発行機

### (1) 設置場所および授業期間中のサービス時間など

学 舎	設置場所	曜日	時間帯	
深 草	21号館1階エントランスホール	月～金	8:45～21:45	※1
		土	8:45～17:15	
	各 学 部 教 務 課	月～金	8:45～17:15	
大 宮	西 贛 (新 館) 1 階ロビー	月～金	8:45～20:15	※1
		土	8:45～17:15	
瀬 田	1号館1階エントランスホール	月～土	9:00～17:30	※2
	9号館農学部教務課前	月～金	9:00～17:30	※2
	6号館社会学部教務課	月～金	9:00～19:30	
大阪・梅田	フ ロ ア	月～金	10:00～18:30	※3

※1 ただし, 火曜日は10:30～17:15

※2 ただし, 火曜日は10:45～17:30

※3 就職活動の繁忙期は, 10:00～19:00



## (2) 利用上の注意 [利用には学生証が必要です]

- 1) 「発行機」を利用するときは、「学生証」と「全学認証パスワード」が必要です。  
※全学認証パスワードとは、学内パソコンのログイン用のパスワードと同じです。新入生は入学時のオリエンテーションで説明します。
- 2) オリエンテーション期間を含む新学期当初、試験期間中、夏期・冬期・春期休暇中は、サービス時間などを変更します。サービス時間は、ポータルサイトでお知らせします。
- 3) 「発行機」から発行する証明書の交付および証明書交付願の発行はどの学舎の「発行機」でも可能です。ただし、「発行機」から直接発行ができない証明書は、所定の手続きが必要になりますので、経営学部教務課で申請してください。
- 4) 学生証を紛失したり破損した場合、経営学部教務課で、再発行手続きをしてください。
- 5) 「発行機」では、証明書交付以外に各種特別研修講座や就職対策講座などの講座受講申込用紙も購入できます。その他、各種手数料の納付も「発行機」で受け付けています。
- 6) 夜間時間帯や土曜日に、「発行機」が故障した場合や「買い間違えた」場合の対応は、翌日もしくは翌月曜日以降となります。できる限り、平日の経営学部教務課が開室している時間帯に証明書交付や各種申請などを行ってください。

## 4. 学籍と学生証

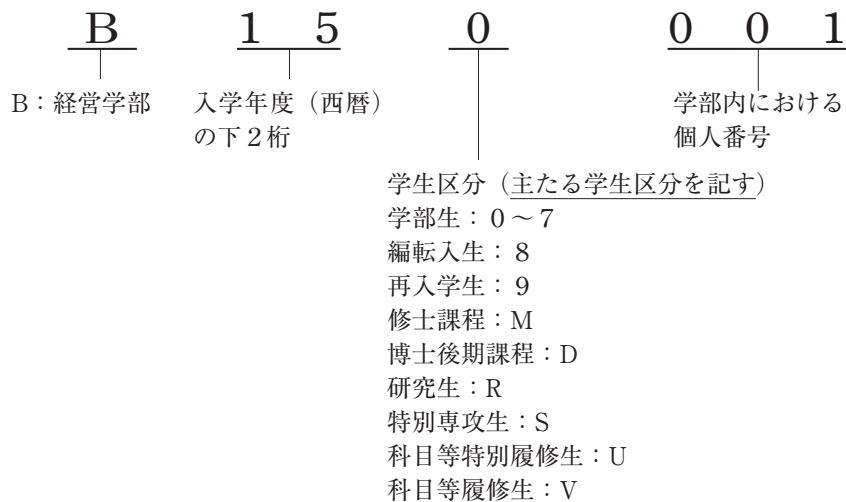
### 学 籍

「学籍」とはその学校の在学者としての身分を意味する用語です。学籍は入学によって発生し、入学は大学が行った入学許可に対して学生の入学諸手続きが完了することにより成立します。学籍は卒業により消滅します。

### 学籍番号

入学と同時に、各個人に記号と数字を組み合わせた7桁の学籍番号が与えられます。この番号は当人固有の番号であり、身分証明証（学生証）の番号でもあります。

在学中の科目履修などは、すべて学籍番号を用いて処理します。また、学籍番号は卒業後も変わりませんから、正確に記憶し、記入が必要な場合は省略せずに記入してください。



※最初のアルファベット (学部を示す) が記入されないと、他学部の学生と区別ができませんので、忘れずに記入してください。

## 学籍簿

学籍取得により、大学での在学関係を明確にする書類として、学籍簿（入学手続き時に各自が提出した書類）が編成されます。学籍簿に記載する事項（本人の現住所、保証人の現住所、学費の請求先など）は、基本的には本人であることの確認に必要な事項に限定されています。これら記載事項に変更が生じたときには、ただちに経営学部教務課に届け出てください。

## 学生証

学生証は、本学の学生であるという身分を証明するとともに、学生生活での諸手続きに際して本人であることを証明する大切なものです。学生証は常に携帯してください。

### (1) 学生証は、次の場合に提示を求めます。

- 1) 学業成績表を受け取る時。
- 2) 試験を受ける時。
- 3) 各種証明書を発行するとき。
- 4) 通学定期乗車券の購入や学割証の交付を受けるとき。
- 5) 龍谷大学保健管理センターを利用するとき。
- 6) 図書館を利用するとき。

### (2) 在籍確認シール

- 1) 在籍を証明する「在籍確認シール」は毎年学年始めに配付します。
- 2) 新しい「在籍確認シール」を受け取ったら、すみやかに前年度のシールと貼り替えてください（新入生は、住所欄に現住所を正確に記入し、学生証の指定された場所に各自貼ってください）。
- 3) 当該年度の「在籍確認シール」が貼られていない学生証は無効となりますので注意してください。

### (3) 取り扱い

- 1) 入学時に交付した学生証は、卒業するまで使用するので、大切に扱ってください。
- 2) 学生証の記載事項が変更した場合は、すみやかに経営学部教務課にその内容を届け出てください。
- 3) 学生証を折り曲げたり、汚したり、磁気に近づけたりしてはいけません。
- 4) 学生証は、他人に貸与または譲渡してはいけません。

- 5) 退学の場合や、有効期限を過ぎた学生証は、ただちに経営学部教務課に返納してください。

#### (4) 破損・紛失

- 1) 学生証を破損または紛失した場合は、ただちに経営学部教務課および生協事務所へ届け出てください。
- 2) 万一紛失した場合は、最寄りの警察署（交番）に紛失届などを提出し、生協カードのクレジット機能を利用している方は生協事務室へ報告してください。学生証再発行の手続きを経営学部教務課で行ってください。
- 3) 学生証の再交付は、1,000円の手数料と印鑑、受取時に本人確認書類の提示が必要です。
- 4) 学生証の再交付には、2日以上かかりますので注意してください。

## 休学と復学

### (1) 休学

学生が疾病またはその他の事情により、3ヶ月以上修学を中断しようとするときは、休学を願い出ることができます。

#### 1) 休学の願出

休学には、次の諸手続きが必要です。

- ①大学所定の用紙を経営学部教務課へ提出すること。
- ②休学の必要性を証明する書類（診断書など）を添付すること。
- ③保証人と連署で願い出ること。

#### 2) 休学期間

- ①休学期間は、1年間または1学期間のいずれかです。
- ②1年間あるいは第1学期休学希望者は6月30日までに、第2学期休学希望者は12月31日までに経営学部教務課に所定の用紙を提出してください。
- ③休学期間を延長する必要がある場合は、1年間または1学期間の休学期間の延長を願い出ることができます。
- ④休学期間は連続して2年、通算して4年を越えてはできません。

#### 3) 休学中の学費

休学者は、学費として休学する学期の休学在籍料を納入しなければなりません。

### (2) 復学

休学者の休学事由が消滅したときは、願い出により復学することができます。復学できる時期は、カリキュラムとの関係で、学期の始め（第1学期または第2学期の開始日）に限定されています。したがって、復学の願い出は、学期開始日の前1ヶ月以内になければなりません。

## 5. 学籍の喪失と再入学

卒業以外の事由で学籍を喪失（本学の学生でなくなる）する場合としては、退学と除籍の2種類があり、さらに退学はその内容により依願退学と懲戒退学に区分されます。

### 退学

#### (1) 依願退学

依願退学は、学生自身の意志により学籍を喪失すること（本学の学生でなくなる）です。依願退学は、学生の意志によるものですので、いつでも願い出ることができますが、以下の諸手続きが必要です。

- 1) 所定の用紙に、退学理由を明記し、保証人と連署により願い出てください。
- 2) 当該学期分の学費を納入していること（学費の納入と学籍の取得は、対価関係にあり、学費を納入していない人は本学学生と見なすことができません。したがって退学を願い出る資格もないと判断されます。なお、学期当初に退学する場合は、経営学部教務課で個別に対応をしているので、すみやかに相談してください）。
- 3) 休学期間中の人も退学を願い出ることができますが、除籍となった人は、退学を願い出られません。

#### (2) 懲戒退学

懲戒退学は、学生が本学の秩序を乱し、その他学生の本分に反した場合、その内容、軽重等を考慮し、別に定める学生懲戒規程により、在学契約を解消することです。

## 除籍

「懲戒」という概念になじまない事由であっても、大学が一方的に在学契約を解消する必要がある場合があります。この場合、本学では除籍とします。しかし、除籍といえども本学学生としての身分を失う点では、懲戒退学と同じ結果となるので、その事由は学則で明記されています。

本学学則で定められている除籍の事由は、次のとおりです。

- (1) 定められた期間に所定の学費を納入しないとき。
- (2) 在学し得る年数（通常の場合は8年間）以内に卒業できないとき。
- (3) 休学期間を終えても復学できないとき。
- (4) 死亡の場合。

## 再入学

- (1) 学則第19条により退学した人が再び入学を願い出たときは、その事情を調査の上、原年次またはそれ以下の年次に、入学を許可することがあります（学則第14条）。ただし、再入学を願い出たときが、退学した年度を含めて4年以上経過している場合は学科試験を課します。
- (2) 学則第20条第1項第1号により除籍された人が再び入学を願い出たときは、原年次に入学を許可することがあります（学則第14条の2）。ただし、再入学を願い出たときが除籍された年度を含めて4年以上経過している場合は学科試験を課します。
- (3) 休学期間が満了するまでに退学を願い出て許可された者は、再入学を願い出ることができます。
- (4) 再入学を願い出る時は、学費等納入規程に定める受験料を納め、所定の期間内に手続きをしなければなりません。なお、出願期間、出願書類などは入試部に問い合わせてください。

## 編入学・転入学

本学の他学部（学科・専攻）、他大学への編入学・転入学をする場合は、その旨を経営学部教務課へすみやかに報告してください。

なお、本学学内での編入学・転入学に関する学則は以下のとおりです。

- (1) 本学の第3年次および第2年次に転入学または編入学を希望する者については、選考の上これを許可することがあります。（学則第13条）

- (2) 入学志願者は、所定の書式にしたがい、入学願書、履歴書および修学証明書を提出しなければなりません。(学則第15条)
- (3) 他の大学へ転学を希望する学生は、学長に願い出てその許可を受けなければなりません。(学則18条の3)

## 6. 保健管理センターの利用について

### 保健管理センターについて

#### 【主な業務】

- (1) 健康管理業務
  - ①健康診断および健康診断後の保健指導
  - ②健康に関する相談
  - ③精神科医、心理カウンセラーによるメンタルヘルス相談
  - ④健康に関する調査・研究・教育
- (2) 健康増進活動業務
  - ①健康増進のための各種セミナーや学習会の開催
  - ②禁煙教育とサポート
- (3) 診療業務
  - ①診療（内科・精神科）※健康保険証が必要
  - ②応急処置
  - ③外部医療機関紹介

### 定期健康診断について

#### 【検査項目】

検査項目	年次	学 部 生			
		1年	2年	3年	4年以上
問診		○	○	○	○
身長・体重		○	○	○	○
胸部X線検査		○	○	○	○
尿検査（蛋白・糖）		○	○	○	○
視力		対象者のみ			
内科診察		△	△	△	△

なお、内科検診は、看護師の問診などで必要と認めた学生のみ実施します。

#### 【実施時期など】

- \* 4月の第1～2週目に実施します。指定された日に受けてください。指定日に受けられない場合は、他学部の同学年の同性の指定日に受検してください。
- \* 大学での健康診断実施日程終了後は保健管理センターでの健康診断を行いませんので、必ずこの期間内に受検するよう注意してください。



- \*勤務先で健康診断を受ける方は結果（コピー可）を保健管理センターに提出してください。
- \*詳細は掲示板や保健管理センターのホームページなどで確認してください。

## 健康診断証明書・健康診断書の発行について

健康診断証明書・健康診断書は本学の定期健康診断の結果に基づいて発行します。

従って、本学の定期健康診断を受けていない場合は発行できません。

### 【健康診断証明書について】

- \*「健康診断証明書」は自動発行機で発行します。用途は就職活動や本学に提出する各種実習受講，奨学金申請等に限られます。

### 【健康診断書について】

- \*進学や大会参加，アルバイトなどで使用する健康診断書は医師の診察が必要です。発行までに数日かかることがありますので，指定用紙や要項を持参の上，余裕をもって申し込んでください。

## 保健管理センターの利用について

### ①応急処置や休養室の提供

医師の診療時間以外に体調が悪くなった時やケガをした時，看護師が応急処置や静養室の提供を行っています。状態により医師の診察が必要な時は外部医療機関を紹介します。

### ②健康相談

健康上の相談や悩みも気軽に相談してください。必要に応じて看護師が窓口になり，カウンセラーや医師に紹介します。

### ③保健・医療に関する情報提供

保健管理センターには身長体重計・体脂肪計・視力計・血圧計が設置されています。自己の健康管理に利用してください。

大学近辺の医療機関のご案内や健康情報などをホームページに掲載していますのでご利用ください。

URL：<http://www.ryukoku.ac.jp/hoken>

#### 【開室時間】

〔深草学舎・大宮学舎〕 8：45～17：15

〔瀬田学舎〕 9：00～17：30

※休業期間等は開室時間の変更があります。

## 診療所について

【診療科名】内科・精神科

【診療日及び時間】詳細は保健管理センターのホームページで確認してください。

【費用】診療には「健康保険証」が必要です。コピーの健康保険証は使用できません。

※扶養者と別居している方で、ご自身の健康保険証を持ってない方は「遠隔地被保険者証」を取り寄せてください。

※医師の診察を受けずに薬だけお渡しすることはできません。症状は、体からの「SOSサイン」ですので、必ず医師の診察を受けてください。

## 学生相談（こころの相談室）について

学生生活全般に関するさまざまな相談（対人関係、学業・進路、心身の健康等）に、カウンセラー（臨床心理士）が応じ、学生生活支援を目的とした心理的なサポート等を行います。相談は予約制（無料）です。相談の申込は、下記受付窓口まで電話していただくか、またはポータルサイト上でのweb予約も可能です。詳しくは、保健管理センター「こころの相談室」のホームページをご覧ください。また、直接窓口での申込も可能ですのでお問い合わせください。

### 【受付窓口】

「こころの相談室」への問い合わせは、下記までご連絡ください。

月～金曜日 9：00～17：00（12：30～13：30を除く）

(1) 深草学舎・大宮学舎 電話 075-642-1111(代表) 内線1254

(2) 瀬田学舎 電話 077-543-5111(代表) 内線7781

### \* なんでも相談室もあわせてご利用ください \*

学生生活を有意義に送ることができるよう、深草・瀬田学舎は学生部内に、大宮学舎は西翼2階に「なんでも相談室」を設けています。学生生活でのあらゆる相談や問い合わせを受け付ける「よろず相談窓口」です。相談に応じて、アドバイスや情報の提供、適切な相談先への紹介も行っています。予約は不要です。どんな小さなことでも気軽に訪れてください。

※学生部の「なんでも相談室」は、保健管理センターの「こころの相談室」とも連携しています。希望に応じて、カウンセラー（臨床心理士）による相談を受けることもできます。医療機関への案内も行っています。

## 健康増進のための学習会やイベントについて

心身ともに健康な学生生活が過ごせるよう、健康学習会や健康に関するさまざまなイベントなどを行っています。詳細については、ホームページやポータルサイト等で随時案内しますので積極的に参加してください。

# 緊急時の対応について

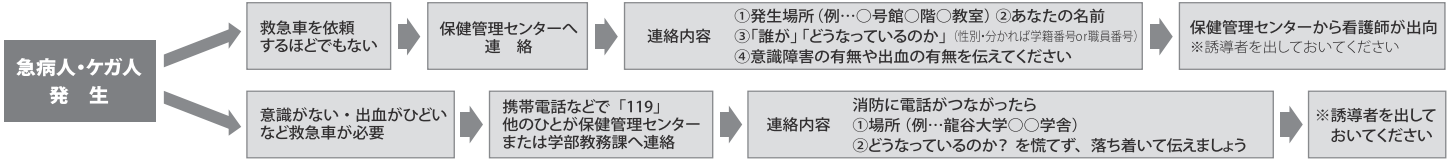
## 急な怪我をした、気分が悪くなった (応急処置)

授業や課外活動中に思わぬ事故で“けが”をしたり、急に体調が悪くなったような場合は、医師の診療時間外にも看護師が応急処置に応じています。また、教室等で急病やケガ人が発生し、保健管理センターまで来所できない場合は、保健管理センターから看護師が現場まで出向、対応します。

また、保健管理センターには休養室が設置されています。学内で体調を崩したときなどにご利用ください。

●各学舎の保健管理センター、対応時間と連絡先 (土・日・祝日を除く)

学 舎	利用時間	番 号
深草学舎	8:45 ~ 17:15	075-645-7879 ダイヤルイン
大宮学舎	8:45 ~ 17:15	075-343-3322 ダイヤルイン
瀬田学舎	9:00 ~ 17:30	077-543-7781 ダイヤルイン



## 救急・夜間休日診療

※夜間・休日および年末年始の診療です。診察時間は必ず事前に電話で確認してください。

病院名	住所	電話番号	診療科目	診療受付時間
京都市急病診療所	JR二条駅すぐ 京都市中京区西ノ京東梶尾町6	354-6021	眼科・耳鼻咽喉科 ・内科	内科・眼科：土曜日...18:00~22:00 日曜・祝日、8/15・16、12/29~1/4...10:00~17:00 耳鼻咽喉科：日曜・祝日、8/15・16、12/29~1/4...10:00~17:00
京都市休日急病歯科中央診療所	京都市中京区西ノ京東梶尾町1 JR二条駅前 京都府歯科医師会口腔保健センター1階	812-8493	歯科	日曜・祝日、8/15・16、12/29~1/4...9:00~16:00
京都府精神科救急情報センター		323-5280	精神科	月~金...17:00~翌日8:30 土日・祝日及び年末年始...24時間
京都市休日急病歯科 南部診療所	京都市伏見区今町659-1 (京都府歯科医師会伏見会館1階)	622-3418	歯科	日曜・祝日、8/15・16、12/29~1/4...9:00~16:00

## 深草・大宮学舎近隣医療機関

※診療科目・診療日・診療時間等は変更される場合がありますので事前に電話で確認して下さい。  
※救急指定病院は24時間の診療体制を行っています。診療科目など詳しいことは直接電話で確認して下さい。

病院名	住所	電話番号	診療受付時間	月	火	水	木	金	土	備考	
総合病院	京都医療センター ※救急指定病院	深草総合庁舎横 京都市伏見区深草向畑町1-1	641-9161	【午前】8:30~10:30	○	○	○	○	○	×	
	久野病院 ※救急指定病院	JR「稲荷」駅下車 北へ約500m 京都市東山区本町22-500	541-3136	【午前】8:45~12:00 【夜診】☆時間注意	○	○	○	○	○	○	☆【夜診】月 5:15~8:00 火・金 4:45~8:00 水・木・土 5:45~8:00
	康生会 武田病院 ※救急指定病院	JR「京都」駅中央郵便局横 京都市下京区塩小路通西洞院東入東塩小路町841-5	361-1351	【午前】8:00~12:30 【午後】1:00~4:00	☆診療科により 診療日異なる。						
	京都南病院	市バス「七条御前通」下車すぐ 京都市下京区西七条南中野町8	312-7361	【午前】8:30~12:00 【午後】1:30~4:30	○	○	○	○	○	×	
	新京都市南病院 ※救急指定病院	市バス「西大路七条」下車徒歩7分 京都市下京区七条御前ノ内北町94番地	322-3344	【午後】4:30~7:30	○	○	☆	○	○	×	☆水【午後】5:30~7:30
内科	仁木医院	砂川東児童公園横 京都市伏見区西浦町4丁目21	641-2411	【午前】9:00~12:30 【午後】5:30~8:00	○	○	○	×	○	○	内科・循環器科
	西医院	「稲荷」駅下車 北へすぐ 京都市伏見区深草稲荷御前町90	641-6251	【午前】9:00~11:30 【午後】6:00~8:00	○	○	○	×	○	×	内科・消化器科/眼科併設
	ふじた医院	七条大宮西南角 京都市下京区大宮通七条下ル御器屋町67	343-4188	【午前】9:00~12:00 【午後】5:30~7:30	○	×	○	○	○	×	内科・消化器科
	西澤内科医院	JR「京都」駅より徒歩5分 京都市下京区七条西洞院七条下ル大黒町253	343-5022	【午前】9:00~13:00 【午後】4:30~7:30	○	○	☆	○	○	○	☆8:15~12:00 内科・神経内科・循環器科
外科	辻クリニック	第一軍道を東へ 京都市伏見区直達橋9-184-2	641-3073	【午前】9:00~12:30 【午後】4:30~7:30	○	○	○	○	×	×	外科・消化器科・整形外科・ 内科・皮膚科・泌尿器科
	岩田クリニック	竹田街道キリン堂薬局前 京都市伏見区竹田久保町19-1	646-2880	【午前】9:00~12:00 【午後】5:30~8:00	○	○	×	○	○	×	外科・胃腸科・内科・皮膚科・ 肛門科
外整形	高生会整形外科クリニック	京阪「深草」駅 東へ徒歩1分 京都市伏見区直達橋10-157-2	647-2828	【午前】9:00~12:00 【午後】4:30~7:00	○	○	○	○	○	×	
	眼科	西眼科クリニック	JR「稲荷」駅下車 北へすぐ 京都市伏見区深草稲荷御前町90	646-1900	【午前】9:00~12:00 【午後】4:00~7:00	○	○	○	×	○	☆
なかの眼科		JR「稲荷」駅下車 北へ 京都市伏見区深草稲荷中之町45	645-1572	【午前】9:00~12:00 【午後】5:00~7:00	○	○	○	×	○	×	
耳鼻科	水田耳鼻咽喉科	京阪「藤森」駅東側 京都市伏見区深草直達橋4-348	641-1440	【午前】9:00~12:00 【午後】4:00~7:30	○	○	×	○	○	×	
	大岡医院	市バス「西洞院正面」停留所から1分 京都市下京区西洞院正面下ル鍛冶屋町435-1	371-3387	【午前】9:00~12:30 【午後】5:00~7:30	○	○	×	○	○	×	※手術・検査のみ
婦人科	杉の下医院(女医)	京阪「深草」駅東側 京都市伏見区深草直達橋10丁目171	641-0371	【午前】9:00~12:00 【午後】5:30~7:30	○	×	×	○	○	×	婦人科・内科・皮膚科
歯科	くいなばしばたデンタルクリニック	地下鉄「くいな橋」駅1番出口すぐ 京都市伏見区武田中島町206 地下鉄くいな橋駅前ビル1階	643-3545	【午前】10:00~13:00 【午後】3:00~8:00	○	○	○	○	○	○	▲第2木曜午後休診 ※毎週土【午後】3:00~5:00
	水谷歯科	師田街道警察学校の北側 京都市伏見区深草祓川町24-1	641-0675	【午前】9:00~12:00 【午後】3:00~7:00	○	○	○	×	○	○	☆土【午後】2:00~6:00
	ひろせ歯科医院	平安高校となり 京都市下京区大宮通り七条下ル御器屋町43	361-6480	【午前】9:00~13:00 【午後】2:30~6:00	○	○	○	×	○	×	【予約制】
皮膚科	小森医院	京阪「藤森」駅 出口2からすぐ 京都市伏見区深草堀田10-1ロースマンション藤森C204	643-6355	【午前】9:30~12:45 【午後】2:00~3:45 【午後】5:00~7:45	○	×	○	×	○	×	

現在診療中の医療機関を探したいとき

【京都 健康医療よろずネット】

075-694-5499 <http://www.mfis.pref.kyoto.lg.jp>

(自動音声・FAXサービス)

精神科救急医療に関する電話相談等

【京都府精神科救急情報センター】

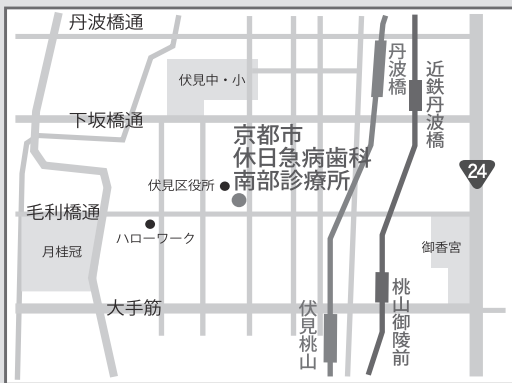
075-323-5280 月~金...17:00~翌日8:30、土日・祝日及び年末年始...24時間



# 深草・大宮学舎近隣 医療機関



# 救急・夜間休日診療



# 付 録

履  
修  
一  
般

教  
養  
教  
育  
科  
目

専  
攻  
科  
目

学  
部  
共  
通  
コ  
ー  
ス

他  
大  
学  
で  
の  
学  
修

教  
職  
課  
程  
・  
そ  
の  
他

経  
営  
学  
研  
究  
科

学  
生  
生  
活

Q  
a  
n  
d  
A

この「Q and A」は、履修登録などで、質問の多い内容をまとめましたので、必要に応じて参考にしてください。

## 基本事項編

**Q** 「カリキュラム」とは、どんな意味ですか

**A** 学部の教育理念に基づいて編成された教育課程です。経営学部のカリキュラムは、専攻科目と教養教育科目で構成しています。また、経営学特別講義や実践講座は、社会のニーズや変化に合わせて講義テーマを決定しており、多種多様なニーズにも応えられるような科目を編成しています。

**Q** 「単位互換」とは、どんな制度ですか。

**A** 経営学部教授会が教育上有益と認めたときに、他大学で修得した単位を60単位まで本学の授業科目として修得したものとみなす制度です。詳しくは、学則第37条を参照してください。

## 履修登録編

**Q** 「履修登録」って何ですか。

**A** 履修登録とは、受講したい科目を大学に届け出る登録手続きのことを言います。

**Q** 1学期間で登録できる単位数は、何単位ですか。

**A** 1学期間で登録できるのは22単位（第1セメスターのみ23単位）までです。ただし、教職科目やサマーセッション開講科目、大学コンソーシアム京都科目などは22単位の中に含まれません。また、卒業年次生は1年間に48単位まで登録できます。

**Q** 卒業年次生は通年登録しなければいけないのですか。

**A** 卒業年次生は就職活動で使用する卒業見込証明書を発行するために、通年登録をしています。原則第1学期履修登録期間のみの登録となりますので、きちんと履修計画を立てて、履修登録してください。

**Q** 演習の単位は、履修制限単位に含まれるのですか。

**A** フレッシュャーズゼミと基礎演習は履修制限単位に含まれます。第4セメスターから始まる演習は含まれません。

**Q** 登録した科目の変更，取り消しはできますか。

**A** 履修登録期間内であれば，修正ができます。  
ただし，履修登録期間終了後は，一切の変更，取消はできませんので，登録に間違いがないか，よく確認してから登録してください。

**Q** 仏教の思想，現代のビジネス，簿記入門，現代の企業会計，経営と情報の再履修クラスが複数あります。どのクラスで受講すればいいですか。

**A** 自由に自分の時間割上，重ならないように履修できる時間帯のクラスで履修してください。

**Q** 英語の再履修の事前登録を行うことができませんでした。どうすればいいですか。

**A** 英語の再履修の事前登録は，Webで受け付けた後，人数が超過した場合は抽選を行っています。人数に余裕がある授業は，教学部（深草）にて先着順で追加の受け付けをしますので申し込みをしてください。

**Q** 卒業年次生が第2学期に開講される事前登録が必要な科目を受講希望する場合，事前登録の手続きはどうすればいいですか。

**A** 卒業年次生の事前登録は，第2学期開講の科目でも，第1学期の事前登録期間に行います。この時期に事前登録をしなければ，第2学期開講科目でも，受講することができませんので，注意してください。

**Q** 予備登録と事前登録の違いはなんですか。

**A** 予備登録は教養科目，選択外国語を対象に行い，事前登録は必修外国語（英語，初修外国語）の再履修と専攻科目を対象に行います。

**Q** 先生から「受講者名簿に君の名前がないよ」といわれました。どうしてですか。

**A** 履修登録に間違いがあります。自分ではきちんと登録をしたつもりでも，登録操作を最後まで行わなかったり，科目のチェックの付け間違いなどで登録できていないことがあります。Web上で履修登録が完了しましたら，ただちに「受講登録確認表」を出力し，自分の登録した科目に間違いがないか確認してください。「履修登録確認表」で確認するまでは履修登録は完了したことはありません。

**Q** サマーセッションの登録と、単位認定の時期はいつですか。

**A** サマーセッションはⅠ・Ⅱともに第1学期に登録しなければなりません。単位認定は、Ⅰは第1学期、Ⅱは第2学期にされます。

**Q** 基礎演習と仏教の思想(再)が同一時限に重複しています。どうすればいいですか。

**A** 経営学部教務課に相談し、仏教の思想(再)のクラス変更の手続きを行ってください。

**Q** 昨年、不合格や履修辞退した科目は、今年も登録できますか。

**A** 履修できます。

**Q** 昨年、合格した科目が別のテーマで今年開講しているのですが、受講したいのですが、受講できますか。

**A** 単位を修得した科目の再履修はできませんので、受講できません。

**Q** 2年生ですが、1年生の科目は履修できますか。

**A** 履修できます。下級年次対象に開講している科目は、配当年次をその年次に限定していたり特別な制限がない限り可能です。

## 定期試験・成績評価編

**Q** 定期試験の時間割表は、いつ、どこで発表されますか。

**A** 試験開始日の14日前に、経営学部掲示板と龍谷大学ポータルサイトで発表します。

**Q** 定期試験を病気で欠席してしまったのですが、どうすればいいですか。

**A** 病院で診断書を発行してもらい、試験日を含めて4日以内に経営学部教務課に追試験受験申込手続きをしてください。ただし、追試験を必ず受験できるわけではありませんので、健康管理には十分注意してください。なお、寝坊など本人の過失の場合は、追試験の対象になりません。詳しくは、P.21を参照してください。



**Q** 学生証を持ってくるのを忘れてしまいました。どうすればいいですか。

**A** 経営学部教務課で臨時学生証を借りてください。ただし、臨時学生証は、その日のうちに必ず返却してください。

**Q** 成績評価に納得できません。どうすればいいですか。

**A** 「成績に関する意味・内容がはっきりしないこと、疑わしいことに対して先生に再確認する」ための成績疑義制度があります。成績発表から3日以内に経営学部教務課に申し出てください。出席やレポート提出など必要な条件をすべて満たし、正当な理由と思われる疑義のみが受付対象となります。

## 学 籍 編

**Q** 休学（退学）したいのですが。

**A** 休学（退学）願の書類を経営学部教務課に置いてあります。まず簡単に理由を伺いますので、経営学部教務課にてご相談ください。

**Q** 学費を延納（分納）したいのですが。

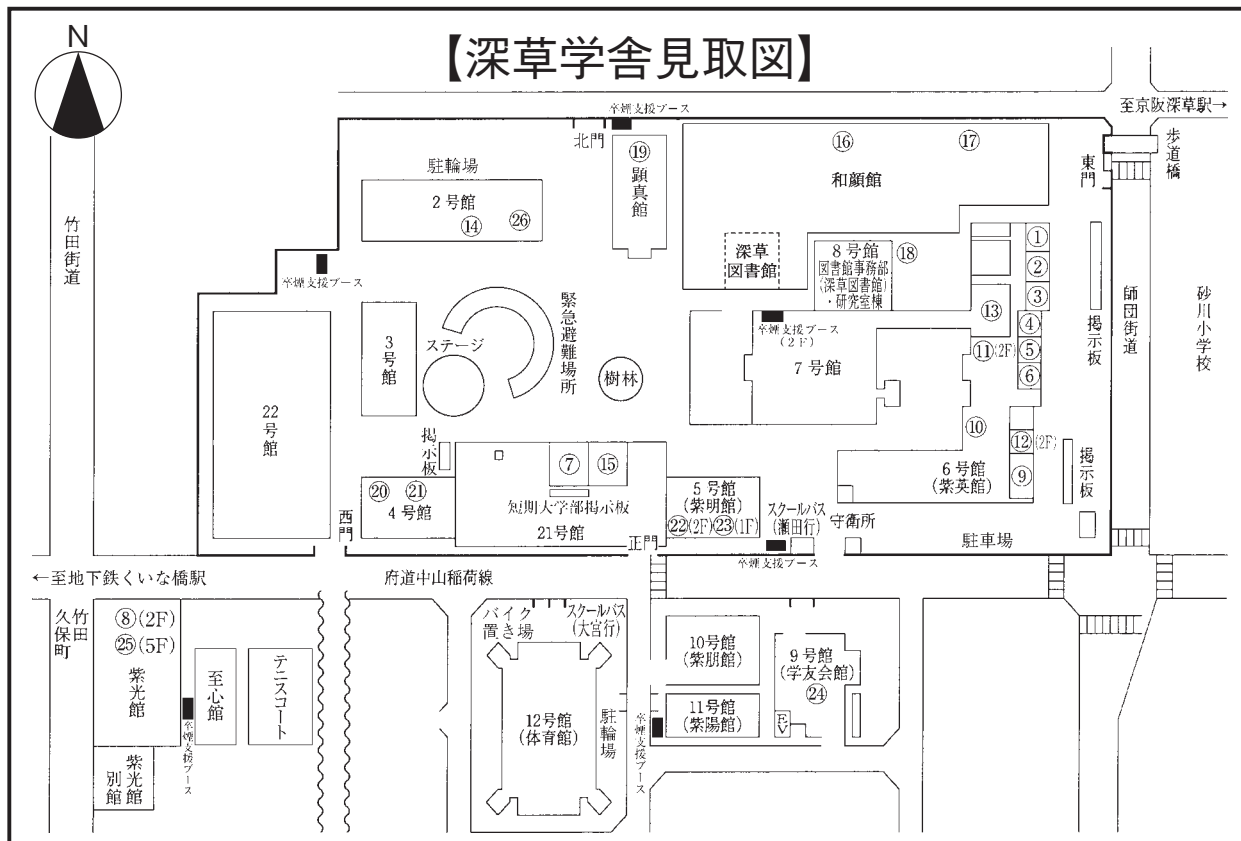
**A** 学費の延納（分納）手続きは、学生部で行っています。第1学期は、4月30日、第2学期は9月30日が申込期限です。

**Q** 現住所、氏名、保証人、緊急連絡先が変わったのですが。

**A** 変更届を経営学部教務課に置いています。印鑑を持参の上、経営学部教務課までお越しください。

**Q** 学生証をなくしたのですが、どうすればいいですか。

**A** 紛失したことを警察および生協事務室に届けてから、印鑑を持って経営学部教務課までお越しください。手数料（1,000円）がかかりますが、2日後に発行されます。また、紛失でなくとも、破損や顔写真が見えない場合は、必ず再発行してください。



**深草学舎 〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67**  
**TEL 075-642-1111 (代表)**

◆主な事務室連絡先

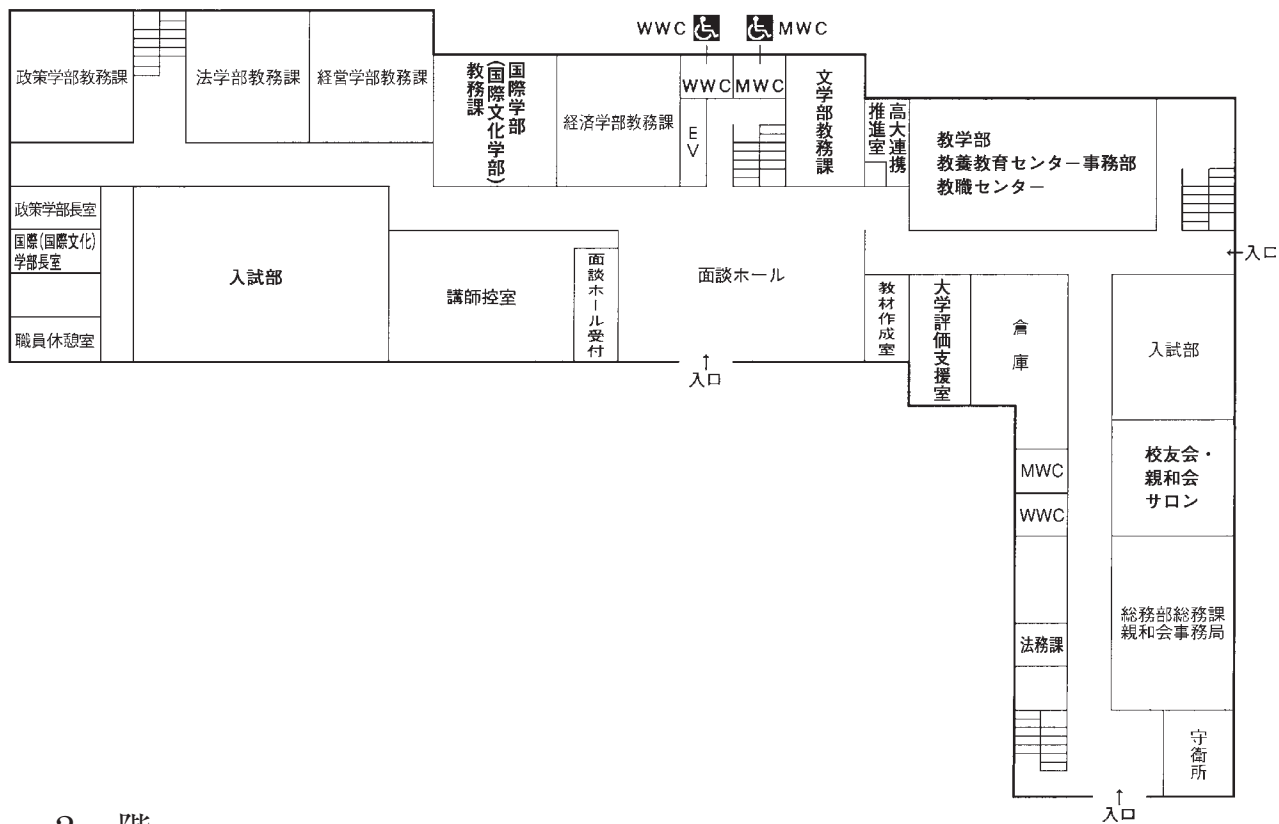
市外局番は「075」です。

番号	部署名	事例	ダイヤルイン	FAX
①	政策学部教務課	政策学部の科目に関すること	645-2285	645-2101
②	法学部教務課	法学部の科目に関すること	645-7896	643-9901
③	経営学部教務課	経営学部の科目に関すること	645-7895	643-9901
④	国際学部 (国際文化学部) 教務課	国際学部 (国際文化学部) の科目に関すること	645-5645	645-6444
⑤	経済学部教務課	経済学部の科目に関すること	645-7894	645-6444
⑥	文学部教務課	文学部の科目に関すること	645-7893	645-6444
⑦	短期大学部教務課	短期大学部の科目・実習・社会活動に関すること	645-7897	645-2825
	短期大学部実習指導室 短期大学部社会活動センター		645-7906	
	障がい学生支援室	障がい学生支援に関すること	645-5685	645-2825
⑧	法科大学院教務課	法科大学院の科目に関すること	645-2070	645-2071
⑨	教学部	深草・大宮学舎の教養教育科目に関すること 教室に関すること	645-7891	643-5021
	教養教育センター事務部			
	教職センター	教職課程に関すること	645-3749	643-5021
⑩	教材作成室	印刷が必要な教材作成に関すること	645-7891	643-5021
⑪	研究部 (深草) [2階]	各種研究支援に関すること	645-7922	645-2033
⑫	総務部人事課 [2階]	人事・給与に関すること	645-7874	645-8685
⑬	講師控室 (6号館)	大学からの通知・連絡		
⑭	講師控室 (2号館)			
⑮	講師控室 (21号館)			
⑯	学修支援・教育開発センター	教育活動の支援に関すること	645-2163	645-2190
⑰	グローバル教育 推進センター事務部	留学・国際交流に関すること	645-7898	645-2020
			645-5651	645-5652
⑱	図書館事務部 (深草)	図書館利用に関すること	645-7885	645-8691
⑲	宗教部	宗教教育・宗教行事に関すること	645-7880	645-7939
⑳	学生部 (深草) スポーツ・文化活動 強化センター	学生生活に関すること	645-7889	644-2988
㉑	保健管理センター	診察、健康診断、健康相談に関すること	645-7879	643-9909
㉒	情報メディアセンター [2階]	情報実習室、メディア機器の利用に関すること メディア教材作成に関すること	645-2108	645-2109
㉓	キャリアセンター	学生の就職支援及びキャリア開発に関すること	645-7878	645-5556
㉔	龍谷大学ボランティア ・NPO活動センター深草	教育研究活動とボランティア・NPO活動との連携に関すること	645-2047	645-2064
㉕	REC事務部 (京都)	地域社会との交流、「産・官・学」連携による教育・研究活動の推進に関すること	645-7892	645-9222
㉖	生活協同組合	購買 (書籍・文具・チケット等)	642-0213	643-7774

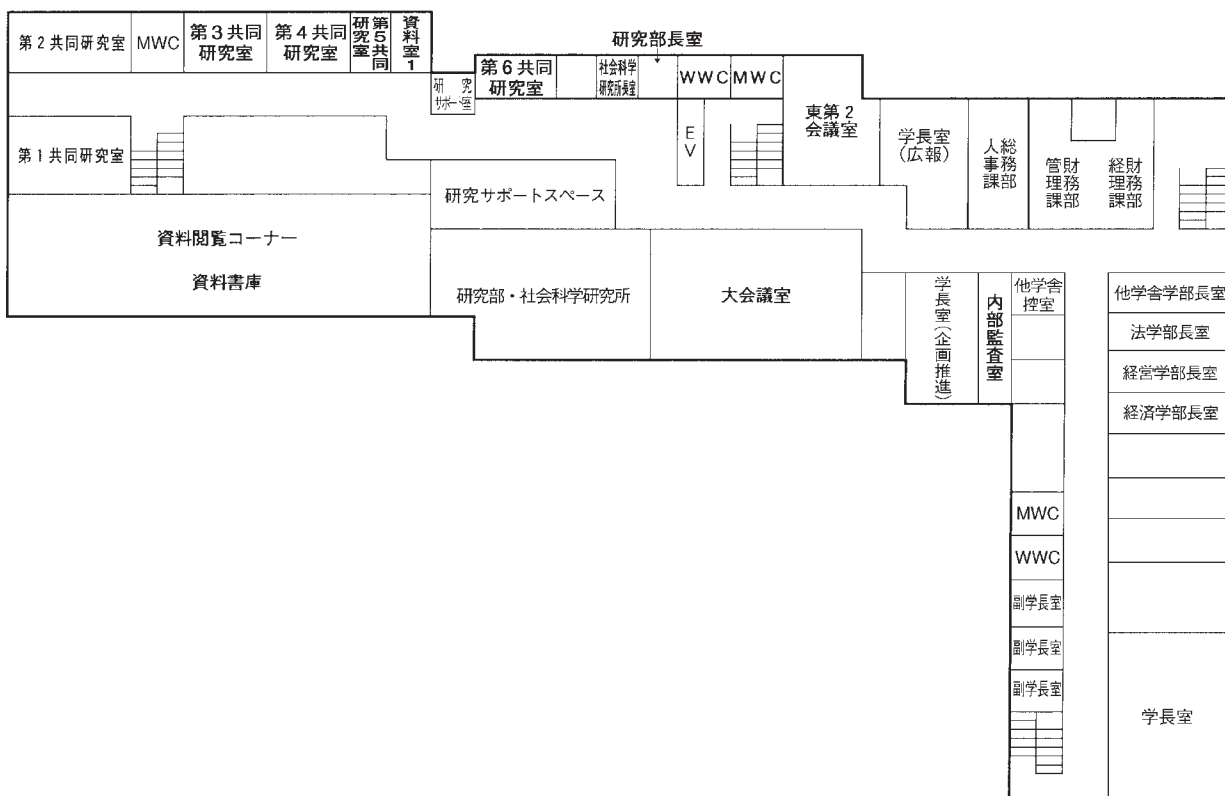


# 〈深草学舎〉 6号館 (紫英館)

## 1 階



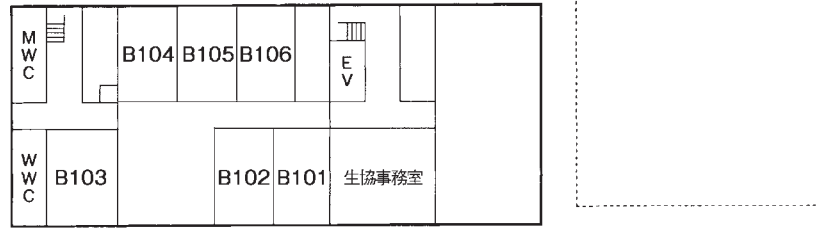
## 2 階



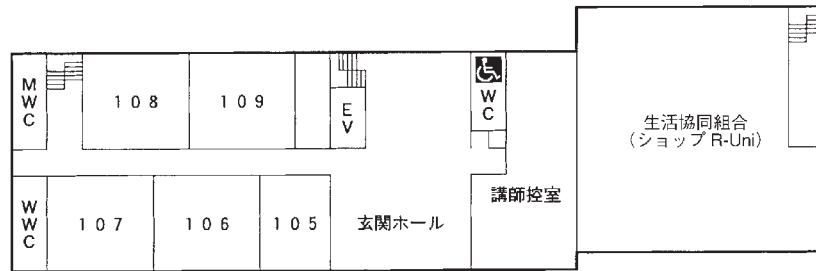


# 〈深草学舎〉 2 号 館

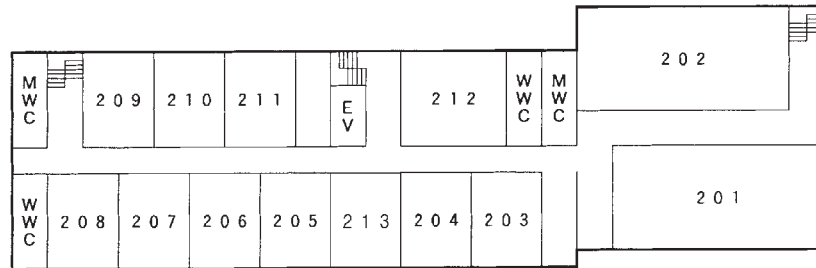
地 階



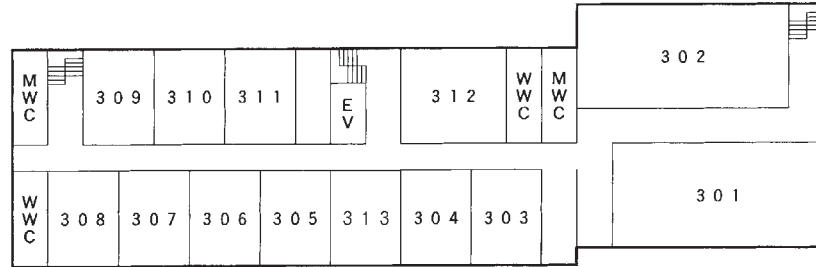
1 階



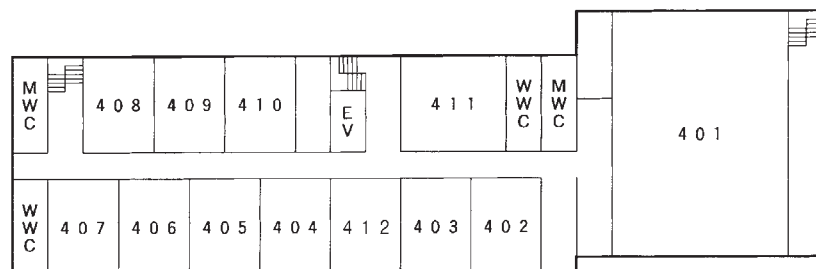
2 階



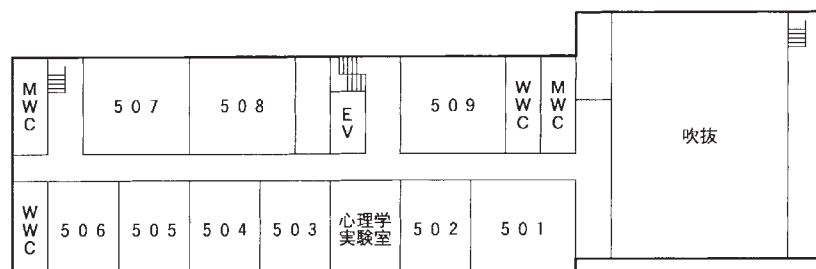
3 階



4 階



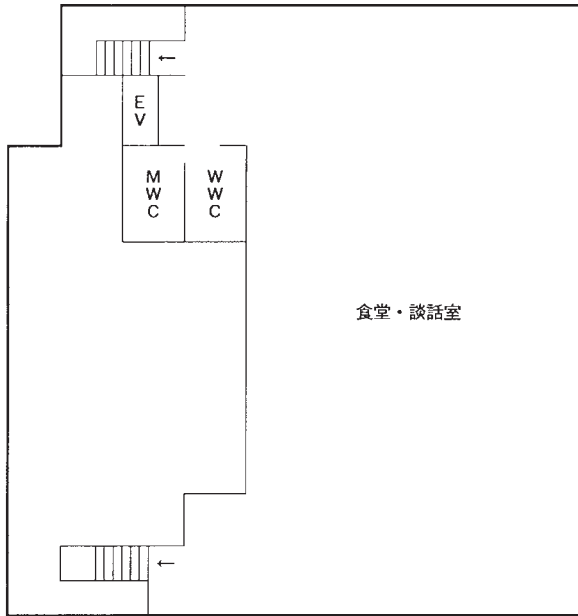
5 階



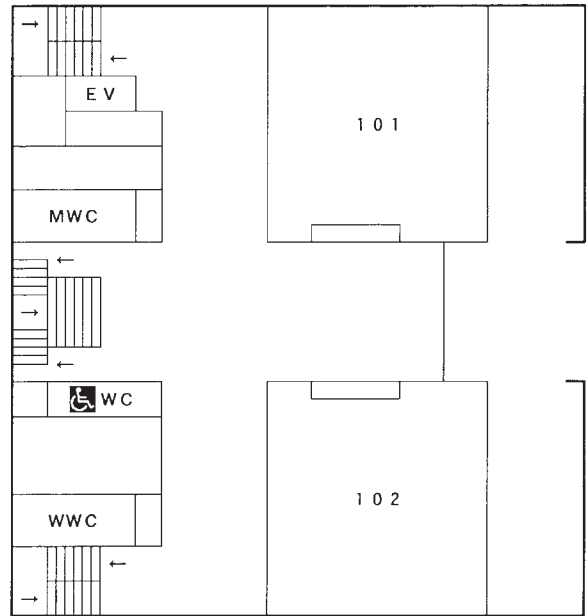


# 〈深草学舎〉 3 号 館

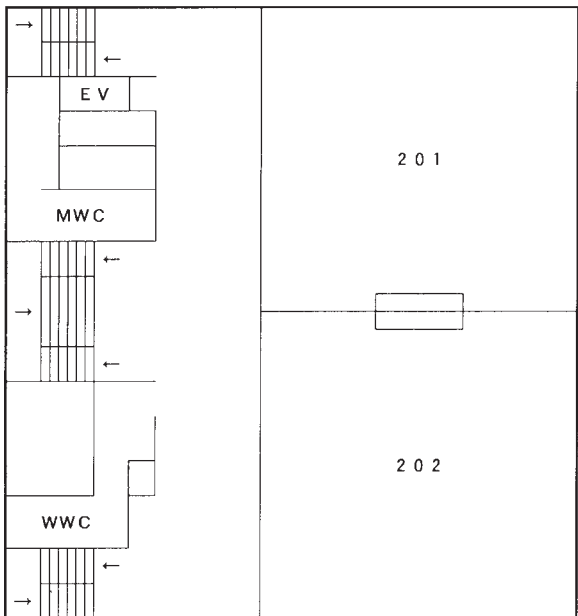
## 地 階



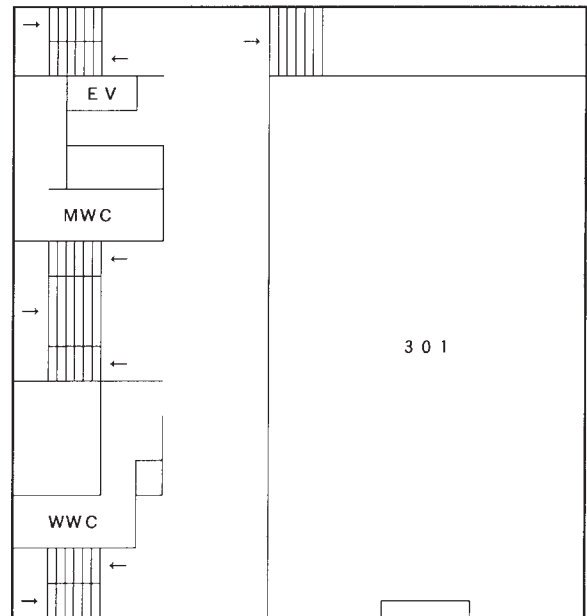
## 1 階



## 2 階



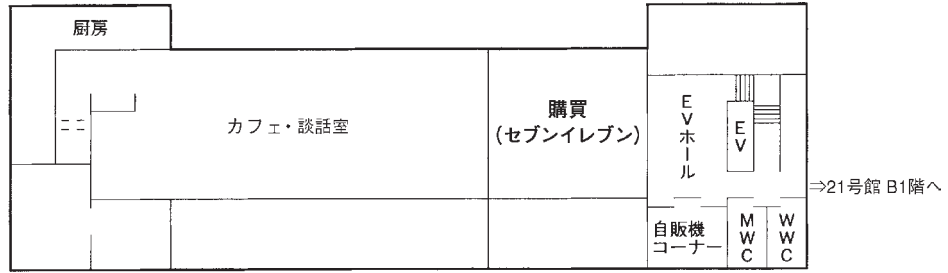
## 3 階



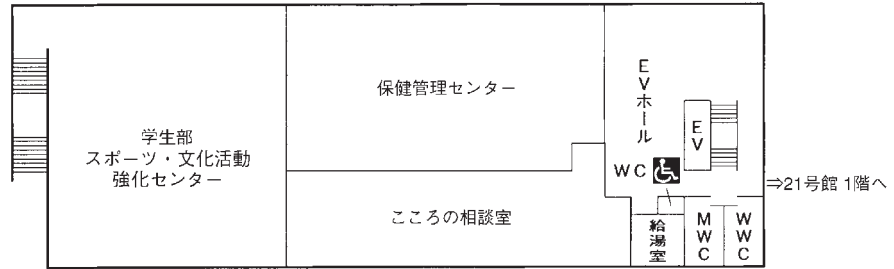


# 〈深草学舎〉 4 号 館

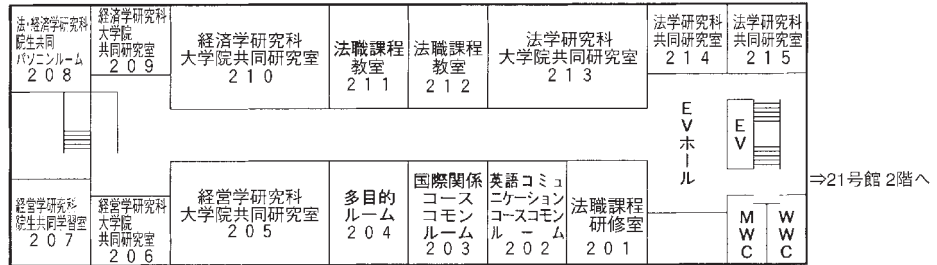
地 階



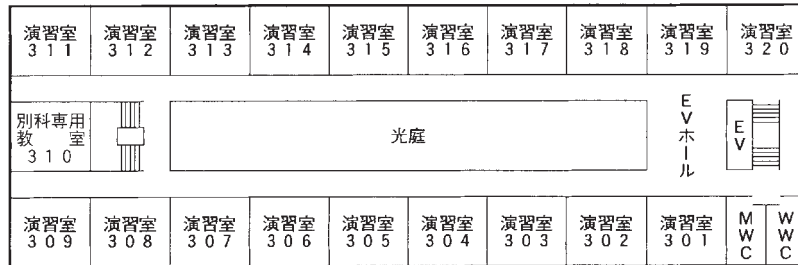
1 階



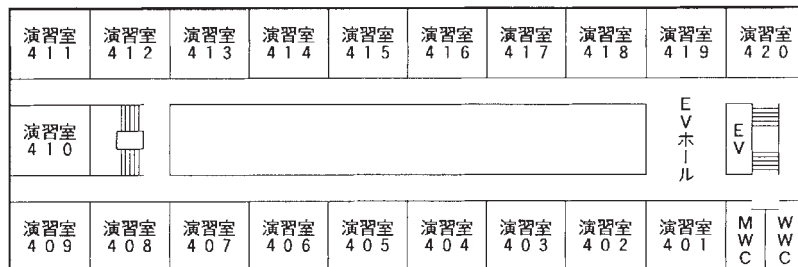
2 階



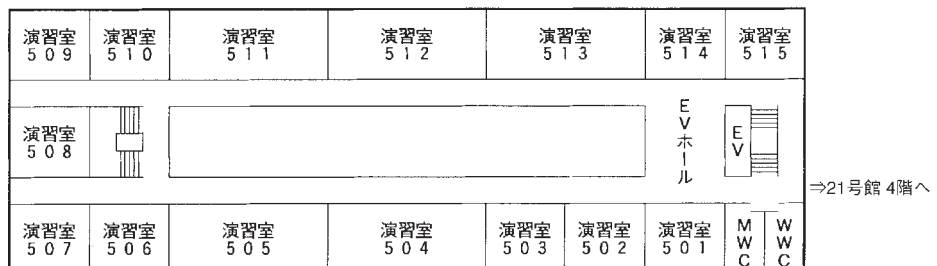
3 階



4 階



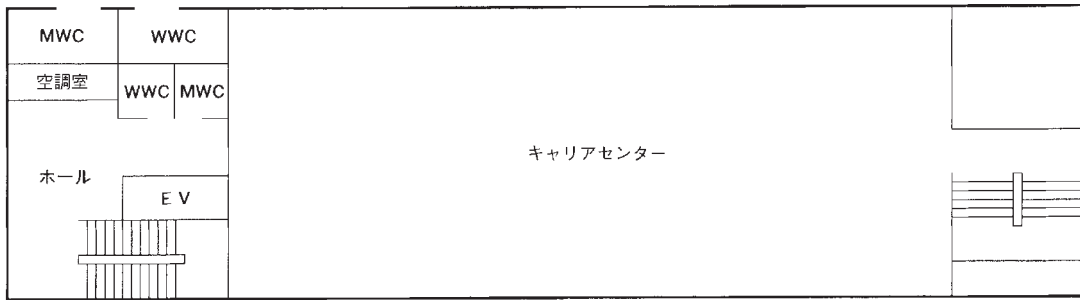
5 階



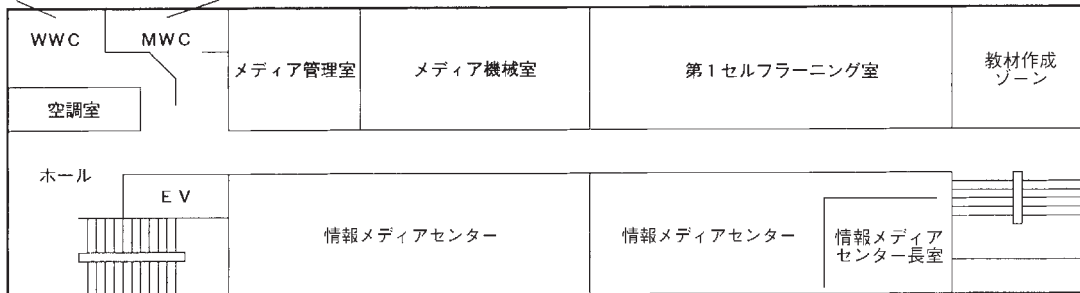


# 〈深草学舎〉 5 号 館 (紫明館)

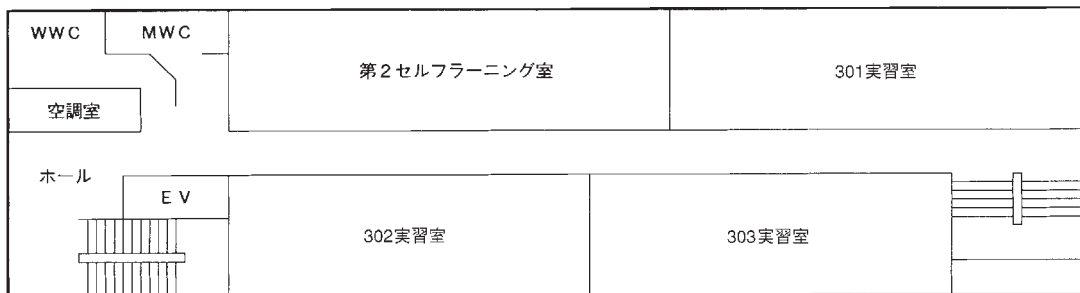
## 1 階



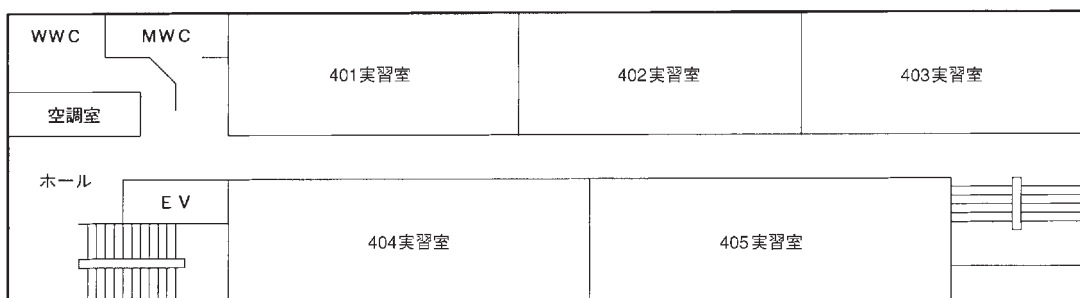
## 2 階



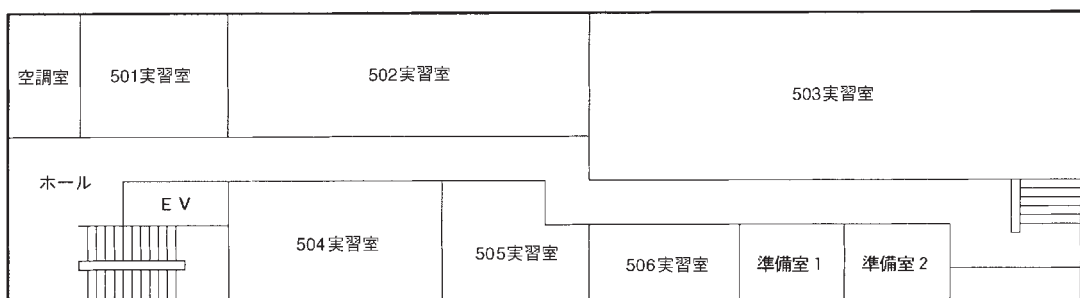
## 3 階



## 4 階



## 5 階

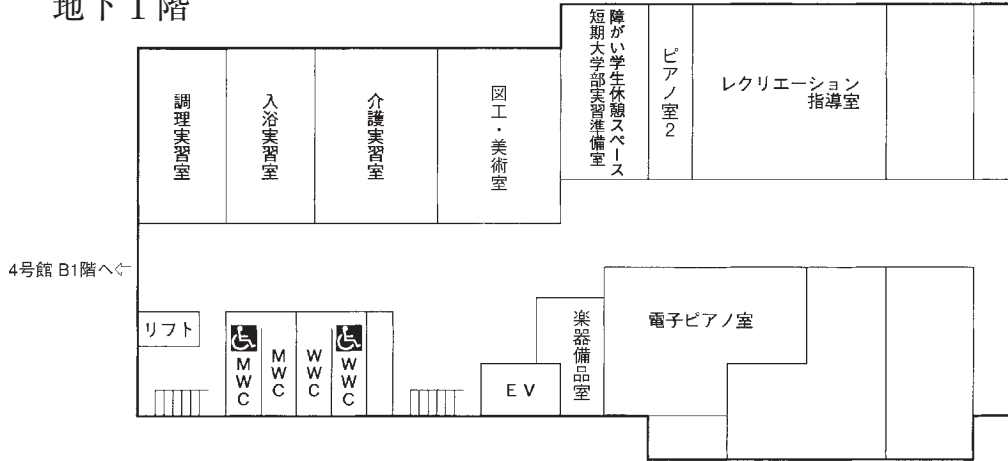


21号館 4階へ

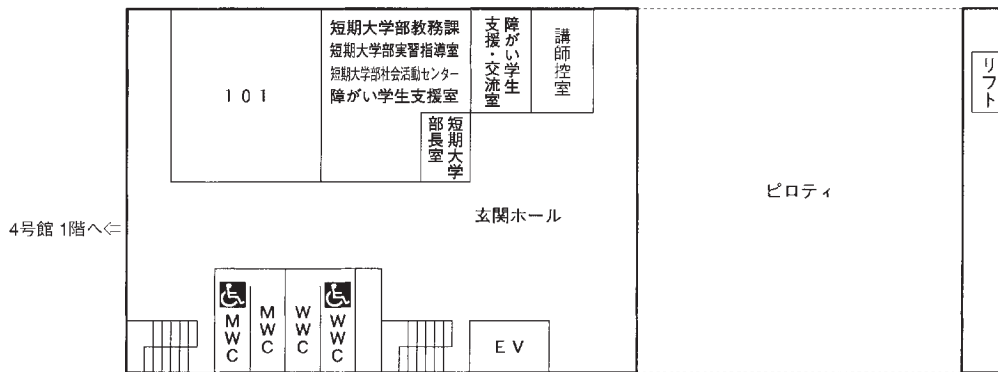


# 〈深草学舎〉 21 号 館

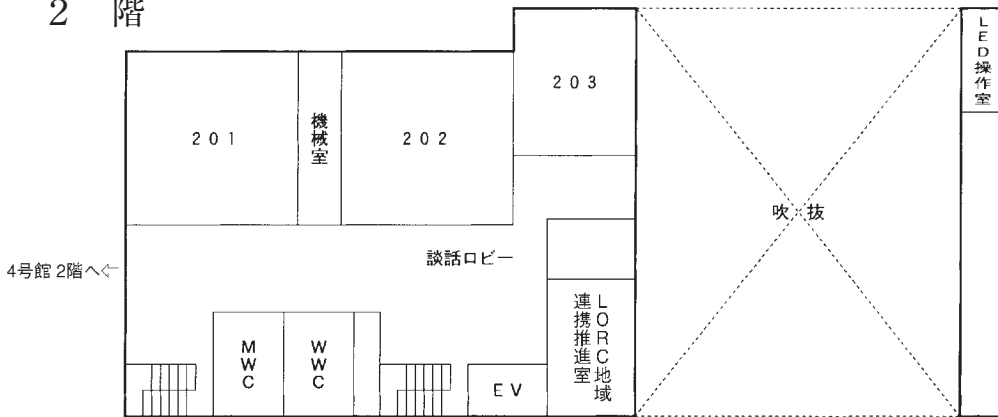
## 地下1階



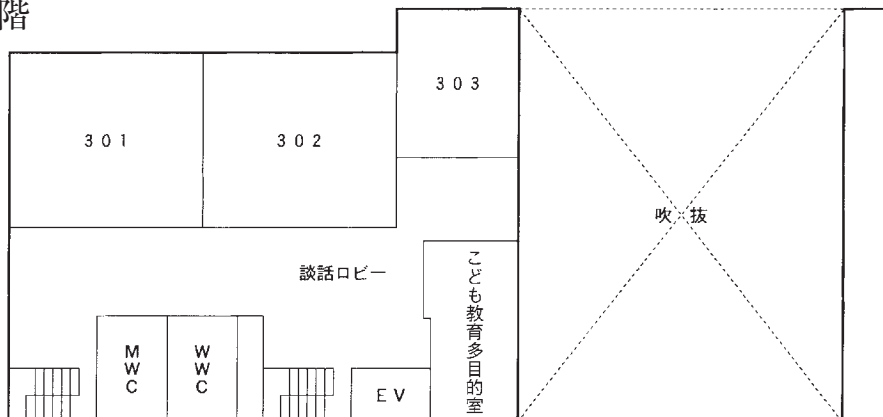
## 1 階



## 2 階



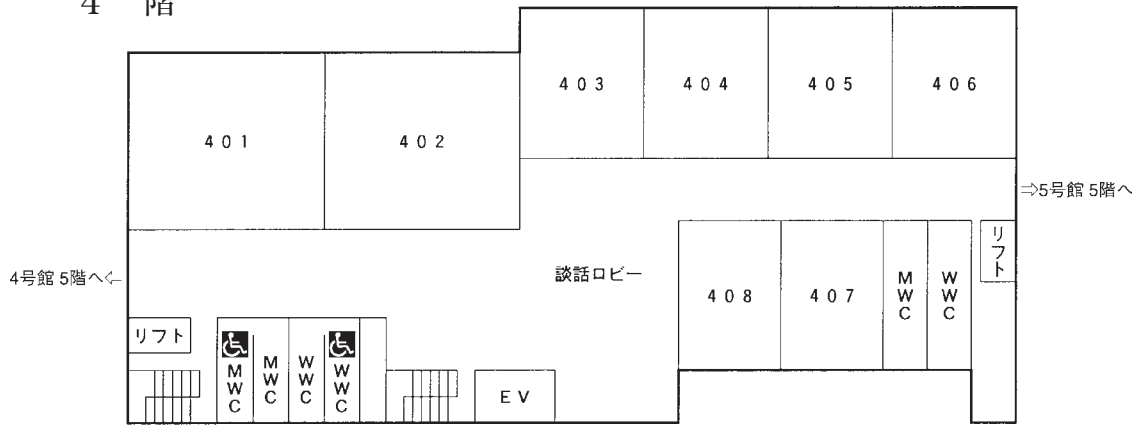
## 3 階



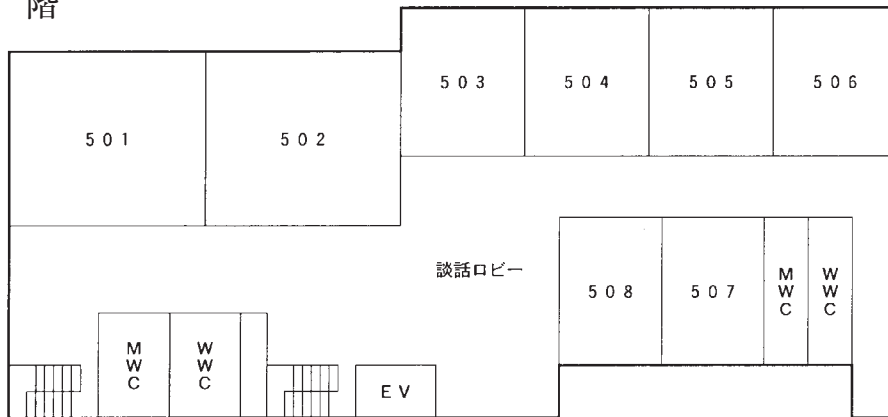




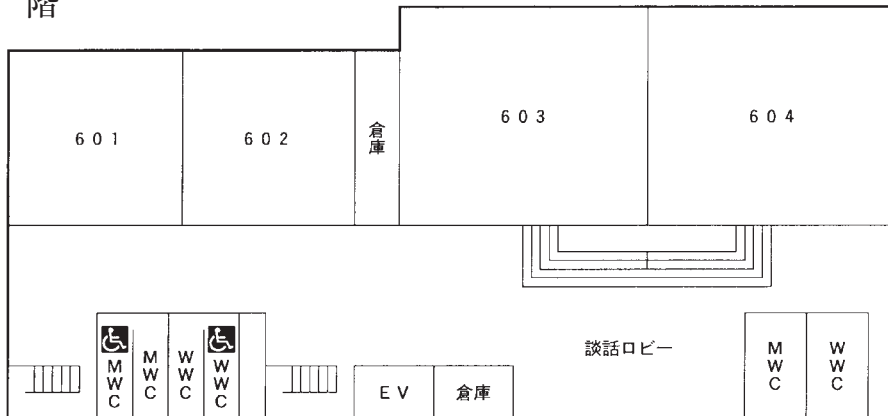
### 4 階



### 5 階



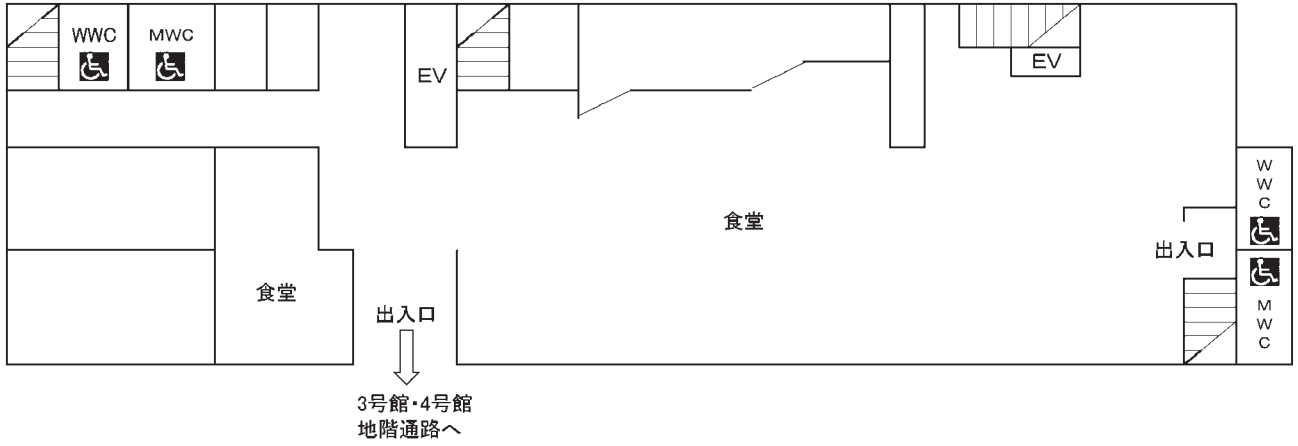
### 6 階



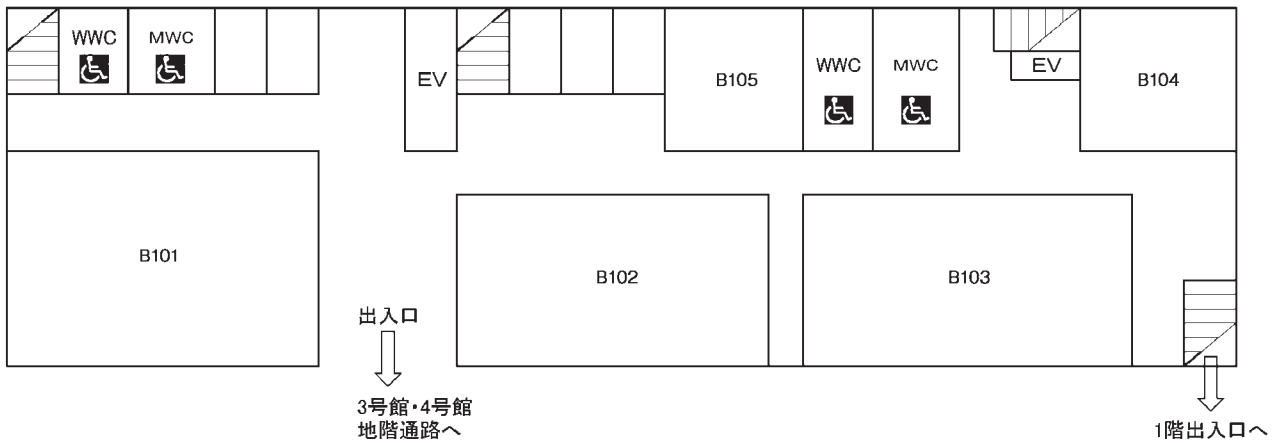


# 〈深草学舎〉 22 号 館

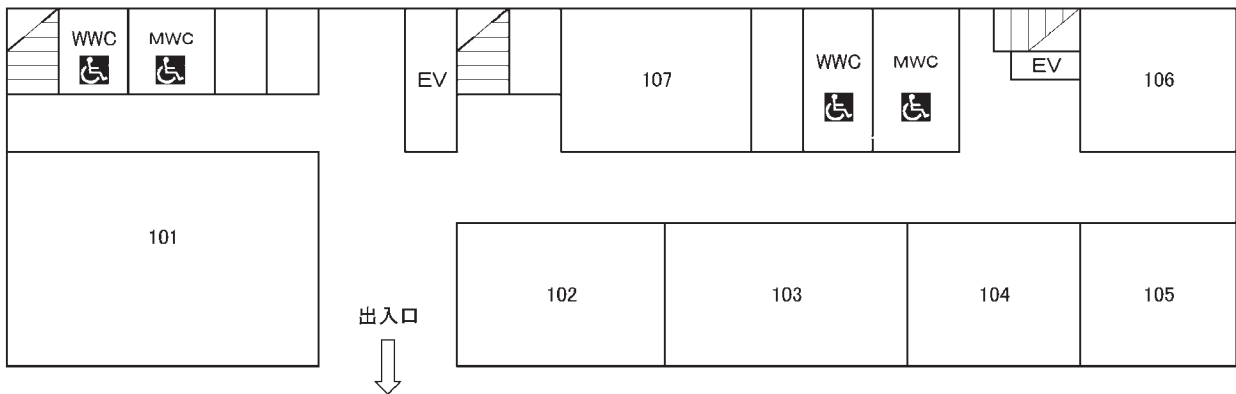
## 地下 2 階



## 地下 1 階

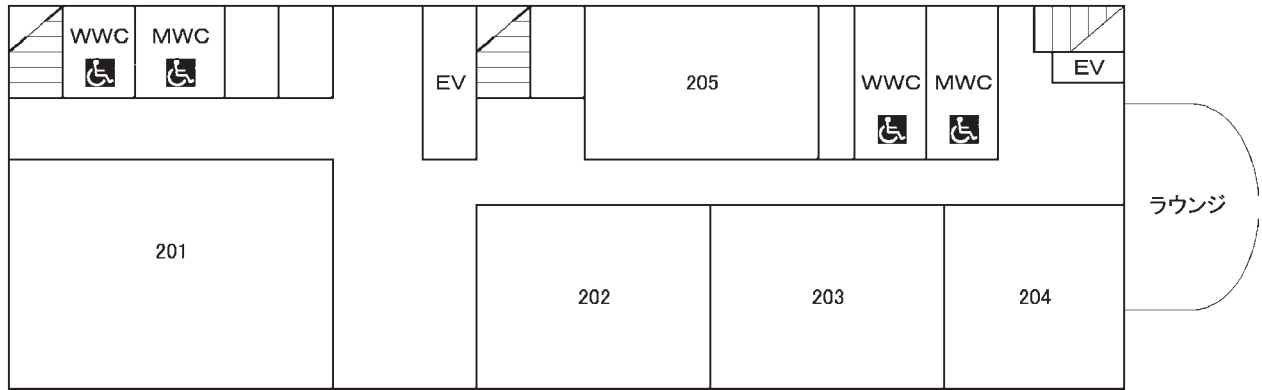


## 1 階

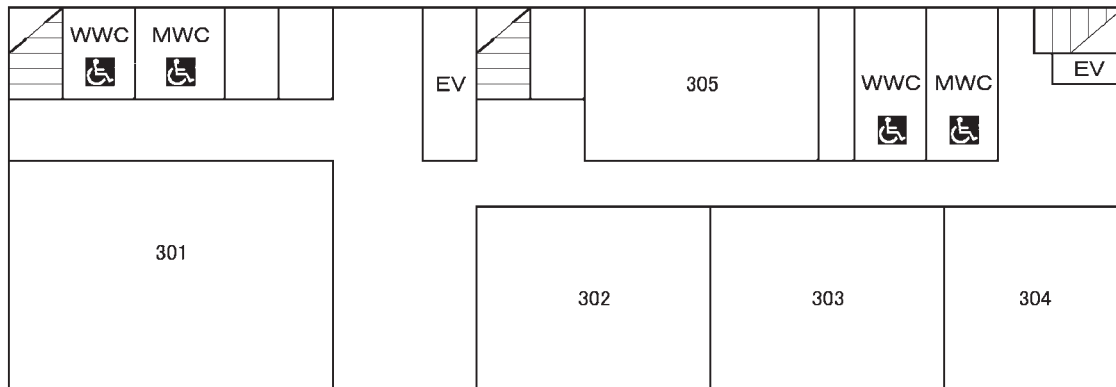




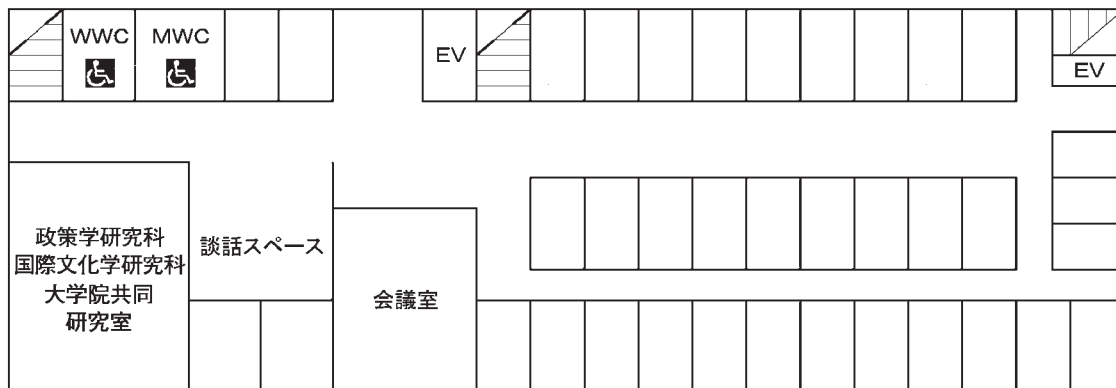
## 2 階



## 3 階



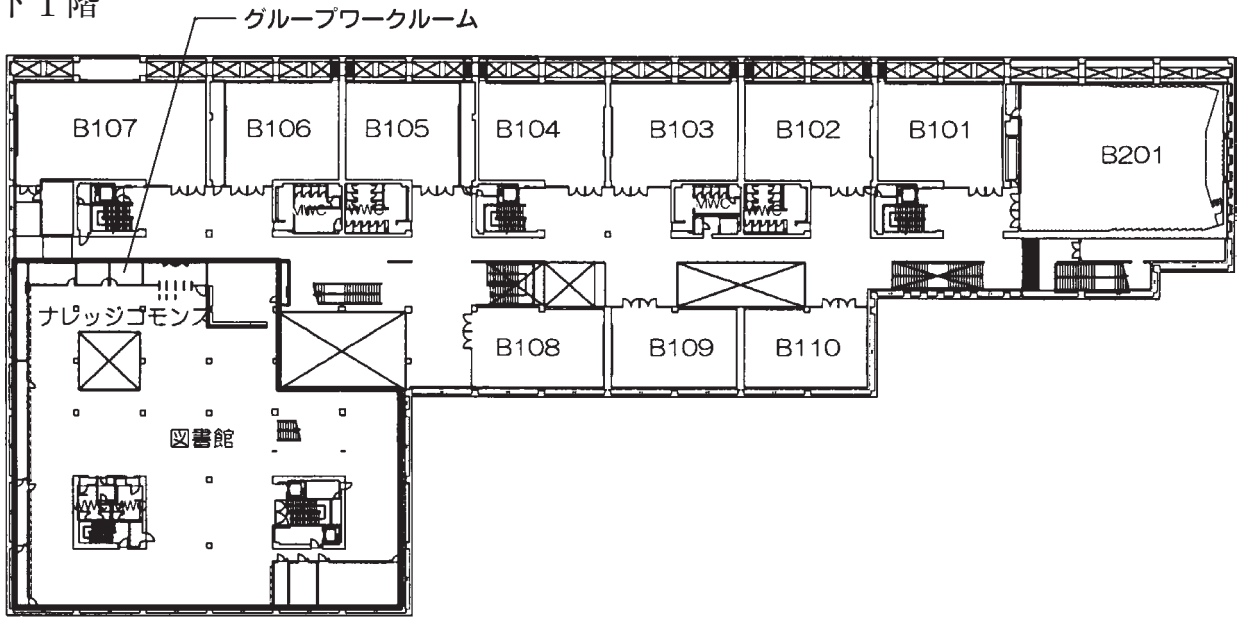
## 4 階



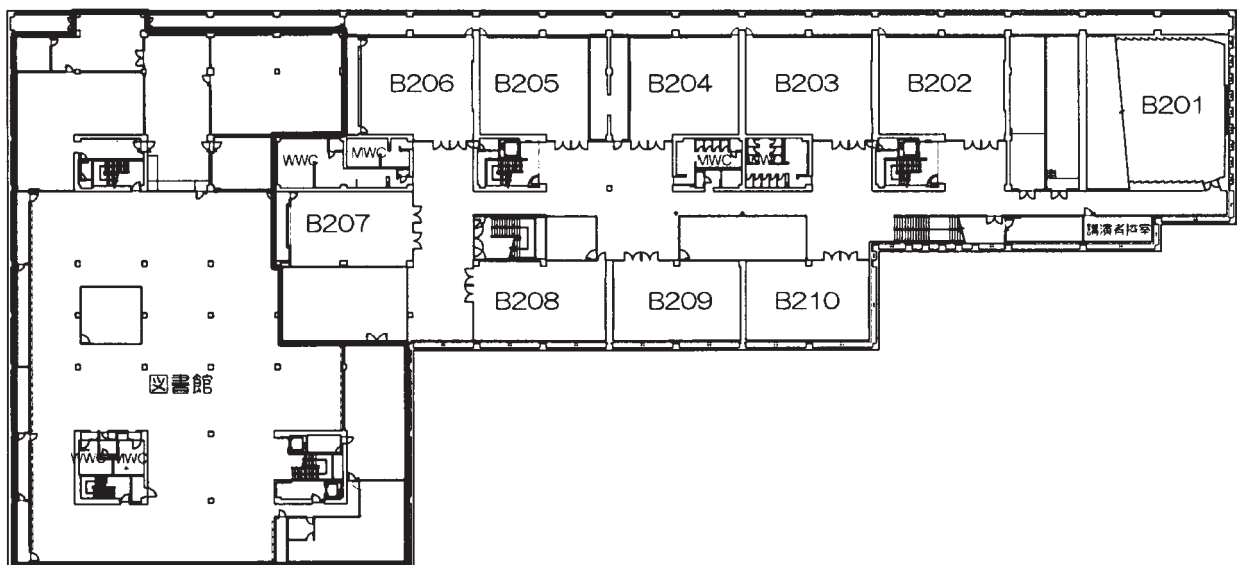


# 〈深草学舎〉 和 顔 館

地下1階



地下2階

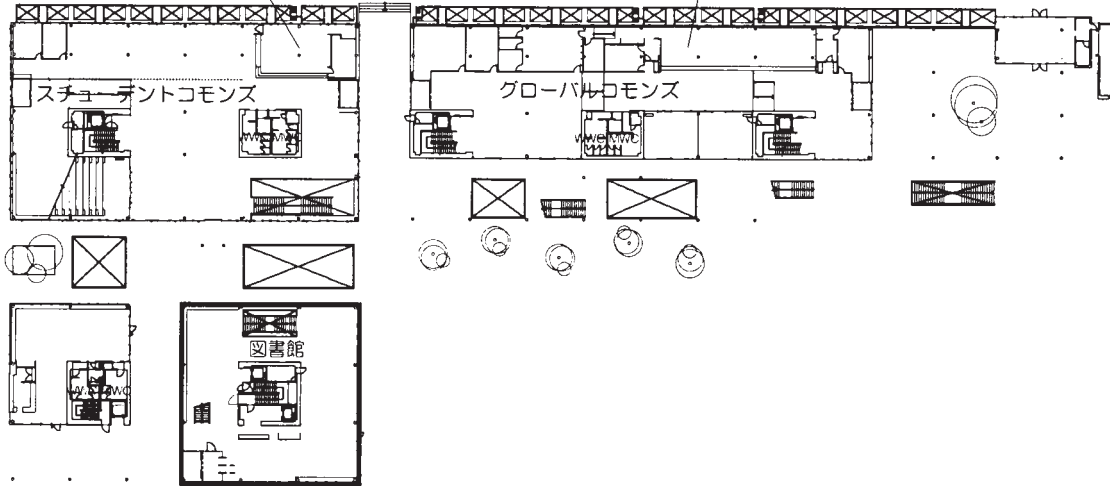




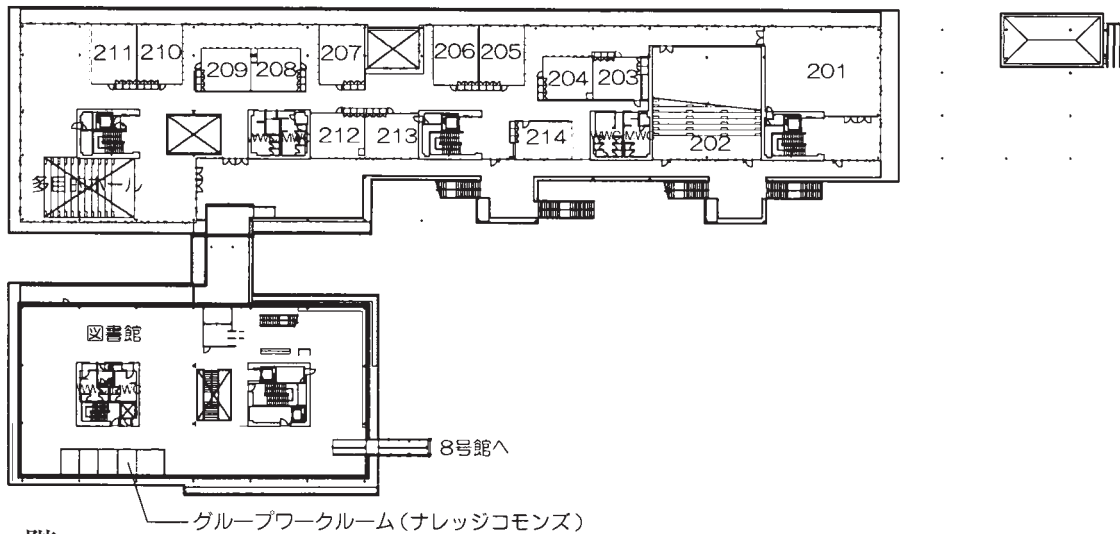
# 1 階

学修支援・教育開発センター

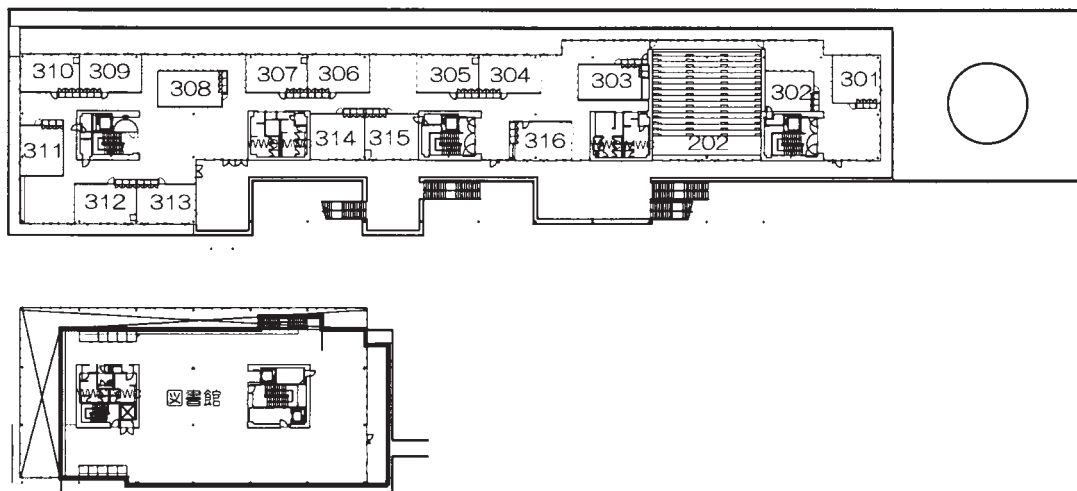
グローバル教育推進センター事務局  
Center for the Promotion of Global Education Office  
(R-Globe)



# 2 階



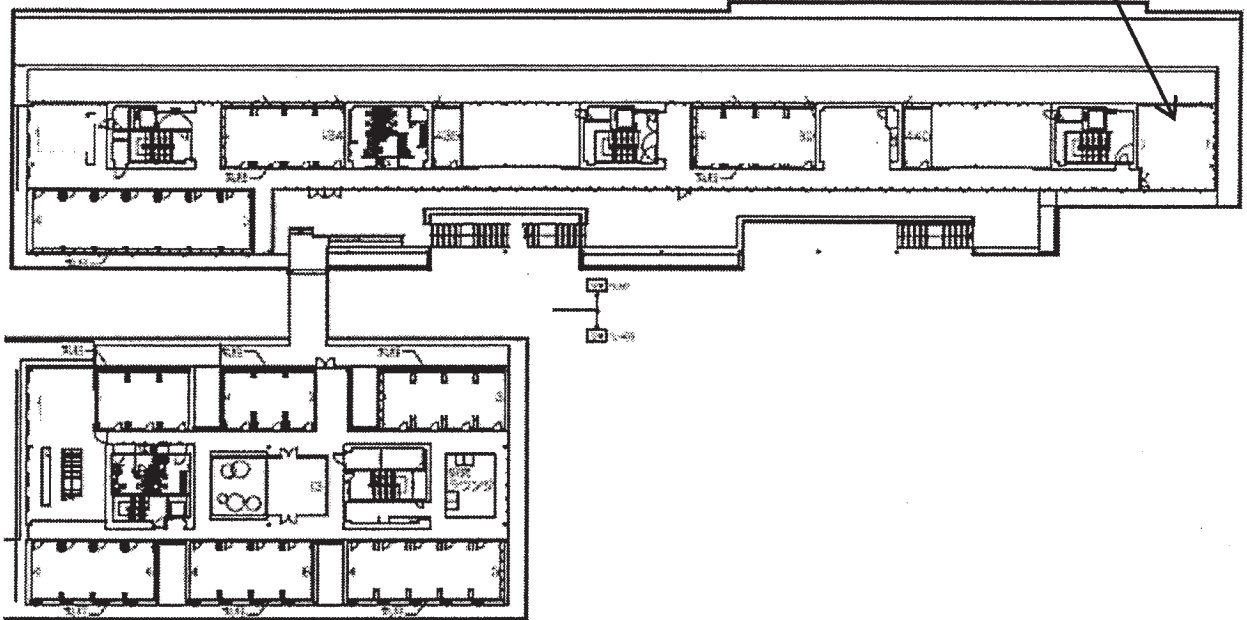
# 3 階





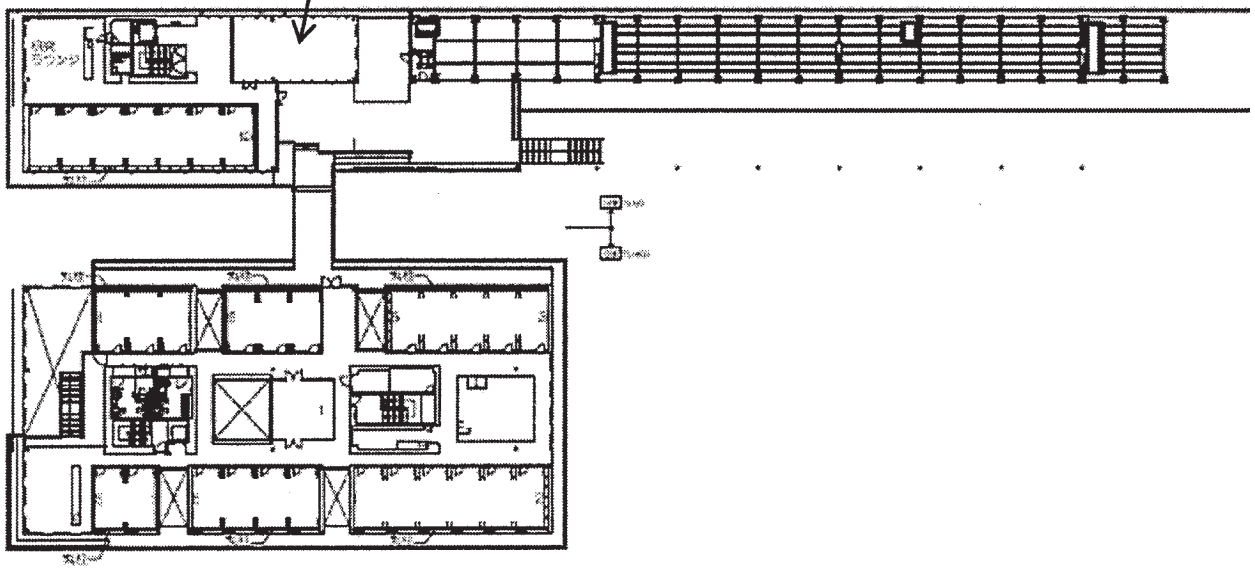
4 階

国際文化学研究科  
大学院共同研究室



5 階

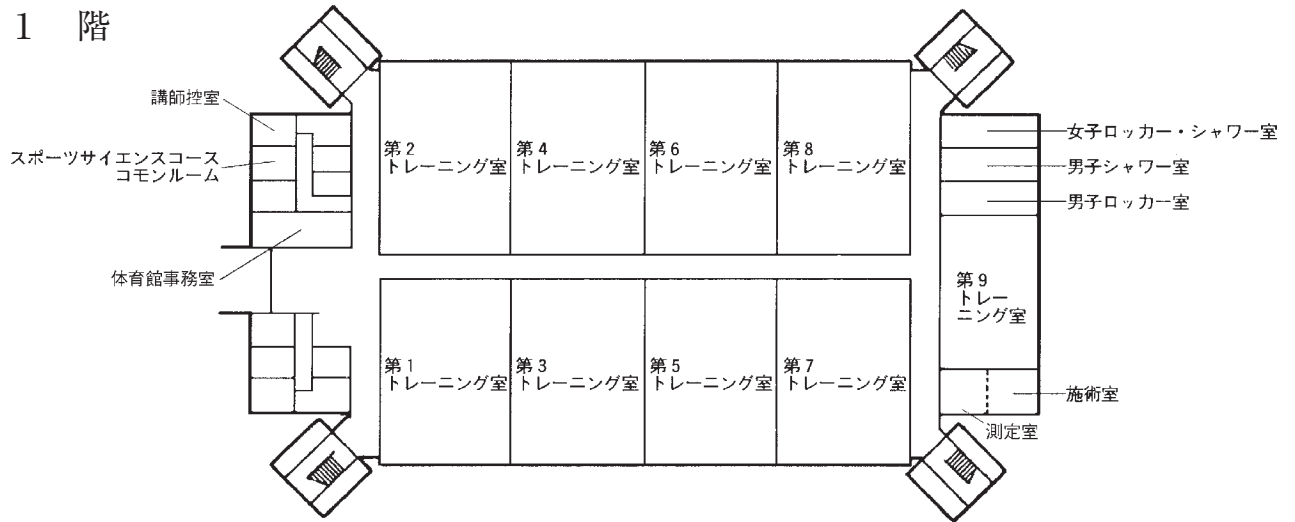
政策学研究科  
大学院共同研究室



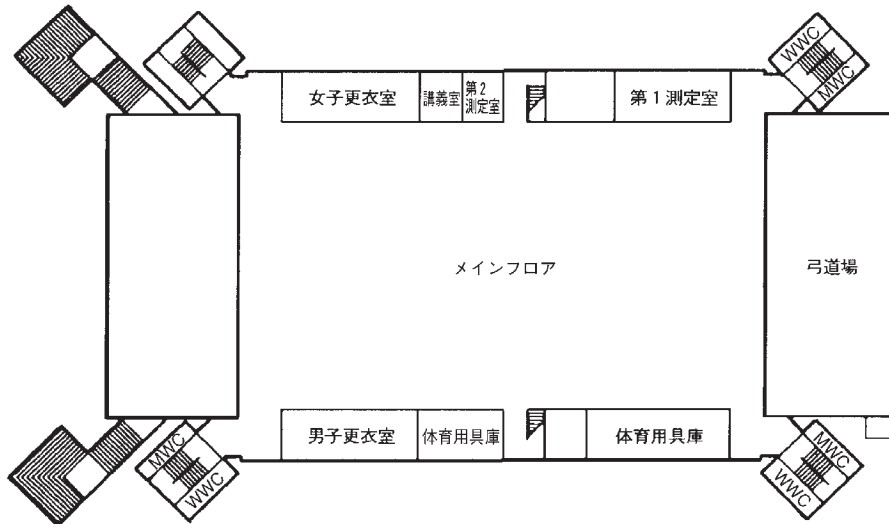


# 〈深草学舎〉 12号館 (体育館)

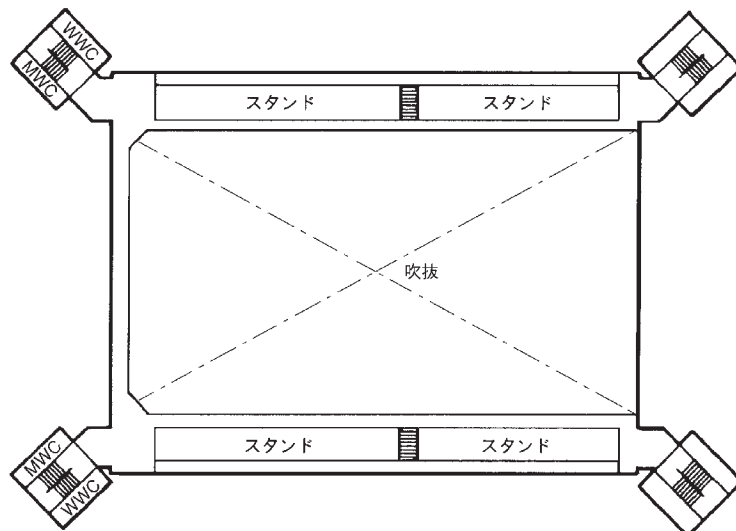
## 1 階



## 2 階



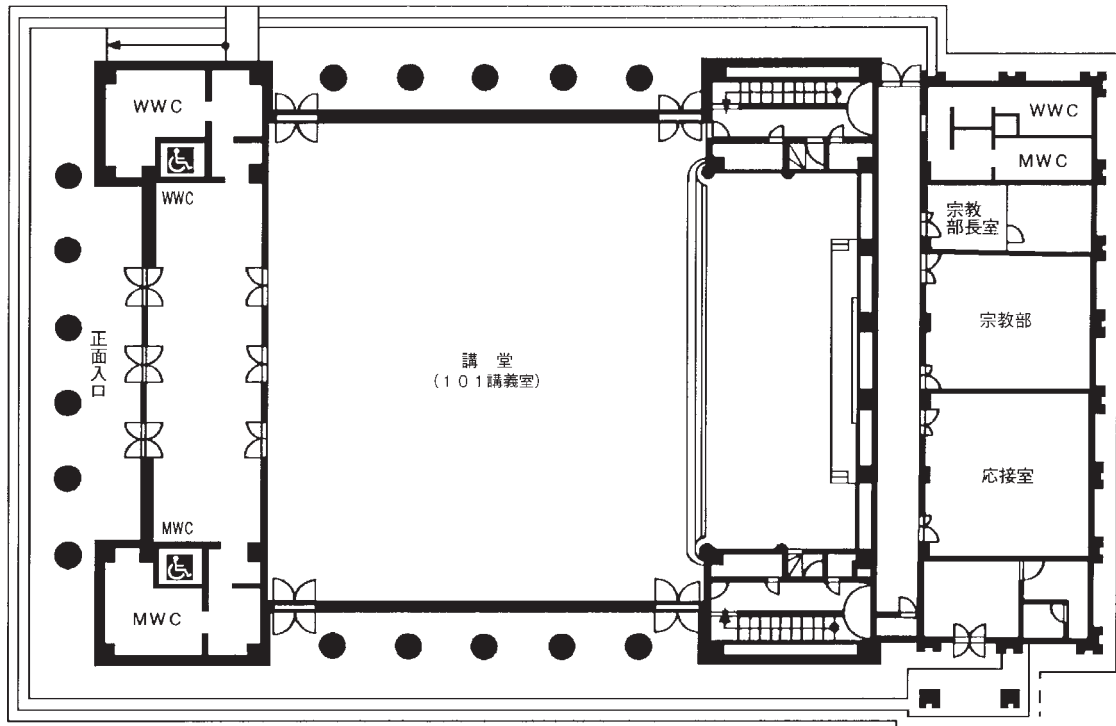
## 3 階



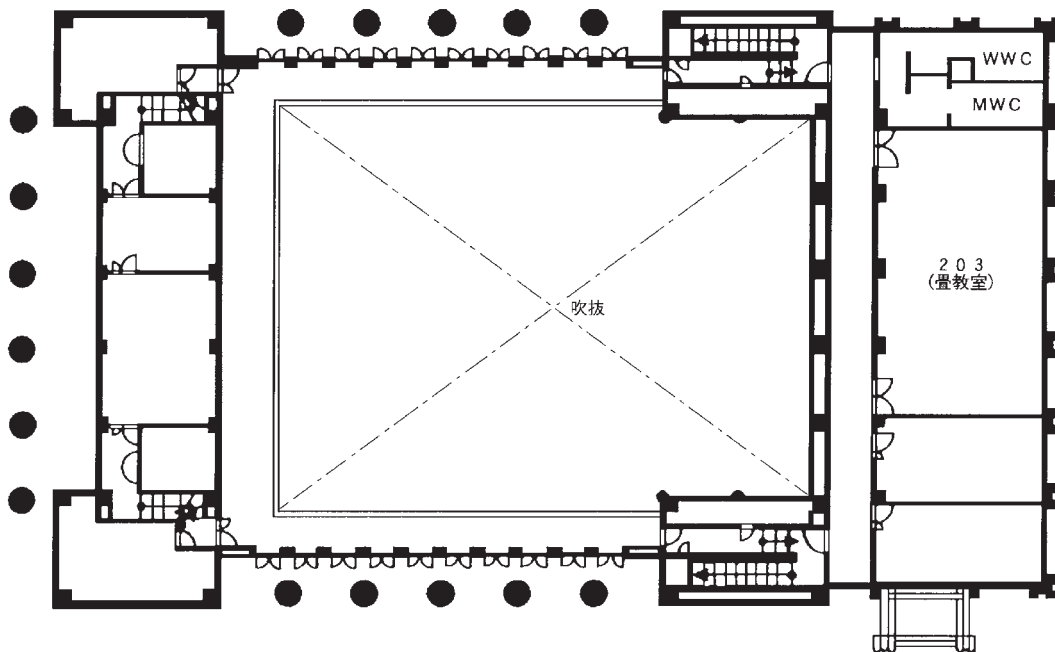


# 〈深草学舎〉 顕真館

## 1 階



## 2 階

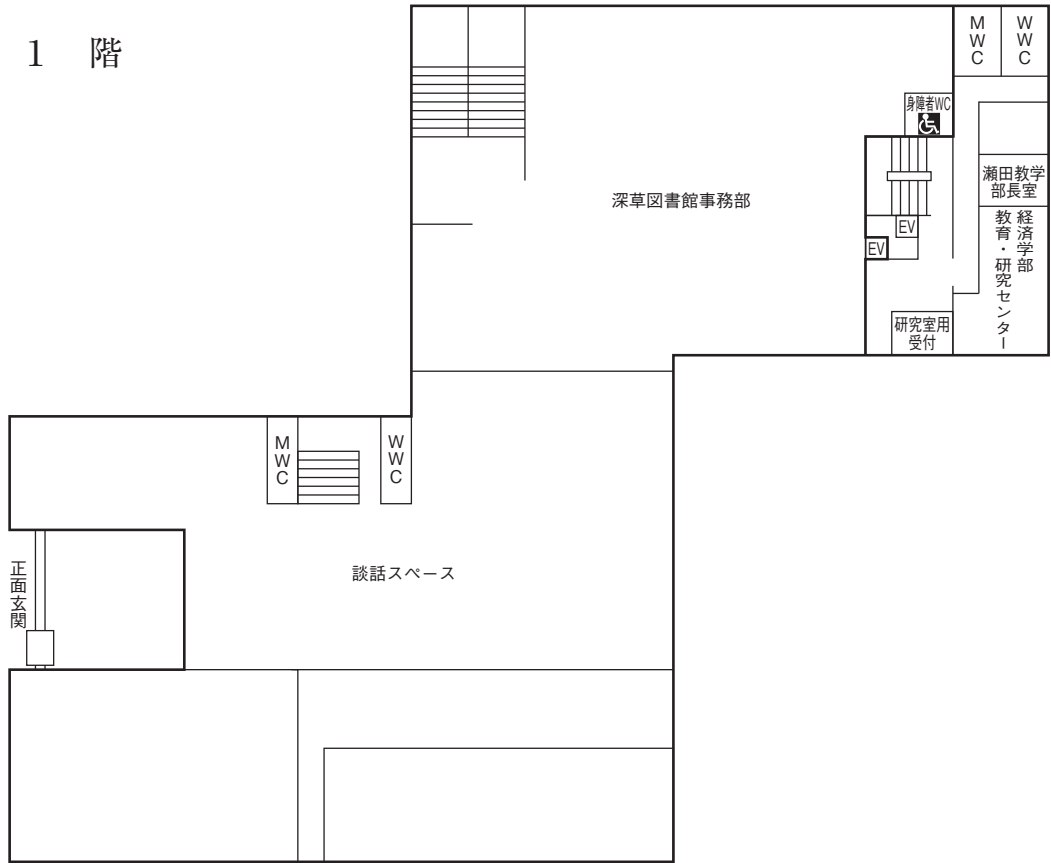




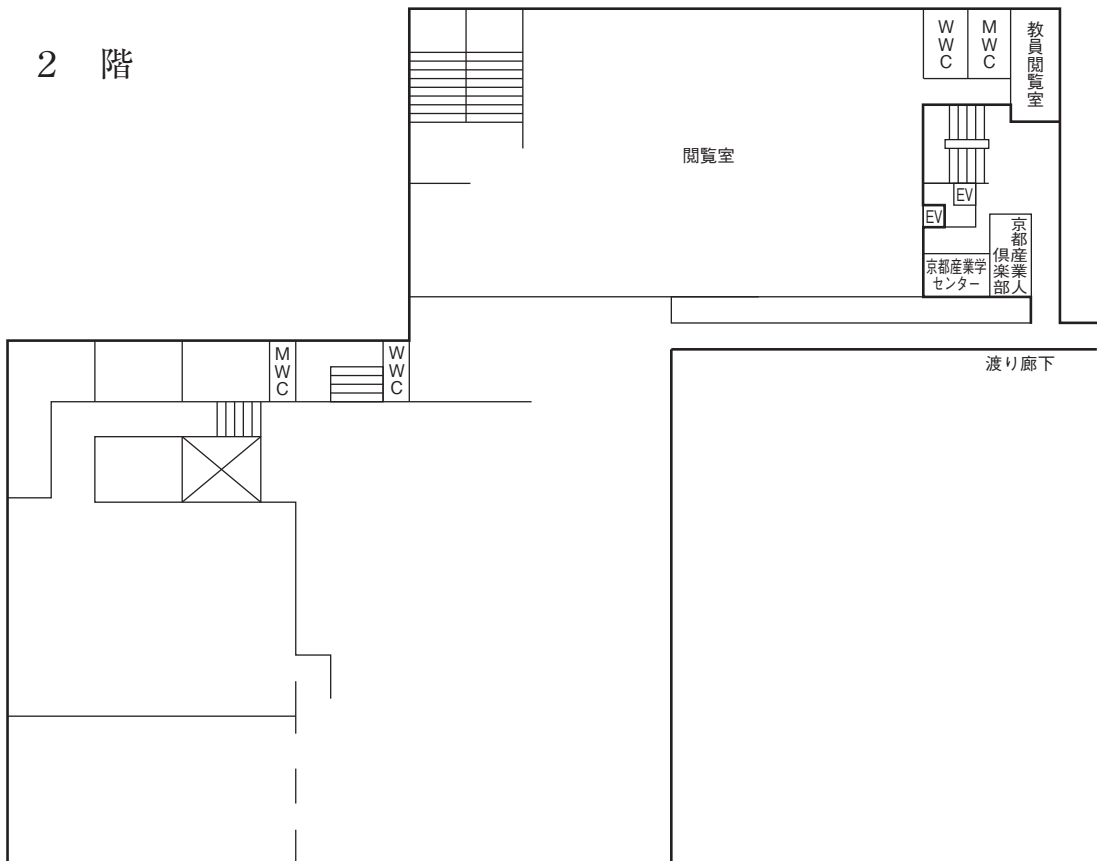


# 〈深草学舎〉 7 号 館・8 号 館

1 階



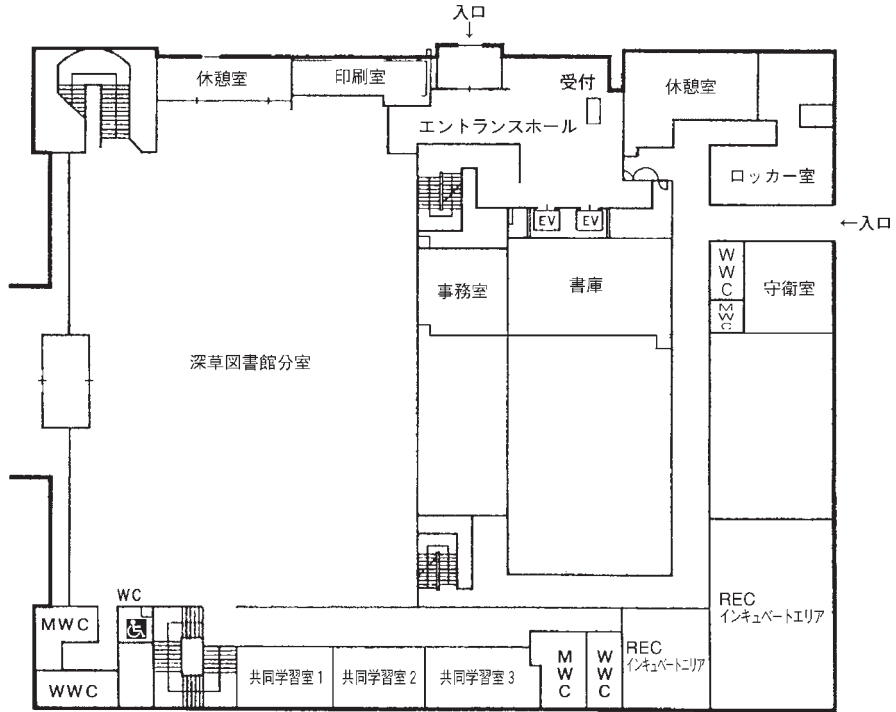
2 階



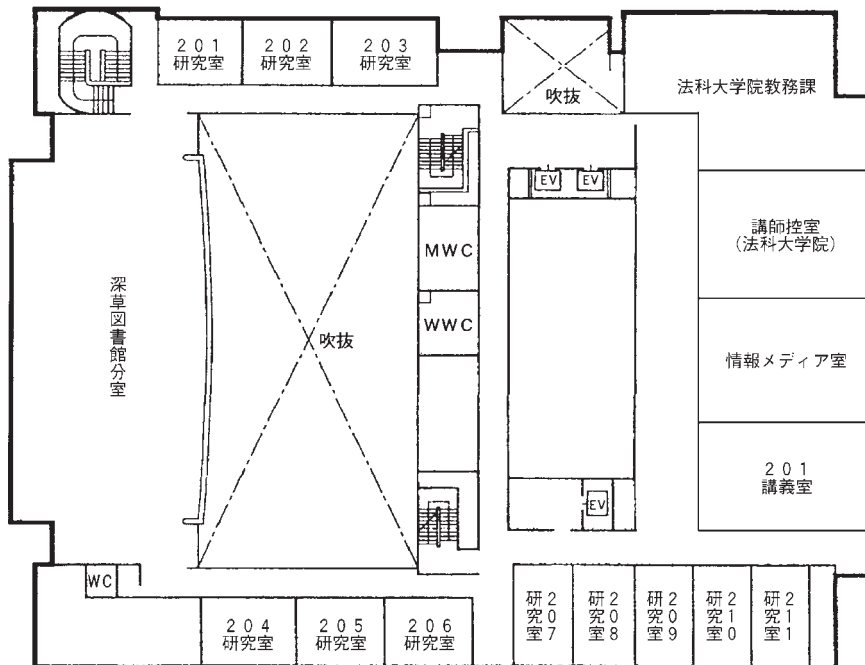


# 〈深草学舎〉 紫 光 館

## 1 階

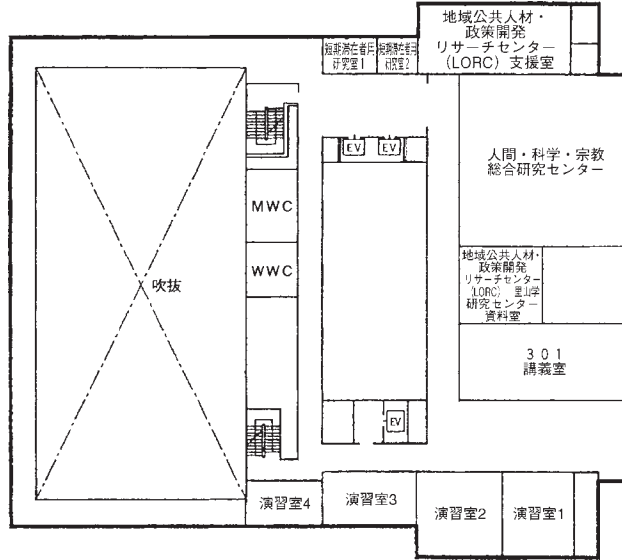


## 2 階

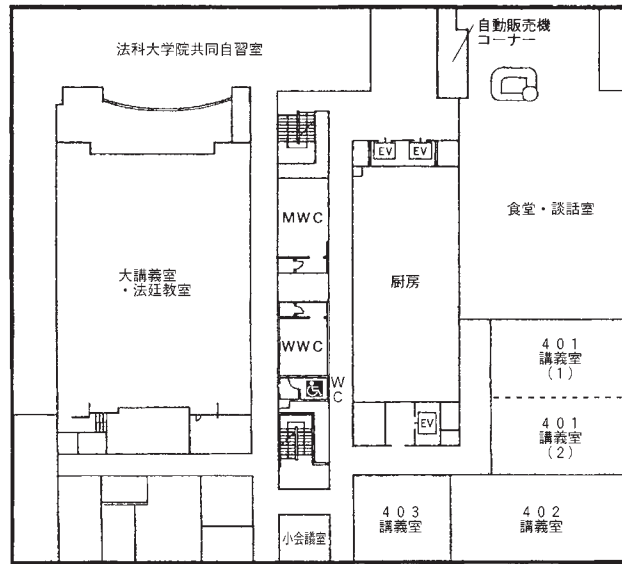




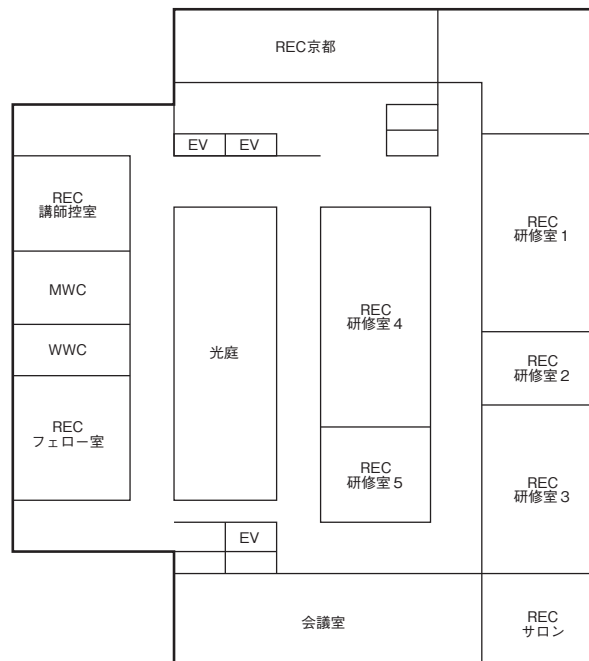
3 階



4 階



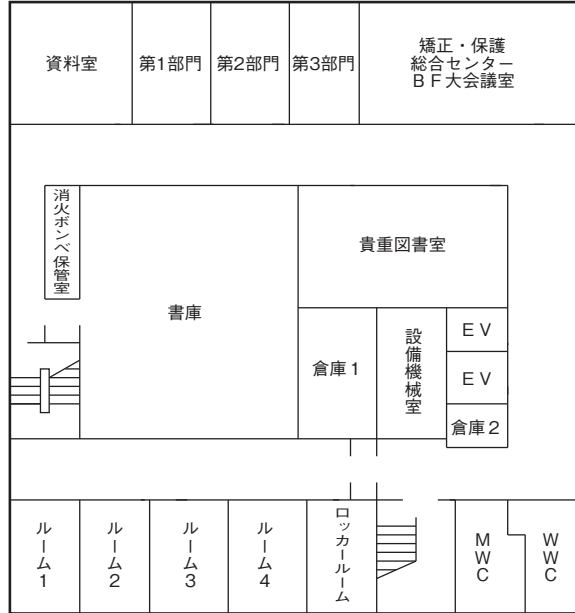
5 階



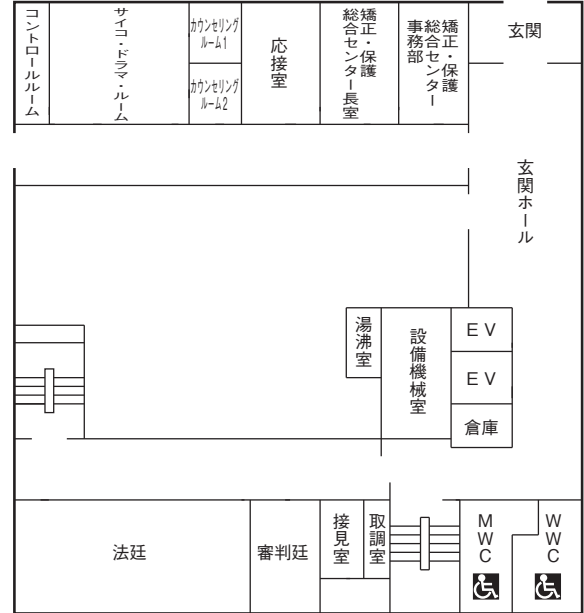


# 〈深草学舎〉 至心館

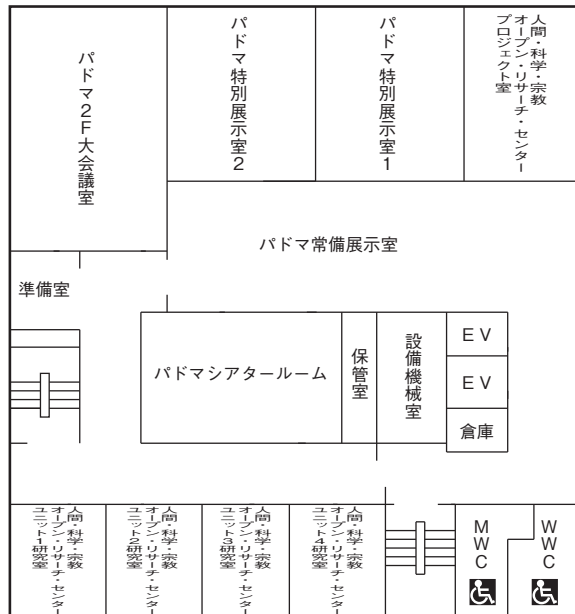
## 地下1階



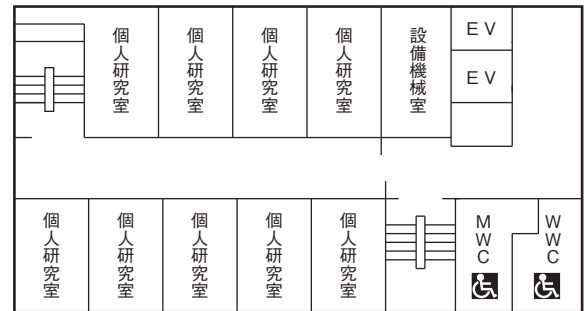
## 1階



## 2階



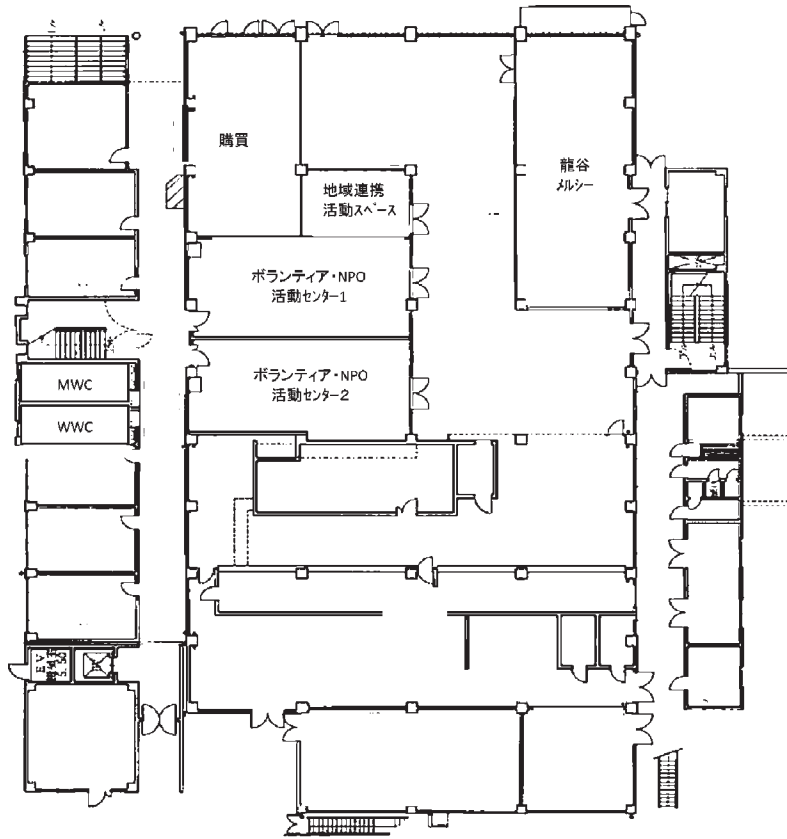
## 3階・4階・5階



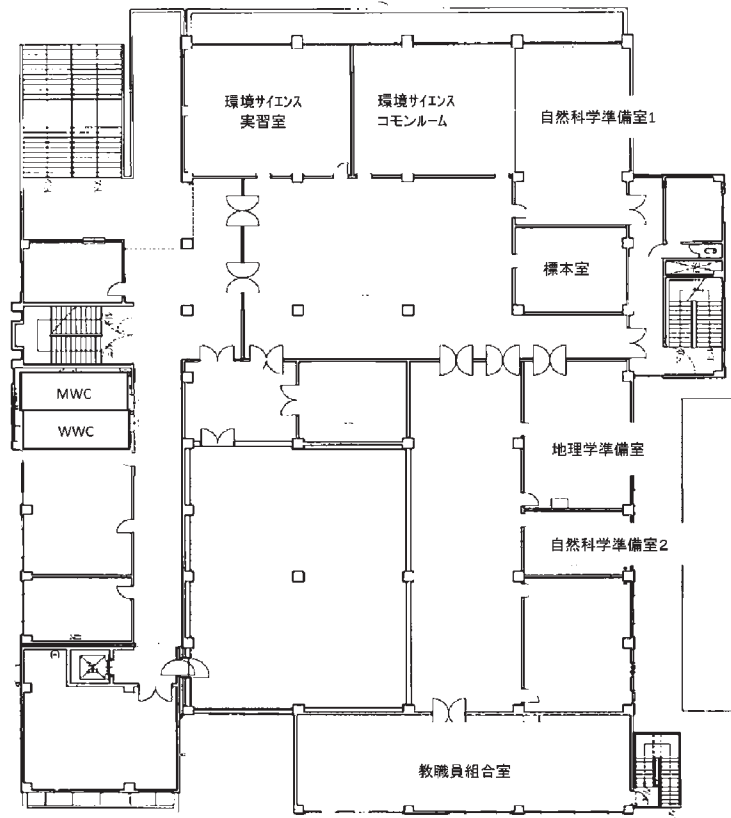


# 〈深草学舎〉 9 号 館 (学友会館)

1 階



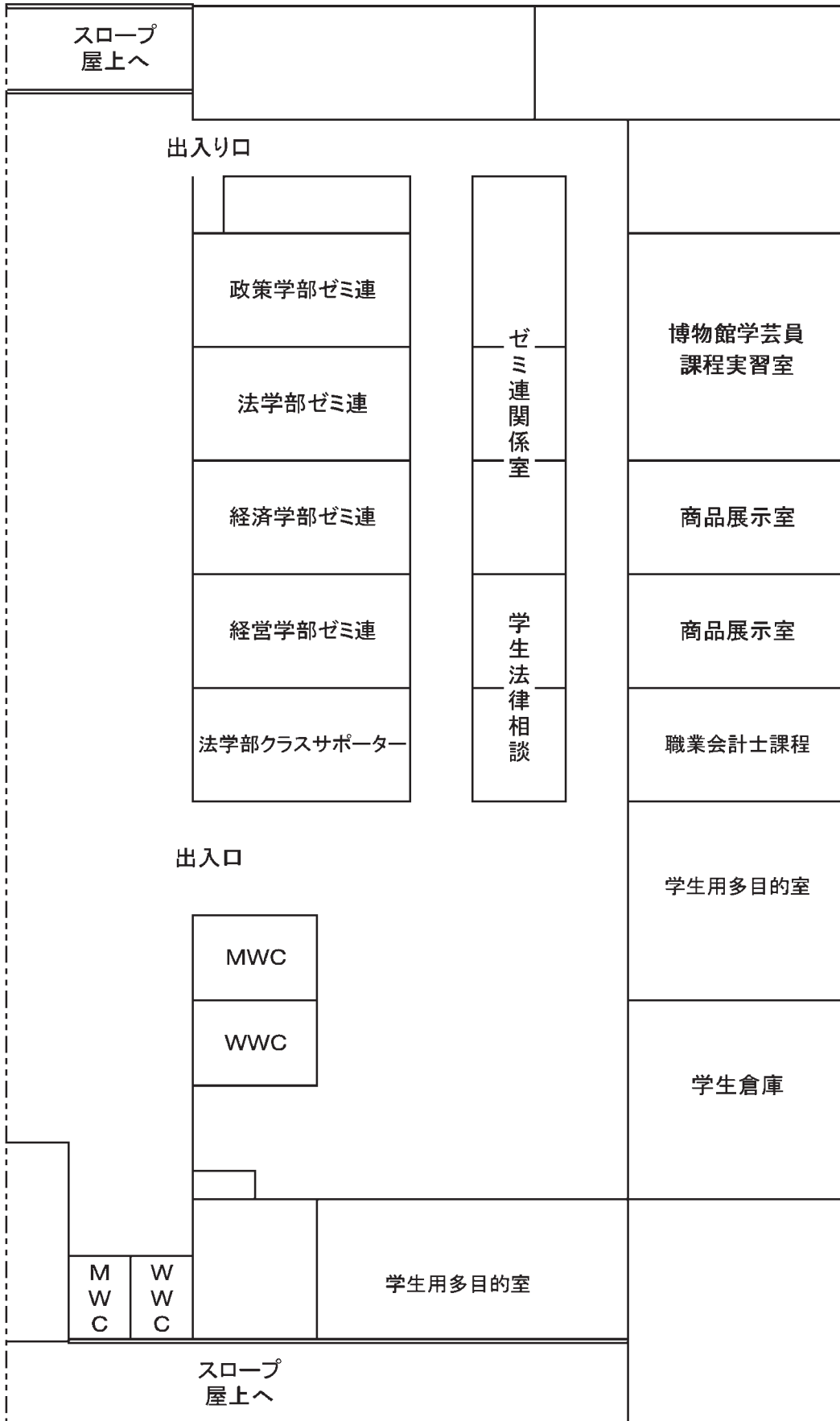
2 階





# 〈深草学舎〉 紫光館別館

国道  
24  
号  
線





---

2015年3月20日 印刷  
2015年4月1日 発行

編集発行 **龍谷大学経営学部**

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67  
TEL. 075 (642) 1111 (代表)  
075 (645) 7895 (経営学部教務課)

印刷所 株式会社 双林印刷社

---



